

一般国道8号
柏崎バイパス関係発掘調査報告書XVI

丘江遺跡II

2018

新潟県教育委員会
公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道8号
柏崎バイパス関係発掘調査報告書XVI

新潟県
丘江遺跡II

2018

新潟県教育委員会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

一般国道8号は新潟市を起点とし、日本海沿いに北陸地方を縦断し、京都市に至る総距離561.2kmの主要幹線道路です。新潟県と北陸地方及び京阪神地方を結ぶとともに、新潟県の産業・経済・文化的交流・発展に大きな役割を果たしています。

しかし、現在の柏崎市域では、市街地化の進展と交通需要の増加に伴い、慢性的な交通混雑を引き起こしています。柏崎バイパス建設事業は、このような問題を解決し、柏崎市内の安全で円滑な交通の確保と、地域開発の支援などを目的に計画されました。

本書は、この柏崎バイパスの建設に先立ち、2015年度に実施した丘江遺跡の発掘調査報告書です。

丘江遺跡は中世と近世の集落遺跡で、方形に巡らした溝の内側に掘立柱建物や井戸などの遺構が密集してみつかりました。区画内で多くの人たちが暮らしていた様子がうかがえます。井戸や溝からは、燈明皿などに使用する土師質土器の皿や、青磁・白磁、漆器といった食器、刀子・鉄鍋・自在鉤などの生活道具が出土しています。なかには、茶臼や天目茶碗といった茶道具もあり、茶の湯を嗜んでいた人もいたようです。

日常生活用品以外では、お墓に埋納された数珠玉や錢貨があり、当時の信仰や葬送儀礼を知るうえで貴重な遺物も出土しています。

発掘調査で得られた資料や本報告書が、埋蔵文化財の理解や認識を深める契機となり、地域の歴史資料として広く活用されるものと期待しております。

最後に、この発掘調査で多くご協力とご理解をいただいた柏崎市教育委員会、柏崎市都市整備部八号バイパス事業室、並びに地元の方々、また発掘調査から本報告書の作成まで、格別なご配慮をいただいた国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所に対して厚く御礼申し上げます。

2018年3月

新潟県教育委員会

教育長 池田幸博

例　　言

- 1 本報告書は、新潟県柏崎市茨目地内に所在する丘江遺跡の発掘調査記録である。丘江遺跡の本発掘調査は2014年度からはじまり、2015年度調査は2年目となる。このため、本報告書を「丘江遺跡Ⅱ」とした。
- 2 発掘調査は、一般国道8号柏崎バイパス建設事業に伴い、国土交通省北陸地方整備局から新潟県教育委員会（以下、県教委とする）が受託し、公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団とする）に依頼した。
- 3 埋文事業団は、当局の管理のもとで2015年度の発掘調査と、2017年度の整理・報告書作成を、それぞれ吉田・国際特定共同企業体（以下、吉田・国際JVとする）と株式会社吉田建設（以下吉田建設とする）に委託して実施した。
- 4 出土遺物及び調査・整理に係る各種資料は、一括して県教委が新潟県埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 5 「図書館等（著作権法第31条第1項に規定する図書館等をいう。）の利用者は、その調査研究の用に供するために、本報告書の全体について、複製することができる。」
- 6 通報の注記は丘江遺跡の略記号「15オカエ」とし、出土地点や層位を続けて記した。
- 7 本書の図中で示す方位は、すべて真北である。
- 8 通標番号は種別に係りなく通し番号とし、本文及び観察表・図面図版・写真図版の番号はすべて一致している。
- 9 本文中の注は脚注とし、頁ごとに番号を付した。また、引用文献は著者及び発行年（西暦）を中心に〔 〕で示し、巻末に一括して掲載した。
- 10 出土遺物については、品田高志・伊藤啓雄氏（柏崎市教育委員会）、水澤幸一氏（船内市教育委員会）より、種々御教示頂いた。
- 11 自然科学分析に係る各種分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、分析結果を掲載した。
- 12 本書の執筆は、春日真実（埋文事業団 課長代理）、並澤正史（吉田建設 調査課長）、不破野希春・四家礼乃・高柳俊輔・渡部祐司（吉田・国際JV 調査員）があたり、編集は並澤が担当した。第Ⅳ章については、不破野・四家・高柳・渡部の原稿を並澤が調整して掲載した。また、各種図面・写真図版は、水野かおり（吉田建設 調査補助員）が作成した。執筆分担は以下のとおりである。
- | | |
|------------------------|---------------|
| 第Ⅰ章、要約 | 春日 |
| 第Ⅱ章、Ⅲ章、第Ⅴ章1・2C、第Ⅵ章、第Ⅷ章 | 並澤 |
| 第Ⅸ章2A | 不破野 |
| 第Ⅸ章2B | 四家 |
| 第Ⅸ章2D～F | 高柳 |
| 第Ⅸ章2G | 渡部 |
| 第Ⅹ章 | パリノ・サーヴェイ株式会社 |
- 13 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々及び機関から多くの御教示・御協力を賜った。ここに記して厚く御礼を申し上げる。（敬称略　五十音順）
- 顧　　実　中島義人　平吹　靖　柏崎市教育委員会　柏崎土地改良区
柏崎市都市整備部八号バイパス事業室　柏崎市ガス水道局　茨目町内会

目 次

第Ⅰ章 序 説	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査経過	2
A 試掘調査	2
B 本発掘調査	2
3 調査・整理体制	3
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	4
1 地理的環境	4
2 歴史的環境	4
第Ⅲ章 調査の概要	9
1 グリッドの設定と地区名	9
2 基本層序	9
第Ⅳ章 遺構	11
1 遺構の概要と記述の方法	11
A 概要	11
B 遺構の記述と表記方法	11
2 遺構各説	12
A 掘立柱建物	12
1) 掘立柱建物の復元について	12
2) 掘立柱建物の形式分類と柱穴の堆積状況	12
3) 掘立柱建物	13
B 井戸	16
1) 井戸の分類	16
2) 井戸	17
C 土坑	20
1) 土坑	20
2) 墓坑	22
3) 竪穴状土坑	22
D 溝	23
E 階段状施設	25
F 性格不明遺構	26
G 水田	26

第V章 遺 物	27
1 概 要	27
2 遺物の記載方法と分類	27
3 遺 物 各 説	28
A 挖立柱建物出土遺物	28
B 井戸出土遺物	28
C 土坑出土遺物	29
D 溝 出土 遺 物	29
E 階段状施設出土遺物	30
F ピット出土遺物	30
G 包含層出土遺物	30
第VI章 自然科学分析	31
1 は じ め	31
2 花 粉 分 析	31
A 試 料	31
B 分 析 方 法	31
C 結 果	32
D 考 察	33
1) 古 植 生	33
2) 植 物 利 用	35
3 樹 種 同 定	36
A 試 料	36
B 分 析 方 法	36
C 結 果	36
D 考 察	39
4 種 実 同 定	41
A 試 料	41
B 分 析 方 法	41
C 結 果	41
D 考 察	43
第VII章 ま と め	64
1 丘江遺跡における土師質土器皿類の編年試案	64
A 土師質土器皿類の型式学的検討	64
B 土師質土器皿類と陶磁器との共伴関係	65
1) 丘江遺跡周辺での共伴事例	66
2) 丘江遺跡での共伴事例	68
C 丘江遺跡における土師質土器皿類の編年試案の概要	70

2 土師質土器皿類の地域型式について	72
3 挖立柱建物の形式について	74
A 挖立柱建物の時期的な位置付けと変遷	74
B 梁間1間型側柱掘立柱建物I・II・II'類について	75
4 井戸について	75
5 墓坑について	76
6 丘江遺跡の集落構造と変遷	76
7 丘江遺跡と周辺地域の遺跡との比較検討	79
8 柏崎市域における丘江遺跡の位置付け	80
《要 約》	82
《引用・参考文献》	84
《観 察 表》	86
掘立柱建物	86
遺構	95
土器・陶磁器	104
石器・石製品	110
木製品	111
金属製品	112
錢貨	112
数珠玉	112
骨	113

挿図目次

第1図 柏崎バイパスの法線と丘江遺跡の位置	1	第17図 木材(2)	39
第2図 丘江遺跡の位置と周辺の微地形	2	第18図 木材(3)	39
第3図 試掘・確認トレチと本調査範囲	2	第19図 木材(4)	39
第4図 柏崎周辺の地形	5	第20図 大型植物遺体(1)	61
第5図 剣羽郡城の在・保と主要城郭	6	第21図 大型植物遺体(2)	61
第6図 丘江遺跡周辺の古代・中世の遺跡	8	第22図 大型植物遺体(3)	61
第7図 グリッドの設定と地区の呼称	9	第23図 土師質土器皿類の組成比率と陶磁器の時期別 出土量	65
第8図 基本層序	10	第24図 陶磁器の時期別器種組成	66
第9図 遺構の平面・断面形態、堆積状況の分類	11	第25図 柏崎市東原町・下沖北遺跡から出土した13世 紀後半～14世紀の土器	67
第10図 丘江遺跡の掘立柱建物形式分類	12	第26図 土師質土器皿類の編年試案1	69
第11図 柱穴埋土器組積状況の分類	13	第27図 土師質土器皿類の編年試案2	71
第12図 井戸の分類	16	第28図 柏崎市東原町道路 SK106出土遺物	72
第13図 土師質土器皿類の分類	28	第29図 上越市至徳寺遺跡 470号遺構出土遺物	72
第14図 花粉化石群集	33	第30図 上越市至徳寺遺跡 419号遺構下層出土遺物	72
第15図 花粉化石	35		
第16図 木材(1)	39		

第31図 上越市吉川区寺町遺跡第三次調査	72	第34図 丘江遺跡集落の変遷1 (I ~ III期)	77
第32図 丘江遺跡における掘立柱建物形式の変遷	74	第35図 丘江遺跡集落の変遷2 (IV ~ V期) 及び上越市下削遺跡の13~14世紀の集落	78
第33図 掘立柱建物主軸方位分布図	76		

表 目 次

第1表 丘江遺跡周辺の遺跡一覧表	8	第12表 種実同定結果(8)	51
第2表 花粉分析結果	34	第13表 種実同定結果(9)	52
第3表 樹種同定結果	38	第14表 主な種実遺体の計測値(1)	53
第4表 器種別種類構成	38	第15表 主な種実遺体の計測値(2)	54
第5表 種実同定結果(1)	44	第16表 主な種実遺体の計測値(3)	55
第6表 種実同定結果(2)	45	第17表 主な種実遺体の計測値(4)	56
第7表 種実同定結果(3)	46	第18表 主な種実遺体の計測値(5)	57
第8表 種実同定結果(4)	47	第19表 主な種実遺体の計測値(6)	58
第9表 種実同定結果(5)	48	第20表 主な種実遺体の計測値(7)	59
第10表 種実同定結果(6)	49	第21表 主な種実遺体の計測値(8)	60
第11表 種実同定結果(7)	50		

図 版 目 次

【図面図版】

図版1 全体図	国版27 分割図22
図版2 4・5・6区全体図	国版28 分割図23
図版3 5・6・7・8区全体図	国版29 分割図24
図版4 6・7区全体図	国版30 分割図25
図版5 区割図	国版31 分割図26
図版6 分割図1	国版32 分割図27
図版7 分割図2	国版33 分割図28
図版8 分割図3	国版34 分割図29
図版9 分割図4	国版35 分割図30
図版10 分割図5	国版36 分割図31
図版11 分割図6	国版37 分割図32
図版12 分割図7	国版38 分割図33
図版13 分割図8	国版39 分割図34
図版14 分割図9	国版40 分割図35
図版15 分割図10	国版41 分割図36
図版16 分割図11	国版42 分割図37
図版17 分割図12	国版43 分割図38
図版18 分割図13	国版44 分割図39
図版19 分割図14	国版45 分割図40
図版20 分割図15	国版46 分割図41
図版21 分割図16	国版47 分割図42
図版22 分割図17	国版48 分割図43
図版23 分割図18	国版49 分割図44
図版24 分割図19	国版50 水田分割図1
図版25 分割図20	国版51 水田分割図2
図版26 分割図21	国版52 水田分割図3

国版53 道構個別図1 挖立柱建物1

- 図版54 道構側別図2 挖立柱建物2
 図版55 道構側別図3 挖立柱建物3
 図版56 道構側別図4 挖立柱建物4
 図版57 道構側別図5 挖立柱建物5
 図版58 道構側別図6 挖立柱建物6
 図版59 道構側別図7 挖立柱建物7
 図版60 道構側別図8 挖立柱建物8
 図版61 道構側別図9 挖立柱建物9
 図版62 道構側別図10 挖立柱建物10
 図版63 道構側別図11 挖立柱建物11
 図版64 道構側別図12 挖立柱建物12
 図版65 道構側別図13 挖立柱建物13
 図版66 道構側別図14 挖立柱建物14
 図版67 道構側別図15 挖立柱建物15
 図版68 道構側別図16 挖立柱建物16
 図版69 道構側別図17 挖立柱建物17
 図版70 道構側別図18 挖立柱建物18
 図版71 道構側別図19 挖立柱建物19
 図版72 道構側別図20 井戸1
 図版73 道構側別図21 井戸2
 図版74 道構側別図22 井戸3
 図版75 道構側別図23 井戸4
 図版76 道構側別図24 井戸5
 図版77 道構側別図25 井戸6
 図版78 道構側別図26 井戸7
 図版79 道構側別図27 井戸8
 図版80 道構側別図28 井戸9
 図版81 道構側別図29 井戸10
 図版82 道構側別図30 井戸11、土坑1
 図版83 道構側別図31 土坑2
 図版84 道構側別図32 土坑3
 図版85 道構側別図33 土坑4
 図版86 道構側別図34 土坑5
 図版87 道構側別図35 土坑6
 図版88 道構側別図36 土坑7
 図版89 道構側別図37 土坑8
 図版90 道構側別図38 墓坑、竪穴状土坑1
 国版91 道構側別図39 竪穴状土坑2
 国版92 道構側別図40 竪穴状土坑3
 国版93 道構側別図41 竪穴状土坑4、溝1
 国版94 道構側別図42 溝2
 国版95 道構側別図43 溝3
 国版96 道構側別図44 溝4
 国版97 道構側別図45 溝5
 国版98 道構側別図46 溝6
 国版99 道構側別図47 溝7、旧河道
 国版100 道構側別図48 斜段状施設（SS5441）
 国版101 道構側別図49 性格不明道構、畦畔
 国版102 土器・陶器類1
- 国版103 土器・陶器類2
 国版104 土器・陶器類3
 国版105 土器・陶器類4
 国版106 土器・陶器類5
 国版107 土器・陶器類6
 国版108 土器・陶器類7
 国版109 土器・陶器類8、石製品1（砥石、礎木成品、磨製石斧）
 国版110 石製品2（神の管、管玉未成品、臼、茶臼、五輪塔）
 国版111 石製品3（五輪塔、宝鏡印塔）
 国版112 木製品1（桂根）
 国版113 木製品2（杭、板状木製品、漆器、椀）
 国版114 木製品3（漆器、箸、板状木製品、曲物、蓋）
 国版115 木製品4（板状木製品、独楽、舟軸）、金属製品（包丁、刀子、鎌、自在鉤、鉄鍋、釣、不明鉄製品、錢貨）
 国版116 木製品5（数珠玉）、ガラス製品（数珠玉）、骨骨

【写真図版】

- 国版117 道路遠景、調査区全景、掘立柱建物
 国版118 掘立柱建物集中区、道路周辺の地形、6・7
 区基本順序
 国版119 斜段状施設（SS5441）、区画溝、墓坑、ガラス製数珠玉
 国版120 4区掘立柱建物
 国版121 4区掘立柱建物
 国版122 4区掘立柱建物
 国版123 4・7区掘立柱建物
 国版124 5・7区掘立柱建物
 国版125 5区掘立柱建物
 国版126 5区掘立柱建物
 国版127 5区掘立柱建物
 国版128 5区掘立柱建物
 国版129 5区掘立柱建物
 国版130 5・6区掘立柱建物
 国版131 6区掘立柱建物
 国版132 5・6区掘立柱建物
 国版133 5区掘立柱建物
 国版134 5・6区掘立柱建物
 国版135 5・6区掘立柱建物、柱穴列
 国版136 4・5区掘立柱建物
 国版137 4区掘立柱建物、7区井戸
 国版138 4・7区井戸
 国版139 4・5・7区井戸
 国版140 4・5・6区井戸
 国版141 4・5・6区井戸
 国版142 4・5区井戸
 国版143 5・6区井戸

- 図版144 5・6区井戸
図版145 5・6区井戸
図版146 6区井戸、7区土坑
図版147 5・7区土坑
図版148 5区土坑
図版149 4・5・6区土坑
図版150 5・6区土坑
図版151 6区土坑
図版152 5・6区土坑
図版153 6区墓坑、7区堅穴状土坑
図版154 5・6区堅穴状土坑
図版155 7区溝
図版156 4・7区溝
図版157 5・7区溝
図版158 5・6区溝
- 図版159 5・6区溝
図版160 5・6区溝
図版161 5・6・8区溝
図版162 5・6・7・8区溝、5・7区旧河道
図版163 7区堅穴状施設、5・6区性格不明遺構
図版164 6区性格不明遺構、6・7区ピット、6・7区蛙畔
図版165 土器・陶磁器類1
図版166 土器・陶磁器類2
図版167 土器・陶磁器類3
図版168 土器・陶磁器類4
図版169 土器・陶磁器類5、石器・石製品1
図版170 石器・石製品2
図版171 石器・石製品3、木製品1
図版172 木製品2
図版173 木製品3、金属製品、数珠玉、獸骨

第Ⅰ章 序 説

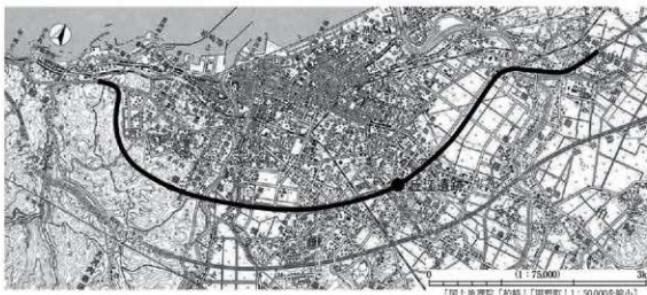
1 調査に至る経緯

「一般国道8号柏崎バイパス」は、柏崎市長崎を起点に同市鶴渡に至る延長11.0kmの幹線道路である。交通混雑の解消、広域地域との交流の促進、都市交通の円滑化、都市機能の活性化などを目的に計画され、1987(昭和62)年度に事業化された。1991(平成3)年度から用地買収、1993(平成5)年度から工事に着手し、整備が進められている。これを受け、建設省(現国土交通省、以下、国交省)と新潟県教育委員会(以下、県教委)との間で、事業用地内の埋蔵文化財の取り扱いに関する協議が本格化した。

柏崎市東原町(豊田橋左岸)から茨目(国道252号)間の分布調査は、県教委の委託を受けた財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団(現公益財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団、以下埋文事業団)が2002(平成14)年7月に実施した。その結果、対象地域の広範囲で古代・中世・近世の遺物が採取でき、遺跡の存在する可能性が高いことから、道路法線のはば全域について試掘調査が必要であると県教委に報告し、県教委はこのことを国交省に報告している。

丘江遺跡に係る試掘確認調査は、埋文事業団が2012(平成24)年10・11月に、県教委が2013(平成25)年7・8月、2014(平成26)年7月に、計73,909m²を対象に実施した。その結果、下層から弥生時代後期から古墳時代前期の遺構・遺物が、上層から中世の遺構・遺物が検出された。特に中世の遺物・遺構は多くのトレンチで出土・検出している。丘江遺跡として新規登録し、下層19,970m²、上層54,467m²、延74,437m²について本発掘調査(以下、本調査)が必要となった。その後、県教委・国交省・埋文事業は協議を重ね、丘江遺跡の本調査を2014年(平成26年)度から複数年に分けて実施することになった。

「平成28年3月13日付け国北整長調第37号」で国交省から県教委に本調査の依頼があり、県教委は「平成27年3月31日付け教文第15941号の2」で埋文事業団に平成2015年(平成27年)度の本調査の実施を依頼した。調査依頼面積は14,800m²である。



第1図 柏崎バイパスの法線と丘江遺跡の位置

2 調査経過

A 試掘調査

丘江遺跡の試掘・確認調査は埋文事業団が2012（平成24）年10月1～19日・11月12～16日に、県教委が2013（平成25）年7月25日～8月9日、2014（平成26）年7月28・29日に実施している。このうち、平成27年度の本調査範囲が含まれる草蔽川から国道252号線までの区間は、県教委が2013（平成25）年・2014（平成26）年に実施したものである。

調査対象面積は26,609m²、調査面積は718.5m²で試掘確認率（対象面積に対する調査面積の比率）は2.7%である。調査の方法は、対象地内にトレチを任意に設定し、掘削用重機及び人力で掘削・精査を行い、土層堆積状況、遺構・遺物の検出状況、トレチの位置などを図面・写真に記録するものである。ほとんどどのトレチから中世の土器・陶磁器が出土し、ピット・井戸・土坑・溝などの遺構を検出したトレチも多い。草蔽川から国道252号線までの区間の本調査必要面積は、25,100m²であり、平成24年度に実施した試掘・確認調査の結果と合わせ丘江遺跡の本調査必要面積は74,437m²となった。



第2図 丘江遺跡の位置と周辺の微地形



第3図 試掘・確認トレチと本調査範囲

B 本発掘調査

本発掘調査は、2015（平成27）年4月20日から開始し、同年12月16日に終了した。調査面積は、既設の水路や道路部分を除いた14,016m²である。調査地は構造物によって分断されていたため、北から順に任意に番号を付して調査区を設定した。

調査は、一班調査員3名の3班体制として事務所に近い7区から開始し、各調査区の進捗と天候の状況等を勘案して順次調査区を移動しながら進めた。7区は、重機による表土掘削後に作業員を投入して掘削を進め、7月3日に航空撮影をし、その後記録・補足調査をして調査を終了した。

7区の調査終了後は、班を振り分けて4・5・6・8区の順に調査を進め、4区の調査を9月上旬に終了した。

9月12日には現地説明会を開催し、約80名の方から参加いただいた。

5・6区は、道構密度が高い上に道構同士の重複が著しく調査が難航した。秋以降は、天候不順に対応するため、状況が良さそうな場所の調査を優先して行い、できるだけ手戻りがないように調査を進めた。

5区は、9月17日に4区と合わせて航空撮影を行い、記録・補足調査をして10月中旬に調査を終了した。

5区の調査終了後は、全班で6区と8区の調査を進めた。12月1日に航空撮影を行い、その後記録・補足調査を行って、12月16日にすべての調査を終了した。

3 調査・整理体制

試掘調査

年 度	2012（平成24）
調査期間	2012年10月1日～2012年10月19日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長 高井道雄）
調査 法	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
施 案	本村正昭（審査課長）
管 理	鷹倉玄二（施査課長）
務 務	仲川国博（施査課 実長）
調査 法 案	高橋 保（調査課長）
調査 指 指	渡邉裕之（試査・確認担当 調査課長代理）
調査 員	朝岡政康（調査課 主任調査員）

整理作業

年 度	2017（平成29）
調査期間	2017年4月3日～2018年3月31日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長 田中幸博）
調 査	公益財團法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
施 案	括 清野一善（審査課長）
管 理	松田祐（施査課長）
務 務	清野美奈（施査課 実長）
整 理 施 案	沢田敦（調査課長）
整 理 指 導	春日真実（調査課 調査代理）
整 理 担 当	兼澤正史（株式会社 吉田建設）
支 援 組 織	株式会社 吉田建設
作 業 目	化野美来子、音沼克始、長沼直美、中村美智子、木村かおり、山崎雅史、矢部千栄子

本発掘調査

年 度	2015（平成27）
調査期間	2015年4月20日～2015年12月16日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長 高井道雄）
調 査	公益財團法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
施 案	肥 肥 茂（施査課長）
管 理	松田 祐（施査課長）
務 務	仲川国博（施査課長）
調査 法 案	鈴木俊成（調査課長）
調査 指 導	春日真実（調査課 調査代理）
調査 施 案	阿部友晴（調査課 主任調査員）
調査 指 指	並澤正史（吉田・国際特定共同企業体）
支 援 組 織	吉田・国際特定共同企業体 ※
現場代理人	浜本宏人（吉田・国際特定共同企業体）
調 査 員	阿部 司、伊藤正志、高橋俊輔、田中万里子、不破野希春、佐藤典邦、四家礼弓、渡部裕司（吉田・国際特定共同企業体）

※ 吉田・国際特定共同企業体は、株式会社吉田建設と国際文化株式会社の2社による共同企業体である。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

遺跡の位置 丘江遺跡は、柏崎市茨目地内に所在し、2015年度の調査区は北緯37度21分55秒、東経138度35分00秒に位置する。現在の市域は、2005年5月1日の刈羽郡西山町・高柳町との合併により拡大し、北東を出雲崎町、東を長岡市、南を十日町市、南西を上越市と接する。市内には、丘江遺跡の南西約2.7kmに、古代北陸道の三島駅に間に連すると推測されている箕輪遺跡〔春日2015〕があり、江戸時代には、北国街道と長岡街道の分岐点となるなど、古くから陸上交通の要衝となっている。また、現在の市街地の中心部となる柏崎港周辺は、『梅花無尽藏』の記述から、遙くとも15世紀以前には港町として発展したと考えられており〔品田2001、春日2015〕、港湾都市として機能していたようである。

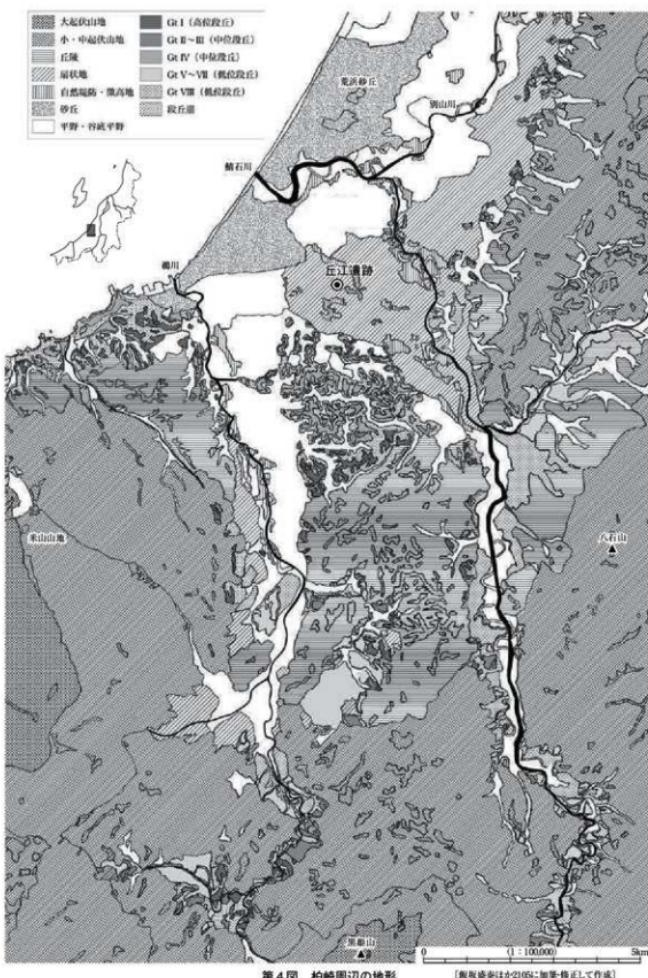
柏崎平野の地勢 柏崎平野は、鶴川と鶴石川、及び鶴石川の支流である別山川によって形成された東西約7km、南北約18kmの臨海沖積平野である（第4図）。平野は、東・西・南方を刈羽三山と称される米山（標高992.6m）・黒姫山（標高889.5m）・八石山（標高518m）を頂点とする山地や東頸城丘陵、刈羽、三島丘陵に囲まれ、北西部は日本海に面し、海岸線に沿って荒浜砂丘が延びている。最高峰の米山は、山裾が日本海に突出し、近世以前は越後府中が存在した上郡と以北の下郡とを区分するランドマークとして認識され、現在も上越地方と中越地方との境界になっている。平野の中央部及び南部は、南北に貫流する鶴川と鶴石川の沖積・浸食作用によって幾つかの独立丘陵を作りながら扇状地状の沖積地が形成され、砂丘の背後には後背湿地が広がっている。このように、柏崎市の地形は、平野が主要河川である鶴川と鶴石川によって分割されており、三島山地と荒川砂丘及び刈羽丘陵に囲まれた沖積地からなる東部、鶴石川と鶴川に挟まれた沖積平野の大半と山地に接して広く形成された中位段丘からなる中部、米山を頂点とした傾斜の強い山地が海岸部に張り出し、断崖と低・高位段丘の形態が顕著であるため沖積地がわずかである西部に三区分される〔品田1996、2001〕。

丘江遺跡周辺の地形 丘江遺跡は、柏崎平野の南西部に位置し、海岸線から約3km内陸に入った鶴石川左岸の沖積微高地に立地する。標高は5.6m～6.7mで、2015年度調査の4区を最高地点として西・南・北に緩やかに傾斜していく。遺跡の東側を流れる鶴石川は、黒姫山と八石山の間を北流し、平野部に抜ける辺りで蛇行して日本海に注ぐ。1947年の米軍写真（国版118）に見られる自然堤防や集落の分布、旧流路や氾濫原と見られる水田の区画等からすると、流路を東に移動させながら現流路になったと推測できる。遺跡の東にある田塚山や田尻山といった独立丘陵は、鶴石川の浸食作用により形成され、かつてはこれらの丘陵をつなぐ尾根が存在した可能性が指摘されている〔品田1996〕。こうした丘陵が障壁となり、鶴石川が蛇行を繰り返した結果、自然堤防や微高地の間に湿地に入り組んだ地形が形成されたのであろう。

現在の集落は、このような南北方向に馬の背状に分布する自然堤防上に作られているが、遺跡は、現集落よりさらに一段低い、中・小河川の氾濫により形成された沖積微高地に立地している。

2 歴史的環境

2015年度の丘江遺跡の調査では、中・近世の遺構と縄文時代後期～近世の遺物が見つかっている。中・



近世以外の遺構と遺物はごくわずかなので、ここでは中世に主眼を置いて歴史的環境を記述する。

古代の柏崎市域の領域 古代の柏崎市域の大半は、数度の領域変更を経て、9世紀初頭に三鷲郡とし

て分置独立したと考えられている〔米沢1980〕。三嶋郡には、「和名類纂抄」に「三島」、「高家」、「多岐」の三郷、「延喜式」に北陸道の駅家として「三島駅」と「多太駅」の記載があり、三郷、二駅家が存在したことことが知られる。品田高志氏は、具体的な根拠は乏しいしながらも、三嶋郷を鶴川流域、高家郷を鯖石川中流域、長鳥川流域、多岐郷を鯖石川下流域、別山川流域に比定している〔品田1996〕。この想定に依拠すれば、古代の丘江遺跡周辺は三嶋郷もしくは高家郷に属することになろう。なお、三嶋郡衙と三嶋駅の所在地は、先述した箕輪遺跡周辺が有力視されている〔春日2015〕。

柏崎市域における中世の社会情勢 平安時代末期になると院政の開始と武士勢力の台頭により、それまでの摂関政治が崩壊して平氏政権の支配が越後にも及び、阿賀野川以北に本拠地を持つ越後平氏の城氏が勢力を持つようになる。治承四年(1180)、以仁王の挙兵を契機として、源・平二氏の割据争奪戦となった治承・寿永の乱が起こる。平氏方は、源氏方への対抗措置として、養和元年(1181)に城四郎長茂(資永)を越後守に任じたものの、寿永二年(1183)には源氏方の木曾義仲が越後国衙を支配下に置いた。義仲と平氏の没落後、越後国は文治元年(1185)に源頼朝の知行国となるが、「吾妻鏡」文治二年(1186)三月十二日条の京への貢未納の莊園目録中に、越後国の多くの莊園と共に佐橋・北角・宇川の三莊園の名が見られ、同年三月十三日条に頼朝が文治元年(1185)以前の未納分を免除するよう後白河法皇に申請している記載がある〔上越市2002〕ことから、当時の柏崎市域の主要な莊園も頼朝の管理下にあったことが窺える。さらに、承久の乱(1221)を経て北条氏による執権政治が確立し、一族の北条(名越)朝時・光時父子が越後守護職と越後守を兼任してから、越後国は、北条一族(鎌倉幕府)の強い支配下に置かれる〔田村1999〕。



第5図 刈羽郡域の荘・保と主要城郭（柏崎教委1996を縮小して使用）
〔国土地理院「柏崎・岡野町」1:50,000使用〕

この時期の柏崎市域に関わる部分では、宝治合戦（1247）において、三浦氏と共に一族の多くが滅亡した（大江）毛利氏の中で、合戦時越後に滞在していたため罪科を免れた毛利経光が、鎌倉幕府から佐橋莊南条の所領を安堵している。後に安田毛利氏や北条氏が分派してそれぞれ鶴河莊安田条と佐橋莊北条を所領しており、越後毛利氏一族は、柏崎平野の南部城を支配下に置いてその勢力を拡大していく。

品田氏は、天和三年（1683）『刈羽郡村々石盛帳』〔柏崎市史編さん委1984〕に記載されている「銳郷」18カ村を、現在の字名の分布と地形を照合して検討し、安田毛利氏の支配領域となる安田条の範囲を、安田・軒井川・下田尻・両田尻・茨目・半田・岩上村周辺と想定している〔品田1996〕。これに従えば、現在茨目に所在する丘江遺跡も鶴河莊安田条に含まれていたことになろう。

このように、越後毛利氏は柏崎市域で最大勢力を誇った在地領主であり、中世後半にはこれを牽制するため、越後守護により鶴河莊上条の上条城館に上条上杉氏、刈羽郷の赤田城に齊藤氏が配されている。

一方、海岸部寄りの現柏崎市街地は、北角莊の領域とされ、14世紀中葉ころまでは莊園領主の権限が保持されていたようである。15世紀後半には港町「柏崎町」として整備され、町衆により連歌会が催されるなど独自の勢力を確立する〔矢田1999、品田2001〕。

丘江遺跡周辺の中世の遺跡 柏崎平野の中世の遺跡は、集落遺跡が丘陵裾部や自然堤防などの沖積平野に、墳墓などの宗教関連施設が丘陵裾部や中位段丘などの台地上に分布する傾向がある〔品田1996〕(第6図)。

丘江遺跡の周辺には、沖積地に東原町遺跡（2）、宝田遺跡（3）、^{やなべ}角田遺跡（16）、山崎遺跡（43）、丘陵に田塚山遺跡群（8）、小児石遺跡（40）、海岸部に柏崎町遺跡（21）などがある。これらの遺跡は先述した莊園の範囲に照らし合わせれば、鶴河莊もしくは佐橋莊に含まれると考えられる〔品田1996〕。

沖積平野は、集落または生産域（水田）として利用されている。これまでの国道8号柏崎バイパス建設に伴う発掘調査の成果では、集落（東原町遺跡北半、山崎・丘江遺跡）と水田（東原町遺跡南半、宝田・丘江遺跡北端）が発見されており、北から順に見ていくと、集落域と生産域が交互に分布している。このことから、南北方向に形成された自然堤防または微高地と低湿地が交互に存在すると見られ、地形的な制約を受けながら、集落と生産域を上手に配置していた状況が見て取れる。

各集落は、数棟の建物に多数の井戸・土坑が付随している点で共通し、区画溝や道路と見られる道構が検出された遺跡であることから、莊園管理者または在地領主層により計画的に土地開発が進められた状況が推測できる。また、沖積平野よりも高位の丘陵には、12世紀以降、塚や経塚、仏堂などの宗教施設が多く構築され、日常生活からかけ離れた施設を平野の奥まった場所に配置する意図が窺える。

丘江遺跡の東方約300mに位置する田塚山遺跡群は、12世紀末から13世紀にかけて仏堂及び関連施設が構築された遺跡である。仏堂は、1間四方の内陣と3間四方の外陣からなる規模の大きなもので、その周りを縁側が巡る。さらに、渡り廊下を介して庫裡と見られる建物と接続しており、「白河風土記」に「七堂伽藍の大寺【寺ヶ】」と記載されている不退寺の前身であった可能性が指摘されていて、領主層の氏寺ではなかったかと想定されている〔品田1996〕。また、田塚山遺跡群に隣接する小児石遺跡は中世全般に亘って墓地として機能しており〔品田1991〕、丘江遺跡の東に位置する独立丘陵上の宗教関連施設と、丘江遺跡を含めた近在の集落との間には、密接な結びつきがあったと思われる。

丘江遺跡からは離れるが、鯖石川と長島川の合流地点付近に、馬場・天神腰遺跡が所在する。毛利氏一族の北条氏の拠点である佐橋莊北条にあり、魚沼を抜けて江戸へと通じるルート上に位置している。13世紀以降、東西方向に走る幹線道路を基準に、区画溝によって居住地が設定されており、地頭や莊官、国人領主などが関与して交通の要所に構築した、都市的機能を持つ遺跡であったと評価されている〔品田2004〕。



(原図 国土地理院 2007(平成19)年発行[柏崎] 1:50,000)
第6図 丘江渡跡周辺の古代・中世の遺跡

No.	遺跡名	時期	No.	遺跡名	時期	No.	遺跡名	時期
1	丘江	古墳・中世	18	櫛山城	中世	35	堂之遺	中世
2	東原町	中世	19	上原	古墳・平安・鎌倉	36	今井桑原堂之遺	中世
3	宝田	古墳・中世	20	南園遺	神文・唐宋・古代	37	北山城跡	室町
4	山崎	平安・中世	21	山崎町	中世・近世	38	北野御跡	中世
5	小塙	古墳・中世	22	四谷	藤食	39	大庭田	室町
6	鬼輪	古墳・古代・中世	23	柳原町	室町	40	小石右	中世(墓地)
7	藤原東都	神文・古代・(被鉄 筒窓)・中世	24	楓山	神文・古墳・中世	41	不盈寺	平安・中世
8	羽保山遺	神文・唐宋・ 中世(山亞・墓地)	25	鶴巣田	古墳・古墳	42	翁田	古代・中世
9	鶴原	中世	26	茅原	平安・中世	43	森木城跡	古代・中世
10	森宮跡	南北・中世	27	下原の城跡	中世	44	隈野	神文・古墳・中世
11	上高崎山城跡	中世	28	大沢	神文・古代・中世	45	西船久保川	中世
12	江野山城跡	不明	29	大沢	神文・古代・中世	46	西船久保城跡	室町
13	吉ノ浦	古代・中世	30	一・本屋の城跡	中世	47	八代山城跡	室町
14	下見足	中世	31	安根跡	室町	48	日川の城跡	中世
15	下見井	古墳・平安	32	上野井用の 城跡	藤食	49	矢頭城跡	室町
16	美田	古墳・古墳・藤食	33	中庭	平安・中世	50	吉井哲跡	中世
17	側下原	古墳・古代・中世	34	内田	中世	51	江ノ下	後生・古墳・ 平安・中世
18	内田	中世	35	84村	中世	52	84村	中世

第1表 丘江渡跡周辺の遺跡一覧表

第Ⅲ章 調査の概要

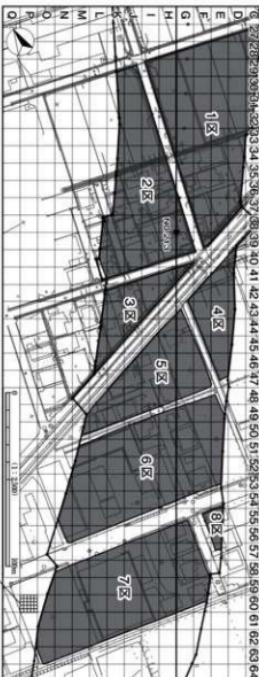
1 グリッドの設定と地区名

丘江遺跡は、2014年度から本発掘調査を開始した。本年度の調査区の設定は、2014年度調査のグリッドを踏襲し、道路建設予定地内のセンター杭2点を基準とした。基準としたセンター杭は、No.198 (X=151919.385, Y=7642.954) と No.213 (X=151602.171, Y=7474.344) である。この両センター杭を結んだ直線を横軸、これに直交する線を縦軸としてグリッド杭を打設した。グリッド基準線の方位は、横軸が真北から29度3分57秒東偏している。本年度の発掘調査では、上記の基準線を南へ延長して使用した(第7図)。

グリッドの設定は、大小2種類を用いて示した。大グリッドは、縦横10m四方とし、小グリッドは、大グリッドを25分割した。大グリッドは、横列に算用数字、縦列にルファベットを用いて、北東隅にある基準線の交点を出発点とし、「1A, 1B, 1C, 1D…」と呼称した。小グリッドは、北東隅を起点に南西方向に「[1, 2, 3, 4, 5]」とし、折り返して「[5, 6…]」と統けて算用数字を表した。グリッド名は、大グリッドと小グリッドを組み合せて「60PL」などと表記した。

丘江遺跡の調査範囲は、市道や用水路などによっていくつかの地区に分断されており、こうした状況を踏まえて、任意に調査区を設定した。調査区名は、調査初年度のものを踏襲し、北から順に「4~8区」とした。

2 基本層序



第7図 グリッドの設定と地区的呼称
(国土交通省北陸地方整備局長岡国造事務所作成地図を使用)

丘江遺跡は、鯖石川左岸の標高5.6m～6.7m前後となる沖積微高地に立地する。丘江遺跡の現況は、水田と宅地及び工場跡地である。遺跡周辺は、自然堤防や微高地間に低地が複雑に入り組んでおり、1m前後の高低差がある。

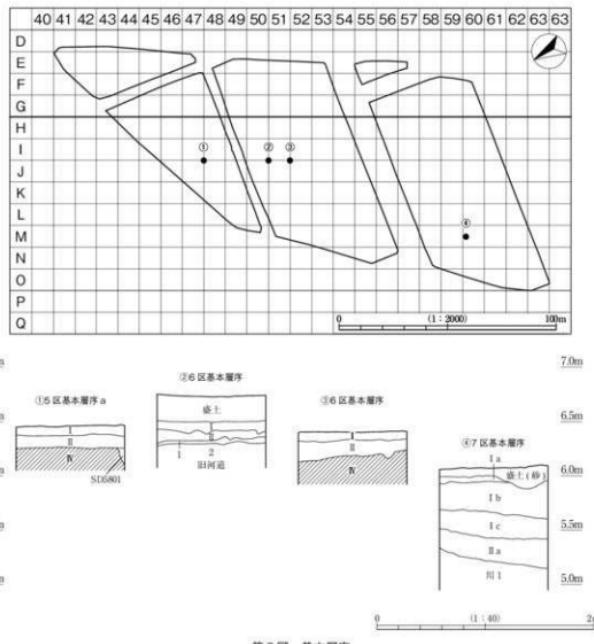
基本層序はI～IV層に大別した(第8図)。各層は、同一層であっても地点によって土質・色調に多少の差異があり、さらに2～4層に細分可能な層もある。このうちII層が中世～近世の遺物包含層であり、I

層は、水田耕作土のため、近・現代の遺物とⅡ層の遺物が混在する。今回の調査区では弥生時代後期～古墳時代の遺物包含層であるⅢ層は確認されなかつた。よつて、Ⅱ層直下が遺構検出面のⅣ層となる。各層の土質・色調は、高地点の堆積層により代表させた。

Ⅰ層：灰褐色粘土（7.5Y4/2）粘性、しまり共に強い。近・現代の水田や畑の耕作土。低地では、色調や土質によりa～dの4層に細分される。

Ⅱ層：灰色シルト（7.5Y6/1）粘性、しまり共に強い。炭化物粒等を含有する。中世～近世の遺物包含層。

Ⅳ層：灰色シルト（10Y6/1）粘性、しまり共に強い。基盤土層であり、遺構検出面。



第8回 基本層序

第IV章 遺構

1 遺構の概要と記述の方法

A 概 要

検出した遺構は、大半が14世紀～15世紀に構築されている。丘江遺跡の特徴に、単独または連結させた区画溝で居住地を囲っていることが挙げられる。区画内には掘立柱建物や井戸など、生活に関わる様々な遺構が重複して構築されており、区画内を長期間居住地として使用していた様子が窺える。

2015年度の調査で検出した遺構は、掘立柱建物47棟、井戸150基、土坑149基、堅穴状土坑6基、墓坑2基、溝65条、階段状施設1基、性格不明遺構7基、畦畔39条、ピット多数である。出土遺物の時期と遺構埋土の特徴から、15世紀代が2015年度調査区の最盛期と考えている。

B 遺構の記述と表記方法

遺構の記述は、本文に合わせて図面図版・写真図版・挿図を適時用いて行った。図面図版は、遺構全体図・分割図・個別図で構成される。また、写真図版は、図面図版の掲載順に合わせて作成した。本文は、遺構の種別ごとに番号の若い順から記述している。なお本文の記述は、遺構数が膨大であったため、形状や土層の堆積状況、及び遺物の出土状況を勘案して、種別ごとに抽出したものに止めた。また、本文に記述した以外の遺構についても、選別して観察表に掲載した。

遺構種別の表記は、略号を用いて掘立柱建物「SB」、井戸「SE」、土坑「SK」、溝「SD」、性格不明遺構「SX」、階段状施設「SS」、ピット「P」とした。水田関連の遺構は、略号を用いていない。遺構番号は、略号の後ろに種別を問わず若い順から付した。番号は、2014年度調査からの通しとし、2015年度は「4601」番からとした。なお、整理の過程で、遺構種別が変更となったものもあるが、混乱を避けるためできるだけ当初の種別を採用するようにした。このため、建物の柱穴であっても、「SE」や「SK」となっているものもある。



第9図 遺構の平面・断面形態、堆積状況の分類 (加藤1999、荒川はか2004を改変)

遺構の平面形状及び断面形状の表記は、和泉A遺跡〔荒川・加藤ほか1999〕の分類基準(第8図)に準拠した。土層の記載については、地点によって色調や土質が異なっていることや、複数の調査員が携わっていることなどにより統一できていない部分もある。この点について、ご理解いただきたい。

遺構の計測値は、長軸(最大長・最大径)と短軸、及び検出面からの最深部を示した。遺構の重複やカラン等による損壊で、計測困難なものについては残存値を()で表記した。

遺構同士が重複する場合、新旧の表示は、本文中では「切る」、「切られる」、「新しい」、「古い」と表現し、観察表では不等号を用いて「新>古」とした。方位は、長軸が真北に対して東西に何度振れているかを計測し、N-●°-E(W)と表記した。土層の色調は、「新版標準土色帖」〔農林水産省農林水産技術会議事務局・財團法人日本色彩研究所2004〕を使用した。

2 遺構各説

A 掘立柱建物

1) 掘立柱建物の復元について

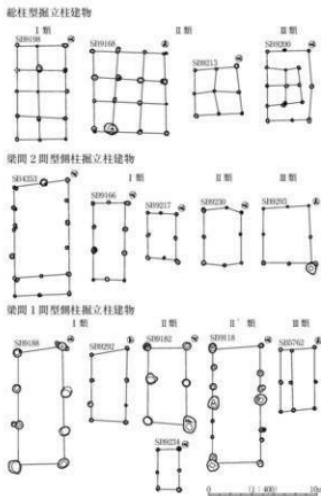
発掘調査時と整理作業で復元できた掘立柱建物は、47棟である。そのほとんどが図面上での検討で認定したもので、現地で確定した建物は少ない。これは、ピットを含め、多数の遺構が重複していたためである。検出したピット数からすれば、さらに多くの掘立柱建物が存在したと考えている。図面上での掘立柱建物の復元に当たっては、桁行の兩柱列が対応するか否かと、柱穴の形状や大きさ、深さを目安とした。柱穴の深さにばらつきが見られる場合は、梁間と桁行の柱間が揃うことと、平面形が方形基調になることを優先して建物と判断した。

掘立柱建物の表記は、柱数の多い方向を桁行、少ない方向を梁間とした。主軸方位は、真北に対する建物の中心軸(桁行方向)の振れ方を計測し、N-●°-E(W)と表記した。建物の面積は、床面積を桁行×梁間で算出して提示した。

2) 掘立柱建物の形式分類と柱穴の堆積状況

掘立柱建物は、柱穴配列と柱間の間隔、柱穴の大きさなどで幾つかの種類に分類できる。そこで、掘立柱建物を宮本長二郎氏の形式分類〔宮本1998〕を参考に、総柱型建物、梁間2間型側柱建物、梁間1間型側柱建物の3類型に大別した。各類型は平面形と柱穴配列で次のように細分した(第10図)。

総柱型建物 平面長方形をI類、平面方形をII類、II類に底または縁側が巡る建物をIII類とした。



第10図 丘江遺跡の掘立柱建物形式分類

梁間2間型側柱建物 平面長方形をⅠ類、平面亀甲形または五角形をⅡ類、平面方形をⅢ類とした。

梁間1間型側柱建物 平面長方形をⅠ類、平面長方形で桁行の柱穴間の距離がⅠ類より長いものをⅡ類、Ⅱ類の桁行柱穴間に補助柱と推測される柱が配置されるものをⅡ'類、Ⅱ類に庇が付くものをⅢ類とした。

また、柱穴埋土の堆積状況については、柱の遺存状況を明示するため、柱痕が検出面で確認できるものをA類、柱痕が検出面で確認できず、レンズ状に堆積した層下に柱痕が検出されるものをB類、底面までレンズ状または水平の埋土が堆積しているものをC類、単層のものをD類の4類型に分類した(第11図)。

A類とB類は、柱を切り取った痕跡とし、C類は柱を抜き取った痕跡、D類は切り取りと抜き取りどちらも取れ、柱の遺存状況が不明とした。ただし、單層でも地山ブロックを多く含むものは、抜き取りと判断した。



第11図 柱穴埋土堆積状況の分類

3) 掘立柱建物

掘立柱建物は、方形区画溝が掘削されていた5区と6区で大半の建物が見つかっている。特に、5区と5区に隣接する6区北半に密集している。また、頻繁な建物の建て替えや建て直しのためか、建物同士の重複が著しいが、柱穴の切り合いで直接新旧関係を把握できるものは少ない。ここでの記述は、形式分類した主要な掘立柱建物について概要を述べるに止め、個々の詳細については観察表を参照願いたい。

SB4970 (国版6・53・120)

4区42D、42・43E グリッドグリッドに位置する。梁間2間型掘立柱建物Ⅱ類とした、桁行2間(4.1m)、梁間2間(3.0m)の南北棟建物で、床面積は12.79 m²である。主軸方位は、N-50°-Eを示す。

SB5486 (国版7・54・121・122)

4区43・44E グリッドに位置する。梁間1間型掘立柱建物Ⅲ類とした、桁行2間(4.2m)、梁間1間(3.1m)の東西棟建物で、南側に庇が付く。庇を含めた床面積は、12.95 m²である。主軸方位は、N-65°-Eを示す。柱は、大半が切り取られている。

SB5780 (国版7・54・122・123)

4区44・45E、44F グリッドに位置する。調査区外に延伸する可能性もあるため、総柱型掘立柱建物Ⅰ類またはⅡ類としておく。柱穴列が調査区内に収まればⅡ類となり、倉庫となる可能性が高い。桁行2間(5.2m以上)、梁間2間(3.6m)の東西棟建物で、東側梁間中央の柱穴は検出できなかった。現状での床面積は、18.72 m²である。主軸方位は、N-92°-Eを示す。SB5780は、P5876がP5776に切られる(国版71)ため、SB9292より古い。

SB9118 (国版40・55・117・123・124)

7区56G・H、57H・I グリッドに位置する。梁間1間型掘立柱建物Ⅱ'類とした、桁行2間(11.3m)、梁間1間(4.4m)の東西棟建物で、桁行には補助柱として一回りから二回り小さい柱が桁行間に片側それぞれ4本配置されている。よって、補助柱を含めた桁行は6間となり、本道路では大型の建物になる。床面積は、49.72 m²である。主軸方位は、N-92°-Eを示す。主柱穴は、掘形が径0.6m~1.2mと大きく、深さも0.8m前後としっかりしている。補助柱は、大きさが0.3~0.4m前後と主柱穴よりかなり小さいが、深さは0.5m前後あり、多くの建物の柱穴規模と同等である。柱は、大半が切り取られている。P4748とSK4696からは、柱根が出土した(国版112-233・234)。また、SK4696柱穴掘形から珠洲Ⅳ期[吉岡1994]以降の窓片と越前焼窓片、SK4710の柱抜き取り部分の4層から、珠洲Ⅳ期以降の窓片が出土している。

SB9165 (図版14・56・124・125) 5区45I、46H・1グリッドに位置する。梁間1間型掘立柱建物Ⅰ類とした、桁行4間（9.2m）、梁間2間（4.1m）の東西棟建物で、床面積は37.72m²である。主軸方位は、N-91°-Eを示す。柱穴は、平面形が楕円形、断面形がU字状のものが多い。建物の規模に比べて、柱穴の掘形が大きい。SB9165は、P5547にP5548が、P5551にP5552が切られる（図版70）ため、SB9249より古い。

SB9166 (図版14・57・125)

5区45I、46H・1グリッドに位置する。梁間2間型掘立柱建物Ⅰ類とした、桁行3間（7.0m）、梁間2間（3.09m）の東西棟建物で、床面積は20.46m²である。主軸方位は、N-81°-Eを示す。

SB9168 (図版14・57・125)

5区47H、46・47I、50J グリッドに位置する。総柱型掘立柱建物Ⅱ類とした、桁行3間（7.4m）、梁間3間（6.53m）の南北棟建物で、柱穴配列と平面形から倉庫と考えている。床面積は48.62m²で、倉庫であればかなり大型の建物となる。主軸方位は、N-6°-Wを示す。柱は、大半が切り取られている。SB9168は、P6411がSB9249のP6410、P6518がSD5348を切るので、SB9165、SB9249、SD5348より新しい。

SB9169 (図版14・58・125・126)

5区46H、46・47I グリッドに位置する。梁間1間型掘立柱建物Ⅰ類とした、桁行5間（11.35m）、梁間1間（3.46m）の東西棟建物で、床面積は40.02m²である。本遺跡では大型の建物になる。主軸方位は、N-94°-Eを示す。柱穴は、径0.45～1.16m、深さ0.30m～0.86mと建物の規模を反映してか、掘形が大きい。柱は、大半が切り取られている。SB9169は、P6940がP6939を切る（図版58）ため、SB9170よりも新しい。なお、P6409とSB9209のP6584も重複しており、先にP6409が検出されたことから、SB9169がSB9209よりも古い可能性がある。また、細片のため図化できなかったが、P6845の柱切り取り部分から森田D群〔森田1982〕の白磁皿が出土しており、建物の構築時期は、15世紀前半以前になる可能性が高い。

SB9170 (図版14・59・126・127)

5区46・47H、46・47I、47J グリッドに位置する。梁間1間型掘立柱建物Ⅰ類とした、桁行5間（12.78m）、梁間1間（5.72m）の東西棟建物である。床面積は73.42m²で、今年度の調査では最大の建物になる。主軸方位は、N-89°-Eを示す。柱穴は、掘形が大きいためか、平面形、断面形とともにバラエティーに富む。なお、西側の一間分は、他の柱間より狭いので、庇等の可能性もある。柱は、大半が切り取られている。SB9170は、先述したようにSB9169よりも古い。SE6415の上層から森田D群の白磁皿片（図版102-1）が出土しており、建物の構築時期は15世紀前半以前であろうか。

SB9173 (図版16・60・117・127・128)

5区47・48J、47K グリッドに位置する。梁間1間型掘立柱建物Ⅰ類とした、桁行4間（8.55m）、梁間1間（4.8m）の東西棟建物で、床面積は26.51m²である。主軸方位は、N-88°-Eを示す。SB9173は、P7366がP7367を切る（図版60）ため、SB9177よりも新しい。

SB9177 (図版15・61・128・129)

5区47I、47・48J グリッドに位置する。総柱型掘立柱建物Ⅰ類とした、桁行6間（11.45m）、梁間2間（3.93m）の東西棟建物で、両梁間中央の柱穴がやや外側に張り出す。床面積は46.33m²で、本遺跡では大型の建物になる。主軸方位は、N-94°-Eを示す。梁間1間型の掘立柱建物の柱穴と比べると、柱穴は、掘形が小さいものが多い。SB9177は、柱穴の切り合い関係から、SB9178とSB9173よりも古い。なお、P7426の柱痕部分から、土師質土器ⅢB類細片が出土しているが、建物同士やほかの遺構との重複関係を考えすれば、混入と考えられる。

SB9178 (国版15・62・129・130)

5区47・48Jグリッドに位置する。総柱型掘立柱建物I類とした、桁行5間(8.51m)、梁間2間(3.34m)の東西棟建物で、床面積は28.38m²である。主軸方位は、N-91°-Eを示す。SB9178は、先述したようにSB9177より新しい。なお、P7582の柱の切り取り部分から、森田D群の八角杯が出土しており(国版102-2)、建物の構築時期は、15世紀前半以前と考えられる。

SB9182 (国版21・63・130・131)

6区49・50G、50Hグリッドに位置する。梁間1間型掘立柱建物II類とした、桁行2間(6.73m)、梁間1間(3.62m)の東西棟建物で、床面積は26.25m²である。主軸方位は、N-70°-Eを示す。柱穴は、建物の規模に比べて掘形が大きい。なお、桁行南側南北隅は、SE8105が重複している。SE8105東側の段差部分が柱穴の残存部分と考えているが、新旧関係は不明である。本建物は、P6496がSK6224を切るため、SB9188より新しい。SE8105上層から、15世紀後半の土師質土器皿細片が出土している。

SB9186 (国版22・63・131)

6区49・50I、50Hグリッドに位置する。総柱型掘立柱建物II類とした、桁行2間(5.15m)、梁間2間(3.97m)の南北棟建物で、床面積は19.32m²である。主軸方位は、N-2°-Wを示す。柱穴は、掘形が小さい。SB9186のP8437より先にSB9234のP8442を検出したことから、SB9234より古い建物である可能性が高い。P7960の柱痕部分から上田DII類〔上田1982〕と思われる青磁片(国版102-6)と珠洲IV～V期ころの播鉢細片が出土しており、建物の構築時期は、15世紀前半以前になろうか。

SB9188 (国版21・64・65・131・132)

6区49・50G、49・50Hグリッドに位置する。梁間1間型掘立柱建物I類とした、桁行3間(10.78m)、梁間1間(4.15m)の東西棟建物で、床面積は44.03m²である。本遺跡では大型の建物になる。主軸方位は、N-104°-Eを示す。柱穴は、掘形が大きく、大半の柱が抜き取られている。先述したように、SB9182より古い。SK6566の柱抜き取り後の堆積層から珠洲IV2～IV3期に比定できそうな播鉢片(国版102-7)と青磁片が出土しており、本建物は、14世紀末以前に構築された可能性が高い。

SB9195 (国版22・65・132)

6区49・50Hグリッドに位置する。梁間2間型掘立柱建物III類とした、桁行2間(4.42m)、梁間2間(3.81m)の東西棟建物で、床面積は16.90m²である。梁間西側中央の柱穴は、わずかに外側に張り出す。主軸方位は、N-100°-Eを示す。柱は、柱痕が確認できたものは、すべて切り取られた状況を示す。

SB9198 (国版15・66・132・133)

5区47・48I, 48Jグリッドに位置する。総柱型掘立柱建物I類とした、桁行4間(8.61m)、梁間2間(4.48m)の東西棟建物で、床面積は38.59m²である。主軸方位は、N-97°-Eを示す。柱穴は、掘形が小さいながらも、深く掘り込まれているものが多い。柱は、大半が切り取られている。

SB9200 (国版16・66・133)

5区48J、48Kグリッドに位置する。総柱型掘立柱建物III類とした、桁行2間(6.34m)、梁間2間(3.81m)の東西棟建物である。北側を除いた三方を、庇または縁で囲む。庇または縁を含めた床面積は24.98m²である。主軸方位は、N-96°-Eを示す。柱穴の配置状況と建物の平面形は、近在する田塚山遺跡群で検出された「仏堂」〔品田1996〕とされる建物に類似しており、宗教施設の可能性がある。

SB9214 (国版14・67・134)

5区46Iグリッドに位置する。総柱型掘立柱建物II類とした、桁行2間(3.89m)、梁間2間(4.08m)の南

北棟建物で、倉庫様の柱穴配置となる。床面積は16.09m²である。主軸方位は、N-1°-Wを示す。

SB9217 (図版13・68)

5区48G、48Hグリッドに位置する。梁間2間型掘立柱建物II類とした、桁行2間(4.28m)、梁間2間(2.67m)の東西棟建物で、床面積は11.16m²である。主軸方位は、N-94°-Eを示す。P6575から森田D群の白磁皿(図版102-8)が出土している。15世紀前半ころに位置付けられようか。

SB9232・SA9175 (図版20・68・134・135)

6区50E、50・51Fグリッドに位置する。梁間1間型掘立柱建物II類とした、桁行2間(4.63m)、梁間1間(2.44m)の南北棟建物で、床面積は10.85m²である。主軸方位は、N-44°-Eを示す。西側の桁行に並行してSA9175があり、SB9232の日隠し塀と判断し、ここに併記した。

SB9234 (図版22・69・135)

6区50I、50Hグリッドに位置する。梁間1間型掘立柱建物II類とした、桁行2間(3.7m)、梁間1間(1.95m)の東西棟建物で、床面積は7.18m²である。主軸方位は、N-92°-Eを示す。SB9235のP9354より先にSB9234のP8442を検出したことから、SB9235より新しい建物である可能性が高い。

SB9243 (図版40・69・135)

7区57H、56・57Iグリッドに位置する。梁間1間型掘立柱建物II類とした、桁行2間(4.33m)、梁間1間(3.3m)の東西棟建物で、床面積は13.89m²である。主軸方位は、N-90°-Eを示す。

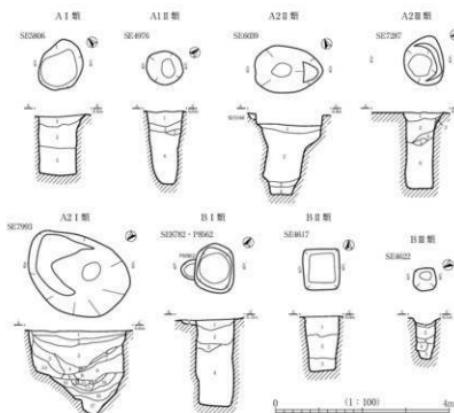
SB9292 (図版7・71・136)

4区44・45E、44・45Fグリッドに位置する。梁間1間型掘立柱建物I類とした、桁行3間(5.98m)、梁間1間(3.15m)の南北棟建物で、床面積は20.43m²である。主軸方位は、N-24°-Eを示す。

B 井 戸

1) 井戸の分類

柏崎平野の沖積地は、シルトと粘土層が厚く堆積しており、湧水点がかなり深いと考えられる。このことは、深さが2mを超える遺構を幾つか調査したもののが、さほど湧水が認められなかったことにも表れている。ここでは、形状と大きさ、深さにより井戸を2類型に分類した(第12図)。ただし、整理作業の過程で掘立柱建物の柱穴に変更となった遺構もあり、湧水点が低いことともあいまって



第12図 井戸の分類

上記の属性だけで井戸と認定するには問題も含むが、便宜的に以下のように分類した。

A類 円形または楕円形を基調とするもの。断面形が箱状またはU字状となるものをⅠ類、断面形が階段状となるものをⅡ類とした。さらに、A1類は直径1m前後をⅠ類、0.5m前後をⅡ類、A2類は直径2mを超えるものをⅠ類、1mを超えるものをⅡ類、1m未満をⅢ類とした。

B類 方形を基調とするもの。一辺1mを超えるのものをⅠ類、0.6m～1m未満のものをⅡ類、0.6m未満のものをⅢ類とした。

2) 井 戸 (図版72～82、137～146)

SE4618 (図版39・72・137)

7区58G22・23・24、58H2・3・4グリッドに位置する。SE4940、SD4868・4869と重複し、SE4940より古く、SD4868・4869より新しい。A2I類とした。大きさは、長径3.46m、深さ2.22mである。土層観察面が崩落したため、断面図は記録できなかつたが、調査中の所見により、埋土は、レンズ状に堆積することが確認できた。各層に砂などのラミナが見られ、腐植土層と粘土層が交互に堆積することから、埋没過程で湿地状態と乾燥状態を繰り返したと想定している。遺物は上位から珠洲V期ころの壺(図版102-9)と、土師質土器皿A類の破片などが出土している。

SE4622 (図版49・72・137)

7区63O12・13グリッドに位置する。BⅢ類とした。断面形はU字状で、大きさは長軸0.54m、深さ0.96mである。埋土は、下部が水平堆積で地山ブロックを含み、埋め戻したと考えている。

SE4695 (図版40・72・137)

7区57H7グリッドに位置する。A1I類とした。断面形は、漏斗状となる。P4775・4776と重複し、これらよりも新しい。大きさは、長径0.98m、深さ1.44mである。遺物は、出土状況から一括発掘された可能性が高く、4～6層から土師質土器皿B類、越前焼擂鉢(図版102-10～16)などが出土している。

SE4701 (図版38・73・138)

7区57G21・22グリッドに位置する。A1I類とした。断面形はU字状で、大きさは長径1.15m、深さ1.13mである。埋土に地山ブロックを多く含むことから、埋め戻した可能性がある。遺物は、4層から珠洲V期ころの壺(図版102-5)が出土している。なお、SE4701は、SB9184の柱穴となる可能性がある。

SE4816 (図版44・73・138)

7区57H16グリッドに位置する。A1I類とした。断面形はU字状で、大きさは長径1.47m、深さ1.26mである。遺物は、5層から土師質土器皿C類(図版102-17)が出土している。

SE4905 (図版38・73・138)

7区57G25・57H5グリッドに位置する。A1I類とした。断面形はU字状で、大きさは長径1.06m、深さ1.13mである。遺物は、2層から古瀬戸II期〔藤澤2008〕ころと思われる鉢皿(図版102-4)が出土している。なお、SE4905は、SE4701とともにSB9184を構成する柱穴となる可能性がある。

SE4916 (図版38・73・138)

7区57G9・10・14・15グリッドに位置する。A2II類とした。大きさは、長径1.84m、深さ1.43mである。遺物は、2層から珠洲V期の擂鉢(図版102-18)と木製品が出土している。

SE4982 (図版38・74・139)

7区57G18グリッドに位置する。SD4646と重複し、SE4982が古い。A1I類とした。断面形は台形状で、

大きさは長径1.26m、深さ1.14mである。遺物は、底面から漆器椀（図版113-251）が出土している。

SE5069（図版11・74・139）

5区47F12グリッドに位置する。A1II類とした。断面形は箱状で、大きさは長径0.76m、深さ0.80mである。遺物は、1層から土師質土器皿C類（図版102-21）、3層から漆器椀（図版113-252）が出土している。

SE5087（図版11・74・139）

5区46F25、47F21グリッドに位置する。B1類とした。断面形は箱状で、大きさは長軸1.10m、深さ1.46mである。2層以下が水平に、上部がレンズ状に堆積しており、2層以下を人為的に埋め戻した可能性がある。遺物は、3層から土師質土器皿A類（図版102-22）と斎巾（図版115-277）が出土している。

SE5103（図版7・74・139）

4区43E9グリッドに位置する。P5104・5105と重複し、これらよりもより古い。B1類とした。断面形はU字状で、大きさは長径1.06m、深さ1.70mである。各層とも地山ブロックが多く、埋め戻した可能性がある。遺物は、4層から土師質土器皿C類、5層から底板（図版114-268・269）が出土している。

SE5194（図版13・75・139）

5区47H23・24グリッドに位置する。A1II類とした。断面形は箱状で、大きさは長径0.56m、深さ1.00mである。遺物は、2層から上田CII類の青磁椀（図版102-25）が出土している。

SE5452（図版19・75・140）

6区49F16グリッドに位置する。P5453と重複し、SE5452が古い。A1I類とした。断面形は漏斗状で、大きさは長径0.85m、深さ0.80mである。遺物は、5層から土師質土器C類、3層から珠洲V期ころと思われる擂鉢（図版102-27・28）、木製品が出土している。

SE5678（図版7・75・140）

4区44E5、45E1グリッドに位置する。A1I類とした。断面形はU字形状で、大きさは長径0.88m、深さ1.30mである。各層とも地山ブロックを多く含み、埋め戻した可能性がある。遺物は、箸状木製品（図版114-261・262）、土師質土器皿A類が出土している。

SE5722（図版13・75・140）

5区47H16・17・22グリッドに位置する。A2II類としたが、別の遺構が重複している可能性もある。大きさは、長径1.73m、深さ1.59mである。埋土は、ブロック状に堆積し、埋め戻したと考えている。遺物は、4層から瓦質土器（図版103-30）、木器椀（図版113-253）、珠洲焼甕片が出土している。

SE5733（図版13・76・140）

5区47G23、47H3グリッドに位置する。SK5189と重複し、SE5733が古い。SK5189に上部を壊されており、遺構の全容は不明であるが、残存部分からBII類と判断した。断面形はU字状で、大きさは長軸0.76m、深さ1.10mである。埋土は、レンズ状に堆積する。遺物は、木製品（図版112-238）が出土している。

SE6009（図版7・77・142）

4区44E17・18グリッドに位置する。A1I類とした。断面形はU字状で、大きさは長径0.86m、深さ1.04mである。埋土は、2・4層に地山ブロックを多く含む。1～3層から人頭大の石が多く出土しており、埋め戻す際に意図的に廻叢したと考えている。遺物は、1層から砥石（図版109-202）が出土している。

SE6039（図版13・77・142）

5区48H17・22グリッドに位置する。SD5348と重複し、SE6039が新しい。A2II類とした。大きさは、長径1.54m、深さ1.80mである。2層は、厚く堆積し、地山ブロックを多く含むことから、埋め戻した可

能性がある。遺物は、土師質土器皿B類（図版103-32・33）が出土している。

SE6049（国版13・78・142）

5区48H2・3グリッドに位置する。AII類とした。断面形は箱状で、大きさは長径0.77m、深さ0.92mである。埋土は、斜めに堆積する。遺物は、3層から土師質土器皿C類（図版103-34）と珠洲V期ころの壺片、木製品が出土している。

SE6145（国版13・78・142）

5区48H23グリッドに位置する。P6156と重複するが、新旧関係は不明である。AII類とした。断面形は漏斗状で、大きさは長径0.78m、深さ1.40mである。遺物は、1層から土師質土器皿B類（図版103-35）が出土している。

SE6488（国版21・78・143）

6区50G13グリッドに位置する。SD6308と重複し、SE6488が古い。AII類とした。断面形はU字状で、大きさは長径0.85m、深さ1.45mである。いずれの層も地山ブロックを含み、埋め戻した可能性がある。遺物は、1層から土師質土器皿C類（図版103-36）、漆器椀片が出土している。

SE6515（国版14・78・143）

5区46I4-5グリッドに位置する。BII類とした。断面形は、箱状となる。大きさは、長軸0.87m、深さ1.20mである。埋土は、レンズ状に堆積する。遺物は、5層から土師質土器皿C類と古瀬戸後Ⅳ期ころの平椀、珠洲VI期の擂鉢（図版103-37～40）、自在鉤（図版115-284）、木製品が出土している。

SE6577（国版21・78・143）

6区50G8・13グリッドに位置する。SD6308と重複し、SE6577が古い。AII類とした。断面形はU字状で、大きさは長径1.02m、深さ1.23mである。1・3層に地山ブロックを多く含み、埋め戻した可能性がある。遺物は、3層から土師質土器C類と上田I類青磁碗（図版103-41～43）、木製品が出土している。

SE7053（国版14・79・143）

5区47I7・8・12・13グリッドに位置する。SD5348と重複し、SE7053が古い。AII類とした。断面形は台形状で、大きさは長径1.27m、深さ1.04mである。4層に地山ブロックを多く含み、下部を埋め戻した可能性がある。遺物は、1層から土師質土器皿C類（図版103-46）が出土している。

SE7354（国版16・79・144）

5区47J10・15グリッドに位置する。SK7355・P7353と重複し、P7353より新しく、SK7355より古い。B1類とした。断面形は漏斗状となる。大きさは、長軸1.00m、深さ1.28mである。遺物は、2層から土師質土器皿C類（図版103-47・48）と漆器椀（図版113-255）、珠洲V期ころの壺片、木製品が出土している。

SE7828（国版19・80・144）

6区49F13・14グリッドに位置する。B1類とした。断面形はU字状で、大きさは長軸0.87m、深さ1.62mである。遺物は、1層から土師質土器鉢と森田D群白磁皿（図版103-49・50）、土師質土器皿C類片、3層から板状木製品（図版113-250）、2層から漆器椀（図版113-256）が出土している。

SE7993（国版22・80・144）

6区49H125、50H21、49I5、50I1グリッドに位置する。A2I類とした大形の造構である。大きさは、長径2.41m、深さ1.92mである。下部の段差は、曲物等の通過設備を設置していた可能性を示す。遺物は、4～14層に土師質土器皿A・C類、上田BII類・DII類青磁碗、古瀬戸後Ⅲ期の縁輪小皿・鉢皿、珠洲V期ころの擂鉢（図版103-51～61）、漆器椀（図版113-257）、著木製品（図版114-265）など、多くの遺物

が出土している。また、混入品であるガアメリカ式石巻（図版110～217）も出土している。

SE8105（国版22・80・144）

6区50H3・4グリッドに位置する。B1類とした。断面形はU字状で、大きさは長軸1.62m、深さ1.62mである。2・3層に地山ブロックを多く含むことから、置構の中位まで埋没した段階で、埋め戻した可能性がある。遺物は、下層から漆器椀（図版113～258）、板状木製品（図版114～273）、砥石が出土している。

SE8782（国版28・81・145）

6区51H19グリッドに位置する。SX8652と重複し、SE8782が新しい。B1類とした。断面形は箱状で、大きさは長径1.17m、深さ2.00mである。4層より上位の層に地山ブロックを含み、一定期間の埋没後、埋め戻したと考えている。遺物は、4層から木器椀（図版113～259）が出土している。

SE9052（国版30・82・146）

6区53K1・2グリッドに位置する。SD8106に上部東半分を壊されている。A11類とした。断面形はU字状で、大きさは長径0.89m、深さ1.07mである。遺物は、2層から珠洲V期の擂鉢（国版103～63）が出土している。

C 土 坑

土坑は、大きさと深さにより井戸と区別したが、その境があいまいなものもある。また、平面形が方形基調で、長軸が4m前後に達するものを堅穴状土坑、副葬品等で明らかに墓と認定できるものを墓坑として別記した。なお、本文の記述は、主要なものに止め、ほかは観察表に記載した。

1) 土 坑（国版82～89・146～152）

SK4651（国版38・82・146）

7区56G15・20・25、57G11・16・21グリッドに位置する。平面形は長楕円形、断面は弧状となる。大きさは、長径4.61m、深さ0.58mである。遺物は、2～5層から土師質土器皿B類片と珠洲V・VI期の甕・擂鉢片が出土している。

SK4673（国版38・83・146）

7区57H1・2グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は階段状となる。大きさは、長径1.17m、深さ0.84mである。埋土は、水平・斜めに堆積する。全体に炭化物や焼土塊、焼繰などを含むことから、人頭大の石を廻棄して埋め戻したと考えている。遺物は、2～5層から土師質土器皿B類と朝鮮雜釉皿、古瀬戸IV期の香炉、珠洲VI期の擂鉢（国版104～67～70）、珠洲燒瓦片が出土している。

SK4712（国版38・83・146）

7区57H1グリッドに位置する。平面形は楕円形で、断面形はU字状となる。大きさは、長径1.51m、深さ0.64mである。埋土がブロック状に堆積しており、埋め戻した可能性がある。遺物は、1層から土師質土器皿B類（国版104～72）と木製品が出土している。

SK4793（国版44・83・146）

7区57J22・23、57K2・3グリッドに位置する。北側は調査区外へと延びる。平面形は長楕円形で、断面形は弧状となる。大きさは、長軸3.21m以上、深さ0.42mである。遺物は、1層から珠洲V期ころの擂鉢（国版104～73）、越前焼擂鉢片、砥石が出土している。

SK4866 (図版44・83・147)

7区57J13・14・18・19グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、断面形は箱状となる。大きさは、長軸1.66m、深さ0.36mである。埋土は、单層で地山ブロックを含む。遺構の形状や埋土の堆積状況から、墓坑の可能性がある。

SK4903 (図版41・83・147)

7区57I5・10、58I1・2・6グリッドに位置する。SD4646と重複し、SK4903が古い。平面形は隅丸長方形で、断面形は台形状となる。大きさは、長軸3.10m、深さ0.82mである。遺物は、古瀬戸後Ⅳ期の燭台細片と折縁深皿 (図版104-74・75) が出土している。

SK5056 (図版12・84)

5区45H14・15・19・20・24、46H11グリッドに位置する。SK5055・5347と重複し、SK5056が古い。平面形は長梢円形で、断面形は弧状となる。規模は長径4.42m、深さ0.34mである。1層には炭化物を多く含む。遺物は、珠洲V期ころの擂鉢 (図版104-76) が出土している。

SK5189 (図版13・85・147)

5区47G18・19・23・24、47H3・4グリッドに位置する。SD6105、SE5733、SK5730・7078と重複し、SK7078より古く、その他の遺構より新しい。平面形は梢円形で、断面形は弧状となる。大きさは、長径3.67m、深さ0.26mである。遺物は、2層から土師質土器皿B類 (図版104-78)、1層から瀬戸焼瓶子細片、鉄製品 (図版115-289) が出土している。

SK5328 (図版13・84・147)

5区47H16グリッドに位置する。平面形は隅丸方形で、断面形は箱状となる。大きさは、長径0.92m、深さ0.84mである。遺物は、上田DII類とした青磁楕 (図版104-79) と珠洲擂鉢片が出土している。

SK5730 (図版13・85・148)

5区47G24・47H4グリッドに位置する。SK5189と重複し、SK5730が古い。平面形は円形で、断面形は台形状となる。大きさは、長径0.74m、深さ0.76mである。2層に地山ブロックを多く含み、1層以下を埋め戻した可能性がある。遺物は、1層から土師質土器皿C類片が出土している。

SK5810 (図版13・86・148)

5区48H12・17グリッドに位置する。平面形は隅丸方形で、断面形は台形状となる。大きさは、長軸0.59m、深さ0.38mである。遺物は、土師質土器皿B類 (図版104-80) が出土している。

SK5854 (図版21・86・149)

6区50F21・22、50G1・2グリッドに位置する。平面形は不整形で、断面形は弧状となる。大きさは、長軸2.65m、深さ0.28mである。埋土に地山ブロックを多く含み、埋め戻した可能性がある。遺物は、土師質土器皿B類 (図版104-81) が出土している。

SK5993 (図版8・86・149)

4区46E7・11・12グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は半円状となる。大きさは、長径0.67m、深さ0.32mである。遺物は、土師質土器皿A類 (図版104-82) が出土している。

SK6178 (図版13・86・149)

5区48I4・9グリッドに位置する。平面形は梢円形で、断面形はU字状となる。大きさは、長径0.92m、深さ0.93mである。2層に地山ブロックを多く含み、1層以下を埋め戻したと考えている。遺物は、1層から土師質土器皿B類 (図版105-84) が出土している。

SK7433 (図版16・87・150)

5区48J11・12グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、断面形は台形状となる。大きさは、長軸1.63m、深さ0.39mである。埋土は、1～4層がレンズ状に堆積する。5・6層は1～4層に切られるように堆積しており、いずれの層も粘土ブロックを多く含む。平面形と深さ、埋土の堆積状況から、木枠状のものが設置されていたことが推測でき、幕もしくは水場遺構の可能性がある。遺物は、古瀬戸後III期と思われる直線大皿（図版105～86）が出土している。

SK8375 (図版22・88・151)

6区50H23・24、50I3・4グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は弧状となる。大きさは、長径1.84m上、深さ0.30mである。3層に地山ブロックを多く含む。遺物は、3層から土師質土器皿C類、1層から上田DII類青磁碗と珠洲IV・V期ころの甕（図版105～93～95）が出土している。

SK8468 (図版22・88・151)

6区50H24・25、50I4・5グリッドに位置する。SD8327、P8473・8476と重複し、SK8468がすべての遺構に切られる。平面形は隅丸長方形で、断面形は弧状となる。大きさは、長軸2.86m、深さ0.16mである。埋土は、レンズ状に堆積する。遺物は、2層からIV期以降の珠洲焼甕片が出土している。

SK8935 (図版10・89・152)

5区45G9・14グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形はU字状となる。大きさは、長径0.83m、深さ0.75mである。2層に地山ブロックを多く含み、人頭大の螺が投げ込まれていることから、埋め戻したと考えている。遺物は、2層から珠洲IV期の擂鉢（図版105～96）と砥石が出土している。

2) 墓坑 (図版90・119・153)

SK8000 (図版23・90・119・153)

6区51II・2・6・7グリッドに位置する。SD6308と重複し、SK8000が古い。大半がSD6308に壊されているので詳細は不明だが、平面形は隅丸方形または楕円形で、断面形は弧状になると思われる。残存値は、短軸1.44m、深さ0.18mである。埋土は、水平に堆積する。遺物は、副葬品と思われるガラス製数珠王が29点（図版116～334～362）出土している。

SK8809 (図版28・90・119・153)

6区52II0・15、53I6・11グリッドに位置する。区画溝としたSD5000aを掘削中に炭塊が集中する箇所を検出したことで、SK8809の存在を把握した。このため、両者の新旧を断面観察で把握できなかつたが、炭塊直上で、SD6000aの埋土が覆っていたこと、SK5000aの底面とSK8809の底面がほぼ同標高であること（図版153）、SK8809の直下にSD5000a掘削前のSD5000bの埋土があること、SK8809の長軸がSD5000aの壁と並行すること（図版28）などから、SD5000aの底面に墓坑を構築した可能性がある。平面形は隅丸方形で、断面形は弧状となる。検出部分での大きさは長径1.14m、深さ0.12mで、骨片混じりの炭塊が敷き詰められていた。遺物は、炭層から銭貨4点（図版115～295～298）、炭化した木製数珠玉25点（図版116～309～333）が出土している。木製数珠玉は、装着した状態で茶毘に付され、炭化したと考えている。

3) 壑穴状土坑 (図版90～93・153・154)

SK4607 (図版46・90・153)

7区57K7・8・12・13・18グリッドに位置する。調査区外に遺構が延びるため、全形は不明である。壗

穴状土坑としたが、位置的にSD5000aに接続する可能性もある。平面形は検出した範囲では隅丸方形になり、断面形は階段状である。大きさは、長軸4.71m、深さ0.38mである。2層に未分解腐植物を多く含む。

SK4706 (国版40・91・153)

7区56H1・2・6・7・8・11・12・13グリッドに位置する。調査区外に造構が延びるため、全形は不明である。平面形は検出した部分で隅丸長方形になり、断面形は弧状である。大きさは、長軸3.61m、深さ0.58mである。埋土は、レンズ状に堆積する。遺物は、1層から瓦器壺（国版104-71）が出土している。

SK5353 (国版14・91・154)

5区45H25、46H21、45I4・5・9・10・15、46II・6・11グリッドに位置する。P5336・5354・5382、SD5011・5315と重複し、P5354・5382よりも新しく、SD5011・5315、P5336よりも古い。平面形は隅丸長方形で、断面形は弧状となる。大きさは、長軸4.48m、深さ0.13mである。なお、SK5353は、一辺4.5m前後の隅丸長方形であり、底面のピットが本造構に伴うとした場合は、堅穴建物になる可能性がある。

SK7109 (国版26・90・154)

6区52F13・14・18・19・20・24・25グリッドに位置する。SE8853と重複し、SK7109が新しい。平面形は隅丸長方形で、断面形は台形状となる。大きさは、長軸4.09m、深さ1.00mである。埋土は、7層に地山ブロックを多く含み、壁の崩落によるものと考えている。遺物は、4層から古瀬戸後IV期ころの天目茶碗（国版105-85）と上田DII類またはE類の青磁碗片、板状木製品が出土している。

SK7451a・b・c (国版16・92・154)

48J18・19・20・23・24・25・48K3・4・5、49K1グリッドに位置する。埋土の堆積状況から、2回掘り直してしていることが判明した。SK7451c → SK7451b → SK7451aの順に作り変えている。SK7451aは、断面観察で確認しただけで、平面形は不明である。断面形は弧状となり、深さは0.4mである。埋土は、レンズ状に堆積する。SK7451bは、平面形が隅丸長方形で、断面形が台形状となる。大きさは、長軸3.29m、深さ1.12mである。埋土は、最下層に未分解腐植物を、5層に地山ブロックを多く含むことから、上位を埋め戻している可能性がある。SK7451cは、平面形が隅丸長方形で、断面形が弧状となる。大きさは、長軸5.80m、深さ0.66mである。埋土は、レンズ状に堆積する。遺物は、5層から土師質土器皿C類、青磁盤（国版105-87・90）が、埋土から土師質土器皿C類、古瀬戸後II～III期の平碗、珠洲IV期擂鉢（国版105-88・89・91・92）が出土している。

SK9154 (国版23・93・154)

6区50J22・23・24、50J2・3・4・7・8グリッドに位置する。SK8070、SD8307と重複し、これらよりも新しい。平面形は隅丸方形で、断面形は箱状となる。大きさは、長軸3.71m、深さ0.52mである。埋土は、3層に未分解腐植物を多く含む。底面南に小土坑状の掘り込みがあり、別造構の可能性がある。

D 溝 (国版93～99、155～162)

SD4633 (国版46・93・155)

7区57・58Kグリッドに位置する。SD4632・4646と重複し、SD4633が古い。断面形は弧状で、長軸8.13m以上、最大幅2.86m、深さ0.46mである。2層から上田BIV類の青磁碗片が出土している。

SD4652 (国版38・156)

7区57G、56H、56Iグリッドに位置する。SK4651・4672、P4722と重複し、SD4652が古い。本造構は、断面観察で把握できた範囲では重複するすべての造構に墻されており、中世では最も古い時期に属する。

2 造構各説

断面形は台形状で、長軸23.57m以上、最大幅0.98m、深さ0.42mである。全体に地山ブロックを多く含む。

SD4792 (国版9・94・156)

4区44E、42・43F グリッドに位置する。P5110と重複し、SD4792が新しい。断面形は台形状で、長軸23.32m以上、最大幅1.01m、深さ0.32mである。

SD4796 (国版6・94・156)

4区41・42E、41・42F グリッドに位置する。SE4797と重複し、SD4796が新しい。断面形は階段状で、長軸29.13m以上、最大幅3.11m、深さ0.68mである。1層に近世陶磁器を含んでおり、上部は、窪地状になっていたと思われる。遺物は、2層以下から土師質土器皿A類や珠洲IV期の甕 (国版105・104・105・110)、石臼 (国版110～222)などが出土している。なお、SD4796は、造構の時期や位置関係、大きさ等を考慮すると、2014年度調査の区画溝 SD1111・1428と接続して方形区画溝となる可能性が高い。

SD4861 (国版44・94・157)

7区57J グリッドに位置する。断面形は弧状で、長軸3.40m以上、最大幅0.44m、深さ0.04mである。埋土は、レンズ状に堆積する。遺物は、珠洲V期ころの甕 (国版105～112) が出土している。

SD5000a・b (国版11・12・19・27・28・95・157・158)

5区と6区にまたがって南北方向に走り、6区49E・F グリッドで東西方向にT字状に屈曲して延びる溝である。最低1回の掘り直しがあり、新しい溝を SD5000a、古い溝を SD5000b とした。断面形は a・bともに南北方向は台形状、東西方向は階段状となる。また、溝幅は、断面形状の違いと対応しており、台形状よりも階段状の方が幅広となる。総延長は149.1m以上で、SD5000b の最大幅は4.48m、深さ1.34mである。SD5000a は SD7596 と、SD5000b が SD7531 と結合して、方平町ほどの長方形区画になると想定している。再掘削後は、溝幅、深さとともに一回り小さくなっている。埋土は、SD5000a・bともに下層に有機質堆積層が見られる。また、SD5000b の上層には地山ブロックを多く含む箇所があり、再掘削前に部分的に埋め戻している可能性もある。遺物は、SD5000a の各層から土師質土器皿B・C類や瓦器火鉢、森田D群の白磁皿、上田DII類またはE類の青磁碗、古瀬戸後III期～IV期の鉢皿・大皿、珠洲V・VI期の搖鉢 (国版106～115～139)、越前焼壺片、SD5000b の各層から土師質土器皿C類、森田D群の白磁碗、白磁蓋、上田B1・2類の青磁碗 (国版106～140～147)、底面から馬の下顎骨 (国版116～363) などが出土している。

SD5348 (国版14・96)

5区48H、46・47I、48J グリッドに位置する。P5535と重複し、SD5348が新しい。断面形は台形状で、長軸29.44m以上、最大幅0.61m、深さ0.39mである。埋土は、レンズ状に堆積する。

SD6308 (国版28・97・159・160)

6区50F、50G、50・51H、51I グリッドに位置する。1層直上を、近世の水田耕作土が覆っている。SK8000、SD7531・7596、P8072と重複し、これらの造構より新しい。断面形は台形状で、長軸45.83m以上、最大幅1.59m、深さ0.30mである。17世紀後半以降の水田下にあるため、近世前半には下らないであろう。

SD7102 (国版26・97・160)

6区52・53F、53G、53H グリッドに位置する。SD7003と重複するが、新旧は不明である。53G グリッドでL字状に屈曲して SD5000a・7596 と結合し、一辺約18mの方形区画溝となる。断面形は弧状で、総延長36.27m、最大幅1.88m、深さ0.58mである。埋土はレンズ状に堆積する。

SD7103 (国版20・97・160)

6区51・52・53F、51G グリッドに位置する。SD7002と重複するが、新旧は不明である。また、重複す

る多くのピットに切られている。南側が開く「コ」の字状の区画溝である。断面形は弧状で、総延長35.20m、最大幅2.72m、深さ0.12mである。

SD7531 (図版17・97・161)

5区49K、6区52L、50・51J グリッドに位置する。SD5000a、SD7596と重複し、SD7531が古い。SD5000bと結合して西側の区画を形成する。断面形は台形状で、長軸78.77m以上、最大幅1.36m、深さ0.80mである。上部に地山ブロックを多く含み、SD5000bとともに意図的に埋め戻した可能性がある。

SD7596 (図版17・32・98・161)

5区48・49K、48L、6区51・52L、50・51Jに位置する。SD7351・7597と重複し、SD7531より新しく、SD7597よりも古い。SD5000a、SD7002と結合して西側の区画を形成する。断面形は階段または台形状で、長軸99.45m以上、最大幅2.87m、深さ0.85mである。埋土は、下部と中部に有機物層が堆積する。遺物は、底面付近から土師質土器皿B・C類、上田DII類またはE類の青磁碗、古瀬戸後II期及び後IV期の香炉・折縁深皿、珠洲IV期の壺(図版107-151～159)、鉄鍋(図版115-285)などが出土している。

SD8106 (図版25・98・161)

6区52・53K、52・53Lに位置する。SD5000a、またはSD5000bと結合して西側の区画を形成すると考えている。断面形は階段状で、長軸37.15m以上、最大幅2.24m、深さ0.90mである。

SD8307 (図版23・98・161)

6区50Iに位置する。SK9145と重複し、SD8307が古い。断面形は弧状で、長軸7.10m、最大幅0.58m、深さ0.16mである。遺物は、古瀬戸後IV期ころの香炉(図版107-160)が出土している。

SD8700 (図版31・99・162)

6区55K、54・55L、54Mに位置する。形状や位置関係から、7区のSD4652と同一造構になると判断している。SD5000aと重複し、SD8700が古い。断面形は漏斗状で、長軸31.85m以上、最大幅1.32m、深さ0.78mである。遺物は、珠洲IV期ころの擂鉢(図版107-161)が出土している。

SD4641 (図版45・99・162)

7区を東西方向に横断する自然流路である。59N、59Mグリッドで北に屈曲し、調査区外に延びていく。遺物の出土がごくわずかだったこともあり、造構が希薄な西側については部分的なトレント調査に止めている。断面形は階段状で、長軸86.88m以上、最大幅14.68m、深さ2.96mである。近世～近代の2条の用水路と重複し、部分的にこれらに壠されている。59Gグリッド右岸6層面上に、後述する階段状施設が構築されており、15層以下は、14世紀末以前の流路となる。遺物は、6～14層から土師質土器皿B・C類と森HI D群の白磁八角杯(図版105-97～99)、珠洲IV・V期の擂鉢・壺(図版105-100・101)、木製品が出土している。出土遺物の様相から、14世紀末～15世紀後半にかけて流路を利用していたと考えている。

旧河道 (図版18・99・162)

5～7区を南北方向に継続する自然流路である。1層直上にII層が堆積していることと、1層上面に中世の造構が掘り込まれていたことから、中世以前に流れていた流路と判断した。流路幅は、把握できた部分で15mを超える。部分的にトレント調査を実施したが、遺物の出土はなく、詳細な時期は不明である。

E 階段状施設

SS5441 (図版39・100・163)

7区59Gグリッドに位置し、SD4641の右岸に構築されていた昇降施設である。対岸には同様の造構が

なかったので、往来用の機能としてではなく、流路を生活用水として利用するために設置したものと考えている。宝鏡印塔の基礎や五輪塔の地輪、人頭大の礎を利用して、川岸に直交して階段状に構築しており、崩壊を防ぐために、小礎と粘土を隙間に詰めて部分的に杭で固定している。遺物は、階段状施設周辺の構築面上から、弦文帯をもつ青磁楕や珠洲IV期の甕（図版107～163・164）、包丁（図版115～278）、曲物底板（114～270）、及び枕（113～247～249）などが出土している。遺物に14世紀後半ころに位置付けられるものがあり、ある程度流路が埋没した段階で、14世紀末には段階状施設を構築したと考えている。

F 性格不明遺構

形状や大きさなどから、機能を想定できなかった遺構を性格不明遺構とした。

SX5445（図版19・101・163）

6区49F13・14・17～24、49G1～6・11グリッドに位置する。SK5850・P5449と重複し、SK5850より新しくP5449よりも古い。平面形は不整形で、断面形は弧状となる。大きさは、長軸1029m以上、幅428m、深さ0.57mである。埋土は、レンズ状に堆積する。遺物は、1層から森田D群の白磁八角杯（図版108～165）、銭貨（図版115～299～301）、土師質土器皿B類片、青磁稜花皿片、珠洲焼掃鉢片が出土している。

G 水 田（図版50～52・101・164）

畦畔と畦畔脇の掘り込み、踏み抜き痕などから水田と判断した。図版50～52に全体図を、図版101・164に畦畔の断面図・写真などを示した。5～7区の広範囲で畦畔や踏み抜き痕を検出している。

畦畔と踏み抜き痕は、重機による表土掘削段階において多くをⅡ層面で検出している。特に5区・6区の西側で顕著に見られた。ただし、5～7区の大半が工場・宅地による削平を受けているため、畦畔の検出は部分的であり、区画の全容を知りえない。

6区では、掘立柱建物や井戸・土坑・溝などの中世の遺構は、いずれも水田面またはⅡ層を掘り下げた段階で検出している。6区の畦畔24（図版101・164）の断面観察から、畦畔がⅡ層上面に構築されていることが明らかであり、少なくとも6区の水田と中世の遺構群とは断続していることが理解できる。出土した遺物を見ると、水田からは、珠洲焼や青磁などの中世遺物と、17世紀後半以降の遺物が少量（図版108～166～168）出土している。水田と中世の遺構群の間にⅡ層が介在することと、遺物の出土状況を勘案すれば、中世の遺物は、耕作時に搅拌されて下層や周辺部から紛れ込んだものと判断できる。なお、プラスティック・ビニールなどの現代の遺物は、明確な搅乱以外からは出土していない。

昭和22年米軍撮影の航空写真（図版118）に畦畔の配置状況を照合すると、7区旧河道1・2と近世の溝SD4646、及び6区の水田区画の一部が写真に写る区画とはほぼ一致している。6区では、複数の畦畔・溝跡が写真に写る区画とおおよそ同位置に重なり、写真に写る7区を南東から北西に横断する水路もしくは小河川が、SD4641を壊している旧河道1・2に対応すると考えられる。このことから、7区のSD4646と旧河道1・2は、水田と同時に機能し、昭和初期に埋められたと考えている。

以上、水田区画と流路、及び出土遺物と米軍撮影の航空写真の検討から、調査区周辺は、中世～近世初頭の間に掘立柱建物などの中世の遺構群が完全に埋没した後に、17世紀後半ころに水田として新規に開発されたと推測でき、昭和20～30年代の葦収川の改修・耕地整理に至るまで、水田として継続的に使用していたと考えている。なお、7区で検出した畦畔38の水田掘り込み部分には、Ⅱ層が堆積しており（図版101・164）、中世～近世初頭の間に7区の一部を水田として利用していた可能性がある。

第V章 遺物

1 概要

ここでは、遺構から一括して出土した遺物と編年的位置付けに必要なもの、特殊品及び包含層出土遺物について記述する。ほかは、遺物観察表を参照頂きたい。中・近世の土器・陶磁器の総出土数は、破片数で土師質土器425点、瓦器4点、珠洲焼669点、瀬戸・美濃焼87点、越中瀬戸焼3点、越前焼15点、白磁43点、青磁85点、朝鮮雜釉2点、唐津焼271点、肥前陶磁器186点、不明陶磁器2点である。

2 遺物の記載方法と分類

記述は、図面図版の掲載順とし、遺構種別・遺物包含層の順に行った。土師質土器皿類は、[品田1996・1999]を参考に製作技法の違いと器形により、A～Dの4類型に分類した(第13図)。年代観については[佐澤・水澤2001]、[水澤2005]、[品田1996・1999]を参考にした。陶磁器の器種分類と年代観については、白磁・青磁の分類を[横田・森田1978]、[森田1982]、[上田1982]、珠洲焼を[吉岡1994]、瀬戸・美濃焼を[藤澤2008]に従った。土師質土器皿類の分類は、以下のとおりである。

A類 手づくね成形で、器壁が厚く、口縁部を2段または1段にヨコナデするもの。口径13cm前後のものを皿、口径8cm前後のものを小皿とした。皿については、口縁部と体部の境に後がつく1類、口縁部が内溝する2類、器形が箱状となる3類型に大別した。さらに、調整手法の違いで細分し、口縁部を2段にヨコナデし、体部との境に明瞭な稜線がつくものをA1・2a類、口縁部のヨコナデが1段で、体部との境に明瞭な稜線がつくものをA1・2b類、口縁部を広めにヨコナデし、稜線が底部付近に下がるか沈線状になるものをA1・2c類、稜線が不明瞭になり、底部と口縁部との境が窪むものをA1d類、口縁部のヨコナデが粗雑で、稜線がないものをA1・2e類とした。

B類 手づくね成形で、器壁が薄く、口縁部を2段または1段にヨコナデするもの。口径12cm前後のものを皿、口径10cm前後のものを小皿とした。また、皿と小皿ともに、調整手法により口縁部を2段または1段にヨコナデし、口縁端部を内側に摘み上げるものをB1類、B1類は口縁端部の摘み上げが削ぎでなく、口縁端部外面にヨコナデによる面をもつものをB2類、口縁端部に面をもたないものをB3類に細分した。

C類 ロクロ成形で、底部に糸切痕を残すもの。口径13cm前後を皿、口径10cm以下を小皿とした。小皿は、口径値で2種に分類可能であるが、今回は一括して扱った。細分は、器形・調整で以下のようにした。

C1類 器高指数(口径/器高×100)と底径指数(口径/底径×100)で、器高指数10前後、底径指数75以上の浅身・箱形の器形で、口縁部が内溝するものをC1a類、器高指数14前後、底径指数60以上の浅身・箱形の器形で、口縁部が内溝気味に外傾するものをC1b類、器高指数14前後、底径指数60以上の浅身・箱形の器形で、底部が肥厚し、口縁部が内溝するものをC1c類とした。口径は、9cm前後が多い。

C2類 器高指数20前後、底径指数60以上の深身・楕形の器形で、口縁部が内溝するものをC2a類、器高指数15前後、底径指数60以上の深身・楕形の器形で、底部が肥厚し、口縁部が外傾するものをC2b類、器高指数15前後、底径指数60以上の深身・楕形器形で、底部が肥厚し、口縁部が内溝するものをC2c類、

3 遺物各説

器高指数12前後、底径指数50以上の浅身・箱形の器形で、底部が肥厚し、口縁部が外反するものをC2d類とした。口径は、C1類よりも一回り小さく、8cm前後である。

C3類 C1類と器形が共通するが、口縁端部を内側に屈曲させて面を持つもの。B類の影響を受けたものと考えている。屈曲が明瞭なものa類、不明瞭なものをb類とした。

C4類 底径が小さく、口縁部が強く外傾するもの。B類模倣で、底部を削るa類と無調整のb類がある。

C5類 底径が小さく、薄手で口縁部が内湾するもの。B類模倣と考えている。

C6類 底径が小さく、薄手で口縁部が外反して口縁端部を摘み上げるもの。B類模倣と考えている。

D類 ロクロ成形で、底部にヘラ切痕を残すもの。2014年度調査で1点出土している。



第13図 土師質土器皿類の分類

3 遺物各説

A 掘立柱建物出土遺物 (図版102・165-1~8)

掘立柱建物から出土した遺物はわずかである。1はSB9170、2がSB9178、8がSB9217から出土した森田D群の白磁皿と八角杯で、15世紀前半に位置付けられる。3~5は、SB9184の柱穴になる可能性が高い造構から出土したもので、3が土師質土器C類小皿、4が古瀬戸後II期ころの鉢皿、5が珠洲V期の壺で、14C末~15C前半に収まる。7は珠洲IV3期ころの擂鉢で14C後半、6は上田DII類の青磁で15世紀前半である。233~237は、柱根地で、すべて心持材である。233は、樹種同定で、ネムノキと判定された。

B 井戸出土遺物 (図版102・103・104・109・110・113~115・165~166・169~173)

SE4695 (図版102・165-10~16)

11・12・14・15は土師質土器皿B1類で、10・13はB2類である。B1・B2類とともに、口縁部のヨコナデは、2段ナデで丁寧である。SE4695の土師質土器皿類は、B1類主体であり、古相に位置付けられる。

SE5452 (図版102・165-27・28)

27は、C2c類とした土師質土器皿である。全体にタールとススがこびりついており、燈明皿として使用されている。28は、珠洲焼擂鉢の底部片で、使用痕が著しい。珠洲V期ころの所産であろう。

SE6039 (図版103・165-32・33)

32は土師質土器B2類、33はB3類の小皿である。B1類が伴わず、SE4695出土遺物よりも後出する。

SE6515 (図版103・115・165・173-37~40・284)

37はC4b類と思われる土師質土器皿底部片、38はC3b類の小皿で、口縁端部がわずかに内折する。40

は、珠洲VI～VII期と思われる擂鉢片で、使用痕が顕著である。284は、自在鉤と推定した鉄製品である。

SE6577 (図版103・166・41～43)

41はC1a類とした土師質土器小皿で、42・43は上田DI類と思われる青磁碗である。すべて同一層から出土しており、遺存状況も良好なため、一括発見されたと考えている。

SE7828 (図版103・113・166・172・49・50・256)

49は、土師質土器で鉢としたが類例を見ない。50は、森田D群の白磁皿である。250は、板状木製品で、工具で弧状に切り込み状の段差を付けている。256は、漆器椀で植物の葉のような図柄を描いている。

SE7993 (図版103・110・113・114・166・170・172・51～61・217・257)

51～55は、土師質土器皿類である。51はC2c類で、燈明皿として使われている。52はC1b類、53はC2c類とした。55は、A類の小皿である。56は上田BII類、57は同DII類と思われる青磁碗である。58と60は、古瀬戸後III期ころの綠釉小皿と鉢皿、59は、古瀬戸後IV期の深皿の口縁部小片である。61は、珠洲V期の擂鉢で、使用痕が顕著である。257は、黒色漆の漆器皿で、底部に銳利な刃物で「十」と刻んでいる。217は、アメリカ式石巖でやや長身であり、弥生時代中期～後期前半に位置付けられる。

C 土坑出土遺物 (図版104・105・110・112・115・116・166・167・170・171・173)

SK4673 (図版104・166・67～70)

67は土師質土器B1類の小皿、68は朝鮮雜釉の皿である。69は、古瀬戸後IV期ころの香炉である。70は、珠洲VI期の擂鉢で、口縁部内面を砥石に転用したため、波状文が擦り消されている。

SK7451 (図版105・167・87～92)

87は、土師質土器C1a類の小皿で、88・89も同類と考えている。90は、青磁盤で、内面を蓮弁文で飾る。91は、古瀬戸後II・III期ころの平椀底部である。92は、珠洲V期の擂鉢片で、軟質である。

SK8375 (図版105・167・93～95)

93は土師質土器C4b類の皿で、94は上田DII類の青磁碗である。95は、珠洲V期の壺口縁部片である。

SK8000 (図版116・173・334～362)

334～362は、ガラス製数珠玉で、334～345が緑色、346～350がスカイブルー、351～356が黄褐色、357～362が乳白色である(図版116)。すべての数珠玉に螺旋状の痕跡があり、製作過程を示すものであろう。

SK8809 (図版115・116・173・295～298・309～333)

295～298は、六道鏡と思われる鏡貨で、295・296が永楽通宝(初鑄1408年)、297が祥符元寶(初鑄1009年)、298が元豐通寶(初鑄1078年)である。309～333は、木製数珠玉で、茶毘に付されたためか、すべて炭化している。木材は、サクランボの樹種を利用し、ロクロ削り出しによって製作されている。

D 溝出土遺物 (図版105～107・109・110・113～116・167～170・172・173)

SD4641 (図版105・110・114・115・167・170・173～97～101・226・271・281)

97・98は土師質土器B類の皿で、97はB3類、98がB2類である。両者とも、タールは付着していない。226は、五輪塔の水輪で、四方に梵字が刻まれている。271は柄杓の底板、281は刀子である。

SD4796 (図版105・167・104～111)

104・105は、土師質土器A1c類の皿である。106は古瀬戸後II期ころと思われる天目茶碗、107は唐津焼壺、108～110は珠洲IV～VI期の壺・擂鉢・壺である。

SD5000a (図版105・106・109・113～115・167～170・172・173～113～139・203・214・244～246・274・287・290)

113～118は、土師質土器B類の皿である。114・116がB1類で、ほかはB2類である。119はC4a類、120はC4b類である。121はC2a類、122がC5類、123がA類である。124と125は瓦器鉢、126は土師質土器の鉢である。125の肩部には、蓮草文がみられる。127・128は、上田DII類またはE類の青磁碗で、129・130は、森田D群の白磁八角舟と皿、130は、見込みを蛇の目状に釉剥ぎする白磁腰折皿である。132～137は瀬戸・美濃焼で、132・133が綠釉小皿、134・135が古瀬戸後Ⅲ期ころの御皿と大皿、137は古瀬戸後II～III期の瓶子の脚部である。138は珠洲V期、139が珠洲VI期の描鉢である。121・137・138などは、本来SD5000bに伴うものと思われる。214は、硯未成品と考えたもので、凝灰岩を利用している。

SD5000b (図版106・109・110・116・168～170・173～140～147・204・224・363)

140は、土師質土器C2c類の小皿で、證明皿として使用されている。141・142は上田DII類またはE類、144が上田BI類、145が上田BII類の青磁碗である。143は、青磁腰折皿で、見込みを釉剥ぎしている。146・147は白磁で、146が森田D群の皿、147は蓋と判断した。224は、五輪塔の空輪で、梵字が刻まれている。263は、馬の下顎部分と判断した獸骨で、遺存状況は良くない。

SD7596 (図版107・115・168・173～151～159・285)

151・152は、土師質土器で、151がB2類の皿、152はC1a類の小皿である。153・154は青磁碗で、153が上田DII類またはE類、154が上田DII類である。155～157は瀬戸・美濃焼である。156は、草花文が描かれている優品の香炉で、古瀬戸後II期ころと思われる。157は、古瀬戸後IV期新と判断した折線大皿である。158・159は、珠洲焼壺で、いずれも珠洲IV期であろう。285は、鉄鍋脚部付近の破片と判断した。

E 階段状施設出土遺物 (図版 107・110・111・113～115・168・170～173)

SS5441 (図版107・110・111・113～115・168・170～173～162～164・227～232・247～249・270・275・278)

162・163は青磁碗で、162は蓮弁文、163は弦文帯がみられる。164は、珠洲IV2期の壺と判断した。227～232は、階段状施設のステップに使用されていた墓石で、227～229が五輪塔、230～232が宝篋印塔である。228・229は、四方に梵字が刻まれている247～249は、崩落防止のために打ち込まれていた杭である。樹種は、247・248がクリ、249がスルデである。270は、曲物底板で、側板と底板とをつなぐ樹皮が残っている。樹種は、スギである。278は、包丁とした鉄製品で、遺存状況が悪く、刃部が明瞭ではない。

F ピット出土遺物 (図版 108・110・169・170)

図版108～174は、柱を抜き取った後に廃棄されたと考えられる上田BIV類の青磁碗である。図版110～216は、凝灰岩製の小形の像で、底に棒などを刺すための穴をあけている。

G 包含層出土遺物 (図版 108・110・169・170)

包含層から出土した遺物は、道構出土遺物と種別・時期に大きな違いはみられない。図版108～188・189は上田BIV類の縦蓮弁文青磁碗で、図版108～196は上田E類と推定できる青磁碗である。いずれも15世紀後半に位置付けられる。図版108～197は、青磁酒海壺の可能性がある小片で、ケズリ出しによる突帯状の段差が体部に付く。図版110～218は、緑色凝灰岩製の管玉未成品で、角柱体に研削した後、途中まで穿孔して廃棄している。石材は佐渡産と思われる。両面穿孔でやや太形であることから、弥生時代中期ころまで遡る可能性がある。

第VI章 自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

1 はじめに

丘江遺跡（新潟県柏崎市田坂3丁目丘江地内）は、現在の鯖石川の左岸、鯖石川が形成した扇状地の扇端付近に立地する。本遺跡は、平成26年度に1～3区の発掘調査が実施され、中世～近世（上層）および弥生時代・古墳時代（下層）の文化層が確認されている。とくに、上層の発掘調査の結果、中世（13～15世紀）および近世（17世紀）の集落であることが明らかとされており、同時期の集落が北側に隣接する山崎遺跡においても確認されていることから、その関連性も注目されている。また、平成27年度の4～8区の発掘調査では、鎌倉時代～室町時代（13～15世紀）と推定される掘立柱建物や井戸、土坑、区画溝および水田などが検出されており、調査区内の微地形や検出された旧河道を目安とした、居住域および耕作域という集落景観も推定されている。

本分析では、2015年度の発掘調査成果より課題とされた、古環境（古植生）復元、出土木製品の樹種および木材利用、井戸を主体とする遺構埋植物の水洗選別により回収された（炭化）種実の同定および種類組成という、3題の分析目的の検討を目的として、花粉分析、樹種同定および種実同定を実施した。

2 花 粉 分 析

A 試 料

試料は、井戸、土坑および溝などの埋植物（覆土）より採取された土壌4点（4区 SE6001:1層、5区 SE5827:1層、6区 SK8809:1層、7区 SD4641:6層）である。これらの試料の観察では、4区 SE6001（1層）が明褐色泥の偽縛（ブロッケ）が混じる暗灰色泥、5区 SE5827（1層）が灰色泥の偽縛が僅かに混じる暗灰色泥、6区 SK8809（1層）が炭化材を多量含む黒色～黒灰色泥、7区 SD4641（6層）が灰～灰褐色泥からなる。

B 分 析 方 法

試料10ccを正確に秤り取り、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による無機物質の除去、アセトトリル（無水酢酸9、濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。処理後の残渣を定容してから一部をとり、グリセリンで封入してプレパラートを作製し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査して、出現する全ての種類を対象に200個以上同定・計数する（化石の少ない試料ではこの限りではない）。同定は、当社保有の現生標本や【鳥倉1973; 中村1980a; 藤本・小澤2007; 三好ほか2011】等を参考にする。

また、花粉プレパラート中に含まれる微粒炭（微細な炭化植物片）の含量が、自然植生に対する人類干渉の指標として有効であるとされていることから（例えば、「安田1987」など）、試料中に含まれる微粒炭の含量も検討した。微粒炭は花粉プレパラート内に残存するものを対象とし、同定基準は【山野井1996; 井上19

等を参考にする。計数は、[山野井1996]などを参考にし、長径が約20 μm以上の微粒炭を対象とし、それ以下のものは除外する。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の層位分布図として表示する。図表中で複数の種類を+（ハイフン）で結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉、および草本花粉・シダ類孢子のいずれも、総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。なお、花粉总数が100個未満の試料は、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるため、出現した種類を+（プラス）で表示する。微粒炭量は、[山野井1996]などを参考とし、分析土壤量(cc)、分析残渣量(ml)、プレラバート作成量(μl)を測定し、堆積物1ccあたりに含まれる個数を一覧表に併せて示す。この際、有効数字を考慮し、100単位として表示する。

C 結 果

結果を第2表、第14図に示す。花粉化石は、いずれの試料からも豊富に産出したが、保存状態は試料によって異なる。以下に、試料毎に産状を述べる。

4区 SE6001 (1層) 花粉化石の保存状態はやや悪い。花粉化石群集組成は、草本花粉の割合が極めて高率であり、木本花粉はかろうじて定量解析ができる程度の産出である。木本花粉ではブナ属やエノキ属・ムクノキ属、ウルシ属などが産出し、マツ属、スギ属、サワグルミ属、カバノキ属、ハンノキ属、コナラ属、ニレ属・ケヤキ属、ウコギ科等を作り。草本花粉ではイネ科が優占し、カヤツリグサ科、クワ科、サナエタデ節・ウナギツカミ節、アカザ科、ナデシコ科、セリ科、ヨモギ属、タンボボア科等を作り。また、水湿地生植物のサジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ属なども産出する。なお、優占するイネ科には栽培種のイネ属の形態に類する個体（以下、イネ属型）も含まれ、イネ科全体に占めるイネ属型の割合は21.7%を示す。この他、栽培種を含むカキノキ属や栽培種のソバ属、寄生虫卵の鞭虫卵なども検出される。

また、分析残渣中に含まれる炭化した微細な植物片（いわゆる微粒炭）の含量は21,500個/ccである。確認された微粒炭は、ほとんどが母材の推定が難しい不明型であったが、イネ科葉部に由来するとされる波状構造を持つタイプや、分野壁孔などの木材組織を有するタイプなどが確認された。

5区 SE5827 (1層) 花粉化石の保存状態はやや悪い。花粉化石群集組成は、4区 SE6001 (1層) と同様に草本花粉の割合が高率であり、本試料においては木本花粉の産出が少なく定量解析に耐えうる個体数は得られなかった。木本花粉は、マツ属、スギ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属、ニレ属・ケヤキ属、ウコギ科などが1～数個程度産出したのみである。草本花粉ではイネ科が優占し、カヤツリグサ科、クワ科、アカザ科、ナデシコ科、アリノトウグサ属、ヨモギ属、タンボボア科等を作り。なお、優占するイネ科にはイネ属型が含まれ、イネ属型の割合は16.7%を示す。この他、寄生虫卵の回虫卵も検出される。

なお、本試料の分析残渣中の微粒炭量は51,900個/ccであり、イネ科葉部に由来するとされる波状構造を持つタイプや葉部の気孔を有するタイプなどが比較的多く確認された。

6区 SK8809 (1層) 花粉化石の保存状態は普通～やや悪い程度である。本試料も草本花粉の割合が高いものの、前出の2試料と比べると木本花粉の割合はやや高い。木本花粉では、マツ属が最も多く産出し、ツガ属やスギ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属、ニレ属・ケヤキ属、ウコギ科等を作り。草本花粉ではイネ科が多産し、カヤツリグサ科、サナエタデ節・ウナギツカミ節、アカザ科、ナデシコ科、ヨモギ属等を作り。また、水湿地生植物のサジオモダカ属やゴキヅル属なども産出する。なお、多産したイネ科にはイネ属型が含まれ、イネ属型の割合は12.5%を示す。さらに、栽培種のソバ属やゴマ属も検出される。

なお、本試料の分析残渣中の微粒炭量は68,700個/ccであり、今回の4試料では最も含量が高い。微粒炭には、イネ科葉部に由来するとされる波状構造を持つタイプや、葉部の気孔を有するタイプなどが確認された。

7区 SD4641 (6層) 4試料の中では花粉化石の保存状態が良好であり、やや良い～普通程度である。

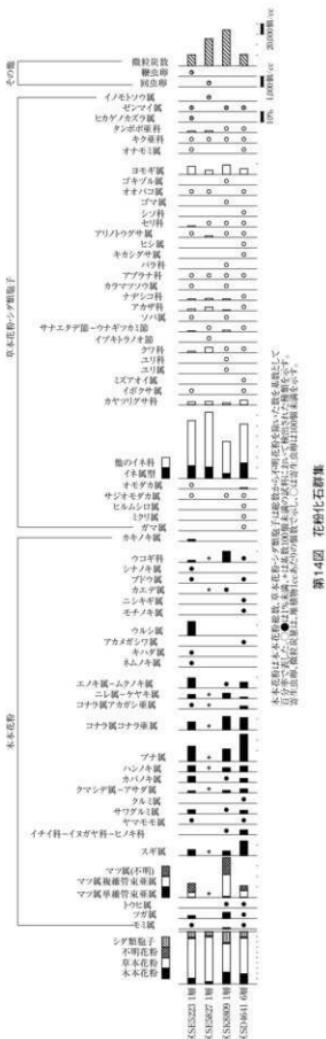
群集組成は、草本花粉の割合が高く、木本花粉も6区 SK8809 (1層) と同様にある程度の割合を占める。木本花粉ではブナ属が最も多く産出し、マツ属やスギ属、イチイ科一イヌガヤ科ヒノキ科、サワグルミ属、クマシダ属アサガ属、カバノキ属、ハンノキ属、コナラ属、エノキ属ムクノキ属等を作り。草本花粉ではイネ科が多産し、カヤツリグサ科、ヨモギ属等を作り。また、ガマ属ミクリ属、ヒルムシロ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ属、ミズアオイ属、ヒシ属等の水湿地生植物が検出され、他の試料と比較して種類数が多いという特徴を示す。なお、多産したイネ科にはイネ属群が含まれ、イネ属群の割合は28.1%を示す。

なお、本試料の分析残渣中の微粒炭量は21,900個/ccであり、イネ科葉部に由来するとされる波状構造を持つタイプが確認された。

D 考 察

1) 古 植 生

井戸、土坑および溝の埋植物における花粉化石群集は、いずれの試料も草本花粉が高率であり、とくにイネ科の多産によって特徴付けられた。この他の草本類では、カヤツリグサ科、クワ科、サナエタデ節ウナギフカミ節、アカザ科、ナデシコ科、アリノトウグサ属、セリ科、ヨモギ属、タンボボシ科なども認められた。これらは開けた明るい場所に生育する、いわゆる人里植物を多く含む分類群であり、その他に産出したイブキトロオ節やカラマツソウ属、アブラナ科、オオバコ属、オナモ属、キクア科なども同様の生育環境を示す。このような産状から、これらの遺構が検出された周辺域は明るく開け



第14回 花粉化石群集

た空間が広がっており、周囲には上記した草本類からなる草地が分布したと考えられる。

また、水湿地生草本の産状についてみると、井戸や土坑ではサジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ属、ゴキブリ属などが産出した一方、溝では、上記した分類群のはか、ガマ属やミクリ属、ヒムシロ属、ミズアオイ属、ヒシ属なども産出しており、検出される分類群が多いという特徴を示した。これらの産状から、調査地周辺にはこれらの草本類が生育するような水湿地の分布が推定され、とくに溝における産状は溝埋積過程における造構内や造構周辺および集水域などに生育した水湿地生草本を示していると考えられる。

次に、木本類についてみると、試料によつて保存状態が異なる状況が認められたが、群集組成は概ね類似し、針葉樹のマツ属やスギ属、広葉樹のハンノキ属、ブナ属、コナラ亜属などが比較的多く産出した。このうち、ブナ属やコナラ亜属などは、本地域の冷温帶性落葉広葉樹林の主要構成種であることから、後背の山地や丘陵に分布した森林に由来すると考えられ、これらの森林にはモミ属、ツガ属、トウヒ属、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科などの針葉樹も生育していたと推定される。

また、スギ属は谷筋や扇状地崩端の湧水点周辺などに生育したと思われる。この他、サワグルミ属、クマシデ属-アサガ属、エノキ属-ムクノキ属、ニレ属-ケヤキ属、シナノキ属等は渓岸林・河畔林を構成し、ハンノキ属には湿地林構成種が含まれる。おそらく、コギ科などは林縁要素として、ブドウ属も林縁においてマント群落を構成することから上記した林分の林縁などに認められたと推定される。

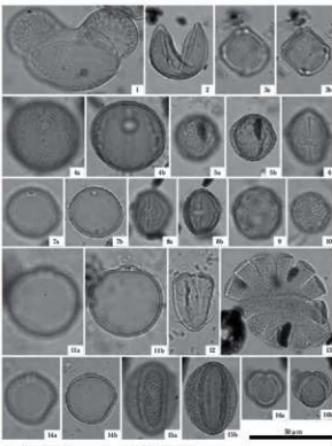
種類	4区		5区		6区		7区	
	SE3223	SE5827	SK8909	SD4641	1期	1期	1期	6期
木本類								
モミ属	1	-	3	1				
ツガ属	3	-	13	2				
トウヒ属	-	-	1	1				
マツ属 单球果束葉属	-	-	2	-				
マツ属 横枝葉束葉属	5	2	46	14				
マツ属 (不明)	9	65	35	10				
スギ属	6	3	10	30				
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	-	-	1	10				
ヤマモモ属	1	-	-	2				
サザンカ属	4	-	2	7				
ミズアオイ属	-	-	-	1				
ラングビア属-アサガ属	2	1	5	8				
カバノキ属	6	-	1	8				
ハンノキ属	6	1	9	12				
ブナ属	15	2	26	55				
コナラ属コナラ亜属	8	4	28	25				
コナラ属クマシデ亜属	1	1	-	6				
二ノ屋属-ヤクモキ属	4	1	11	3				
エノキ属-ムクノキ属	10	-	1	12				
スルノキ属	1	-	-	-				
カシ属	1	-	-	-				
アカメガシワ属	-	-	-	1				
カルダミル属	14	-	-	-				
セイヨウノキ属	-	-	-	-				
ニニキギ属	-	-	-	-				
カエデ属	-	-	1	-				
ブドウ属	1	-	-	-				
シナノキ属	1	-	-	-				
アラカシ属	2	6	23	1				
カシノキ属	2	-	-	-				
草本類								
ガマ属	-	-	-	3				
ミクニ属	-	-	-	3				
ヒムシロ属	-	-	-	9				
モミジカズラ属	1	-	7	4				
オダマキ属	1	-	-	13				
イチイ科	115	69	42	158				
カツラギ科	416	343	295	404				
他のイチイ科	30	23	21	52				
カツラギ科ササ科	1	-	-	1				
アザマササ属	-	-	-	8				
ユリ属	-	-	4	2				
ツリソウ属	-	-	-	-				
クワ科	14	34	2	6				
イブキトラノオ属	-	1	-	-				
ササエキテヅル-ウナギツクサ属	10	3	14	4				
ノリヌリ属	2	-	4	-				
アサガ科	17	23	10	10				
ナガシコ科	14	12	14	3				
カラマツワカツ属	8	-	1	-				
アラナツ科	3	3	1	2				
ハバネ科	-	-	1	-				
キヌタガヤ属	-	-	-	1				
ヒシ属	-	-	-	1				
アリトゾウダサ属	7	10	2	1				
シリカ科	11	6	3	8				
シソ科	-	-	-	2				
ツツジ属	-	-	1	-				
オオシマツクサ属	2	1	-	2				
ゴヤヅル属	-	-	9	8				
ヨモギ属	76	27	88	61				
オナモ属	3	1	7	2				
ツツジ科ササ科	16	12	3	1				
不完全花粉								
木本花粉	21	11	15	15				
シダ花粉								
ヒゲノマツヅリ属	1	-	-	-				
ゼンマイ属	2	-	4	2				
イモトコウ属	-	-	1	-				
他のシダ類	106	54	232	116				
合計								
木本花粉	103	28	218	212				
草本花粉	748	568	531	751				
不完全花粉	21	11	15	15				
シダ類	109	55	206	118				
合計(不完全花粉を除く)	960	651	935	981				
その他								
回虫卵	-	1	-	-				
鞭虫卵	1	-	-	-				
微粒花粉数(個/cc)	21500	51900	68700	21900				
當生花粉数(個/cc)	<100	<100	0	0				
(<100)/100個/木漬	-	-	-	-				

第2表 花粉分析結果

なお、各試料の木本花粉群集の比較では、とくにSK8809（1層）において、マツ属複雑管東亜属の多産が認められた。マツ属複雑管東亜属（いわゆるニヨウマツ類）は生育の適応範囲が広く、崩落地や伐採地などに先駆的に侵入する二次林要素であるほか、有用材などとして植林される種類である。マツ属複雑管東亜属の消長については、隣接する山崎遺跡のSD200やSX1000の埋積物における花粉群集組成において中世～近世段階で出現率が高くなるという傾向が確認されており、周辺域においてマツの二次林が増加したことが推定されている（未公表資料）。この点を踏まえると、SK8809（1層）に認められた痕状も当該期における植生の変化を反映している可能性がある。

2) 植 物 利 用

前述したように、今回の各遺構における花粉化石群集では、いずれの試料も草本花粉が高率となり、とくにイネ科が多産するという特徴が認められ、これらの多産するイネ科には栽培種のイネ属に形態の類するイネ属型花粉も認められた。【中村1980b】によれば、イネの花粉は生産される花粉の1/4がもみ殻内に残すことや、イネ科花粉のうち、イネ属の割合が30%以上を示すと、現在のような集約的播作が近傍で行われていたとみなせるとされている。今回の試料におけるイネ属の割合は13～28%であり、比較的の高率となる試料が含まれる。ただし、分析に供された試料は井戸や土坑、溝の埋積物であることや、後述する種実同定結果などを参考すると、埋積物中に含まれるイネの頬などに由来する可能性が考えられる。また、調査所見によれば、本遺跡や隣接する山崎遺跡では水田も検出されていることから、これらの播作に伴う花粉も含まれる可能性もある。今後、イネ属型花粉の由来を明らかにするため、各試料に含まれる炭化穀粒などの微細植物片の産状や植物酸素体分析などによる検討も必要と考える。この他の栽培種および栽培種を含む分類群では、4区SE6001（1層）よりソバ属、6区SK8809（1層）よりソバ属やゴマ属が検出された。本遺跡では遺構埋積物の水洗選別により回収された種実遺体にも、ソバの果実やゴマの種子が確認されている（未公表資料）。これらの結果を踏まえると、当該期におけるソバやゴマの栽培や利用が示唆される。また、4区SE6001（1層）からは栽培種を含むカキノキ属も確認された。日本に分布するカキノキ属には、中国より渡米したとされる栽培種のカキノキやマメガキと、野生種4種（関東以西に分布するリュウキュウマメガキ、伊豆半島以西に分布するトキワガキ、奄美大島以南に分布するリュウキュウガキ、沖縄に分布するリュウキュウコクタン）がある。本試料より産出したカキノキ属は、上記した分布状況などを参考すると、カキノキ、マメガキのいずれかである可能性が高い。なお、本遺跡や山崎遺跡の中世～近世の試料を対象とした分析調査では、山崎遺跡のSD200よりカキノキ属の花粉化石（未



第15図 花粉化石

（公表資料）が、本遺跡の6区 SE8199（5層）からはカキノキ属の種子が、それぞれ確認されている。これらの花粉や種子の産出から、カキノキ属の栽培や利用も推定される。

また、各試料の分析残渣中における微粒炭量についてみると、5区 SE5827（1層）が51,900個/cc、6区 SK8809（1層）が68,700個/cc、4区 SE6001（1層）が21,500個/cc、7区 SD641（6層）が21,900個/ccであり、炭化材が多く混じる状況が確認された6区 SK8809で含量が高いという特徴が見える。なお、微粒炭は、いずれも由来不明のものを主体とするが、イネ科由来とされる波状構造を持つものや気孔が認められるもの、木材組織を持つものなどが含まれ、とくに5区 SE5827（1層）で波状構造を持つ微粒炭が多く認められた。さらに、植物化石以外では、4区 SE6001（1層）と5区 SE5827（1層）から寄生虫卵（回虫卵、鞭虫卵）が検出された。寄生虫卵は普通の土壤中にも含まれるが、トイレ造営などの堆積物で多産する事例も確認されている（例えば、[金原ほか1992：1993：1995]など）。なお、2試料から検出された寄生虫卵の含量は、いずれも1ccあたり100個未満であったことから、ある程度の人口密度を持つ集落などの汚染の範囲内と指摘できる。

3 樹種同定

A 試 料

試料は、柱根、杭、漆器、曲物などの木製品38点と、実体顕微鏡観察により炭化した木材であることが確認されたSK8809の数珠1点である。このうち、SE5103とSE6790の曲物2点は、側板と底板の部材から構成されており、P5123の杭には木取りの異なる木材2点が確認されている。

B 分析方法

資料の木取りを観察した後、剃刀を用いて木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接縫断面）の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。数珠は、小破片を採取し、破片から木口・柾目・板目の断面を作製する。走査型電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。各試料で観察された特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、[島地・伊東1982；Wheeler他1998；Richter他2006]を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、[林1991；伊東1995-1999]を参考にする。

C 結 果

同定結果を第3表に示す。木製品は、針葉樹4分類群（マツ属複雑管束亜属、スギ、サワラ、アスナロ）と広葉樹8分類群（ブナ属、クリ、スタジイ、ケヤキ、サクランボ属、ネムノキ、スルデ、トネリコ属）に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す（第16～19図）。

・マツ属複雑管束亜属 (*Pinus subgen. Diploxylon*) マツ科

輪方向組織は仮道管と垂直树脂道で構成される。仮道管の早材部から晚材部への移行は急～やや緩やかで、晚材部の幅は広い。垂直树脂道は晚材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平树脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には隔壁状の突起が認められる。放射組織は單列、1-15細胞高。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は単列、1-15細胞高。

・サワラ (*Chamaecyparis pisifera* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～スギ型で、1分野に1-3個。放射組織は単列、1-15細胞高。

・アスナロ (*Thujopsis dolabrata* Sieb. et Zucc.) ヒノキ科アスナロ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、内壁には茶褐色の樹脂が頭著に認められる。分野壁孔はヒノキ型で、1分野に1-4個。放射組織は単列、1-15細胞高。

・ブナ属 (*Fagus*) ブナ科

散孔材で、管孔は単独または放射方向に2-3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は單穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織はほぼ同性、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圈部は3-4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

・スタジイ (*Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii* (Makino) Nakai) ブナ科シイ属

環孔性放射孔材で、道管は接線方向に1-2個幅で放射方向に配列する。孔圈部は3-4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圈部は1-2列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・サクラ属 (*Prunus*) パラ科

散孔材で、管壁厚は中庸、横断面では角張った楕円形、單独または2-6個が複合、年輪界に向かって管径を漸減させながら散在する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-30細胞高。

・ネムノキ (*Albizia julibrissin* Durazz.) マメ科ネムノキ属

環孔材で孔圈部は3-5列、孔圈外で径を減じた後、年輪界に向かって単独または2個が複合して径を漸減させながら配列し、年輪界付近ではほとんど目立たない。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1-3細胞幅、1-30細胞高。柔組織は周囲状で晩材部ではやや翼状となる。

・ヌルデ (*Rhus javanica* L.) ウルシ科ウルシ属

環孔材で孔圈部は4-5列、孔圈外への移行は緩やかで、晩材部では2-5個が塊状に複合して配列し、年

3 樹種同定

輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-4細胞幅、1-30細胞高。

・トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔圈部は1-3列、孔圈外で急激に径を減じたのち、厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射・組織は同性、1-3細胞幅、1-30細胞高。

地区	遺構名	ダリット	層位	取上No.	器種	部位	木取り	樹齢 (分相当)	備考
4区	SE5103 43E9	5層	-	面物	板目	スギ			
6区	SE6790 51E16	1層	-	面物	板目	スギ	標75/No.269		
					横板	板目	スギ	標75/No.266	
7区	SE5441 59G	4層	44	面物	板目	アヌラ	標75/No.296, 他の物		
7区	SD4646 58G20	-	-	面物	板目	スギ	標75/No.270		
7区	SE4982 57G18	-	-	面物	板目	スギ	標75/No.260		
5区	SE5069 47F12	3層	-	面物	板目	スギ	標75/No.251		
6区	SE7828 49F13	2層	-	面物	板目	スギ	標75/No.252		
6区	SE8105 50H3・4	-	-	面物	板目	スギ	標75/No.256		
6区	SE8105 50H3・4	8層	-	板木製品	板目	スギ	標75/No.258		
7区	SS5441 59G	5層	-	板木製品	板目	スギ	標75/No.271		
5区	SE5753 47H12	2層	-	板木	板目	タリ	標75/No.245		
6区	SE7828 49F13	3層	-	板木製品	板目	スギ	標75/No.250		
6区	SE8105 50H3・4	6層	-	板木製品	板目	スギ	標75/No.273		
7区	P4648 56G21	1層	-	板木	心持丸木	スギ	標75/No.233		
7区	P4748 57H17	-	-	板木	心持丸木	スギ	標75/No.233		
4区	P5420 43B15	1層	-	板木	心持丸木	クリ			
5区	P5702 46H14・19	2層	-	板木	心持丸木	クリ	標75/No.240		
5区	P6346 46J9	-	-	板木	心持丸木	クリ	標75/No.241		
5区	P6447 48H14・15-19・20	-	-	板木	心持丸木	クリ	標75/No.241		
6区	P6670 51H21	2層	-	板木	心持丸木	クリ			
5区	P6674 49J5	1層	-	板木	心持丸木	クリ			
5区	P6674 47J2	2層	-	板木	心持丸木	クリ			
5区	P7049 46H10	2層	-	板木	心持丸木	クリ	標75/No.243		
5区	P7210 48H06・11	2層	-	板木	心持丸木	タケキ	標75/No.242		
6区	SD50006 48E15	-	10	杭	心持丸木	クリ	標75/No.245		
6区	SD50006 51G	-	-	杭	心持丸木	クリ			
6区	SD50006 48E15	-	11	杭	心持丸木	クリ	標75/No.246		
7区	SS5441 59G	-	25	杭	心持丸木	メルデ	標75/No.249		
7区	SS5441 59G	-	49	杭	心持丸木	クリ	標75/No.247		
7区	SS5441 59G	-	54	杭	心持丸木	クリ	標75/No.248		
5区	P5123 46G5・10	1層	-	杭	1. 1カノ洞 2. 心持丸木	マツ属複数管束重属 トモリコ属	標75/No.239		
6区	P6981 -	1層	-	杭	1. 1カノ洞 2. 心持丸木	マツ属複数管束重属 トモリコ属			
6区	P9897 -	1層	-	杭	1. 1カノ洞 2. 心持丸木	マツ属複数管束重属 トモリコ属			
6区	SE9046 -	2層	-	杭	心持丸木	マツ属複数管束重属 トモリコ属			
7区	SE4701 57G21・22	-	-	底板	曲物か 1. 1カノ洞 2. 心持丸木	ウラワ	標75/No.267		
4区	SE5678 44E5	-	-	著	板目	スギ	標75/No.262		
5区	SE5807 46P25, 47F-21	3層	-	著	板目	スギ	標75/No.277		
6区	SE7993 -	11層	-	著	分割状	アヌラ	標75/No.265		
6区	SK8809 32J10・15, 53E・11	1層	-	鉢床	削出	サクラ属	標75/No.333, 良化		

第3表 樹種同定結果

種類\器種	容器		貢		祭祀		建築		施設		土木		他		合計
	漆器	油物	著	漆串	貢珠	柱根	板状	板	板状	板	不明				
計葉樹												4	4		4
マツ属複数管束重属															
スギ			4		1			3		1		9			9
サワラ			1									1			1
アヌラ			1	1								3			3
広葉樹															
ブナ属			5									5			5
クリ												14			14
スダジイ												1			1
ケヤキ												1			1
サクラ属												1			1
メルデ												1			1
トネリコ属												1			1
合計	5	6	1	1	1	11	5	11	1	1		42			

第4表 器種別種類構成

D 考 察

今回の樹種同定の対象とされた木製品は、[伊東・山田2012]の木器分類を参考にすると、容器（漆器、曲物）、食事具（箸）、祭祀具（卓箪、数珠）、建築部材（柱根）、施設材・器具材（板状木製品）、土木材（杭）、その他（不明）に分類される。

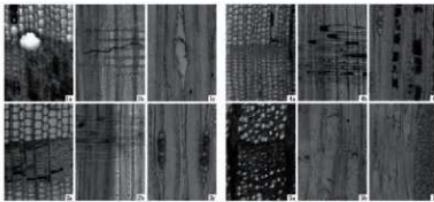
これらの木製品には、針葉樹のマツ属複雑管束亜属、スギ、サワラ、アスナロと、広葉樹のブナ属、クリ、スダジイ、ケヤキ、サクランボ属、ネムノキ、ヌルデ、トネリコ属の、計12種類（分類群）が確認された。

このうち、針葉樹のマツ属複雑

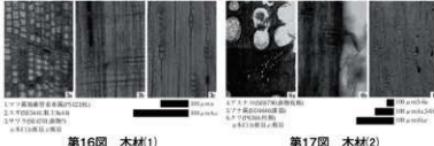
管束亜属は、二次林や海岸砂丘等に生育する常緑高木であり、本州にアカマツとクロマツの2種が分布する。スギは扇状地層端部や谷沿い等に生育する常緑高木、サワラとアスナロは山地等に生育する常緑高木である。

広葉樹のブナ属は、山地等に生育する落葉高木であり、日本海側では冷温帶性落葉広葉樹林の主要な構成種となるブナが広く分布する。クリは二次林等に生育する落葉高木であり、スイダジイは暖温帶性常緑広葉樹林の主要な構成種となる常緑高木である。ケヤキは、河畔や浜辺等に生育する落葉高木であり、サクランボ属は河畔や山地に広く分布する落葉低木～高木である。ネムノキとヌルデは河畔や林縁等に生育し、ネムノキは落葉高木、ヌルデは落葉小高木となる。トネリコ属は、河畔等に生育する落葉高木である。

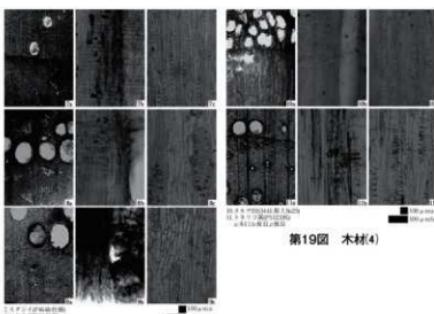
また、各種類の木材の材質についてみると、針葉樹のマツ属複雑管束亜属は、針葉樹としては重硬な部類に入り、強度と保存性が高い。スギ、サワラ、アスナロは、やや軽軟～軽軟な部類に入り、いずれも木理が直角で割裂性が高く、とくにサワラとアスナロは耐水性も高い。広葉樹のブナ属は、重硬な部類に入り、強度は高いが保存性は低い。クリとケヤキは重硬で強度と耐朽性が高く、スダジイはやや



第16図 木材(1)



第17図 木材(2)



第18図 木材(3)

第19図 木材(4)

重硬な部類に入り、強度は比較的高い。サクラ属は重硬・緻密で強度が高く、トネリコ属も重硬で強度・靭性が高い。一方、ネムノキとスルデは、軽軟な部類に入り、強度が低いものの、スルデは耐朽性が高いとされる。

器種別(第4表)にみると、容器の漆器は、いずれも椀である。木取りは全て横木地柾目取で、内外面赤色(皆朱漆器)の資料(SE4646)、内面が赤色、外側が黒色で赤色の模様がある資料(SE4982、SE5069、SE8105)、内外面ともに黒色で赤色の模様がある資料(SE7828)がある。漆器(椀)は全てブナ属であり、塗りによる樹種の違いは見られなかった。皆朱漆器については、七尾城跡(石川県七尾市)から出土した資料で、塗下地で塗りの回数が3~4回で口縁部に布着せも施される丁寧な作りの資料と、渋下地で塗りの回数が2回で布着せも認められない簡単な作りの資料とが確認されており、前者がケヤキ、後者がカエデ属に同定されている[高橋・久田2014]。この調査結果をみる限りでは、カエデ属はブナ属と同様の利用状況が推定されることから、今回の資料についても塗りが簡素な漆器である可能性が考えられる。なお、皆朱漆器は、隣接する山崎遺跡Ⅲでも確認されており、同様にブナ属に同定されている(未公表資料)。

曲物は、底板と側板から構成される資料が2点(SE5103、SE6790)、底板のみの資料が1点(SE5441No.44)、さらに曲物等の底板と考えられる資料が1点(SE4701)ある。底板と側板が残る資料についてみると、SE5103の資料は側板・底板共に板目板でスギが利用される一方、SE6790の資料は、側板がスギの柾目板、底板がアスナロの板目板で、底板には黒色の塗布物が認められる。黒色の塗布物は、光沢が無い特徴などから柿渋の可能性があり、耐水性や保水性を高めるために塗布されたと考えられる。底板のみの資料では、SE5441No.44はスギが利用され、SE5103と木取りは異なるが同様の材が利用される。また、底板の可能性があるSE4701の資料はサワラの柾目板であった。以上のように、資料によって樹種や木取りに差異が認められるものの、分割加工が容易な針葉樹材が利用される点は共通する傾向と言える。なお、サワラやアスナロは本地域には分布していないことから、流通等によって製品あるいは木材として持ち込まれた可能性がある。

食事具は、箸1点である。分割棒状を呈しており、アスナロが確認された。上記した曲物と同様に分割加工が容易な木材が利用されたと推定される。

祭祀具は、斎巾と数珠がある。斎巾は、板目板状を呈し、スギに同定されたことから、分割加工が容易な木材の利用が考えられる。数珠は、径8~9mm、厚さ約3mmの円形板状を呈し、中央に穿孔がある。広い面が柾目となる削出であり、サクラ属に同定された。サクラ属は、緻密な材質であることから細かな加工に適しており、削出の加工素材としては適材と言える。数珠の調査事例については、[伊東・山田2012]を参考すると、江戸時代の資料を中心に比較的多く確認できる。新潟県内の調査事例では、東原町遺跡(柏崎市)の戦国~江戸時代後半とされる資料に広葉樹(散孔材)、田屋道遺跡(旧神林村)の戦国~江戸時代初期とされる資料にアスナロが確認されている、また、サクラ属の利用例についてみると、常源寺・正見寺跡(東京都新宿区)の江戸時代後半とされる資料、喜時雨遺跡(島根県津和野町)の鎌倉時代とされる資料、宗玄寺跡(福岡県北九州市)の戦国~江戸時代後半とされる資料が確認できる。

建築部材は、柱根11点である。いずれも心持丸木あるいは心持材であり、クリが最も多く、この他にケヤキ、スダジイ、ネムノキが認められた。強度や耐朽性の高い木材が多く利用される傾向にあるが、強度の低いネムノキも混じっている点は注目される。なお、クリが多く利用されるという特徴は、本遺跡や隣接する山崎遺跡のこれまでの分析結果でも確認されており、共通した木材利用が窺える。

施設・器具材は、いずれも用途の詳細が不明の板状木製品である。板状木製品は、複数の資料が一括されており、形状は様々であることから、複数の器種や部材が含まれると考えられる。板状木製品は、木

取りの観察から、板目および柾目状を呈する資料と半截状を呈する資料とに分けられる。板目および柾目状を呈する資料は、スギとアスナロが確認されることから、分割加工が容易な木材の利用が推定される。一方、半截状を呈する資料はクリが確認され、加工性よりも強度や耐朽性を考慮した木材利用が推定される。

土木材は全て杭材である。杭材は、心持材（心持丸木、心持角材）の資料と、分割材（ミカン割材）の資料とがある。心持材の資料はクリが多く、ヌルデとトネリコ属なども認められる。クリが多く利用される傾向は、上記した柱根の樹種構成と類似しており、強度や耐朽性の高い木材の利用が推定される。一方、分割材の資料は全てマツ属複維管束亜属に同定された。この結果から、強度や保存性などが高いマツ属複維管束亜属の選択利用が推定される。

4 種 実 同 定

A 試 料

試料は、4～7区より検出されたビット、井戸および土坑などの21造構（5区 P8935:5層、7区 SE4695:6層、5区 SE5069:3層、6区 SE5456:3層、4区 SE5678:2層、4区 SE5990:最下層、4区 SE6009:3層、5区 SE6180:最下層、5区 SE6413:4層、5区 SE6473:4層、5区 SE6515:4層、6区 SE6577:3層、5区 SE6708:5層、6区 SE6905:最下層、6区 SE7759:3層、6区 SE7993:11層・14層・15層・17層、6区 SE8115:4層、6区 SE8189:5層、7区 SK4673:5層、5区 SK7451:15層、6区 SK7109:6層）の理植物（覆土）の水洗選別により回収された種実遺体を主体とする大型植物遺体24試料からなり、すべて乾燥した状態にある。本分析では、種実遺体の種類組成の把握を目的として、全試料を対象として、種実遺体の抽出および同定を実施した。

B 分 析 方 法

試料を粒径4mm、2mm、1mm、0.5mmの筋に通して、粒径が大きな試料から順に双眼实体顕微鏡下で観察し、同定が可能な種実遺体を抽出する。

種実遺体の同定は、現生標本や〔並原1982：藤下1984：吉崎1992：椿坂1993：石川1994：谷城2007：中山2010：中山ほか2010：小畑2008・2011：鈴木ほか2012〕等を参考に実施し、部位・状態別の個数を数えて、結果を一覧表で示す。实体顕微鏡下による区別が困難な複数分類群間は、-（ハイフン）で結んで表示する。

次に、栽培種等の一部の種実遺体を対象として、デジタルノギスで長さ、幅、厚さを計測し、結果を一覧表で示す。分析後は、種実遺体を分類群別に容器に入れて保管する。種実以外の分析残渣は、確認される種類を一覧表の下部に定性的な量比を+（プラス）で表示し、容器に入れて保管する。

C 結 果

結果を第5～13表に示す。また、主な分類群の写真を第20～22図に、主な種実遺体の計測値や特徴等を第14～21表に示して同定根拠とする。

分析に供された24試料を通じて、裸子植物1分類群（針葉樹のマツ属複維管束亜属）の短枝・葉が1個と、被子植物115分類群（広葉樹のヤマモモ、コナラ属、クリ、エノキ属、ヒサカキ属、モモ、ウワミズザクラ亜属、ノイバラ属、キイチゴ属、ナシ属、ネムノキ、アカメガシワ、カラスザンショウ、イスザンショウ、サンショウ、サンショウ属、ウルシ属、サンカクヅル・エビヅル、ヤマブドウ近似種、ブドウ属、ノブドウ、ブドウ科、キブシ、タラノキ、カキノキ属、エゴノキ、ムラサキシキブ属、クサギ、ニワトコ、ゴマギ、草本のサジオモダカ属、オモダカ属、アヤメ属、ツユクサ、

イボクサ、イネ、オオムギ、コムギ、イヌビエ属、ヒエ、アワ、エノコログサ属（アワ?）、メヒシバ属、イネ科、ミクリ属、アゼスケ属、コウボウムギ近似種、スゲ属、コシンジュガヤ、ハリイ近似種、ハリイ属、ウキヤガラ、ホタルイ近似種、イヌホタルイ近似種、ホタルイ属、フトイ属、カヤツリグサ科、アサ、カナムグラ、ギシギシ属、ミゾソバ、イヌタデ近似種、ヤナギタデ近似種、ポンクトクタデ近似種、サナエタデ近似種、タデ属（2面平滑、3面）、ソバ、ヤマゴボウ属、スペリヒユ、ミドリハコベ近似種、アカザ属、ヒユ属、キンボウゲ属、アオツヅラフジ、ジンサンサイ、ムラサキケマン型、キンミズヒキ属、アズキ属、ササゲ属?、ダイズ属?、マメ科（エンドウ?）、クサネム、マメ科 A、マメ科、カタバミ属、エノキサ、ヒメミカンソウ、トウゴマ、スミレ属、トウガン、ヒヨウタン類、メロン類（雑草メロン型、マクワ・シロウリ型、モモルディカメロン型）、キカラスウリ、スズメウリ、アリノトウガサ、セリ科、オカトラノオ属、ミツガシワ、ヤエムグラ属、キランソウ属、エゴマ、シソ属、メハジキ属、シソ科、ナス、ナス属、ゴマ、ゴボウ近似種、オナモミ属、タカサプロウ、メナモミ属、キク科）の種実が16,853個の、計16,854個の大型植物遺体が抽出・同定された。この他、109個は不明で、うち同一分類群・部位と考えられる64個を不明 A としている。種実以外の分析残渣は、塗膜片、木材（塗膜片付着）、木材、炭化材（加工?）、炭化材、植物の刺、スギナ類炭化地下茎、植物片、昆虫類、動物遺存体、二枚貝類、巻貝類、ネズミ類の排泄物?、高師小僧、砂礫・土粒類などが確認された。とくに6区 SE6905（最下層）では、藍鉄鉱（vivianite）が析出する粒子が多く確認された。

栽培種および栽培の可能性がある分類群は、果樹のモモ、ナシ属、カキノキ属、穀類のイネ、オオムギ、コムギ、イヌビエ属、ヒエ、アワ、エノコログサ属（アワ?）、ソバ、豆類のアズキ属、ササゲ属?、ダイズ属?、マメ科（エンドウ?）、果菜類のトウガン、ヒヨウタン類、メロン類（雑草メロン型、マクワ・シロウリ型、モモルディカメロン型）、ナス、ナス属、ゴボウ近似種、纖維植物のアサ、油料植物のトウゴマ、エゴマ、シソ属（エゴマ含む）、ゴマが確認された。合計は6,529個であり、大型植物遺体群全体の約4割を占める。

栽培種（可能性含む）を除いた分類群は、木本29分類群677個、草本63分類群9,648個から成り、草本主体の組成を示す。木本は、常緑針葉樹で高木になるマツ属複葉管束亞属、広葉樹で常緑高木のヤマモモ、常緑小高木または低木のヒサカキ属、常緑または落葉高木のコナラ属、落葉高木のクリ、エノキ属、ウツミズザクラ属、ネムノキ、アカメガシワ、カラスザンショウ、落葉高木または低木のサンショウ属、ウルシ属、落葉小高木のエゴノキ、落葉低木のノイバラ節、キイチゴ属、イヌザンショウ、サンショウ、キブシ、タラノキ、ムラサキシキブ属、クサギ、ニワトコ、ゴマギ（おそらく日本海側に分布する変種のマルバゴマギ）、落葉灌木のサンカクヅル＝エビヅル、ヤマブドウ近似種、ブドウ属、ノブドウ、ブドウ科が確認され、河畔や林縁等の明るく開けた場所に生育する樹種を主体とする。

草本は、人里植物に属する分類群を主体とし、浮葉植物のジンサンサイ、抽水植物のミクリ属、ハリイ近似種、ミツガシワ、ウキヤガラ、ホタルイ近似種、イヌホタルイ近似種、ホタルイ属、フトイ属、抽水～湿生のサジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ、ハリイ属、湿生植物のアゼスケ属、コシンジュガヤ、ミゾソバ、ヤナギタデ近似種、ポンクトクタデ近似種、ムラサキケマン型、クサネム、スズメウリ、タカサプロウなどの水湿地生植物や、湿生または中生植物のアヤメ属、やや乾いた場所にも生育可能な中生植物のツユクサ、メヒシバ属、イネ科、スゲ属、カヤツリグサ科、カナムグラ、ギシギシ属、イヌタデ近似種、サナエタデ近似種、タデ属、ヤマゴボウ属、スペリヒユ、ミドリハコベ近似種、アカザ属、ヒユ属、キンボウゲ属、アオツヅラフジ、キンミズヒキ属、マメ科、カタバミ属、エノキサ、ヒメミカンソウ、スミレ属、キカラスウリ、アリノトウガサ、セリ科、オカトラノオ属、ヤエムグラ属、キランソウ属、メハジキ属、シソ科、オナモミ属、メナモミ属、キク科、海岸の砂地に生育するコウボウムギ近似種が確認された。

大型植物遺体の出土個数は、5区 P8935（5層）が346個、7区 SE4695（6層）が802個、5区 SE5069（3層）

が326個、6区 SE5456 (3層) が264個、4区 SE5678 (2層) が1,405個、4区 SE5990 (最下層) が583個、4区 SE6009 (3層) が1,324個、5区 SE6180 (最下層) が1,249個、5区 SE6413 (4層) が676個、5区 SE6473 (4層) が319個、5区 SE6515 (4層) が1,493個、6区 SE6577 (3層) が25個、5区 SE6708 (5層) が172個、6区 SE6905 (最下層) が150個、6区 SE7759 (3層) が377個、6区 SE7993は17層が574個、15層が289個、14層が878個、11層が748個、6区 SE8115 (4層) が859個、6区 SE8189 (5層) が558個、7区 SK4673 (5層) が233個、5区 SK7451 (15層) が2,867個、6区 SK7109 (6層) が337個である。

なお、5区 SE5069 (3層)、4区 SE5678 (2層)、4区 SE6009 (3層)、5区 SE6413 (4層)、5区 SE6473 (4層)、5区 SE6708 (5層)、7区 SK4673 (5層) の7試料は栽培種（可能性含む）を主体とし、5区 P8935 (5層)、7区 SE4695 (6層)、4区 SE5990 (最下層)、5区 SE6180 (最下層)、5区 SE6515 (4層)、6区 SE6577 (3層)、6区 SE6905 (最下層)、6区 SE7993 (11層、14層、15層、17層)、6区 SE8115 (4層)、6区 SE8189 (5層)、5区 SK7451 (15層) の14試料はその他の草本種実を主体とする。また、6区 SE5456 (3層)、6区 SE7759 (3層)、6区 SK7109 (6層) の3試料は、栽培種と草本の産出が同程度である。

これらの試料のうち、栽培種（可能性含む）の出土状況についてみると、4区 SE5678 (2層) はエゴマ、4区 SE6009 (3層) はナスが極めて多產し、5区 SE5069 (3層) と4区 SE5990 (最下層) はアサガ、5区 SE6413 (4層) はエノコログサ属（アワ?）の果実とソバが、5区 SE6708 (5層) はマクワ・シロウリ型主体のメロン類が多く確認された。また、炭化穀類は、5区 SE4673 (4層) と5区 SE6515 (4層) で状態不良なイネが、7区 SK4673 (5層) では穎が残る状態良好なイネが、7区 SE4695 (6層) では穎が残るヒエやイネが多い。

なお、4区 SE5678 (2層) より多產したエゴマの果実100個の計測値は、長さが最小1.8～最大2.6（平均 $2.1 \pm$ 標準偏差0.2）mm、幅が1.6～2.3（平均 1.9 ± 0.1 ）mm、厚さが1.4～1.9（平均 1.6 ± 0.1 ）mmを測り、4区 SE6009 (3層) より多產したナスの種子100個の計測値は、長さは最小2.0～最大3.0（平均 $2.7 \pm$ 標準偏差0.2）mm、幅は2.7～3.8（平均 3.3 ± 0.2 ）mmを測る（表5）。また、今回確認されたイネの穎は細長い形状が多く、4区 SE6009 (3層) より出土した10個の計測値は、長さが最小7.9～最大9.0（平均 $8.3 \pm$ 標準偏差0.4）mm、幅が2.3～2.7（平均 2.5 ± 0.1 ）mm、厚さが1.1～1.5（平均 1.3 ± 0.1 ）mmである（第14～21表）。

この他に多產した分類群は、木本では、7区 SE4695 (6層)、5区 SE6180 (最下層)、7区 SK4673 (5層)においてサンショウが多產し、6区 SE8189 (5層) はコナラ属、7区 SK4673 (5層) はクリなどの堅果片がやや多產する。草本では、5区 SK7451 (15層) よりイヌタデ近似種が極めて多產し、サナエタデ近似種も多產する。さらに、5区 P8935 (5層) はウキヤガラ、7区 SE4695 (6層) はイヌタデ近似種やヤナギタデ近似種、ポンクトクタデ近似種などが、5区 SE5069 (3層) はギギシ属、4区 SE5990 (最下層) はホタルイ近似種、5区 SE6180 (最下層) はイヌタデ近似種やヤナギタデ近似種、5区 SE6515 (4層) はハリイ属やイヌホタルイ近似種、イヌタデ近似種、ヤナギタデ近似種などが、6区 SE7993 (14層) はフトイ属やヤナギタデ近似種、アリノトウグサなどが、6区 SE8115 (4層) はイヌタデ近似種やアカザ属、6区 SE8189 (5層) はハリイ属が多產する。

D 考 察

今回得られた大型植物遺体群のうち、栽培種および栽培の可能性がある分類群は、果樹のモモ、ナシ属、カキノキ属、穀類のイネ、オオムギ、コムギ、イヌビエ属、ヒエ、アワ、エノコログサ属（アワ?）、ソバ、マメ類のアズキ属、ササゲ属?、ダイズ属?、マメ科（エン豆?）、果菜類のトウガン、ヒヨウタン類、メロン類（雜草メロン型、マクワ・シロウリ型、モモルディカメロン型）、ナス、ナス属、ゴボウ近似種、纖維植

第6表 種家同定結果(2)

4 種 実 同 定

第7章 楊家同家姓圖(2)

分布群	地點	植物	5月						6月					
			SER473	SER615	SER627	SER6708	SER8065	SER7739	SER473	SER615	SER627	SER6708	SER8065	SER7739
日本特有種(可能性含む)	株	蘚片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モウソウ科	葉尖	蘚片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クサノキ科	葉子	蘚片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
チホ	葉	定形	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
		定形未調	1	2	-	-	2	-	-	1	-	-	-	-
		蘚片(表面)	8	8	-	3	-	-	2	1	6	-	1	-
		蘚片	-	6	-	4	-	-	-	2	4	-	1	-
		葉	10	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
		蘚片(基部)・葉化	3	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	樹・枝葉	定形	18	11	-	3	-	-	3	-	3	-	1	-
		定形未調	1	6	-	9	1	-	5	-	-	-	-	1
		蘚片	2	2	-	1	-	-	-	2	2	-	2	-
	根乳	定形	0	24	-	4	5	16	2	2	2	3	-	-
		定形未調	30	72	-	10	8	14	9	6	1	2	-	-
		蘚片	21	31	-	4	2	12	2	4	1	5	-	-
オオムギ	葉・枝葉	定形	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
	根乳	定形	1	8	-	2	-	-	4	2	3	2	2	-
		定形未調	1	4	-	3	-	-	9	2	3	2	2	-
		蘚片	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-
オオムギ・ヨシギ	根乳	定形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		定形未調	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		蘚片	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コムギ	葉・枝葉	定形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	根乳	定形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		定形未調	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		蘚片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イヌビヒノ属 ヒヌ?	葉乳	定形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	葉尖	定形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		蘚片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
稻	葉乳	定形	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
		葉尖	-	3	-	1	-	3	6	-	3	-	-	-
		蘚片	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
セヌコニア属 アツマリ	葉乳	定形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		葉尖	-	17	-	2	-	6	1	9	1	2	-	-
		定形未調	3	12	-	9	-	12	4	7	7	9	-	-
		蘚片	-	4	-	3	-	4	5	1	-	1	-	-
イヌキヒノ属 ヒヌ?	葉乳	定形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	葉尖	定形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		蘚片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エノコロギサ属(アツマリ)	葉尖	定形	2	13	-	-	-	-	2	2	3	3	4	-
		蘚片	-	1	-	-	-	-	1	1	1	1	2	-
アサ	葉尖	定形	-	1	-	-	-	-	1	2	-	2	-	-
		蘚片	1	27	-	3	1	3	24	14	6	13	8	-
ソバ	葉乳	定形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		蘚片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アズキ類	葉子	定形	1	2	-	-	-	-	2	-	-	1	-	-
		定形未調	高化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		蘚片	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アズキ類?	葉子	定形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ササヤギ?	葉子	定形	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6
ダイズ?	葉子	定形	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マメ科(ムレンクウ)	葉子	定形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トウモロコシ	葉子	定形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トウモロコシ	葉子	定形	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニコウカン類	葉乳	定形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	葉子	定形	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		定形未調	3	3	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-
		蘚片	10	2	-	1	-	2	-	4	5	-	-	-
根草メロン類	葉子	定形	15	2	-	13	-	11	-	-	1	1	-	-
		定形未調	3	2	-	3	-	2	-	-	2	-	-	-
根草メロン・ソクワ・シロウラ属	葉子	定形	18	1	1	51	-	-	10	2	1	2	-	-
フタトウシロウラ属	葉子	定形	6	1	-	3	1	-	12	8	3	3	-	-
		蘚片	-	2	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
スマツリカラリ属(スカシタスカシタ)	葉子	定形	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モモザイモロジン属	葉子	定形	-	1	-	-	-	-	-	4	2	-	-	-
メロン類	葉子	定形	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		蘚片	4	13	-	10	-	-	-	15	18	3	4	-
ホゴツ	葉尖	定形	11	19	-	5	-	-	3	5	4	8	-	-
		蘚片	1	5	-	2	1	-	4	7	4	6	-	-
シリ属(エバマガム)	葉尖	定形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		蘚片	5	23	-	8	-	-	4	95	45	70	-	-
ナス	葉子	定形	-	-	-	-	-	-	-	12	8	2	12	-
		蘚片	-	18	-	11	-	-	-	1	3	2	1	-
ナス属	葉子	定形	-	2	-	-	-	-	-	1	2	-	1	-
		蘚片	-	3	-	-	-	-	-	1	2	-	3	-
ニグマ属	葉子	定形	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		蘚片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アガツム属	葉尖	定形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第8表 種実定果図(4)

4 種 実 同 定

第9表 種寓同定結果(5)

中醫的林潤 十二步驟 + 中藥 + 十二步驟

4 種実同定

分類群	固形	液體	種別					備考
			SDH15	SDH160	SKH073	SKH745	SKH709	
4.00	3.00	3.00	15.00	6.00				
真珠貝 (可成り合む)								
ホタテ	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
ナレ属	殻片	薄化	-	-	2	-	-	
ホタノナ属	殻	薄化	-	-	-	-	-	
イモ	殻片	薄化	-	-	-	-	-	細長い
	定形未調	薄化	-	-	-	-	-	
	殻片 (表面)	薄化	-	2	-	3	1	
	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
	殻片	薄化	-	1	-	-	-	
	殻・殻乳	薄化	-	-	45	2	-	
	定形未調	薄化	-	-	5	4	-	
	殻片	薄化	-	-	1	-	-	
ツバメ	殻片	薄化	1	-	32	5	-	
	定形未調	薄化	1	1	34	29	-	
	殻片	薄化	1	-	9	10	-	
	定形未調	薄化	-	-	-	-	-	
	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
オオムギ	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
ツバメ	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
	定形未調	薄化	-	-	-	-	-	
	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
オオムギ×コムギ	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
ツバメ	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
	定形未調	薄化	-	-	-	-	-	
	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
コムギ	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
	殻・殻乳	薄化	-	1	-	-	-	
	定形未調	薄化	-	-	-	-	-	
	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
ツバメ	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
	定形未調	薄化	-	-	-	-	-	
	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
イヌビニ属	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
ヒナ?	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
ヒヌク	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
	殻・殻乳	薄化	-	1	-	-	-	
	定形未調	薄化	-	-	-	-	-	
	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
ヒヌードワツ	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
ツバメ	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
	殻・殻乳	薄化	-	-	-	-	-	
	定形未調	薄化	-	-	-	-	-	
	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
ツバメ	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
	定形未調	薄化	-	-	-	-	-	
	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
スノコロサ属 (アワガ)	殻片	薄化	2	2	-	11	1	
アワガ	殻片	薄化	-	-	-	1	-	
	殻片	薄化	-	-	-	8	1	
ツバメ	殻片	薄化	-	-	-	6	17	17
ツバメ	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
	定形未調	薄化	-	-	-	-	-	
	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
アズキ類	種子	定形	薄化	-	-	-	-	
	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
	定形未調	薄化	-	-	1	-	-	
アズキ類?	種子	定形	薄化	-	-	-	-	
サカダ類?	種子	定形	薄化	-	-	-	-	
ダイズ類?	種子	定形	薄化	-	-	-	527993 17刷3回刷	
	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
マメ科 (ムンドウ?)	種子	定形	薄化	-	-	-	-	
トカラガ	種子	定形	薄化	-	-	-	-	
トカラガ	種子	定形	薄化	-	-	-	-	
ヒイクラン類	葉片	定形	薄化	-	-	-	-	
	殻片	薄化	-	2	-	-	-	
	定形未調	薄化	-	-	-	-	-	
	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
根付メロン類・マカロニシロウタケ類	種子	定形未調	-	-	-	-	-	
マカロニシロウタケ類	種子	定形	薄化	-	-	-	-	
	定形未調	薄化	-	-	2	-	-	
	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
スワラ・コリナ属・セキセキタケ類	種子	定形未調	-	-	-	-	-	
セキセキタケ類	種子	定形	薄化	-	-	-	-	
	定形未調	薄化	-	-	2	-	-	
メロン類	種子	定形未調	-	-	-	-	-	
	殻片	薄化	-	-	6	1	4	
スズメ	葉片	定形	-	-	-	-	-	
	殻片	薄化	-	-	1	-	2	
シソ属 (スズマ含む)	葉片	定形	薄化	-	-	-	-	
	殻片	薄化	-	4	1	2	116	
ナス属	種子	定形	-	-	2	2	1	
	殻片	薄化	-	-	4	1	1	
ズボラ	種子	定形	薄化	-	-	-	-	
	殻片	薄化	-	-	-	-	-	
ズボラ近似種	葉片	定形	-	-	-	-	-	

第11表 種実同定結果(7)

第12表 種寓同定結果(8)

4 種 実 同 定

分類群	項目	状態	種別					備考
			SEB015	SEB100	SKT073	SKT745	SKT709	
イヌカバ近似種	葉実	定形	30	24	0	182	44	
	被片	16	3	—	17	4		
ヤマガラシ近似種	葉実	定形	92	1	—	34	44	
	被片	9	1	—	26	11		
ゴントクアガ近似種	葉実	定形	—	—	—	—	—	
	被片	3	1	—	2	1		
サンエキア近似種	葉実	定形	2	3	8	330	1	
	被片	—	2	2	273	3		
タケ属(2種平頭)	葉実	定形	—	—	—	—	—	
	被片	3	—	—	2	6		
	被片	1	—	—	—	—		
タマノイ(2種)	葉実	定形	—	—	—	—	—	
	被片	—	—	—	—	—		
セツガツヅク	葉子	定形	—	—	—	—	4	
スルガニス	葉子	定形	—	—	—	—	—	
ミドリハコベ近似種	葉子	定形	—	—	—	—	—	
	被片	—	—	—	—	—		
アカツツキ	葉子	定形	105	14	—	23	5	
	被片	2	1	—	—	—		
ヒヌ属	葉子	定形	21	1	—	7	—	
	被片	2	—	—	—	—		
キンボウケ属	葉実	定形	—	—	—	—	—	
	被片	—	—	—	—	—		
アマツブワツジ	葉子	定形	—	—	—	—	—	
ジンクイ	葉子	定形	—	—	—	—	—	
ムラサキタケノコ属	葉子	定形	—	—	—	—	—	
キンシテヒキ属	葉実	定形	—	—	—	—	—	
クサネム	葉実	定形	—	—	—	—	—	
マツメカス	葉子	定形	—	—	—	—	—	
マツメ科	葉子	定形	—	—	—	—	—	
マツメ	葉子	定形	—	—	—	—	—	
カツバハ属	葉子	定形	—	—	—	—	—	
エノキダケ	葉子	定形	26	8	1	1	2	
	被片	—	2	—	2	—		
ヒノキミソウ	葉子	定形	—	—	—	—	—	
スレ属	葉子	定形	1	—	—	—	—	
キラリカツリ	葉子	定形	—	—	—	—	—	
大ズメモリ	葉子	定形	—	—	—	—	—	
アマトクアツサ	葉子	定形	30	55	—	3	—	
セトモリ	葉実	定形	—	—	—	—	—	
オカトクアツ属	葉子	定形	—	—	—	—	—	
エガツツキ属	葉子	定形	—	—	—	—	—	
ギヌムグリ属	葉子	定形	—	—	—	—	—	
カラムグリ属	葉実	定形	—	—	—	—	—	
メハジツ属	葉実	定形	—	—	—	—	—	
シソ属	葉実	定形	—	—	—	—	—	
オモモイ属	被片	—	—	—	—	—		
アサガロ属	葉実	定形	—	—	—	—	—	
メモリ属	葉実	定形	—	—	—	—	—	
カツラ属	葉実	定形	—	—	—	—	—	
合計			98	46	210	133	142	計 6,524 種
真培植(可能性含む)			—	—	—	—	—	
イヌカバ(本種)			31	114	6	41	6	計 6,524 種
イヌカバ(参考)			230	260	15	2600	967	計 9,645 種
不確			0	2	0	0	0	計 10 種
不明			—	—	—	—	—	
未確			—	—	—	—	—	
未確			—	—	—	—	—	
合計(不明を除く)			359	556	233	2867	337	計 16,854 種
種式359種			—	—	—	—	—	
未確			—	—	—	—	—	
木本(被片付着)			—	—	—	—	—	
木本			—	—	—	—	—	
可化材(加工材)			—	—	—	—	—	
不可化材			—	—	—	—	—	
被片類			—	—	—	—	—	
イヌカバ近似地下系			—	—	—	—	—	
被片類			—	—	—	—	—	
葉子類			—	—	—	—	—	
植物者全体			—	—	—	—	—	562903 17 種) 種分
木質			—	—	—	—	—	
急上昇			—	—	—	—	—	
イヌカバの前進物			—	—	—	—	—	
高木小枝			—	—	—	—	—	
森林・土壤相			—	—	—	—	—	

* 特出状況 : +: 少量、++: 中量、+++: 多量。

第13表 種実同定結果(9)

調査区	選択名	屋代	分類群	部材・状態	計測	計測値 (mm)			回数 各々	備考
						長さ	幅	厚さ		
5区	SK7431	15号	ナシ属	葉裏	被片	-	11.7	-	-	葉厚度 3.4mm
6区	SK8189	5号	カキノキ属	被片	被片	5.4	-	-	1	
4区	SE6099	3号	イネ	被片	被片	1	9.0	2.5	12	5
4区	SE6099	3号	イネ	被片	被片	2	7.9	2.4	13	
4区	SE6099	3号	イネ	被片	被片	3	8.2	2.3	12	
4区	SE6099	3号	イネ	被片	被片	4	8.2	2.1	11	
4区	SE6099	3号	イネ	被片	被片	5	8.1	2.6	15	
4区	SE6099	3号	イネ	被片	被片	6	8.2	2.4	14	
4区	SE6099	3号	イネ	被片	被片	7	8.3	2.6	11	
4区	SE6099	3号	イネ	被片	被片	8	8.8	2.6	15	
4区	SE6099	3号	イネ	被片	被片	9	8.8	2.7	13	
4区	SE6099	3号	イネ	被片	被片	10	8.0	2.4	14	
7区	SE6955	6号	イネ	被化乳熟、乳熟	被片	5.1	3.0	2.5	6	焼き跡している
7区	SE6955	6号	イネ	被化乳熟	被片	1	5.4	3.4	25	
7区	SE6955	6号	イネ	被化乳熟	被片	2	5.4	3.1	24	
7区	SE6955	6号	イネ	被化乳熟	被片	3	4.9	2.8	21	
7区	SE6955	6号	イネ	被化乳熟	被片	4	5.3	3.2	22	
7区	SE6955	6号	イネ	被化乳熟	被片	5	5.3	3.8	23	
7区	SE6955	6号	イネ	被化乳熟	被片	6	5.2	3.0	21	
7区	SE6955	6号	イネ	被化乳熟	被片	7	5.5	3.0	19	
7区	SE6955	6号	イネ	被化乳熟	被片	8	4.7	2.7	22	
7区	SE6955	6号	イネ	被化乳熟	被片	9	4.9	2.9	24	
7区	SE6955	6号	イネ	被化乳熟	被片	10	4.4	3.0	20	
7区	SE6955	6号	イネ	被化乳熟	被片	11	4.7	2.7	18	
7区	SE6955	6号	イネ	被化乳熟	被片	12	4.2	2.4	16	
7区	SE6955	6号	イネ	被化乳熟	被片	13	4.1	1.8	13	
6区	SE5456	3号	イネ	被化乳熟	被片	1	4.6	2.2	17	
6区	SE5456	3号	イネ	被化乳熟	被片	2	4.8	2.7	20	
6区	SE5456	3号	イネ	被化乳熟	被片	3	4.2	2.1	10	
6区	SE5456	3号	イネ	被化乳熟	被片	4	3.4	1.8	09	
4区	SE6728	2号	イネ	被化乳熟	被片	1	4.8	2.0	11	
4区	SE6728	2号	イネ	被化乳熟	被片	2	4.7	2.7	17	
4区	SE6673	2号	イネ	被化乳熟	被片	3	4.6	2.4	19	
4区	SE5999	延子	イネ	被化乳熟	被片	1	5.4	3.0	21	
5区	SE5670	5号	イネ	被化乳熟	被片	1	4.1	2.3	15	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	1	4.2	2.5	17	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	2	4.7	2.6	17	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	3	4.1	2.5	16	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	4	4.1	2.5	17	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	5	4.2	2.6	18	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	6	4.0	1.9	10	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	7	4.8	2.8	22	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	8	4.6	2.7	18	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	9	3.9	2.3	12	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	10	4.2	1.7	11	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	11	3.6	1.6	11	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	12	4.1	2.0	13	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	13	3.8	1.7	10	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	14	4.0	1.6	14	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	15	3.7	1.7	11	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	16	2.9	2.1	13	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	17	3.8	2.1	12	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	18	3.9	1.9	10	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	19	3.9	1.8	14	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	20	3.5	1.6	09	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	21	3.5	1.6	09	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	22	3.6	1.6	12	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	23	4.4	2.4	17	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	24	3.9	1.9	12	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	25	4.3	2.2	17	
5区	SE6473	4号	イネ	被化乳熟	被片	26	3.5	1.8	08	
5区	SE6515	4号	イネ	被化乳熟	被片	1	4.3	2.4	17	
5区	SE6515	4号	イネ	被化乳熟	被片	2	5.2	3.2	21	
5区	SE6515	4号	イネ	被化乳熟	被片	3	5.0	2.6	21	
5区	SE6515	4号	イネ	被化乳熟	被片	4	4.7	2.7	17	
5区	SE6515	4号	イネ	被化乳熟	被片	5	3.7	1.8	12	
5区	SE6515	4号	イネ	被化乳熟	被片	6	3.5	1.9	12	
5区	SE6709	5号	イネ	被化乳熟	被片	7	3.6	1.9	15	
5区	SE6709	5号	イネ	被化乳熟	被片	8	3.7	1.7	09	
5区	SE6709	5号	イネ	被化乳熟	被片	9	4.2	2.3	18	
5区	SE6709	5号	イネ	被化乳熟	被片	10	4.6	2.9	19	
6区	SE7759	3号	イネ	被化乳熟	被片	1	5.0	2.2	20	
6区	SE7759	3号	イネ	被化乳熟	被片	2	4.5	2.7	20	
6区	SE7759	3号	イネ	被化乳熟	被片	3	4.6	2.7	20	
6区	SE7759	3号	イネ	被化乳熟	被片	4	4.3	2.7	16	
6区	SE7759	3号	イネ	被化乳熟	被片	5	3.6	1.8	12	
6区	SE7759	3号	イネ	被化乳熟	被片	6	4.2	1.6	08	
6区	SE7759	3号	イネ	被化乳熟	被片	7	3.6	1.9	15	
6区	SE7759	3号	イネ	被化乳熟	被片	8	3.7	1.7	09	
6区	SE7759	3号	イネ	被化乳熟	被片	9	4.2	2.3	18	
6区	SE7759	3号	イネ	被化乳熟	被片	10	4.6	2.9	19	
6区	SE7759	3号	イネ	被化乳熟	被片	11	4.6	2.5	20	
6区	SE7759	3号	イネ	被化乳熟	被片	12	4.3	2.6	19	
6区	SE7759	3号	イネ	被化乳熟	被片	13	4.3	2.6	19	
6区	SE7759	3号	イネ	被化乳熟	被片	14	3.4	1.7	11	
6区	SE7759	3号	イネ	被化乳熟	被片	15	3.7	1.8	09	
6区	SE7759	3号	イネ	被化乳熟	被片	16	3.9	1.2	12	
6区	SE7759	3号	イネ	被化乳熟	被片	17	4.9	3.0	19	
7区	SK8673	5号	イネ	被化乳熟	被片	1	4.9	2.6	19	
7区	SK8673	5号	イネ	被化乳熟	被片	2	4.3	2.6	18	
7区	SK8673	5号	イネ	被化乳熟	被片	3	5.0	3.1	22	

第14表 主な種実全体の計測値(1)

第15表 主な種実遺体の計測値(2)

調査区	選択名	屋数	分類群	部材・状態	計画	計測値 (mm)			回版 番号	備考
						番号	長さ	幅		
5.IX	SE6475	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	9	6.2	3.1	11	
5.IX	SE6473	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	8	6.2	3.1	12	
5.IX	SE6473	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	10	6.1	3.1	10	
5.IX	SE6473	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	11	6.2	3.1	12	
5.IX	SE6473	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	12	6.2	3.3	12	
5.IX	SE6473	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	13	6.3	3.3	14	
5.IX	SE6473	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	14	6.3	3.3	13	
5.IX	SE6473	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	15	6.3	3.1	13	
5.IX	SE6473	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	16	6.5	3.4	10	
5.IX	SE6473	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	17	6.2	3.2	14	
5.IX	SE6473	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	18	6.4	3.2	14	
5.IX	SE6473	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形未満	2	7.5	3.3	10	
5.IX	SE6473	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形未満	3	6.2	2.7	10	
5.IX	SE6473	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形未満	4	6.1	2.6	10	
5.IX	SE6473	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形未満	5	6.5	2.7	11	
5.IX	SE6473	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形未満	6	6.0	2.7	10	
5.IX	SE6473	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形	8.2	2.6	1.6		
5.IX	SE6473	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形	2	8.5	3.0	14	
5.IX	SE6473	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形	1	6.0	3.0	13	
5.IX	SE6473	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形	3	5.1	3.1	11	
5.IX	SE6473	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形	21	3.0	1.1		
5.IX	SE6473	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形	4	4.9	3.0	10	
5.IX	SE6473	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形	5	5.5	3.1	11	
5.IX	SE6473	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形	6	4.9	3.1	11	
5.IX	SE6473	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形	7	6.0	3.1	14	
5.IX	SE6473	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形	8	5.9	3.4	13	
5.IX	SE6473	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形	9	5.9	3.3	13	
5.IX	SE6473	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形	10	5.8	2.9	10	
5.IX	SE6473	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形	11	6.0	2.9	13	
5.IX	SE6473	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形	12	6.1	3.2	15	
5.IX	SE6473	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形	13	5.7	2.8	14	
5.IX	SE6473	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形	14	5.9	3.1	12	
5.IX	SE6473	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形	15	5.9	3.0	11	
5.IX	SE6473	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形	16	5.9	2.9	11	
5.IX	SE6473	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形未満	1	5.8	2.5	12	+ 鮫面欠損
5.IX	SE6473	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形未満	2	5.5	2.9	0.8	+ 鮫面欠損
5.IX	SE6473	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形未満	3	5.9	3.0	10	+ 鮫面欠損
5.IX	SE6473	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形未満	-	8.2	3.2	15	+ 鮫面欠損
5.IX	SE6515	4戸	モモクデイロメロン型	梅子	完形未満	8.1	* 2.9	1.3		
5.IX	SE6515	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	6	6.3	3.2	12	
5.IX	SE6515	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形未満	1	7.2	3.2	12	
5.IX	SE6515	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形未満	2	7.2	3.0	10	
5.IX	SE6515	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形未満	6.7	* 2.8	1.3		
5.IX	SE6515	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形未満	4	6.7	* 3.8	1.5	+ 鮫面欠損
5.IX	SE6515	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	破裂	1	6.6	2.8	-	半分
5.IX	SE6515	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	破裂	2	7.5	* 3.2	-	鰯面欠損, 半分
5.IX	SE6515	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	破裂	3	7.2	* 3.4	-	鰯面欠損, 半分
5.IX	SE6515	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	1	5.9	2.6	14	
5.IX	SE6515	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	2	5.6	2.8	10	
5.IX	SE6515	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	6	6.0	3.0	11	
5.IX	SE6515	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	7	7.2	3.4	14	
5.IX	SE6515	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	8	7.2	3.3	11	
5.IX	SE6515	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	9	7.2	3.2	12	
5.IX	SE6515	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	10	6.7	3.1	12	
5.IX	SE6515	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	11	6.6	3.3	11	
5.IX	SE6515	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	12	6.9	3.4	12	
5.IX	SE6515	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	13	7.0	3.3	14	
5.IX	SE6515	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	14	7.0	3.1	14	
5.IX	SE6515	4戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	15	7.1	3.2	13	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	4	7.1	3.4	12	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	5	6.9	3.2	12	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	6	7.0	3.5	11	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	7	7.0	3.6	11	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	8	7.6	3.3	11	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	9	7.2	3.2	12	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	10	6.7	3.1	12	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	11	6.6	3.3	11	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	12	6.9	3.4	12	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	13	7.0	3.3	14	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	14	7.0	3.1	14	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	15	7.1	3.4	12	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	16	7.2	3.2	10	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	17	6.8	3.4	13	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	18	6.2	3.1	10	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	19	6.5	3.2	12	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	20	6.7	3.2	12	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	21	7.1	3.4	13	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	22	6.9	3.3	13	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	23	6.8	3.4	12	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	24	6.6	3.2	14	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	25	6.9	3.2	12	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	26	6.9	3.1	11	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	27	6.4	3.0	10	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	28	7.8	3.4	14	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	29	6.8	3.4	12	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	30	7.2	3.6	16	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	31	6.3	3.3	10	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	32	6.1	3.2	10	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	33	6.3	3.2	12	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	34	6.8	2.6	16	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	35	6.8	2.3	11	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	36	6.4	3.3	14	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	37	7.9	3.3	15	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	38	6.2	3.2	10	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	39	6.0	3.2	12	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	40	7.0	3.3	11	
5.IX	SE6708	5戸	マツク・シロウリ型	梅子	完形	41	6.7	3.2	13	

第16表 主な種実全体の計測値 (3)

調査区	選択名	尾状	分類群	部状・状態	計画	計測値 (mm)			回数	番号	備考
						番号	長さ	幅			
5区	SE6708	3号	マツク・シロウリ型	被子	完形	1	6.8	2.0	12	-	
5区	SE6708	3号	マツク・シロウリ型	被子	完形	43	6.8	2.4	13	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形	44	6.3	3.0	09	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形	45	7.0	3.0	16	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形	46	6.6	3.2	12	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形	47	6.6	2.9	11	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形	48	7.6	3.3	15	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形	49	6.4	3.1	10	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形	50	6.4	3.1	11	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形	51	6.2	3.2	09	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	1	7.4	3.7	+ 15	+	舞面欠損 舞面欠損 舞面欠損
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	2	7.1	3.0	12	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	3	6.1	3.2	10	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	4	5.8	3.0	10	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形	2	5.7	3.2	12	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形	3	5.7	3.6	12	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形	4	5.5	3.1	11	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形	5	5.7	3.7	07	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形	6	5.9	3.3	12	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形	7	6.0	3.3	08	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形	8	5.7	2.7	07	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形	9	6.0	2.8	08	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形	10	6.1	3.2	08	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形	11	5.5	2.4	08	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形	12	5.6	3.0	08	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形	13	5.7	3.2	07	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	1	4.9	3.0	08	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	2	4.7	3.1	08	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	3	4.9	2.9	10	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	破片	1	4.0	2.5	10	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	破片	2	3.7	2.4	11	-	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	破片	3	2.9	2.6	+ 1	+	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	破片	4	3.1	2.8	+ -	+ -	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	破片	5	4.0	3.1	+ 11	+	
5区	SE6708	5号	マツク・シロウリ型	被子	破片	7	3.8	2.1	16	-	
6区	SE7759	3号	被子×ロソン型	被子	完形未満	7.2	2.0	1.6	-	-	
6区	SE7759	3号	被子×ロソン型	被子	完形	1	4.4	1.9	08	-	
6区	SE7759	3号	被子×ロソン型	被子	完形	2	4.9	2.1	07	-	
6区	SE7759	3号	被子×ロソン型	被子	完形	3	5.1	2.3	08	-	
6区	SE7759	3号	被子×ロソン型	被子	完形	4	4.9	2.0	08	-	
6区	SE7759	3号	被子×ロソン型	被子	完形	5	4.8	2.2	09	-	
6区	SE7759	3号	被子×ロソン型	被子	完形	6	5.0	2.3	09	-	
6区	SE7759	3号	被子×ロソン型	被子	完形	7	4.4	1.9	09	-	
6区	SE7759	3号	被子×ロソン型	被子	完形	8	3.9	1.9	09	33	
6区	SE7759	3号	被子×ロソン型	被子	完形	9	5.0	2.2	08	-	
6区	SE7759	3号	被子×ロソン型	被子	完形	10	4.0	1.8	10	-	
6区	SE7759	3号	被子×ロソン型	被子	完形	11	5.8	2.2	07	-	
6区	SE7759	3号	被子×ロソン型	被子	完形未満	1	5.2	2.1	09	+ 9	
6区	SE7759	3号	被子×ロソン型	被子	完形未満	2	5.3	2.7	07	+ 7	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形	1	8.0	4.2	12	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形	2	7.8	4.2	10	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形	3	7.9	3.8	11	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形	4	7.6	3.6	12	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形	5	6.7	3.5	08	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形	6	6.6	3.0	12	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形	7	6.3	3.2	09	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形	8	6.0	3.1	11	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形	9	6.1	3.2	09	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形	10	6.2	3.3	09	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	1	6.1	2.2	10	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	2	5.9	2.4	12	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	3	6.3	3.4	08	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	4	7.3	4.3	08	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	5	7.3	4.4	11	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	6	5.9	3.4	09	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	7	7.1	3.1	11	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	8	6.2	3.1	+ 11	+	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	9	8.8	3.2	+ 09	+	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	10	6.2	2.7	+ 09	+	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	11	7.0	3.5	+ 09	+	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	12	6.2	2.9	+ 06	+	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	1	7.4	4.2	13	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	2	7.5	3.8	11	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	3	7.4	3.2	08	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	4	8.0	4.3	07	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形	1	8.2	4.3	11	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	2	8.5	4.6	09	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	10	6.2	2.7	+ 09	+	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	7	6.9	3.0	08	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	8	7.2	3.6	13	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	4	9.6	3.3	09	+ 21	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	2	7.5	3.8	11	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	3	7.4	3.2	08	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	4	8.0	4.3	07	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形	1	8.2	4.3	11	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	2	8.5	4.6	09	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	3	8.3	4.0	09	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	2	8.2	3.6	13	-	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	4	9.6	3.3	09	+ 21	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	2	6.0	2.0	08	+	
6区	SE7759	11号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	7	7.0	2.2	14	-	
6区	SE7759	14号	マツク・シロウリ型	被子	完形	2	7.1	3.4	08	-	
6区	SE7759	14号	マツク・シロウリ型	被子	完形	3	7.4	3.5	12	-	
6区	SE7759	14号	マツク・シロウリ型	被子	完形	4	7.2	3.4	12	-	
6区	SE7759	14号	マツク・シロウリ型	被子	完形	5	6.8	2.4	12	-	
6区	SE7759	14号	マツク・シロウリ型	被子	完形	6	7.8	3.3	11	-	
6区	SE7759	14号	マツク・シロウリ型	被子	完形	7	7.1	3.6	09	-	
6区	SE7759	14号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	1	7.7	2.9	+ 09	+	
6区	SE7759	14号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	2	6.8	3.0	07	-	
6区	SE7759	14号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	3	6.2	3.4	10	-	
6区	SE7759	14号	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	4	6.9	3.2	06	-	

第17表 主な種実全体の計測値(4)

測定区	測定名	部位	分類群	部状・状態	計測値	計測値(mm)			固版 番号	備考
						後	側	前		
6区	SE2993	14周	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	6	6.7	3.4	-	頭面欠損
6区	SE2993	14周	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	7	6.8	4.3	1.0	頭面欠損
6区	SE2993	14周	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	8	5.9	3.1	0.6	頭面欠損
6区	SE2993	14周	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	9	5.2	2.0	1.0	頭面欠損
6区	SE2993	14周	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	9	8.5	3.8	1.0	頭面・顎面欠損
6区	SE2993	15周	マツク・シロウリ型	被子	完形	-	6.6	2.8	1.3	頭面欠損
6区	SE2993	15周	マツク・シロウリ型	被子	完形	-	6.6	2.7	-	頭面欠損
6区	SE2993	15周	マツク・シロウリ型	被子	完形	1	6.3	2.7	-	頭面・顎面欠損
6区	SE2993	15周	マツク・シロウリ型	被子	完形	2	7.7	3.5	-	頭面・顎面欠損
6区	SE2993	15周	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	6	6.7	2.7	-	頭面欠損
6区	SE2993	15周	マツク・シロウリ型	被子	破裂	1	8.0	3.6	-	半分
6区	SE2993	15周	マツク・シロウリ型	被子	破裂	2	8.0	3.6	-	半分
6区	SE2993	15周	マツク・シロウリ型	被子	破裂	3	7.3	2.9	-	半分
6区	SE2993	15周	マツク・シロウリ型	被子	破裂	4	6.6	2.8	-	半分
6区	SE2993	15周	マツク・シロウリ型	被子	完形	-	6.1	2.0	0.7	頭面欠損
6区	SE2993	17周	マツク・シロウリ型	被子	完形	1	7.2	3.6	1.4	頭面欠損
6区	SE2993	17周	マツク・シロウリ型	被子	完形	2	6.6	3.6	0.7	頭面・顎面欠損
6区	SE2993	17周	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	3	8.0	3.2	1.3	頭面・顎面欠損
6区	SE2993	17周	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	2	6.7	3.4	0.9	頭面・顎面欠損
6区	SE2993	17周	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	3	6.4	3.3	0.8	頭面・顎面欠損
6区	SE2993	17周	マツク・シロウリ型	被子	完形	-	6.1	2.7	0.9	半分
6区	SE2993	17周	マツク・シロウリ型	被子	完形	-	6.1	2.4	-	半分
6区	SE2993	17周	マツク・シロウリ型	被子	破裂	1	6.1	2.4	-	半分
6区	SE2993	17周	マツク・シロウリ型	被子	破裂	2	6.2	2.6	0.9	上半部欠損
6区	SE2993	17周	マツク・シロウリ型	被子	破裂	3	5.2	2.7	-	上半部欠損
6区	SE2993	17周	マツク・シロウリ型	被子	破裂	4	5.5	2.7	-	上半部欠損
6区	SE2993	17周	マツク・シロウリ型	被子	完形	-	7.7	3.7	1.3	頭面・顎面欠損
6区	SE2993	17周	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	1	5.9	3.1	1.1	頭面・顎面欠損
6区	SE2993	17周	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	2	6.9	3.3	1.0	頭面・顎面欠損
6区	SE2993	17周	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	1	8.1	3.8	1.0	頭面・顎面欠損
6区	SE2993	17周	マツク・シロウリ型	被子	完形未満	2	8.3	3.5	1.3	頭面・顎面欠損
5区	SK7451	15周	越界アロノ型	被子	完形未満	5.8	3.7	1.5	-	頭面・顎面欠損
5区	SK7451	15周	越界アロノ型	被子	破裂	1	5.7	2.5	-	半分
5区	SK7451	15周	越界アロノ型	被子	破裂	2	5.2	2.7	-	半分
5区	SK7451	15周	越界アロノ型	被子	破裂	3	5.2	2.7	-	半分
5区	P9932	5周	ビヨックアロノ型	被子	完形未満	-	9.8	5.8	2.8	頭長34mm
6区	SE5456	5周	ビヨックアロノ型	被子	完形	1	13.3	6.5	2.4	頭面・毛皮存
6区	SE5456	3周	ビヨックアロノ型	被子	完形	2	12.1	6.5	2.0	-
5区	SE6413	4周	ビヨックアロノ型	被子	完形	-	14.1	6.7	2.8	-
5区	SE6413	4周	ビヨックアロノ型	被子	完形未満	1	11.6	6.3	2.3	頭面欠損
5区	SE6413	4周	ビヨックアロノ型	被子	完形未満	2	7.4	5.7	1.6	頭面欠損
5区	SE6473	4周	ビヨックアロノ型	被子	完形未満	1	11.7	7.1	2.7	-
5区	SE6473	4周	ビヨックアロノ型	被子	完形未満	2	12.1	6.5	2.2	-
5区	SE6473	4周	ビヨックアロノ型	被子	完形未満	3	8.6	5.6	2.1	-
5区	SE6515	4周	ビヨックアロノ型	被子	完形	-	16.7	7.0	2.6	19
5区	SE6515	4周	ビヨックアロノ型	被子	完形	2	16.1	6.5	3.0	-
5区	SE6515	4周	ビヨックアロノ型	被子	完形	-	15.1	6.7	2.5	-
6区	SE9005	4周	ビヨックアロノ型	被子	完形	-	13.5	6.6	3.0	-
6区	SE7739	3周	ビヨックアロノ型	被子	完形未満	12.4	5.3	1.7	-	顎面欠損
5区	SE5099	3周	トウキン	被子	完形	1	10.2	5.2	1.2	20
5区	SE5099	3周	トウキン	被子	完形	2	10.9	5.6	1.9	-
5区	SE5099	3周	トウキン	被子	完形	3	10.1	5.4	1.8	-
5区	SE5099	3周	トウキン	被子	完形	4	9.8	5.3	1.8	-
5区	SE5099	3周	トウキン	被子	完形	5	9.5	5.3	1.4	-
5区	SE5099	3周	トウキン	被子	完形	6	10.3	5.7	1.6	-
5区	SE5099	3周	トウキン	被子	完形	7	10.3	5.5	1.5	-
5区	SE5099	3周	トウキン	被子	完形	8	9.8	5.4	1.2	-
5区	SE5099	3周	トウキン	被子	完形	9	9.9	5.2	1.6	-
5区	SE5099	3周	トウキン	被子	完形	10	9.7	5.7	1.5	-
5区	SE5099	3周	トウキン	被子	完形	11	9.7	5.7	1.5	-
5区	SE5099	3周	トウキン	被子	完形	12	10.4	6.0	2.0	-
5区	SE5099	3周	トウキン	被子	完形	13	10.0	5.5	1.5	-
5区	SE5099	3周	トウキン	被子	完形	14	9.8	4.7	2.2	-
5区	SE5099	3周	トウキン	被子	完形未満	9.9	5.5	1.5	-	顎面欠損
5区	SE5099	3周	トウキン	被子	完形未満	2	9.8	4.7	1.3	顎面欠損
5区	SE5099	3周	トウキン	被子	破裂	1	10.3	5.1	-	顎面欠損
5区	SE5099	3周	トウキン	被子	破裂	2	10.1	5.5	-	顎面欠損
5区	SE5099	3周	トウキン	被子	破裂	3	10.7	5.5	2.0	-
5区	SE5099	3周	トウキン	被子	破裂	4	10.7	5.5	2.0	-
5区	SE5099	3周	トウキン	被子	破裂	5	10.3	5.5	1.7	-
5区	SE5099	3周	トウキン	被子	完形	-	9.8	6.1	2.1	-
7区	SE6969	6周	アズキ型	被化種子	完形未満	-	38	27	26	頭長1.9mm, 幅0.7mm
4区	SE3994	4周	アズキ型	被化種子	完形未満	-	4.9	32	34	頭欠損, 背前面一部欠損
5区	SE6473	4周	アズキ型	被化種子	完形	-	3.0	29	30	頭面・顎面・背面前部, 幅0.4mm
6区	SE6577	3周	トウキン	被子	完形	-	9.8	6.1	2.1	-
7区	SE6969	6周	アズキ型	被化種子	完形未満	-	4.7	27	26	頭長1.9mm, 幅0.7mm
4区	SE3994	4周	アズキ型	被化種子	完形未満	-	4.9	32	34	頭欠損, 背前面一部欠損
5区	SE6473	4周	アズキ型	被化種子	完形	-	3.0	29	30	頭面・顎面・背面前部, 幅0.4mm
5区	SE6515	4周	アズキ型	被化種子	完形	1	4.8	27	29	12 頭長1.8mm, 幅0.7mm
5区	SE6515	4周	アズキ型	被化種子	完形	2	4.8	35	33	12 頭長1.9mm, 幅0.7mm
5区	SE6515	4周	アズキ型	被化種子	完形	3	4.8	35	33	12 頭長1.9mm, 幅0.7mm
5区	SE6515	4周	アズキ型	被化種子	完形	2	5.5	21	16	半分耳
5区	SE6515	4周	アズキ型	被化種子	完形	3	5.3	29	14	半分耳
6区	SE6969	4周	アズキ型	被化種子	完形	1	5.8	34	17	半分耳, 初生葉茎残存
6区	SE7739	3周	アズキ型	被化種子	完形	2	5.7	32	19	半分耳
6区	SE7739	3周	アズキ型	被化種子	完形	1	6.2	40	41	半分耳
6区	SE7739	3周	アズキ型	被化種子	完形	2	3.9	29	29	飼欠損 V字状溝確認
6区	SE7994	14周	アズキ型	被化種子	完形未満	5.2	28	29	29	飼欠損
6区	SE7994	15周	アズキ型	被化種子	完形	-	4.2	30	27	飼欠損
7区	SE6515	4周	ササゲ型	被化種子	完形	-	26	21	24	飼欠損
5区	SE6515	4周	ササゲ型	被化種子	完形	1	4.6	35	33	14 頭・背面前部, 幅3.1mm, 長10mm
5区	SE6515	4周	ササゲ型	被化種子	完形	2	4.1	25	19	14 頭・背面前部, 幅3.1mm, 長10mm
5区	SE5099	3周	ダイズ型	被化種子	完形	-	6.2	29	35	飼欠損, 幼根部3mm
4区	SE5678	2周	ダイズ型	被化種子	完形	-	6.0	32	32	飼欠損, 幼根部3mm
4区	SE5678	2周	ダイズ型	被化種子	完形	2	3.4	24	29	飼欠損, 幼根部3mm
5区	SE5994	4周	ダイズ型	被化種子	完形	-	6.8	4.0	40	飼欠損, 幼根部3mm

第18表 主な種実遺体の計測値(5)

4 種 実 回 定

調査区	選択名	部位	分類群	部状・状態	計測値	計測値 (mm)	回数	参考		
					身分	身長	幅	高さ	身分	
4 IX	SE35990	足	脚	ダイズ類?	定形未満	2.0	1.8	1.4	1.5	脚欠損
5 IX	SE3513	足	脚	ダイズ類?	定形	3.5	4.6	4.3	*	脚不明瞭、残さ割れている
5 IX	SE6413	足	脚	ダイズ類?	定形	6.0	5.2	4.1	*	脚不明瞭、残さ割れしている
5 IX	SE6473	足	脚	ダイズ類?	定形	6.5	4.6	3.6	*	脚大半欠損
5 IX	SE6515	足	脚	ダイズ類?	定形	5.4	4.1	2.4	*	脚欠損、足端部 2.6mm
5 IX	SE6515	足	脚	ダイズ類?	定形	2.4	4.0	3.0	*	脚欠損、足端部 2.6mm
6 IX	SE3603	足	脚	ダイズ類?	定形	4.3	3.9	2.8	*	脚不明瞭、足 3.1mm、幅 0.6mm、残さ割れ
6 IX	SE3729	足	脚	ダイズ類?	定形未満	6.2	5.7	2.8	*	脚大半欠損
6 IX	SE3729	足	脚	ダイズ類?	定形未満	6.4	4.4	3.0	*	脚欠損、足端部 2.6mm
6 IX	SE7759	足	脚	ダイズ類?	定形未満	2.6	6.5	4.5	*	脚欠損、足端部 2.6mm
6 IX	SE7759	足	脚	ダイズ類?	定形未満	3.6	6.2	3.3	*	脚欠損、足端部 2.6mm
6 IX	SE7759	足	脚	ダイズ類?	定形未満	5.9	3.7	1.9	*	脚分趾、幼樹 2.5mm
6 IX	SE7759	足	脚	ダイズ類?	定形未満	7.0	4.8	3.6	*	脚分趾 2.5mm
6 IX	SE7759	足	脚	ダイズ類?	定形未満	8.4	4.3	3.7	*	脚分趾
6 IX	SE2993	17 腹	腹	ダイズ類?	定形	3.0	5.2	3.8	39	脚欠損
4 IX	SE5674	2 刃	刃	マメ科 (エンドウ)	定形	4.7	3.9	4.2	16	脚長 2.0mm、幅 0.5mm
4 IX	SE5690	足	脚	マメ科 (エンドウ)	定形	6.1	6.6	4.2	*	脚不明瞭、足 3.1mm、幅 0.6mm、残さ割れ
6 IX	SE35990	足	脚	マメ科 (エンドウ)	定形	1.8	1.5	1.1	*	脚不明瞭、脚 1.2mm、幅 0.4mm、残さ割れ
4 IX	SE5690	足	脚	マメ科 (エンドウ)	定形	2.7	2.6	2.0	*	脚不明瞭、脚 1.2mm、幅 0.4mm、残さ割れ
5 IX	SE6473	4 刃	刃	マメ科	定形	2.5	2.1	2.2	*	脚長 1.3mm、幅 0.4mm
4 IX	SE5678	2 刃	刃	マメ科	定形	2.3	2.0	1.5	*	毛 3 脚、葉脈 2.5mm、葉片 1.0mm、葉肉 0.4mm
4 IX	SE5628	2 刃	刃	ニゴマ	定形	8.0	4.2	1.7	*	葉面厚 0.62mm
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	2.6	2.3	1.9	24	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	2.4	2.2	1.7	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	3.1	2.0	1.5	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	4.1	2.2	1.7	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	3.3	2.1	1.7	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	6.3	2.3	2.1	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	7.5	2.5	2.2	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	8.0	2.1	2.0	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	9.1	1.9	1.7	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	10.2	2.2	2.0	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	11.1	2.2	2.1	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	12.2	2.3	1.8	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	13.3	2.0	1.6	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	14.2	2.0	1.7	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	15.2	2.2	2.0	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	16.1	2.1	1.7	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	17.1	2.1	1.7	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	18.8	2.2	2.1	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	19.9	1.9	1.5	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	20.9	1.9	1.5	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	21.1	2.1	1.7	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	22.1	1.9	1.6	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	23.0	2.0	1.8	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	24.0	2.0	1.8	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	25.1	2.1	1.5	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	26.0	1.9	1.5	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	26.9	1.7	1.5	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	27.1	1.9	1.7	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	28.0	2.0	1.9	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	29.1	2.1	1.6	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	30.0	2.0	1.5	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	31.1	2.1	1.9	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	32.2	1.9	1.8	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	33.0	2.0	1.8	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	34.1	2.1	1.7	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	35.3	2.0	1.9	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	36.9	1.9	1.8	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	37.7	1.8	1.5	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	38.9	2.0	1.4	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	39.9	1.9	1.7	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	40.9	1.9	1.7	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	41.0	2.0	1.7	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	42.0	1.8	1.5	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	43.0	1.9	1.5	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	44.1	1.9	1.6	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	45.0	1.8	1.5	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	46.0	1.9	1.5	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	47.0	2.0	1.5	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	48.0	2.0	1.9	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	49.9	1.9	1.8	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	50.0	1.9	1.6	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	51.1	2.1	1.6	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	52.1	1.9	1.5	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	53.1	2.1	1.6	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	44.1	1.9	1.6	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	45.0	1.8	1.5	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	46.0	1.9	1.5	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	47.0	2.0	1.5	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	48.0	2.0	1.9	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	49.0	1.9	1.8	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	50.0	1.9	1.6	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	51.1	2.1	1.6	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	52.1	1.9	1.5	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	53.1	2.1	1.6	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	54.1	1.8	1.7	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	55.1	2.1	1.7	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	56.1	2.1	2.0	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	57.1	2.4	2.2	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	58.1	2.3	2.1	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	59.1	2.0	1.4	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	60.1	2.0	1.8	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	61.1	2.0	1.8	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	62.1	2.3	2.0	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	63.1	2.0	1.9	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	64.1	2.0	1.6	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	65.1	2.0	1.9	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	66.1	1.9	1.7	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	67.1	2.2	1.9	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	68.1	2.1	1.7	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	69.1	2.2	2.2	*	
4 IX	SE5678	2 刃	刃	ニゴマ	定形	70.1	2.1	2.0	*	

第19表 主な種実体の計測値 (6)

調査区	道機名	射位	分割群	部位・状態	計測番号	計測値 (mm)			回数 番号	備考
						長さ	幅	厚さ		
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	71	2.1	1.9	1.5	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	72	2.2	2.1	1.7	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	73	2.1	1.9	1.7	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	74	2.2	2.0	1.7	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	75	2.4	2.2	1.7	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	76	2.3	2.0	1.7	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	77	2.3	1.9	1.6	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	78	2.4	2.1	1.6	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	79	2.2	2.0	1.7	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	80	2.0	1.8	1.6	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	81	2.3	2.0	1.7	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	82	1.9	1.8	1.5	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	83	2.0	1.8	1.6	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	84	2.1	2.0	1.6	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	85	2.1	2.1	1.6	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	86	2.2	2.2	1.7	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	87	2.4	2.1	1.6	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	88	2.1	1.9	1.6	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	89	2.4	2.1	1.8	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	90	2.1	1.9	1.7	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	91	2.1	1.9	1.7	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	92	2.0	1.8	1.6	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	93	2.0	1.8	1.6	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	94	2.1	1.9	1.7	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	95	1.9	1.7	1.5	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	96	2.0	1.9	1.6	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	97	2.2	2.0	1.8	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	98	2.0	1.9	1.7	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	99	2.1	1.9	1.7	-	-
4 IX	SE5676	2射	エゴマ	葉実 完形	100	1.9	1.8	1.6	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	1	2.7	2.6	1.0	35	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	2	2.6	2.2	0.8	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	3	2.6	2.0	0.9	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	4	2.7	3.4	0.9	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	5	2.6	3.6	1.0	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	6	3.0	3.2	0.7	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	7	2.9	3.0	1.0	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	8	2.7	3.5	1.1	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	9	2.9	3.2	1.0	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	10	2.6	3.5	0.8	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	11	2.6	3.0	0.7	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	12	2.8	3.4	1.3	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	13	2.8	3.8	0.9	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	14	2.8	3.7	1.2	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	15	2.8	3.6	1.0	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	16	3.0	3.1	1.0	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	17	2.4	3.4	1.0	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	18	2.9	3.1	1.0	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	19	3.0	3.5	0.6	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	20	3.1	3.8	0.5	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	21	2.4	3.3	0.5	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	22	2.9	3.8	0.6	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	23	2.8	3.4	0.7	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	24	2.7	3.6	0.6	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	25	2.7	3.6	0.6	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	26	2.8	3.1	1.0	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	27	2.8	3.4	0.7	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	28	2.8	3.5	0.5	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	29	2.4	3.3	0.8	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	30	2.7	3.5	0.8	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	31	2.6	3.5	0.5	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	32	2.7	3.7	1.0	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	33	2.6	3.0	0.7	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	34	2.5	3.1	0.9	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	35	2.3	3.2	1.0	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	36	2.5	3.2	0.8	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	37	2.1	3.1	0.6	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	38	2.6	3.6	0.6	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	39	2.7	3.4	0.5	+	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	40	2.2	3.1	0.8	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	41	2.9	3.5	0.8	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	42	2.7	3.3	0.7	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	43	2.3	3.1	0.5	+	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	44	2.6	3.6	0.6	+	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	45	2.6	3.6	0.9	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	46	2.9	3.1	1.0	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	47	2.6	3.6	0.8	+	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	48	2.2	3.5	0.9	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	49	2.9	3.1	0.4	+	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	50	2.7	3.3	0.9	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	51	2.5	3.6	0.9	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	52	2.8	3.3	0.9	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	53	2.7	3.2	0.9	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	54	2.5	3.4	0.8	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	55	2.6	3.4	0.9	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	56	3.0	3.3	0.6	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	57	2.6	3.6	0.6	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	58	2.2	3.2	0.9	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	59	2.6	3.3	0.7	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	60	2.8	3.3	0.7	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	61	2.7	3.5	1.1	-	-
4 IX	SE6009	3射	ナス	被子 完形	62	3.0	3.2	1.1	-	-

第20表 主な種類遺体の計測値(7)

4 種 実 同 定

調査区	遺物名	層位	分類群	部材・状態	計画	計測値 (mm)			回数	登録番号	備考
						番号	W	H			
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	64	2.9	2.7	67	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	64	2.9	2.7	67	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	65	2.8	3.3	69	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	66	2.8	3.0	69	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	67	2.5	2.7	67	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	68	2.8	3.0	12	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	69	2.7	3.2	10	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	70	2.7	3.4	10	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	71	2.9	3.0	68	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	72	2.8	3.1	10	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	73	2.5	3.2	68	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	74	2.7	3.2	69	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	75	2.7	3.3	11	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	76	2.7	3.3	11	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	77	2.7	3.2	69	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	78	2.6	3.2	67	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	79	2.5	3.4	10	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	80	2.7	3.5	12	*	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	81	2.9	3.0	10	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	82	2.4	3.2	68	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	83	2.7	3.0	67	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	84	2.7	3.2	69	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	85	3.0	3.1	12	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	86	2.5	3.0	10	*	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	87	2.7	3.4	99	*	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	88	2.4	3.2	69	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	89	2.5	3.1	11	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	90	2.6	3.5	68	*	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	91	2.4	3.3	68	*	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	92	3.0	3.2	69	*	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	93	2.8	3.6	69	*	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	94	2.4	3.5	69	*	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	95	2.8	3.3	10	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	96	2.9	3.1	11	-	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	97	2.7	3.2	69	*	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	98	2.6	3.2	68	*	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	99	2.7	3.2	69	*	
4区	SE60009	3層	ナス	種子	完形	100	2.6	3.3	67	*	
4区	SE60009	2層	ゴボウ近似種	根茎	完形	49	2.5	2.9	27	-	小東実存
6区	SE7993	15層	ケルト風	機械	完形	-	2.2	3.0	15	45	小東実存
6区	SE7993	15層	ケルト風	機械	完形	-	2.3	3.1	15	44	小東実存
4区	SE60009	最上層	サンクチュアリーエビヅル	種子	完形	-	4.2	3.6	21	-	基盤裏実存、合立姿出
5区	SE6413	4層	セカクサブルーエビヅル	種子	完形	-	3.6	2.8	24	-	基盤裏実存、合立姿出
5区	SE6413	4層	セカクサブルーエビヅル	種子	完形	-	4.1	3.0	20	-	基盤裏実存、合立姿出
5区	SE6515	4層	ヤマドウガ近似種	種子	完形	-	4.5	3.2	24	48	基盤裏実存、合立姿出
4区	SE6078	2層	ヤマドウガ	種子	完形	-	4.0	4.7	22	57	基盤裏 0.7mm

計測はノンブル法を採用、次回は保存前に「+」、飛ばされた等は計測前に「」で示す。

第21表 主な種実遺体の計測値(8)

物のアサ、油料植物のトウゴマ、エゴマ、シソ属（エゴマ含む）、ゴマが確認され、栽培種（可能性含む）が全体の4割を占めるという組成が明らかとなった。

丘江遺跡では、これまでにも1~3区より検出された井戸などの埋積物より回収された種実遺体の同定が実施されており、栽培種が全体の約6割を占めるという特徴が明らかとされている。また、これらの分類群には、イネ、オオムギ、コムギ、ヒエ、キビ、アワ、アサ、ソバ、マメ科（アズキ類、ダイズ類）、ヒヨウタング類、トウガラシ、メロン類（雑草メロン型、マクワ・シリウリ型、モモルディカメロン型）、シソ属（エゴマ）、シソ属-イヌコウジ属、ナス、ゴマ、ゴボウ近似種と、栽培の可能性が高いナシ属等の種実遺体が確認され、遺構間において種類組成に差異のあることなども明らかとされている。

今回の4~7区の各遺構における栽培種の出土状況についてみると、エゴマの多産（4区 SE5678 : 2層）やナスの多産（4区 SE6009 : 3層）をはじめ、アサ、エノコロガサ属（アワ？）、ソバ、メロン類（マクワ・シリウリ型主体）が多く確認されるなどの遺構間における多寡が認められたほか、炭化穀類のうちイネやヒエなどでは遺構間で状態が異なる様子が認められた。このような出土状況や状態の違いは、遺構埋積に関わる人行為の違いを示している可能性があり、調査所見と合わせた検討が望まれる。

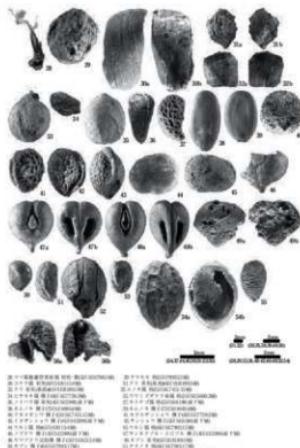
以上のように、丘江遺跡では、1~3区と4~7区の各遺構埋積物に確認された栽培種（可能性含む）は概ね類似し、遺構間で種類組成や保存状態が異なるなどの傾向も明らかとなつた。さらに、今回の試料では、新たに確認された分類群として、5区 SE6413（4層）、6区 SE7993（14層）より出土したトウゴマが特筆される。トウゴマは、種子が油料（ヒマシ油）や食用に利用されるが、毒性タンパク質リシン、有毒アルカロイドであるリシンが含まれる〔堀田編1989〕。

〔堀田編1989〕によれば、トウゴマは熱帯東アフリカ原産で、「古代エジプトで6,000年前から利用さ

れ、日本には9世紀ころに中国から渡來した」とされるが、[柴田1958]は「支那では新修本草(659)に初めて記載され、日本では倭名抄(923-930)にカラカシワの名の記録があり、その時代から栽培されたらしく、種子を薬用とし、印肉用にし、時計の発明と共にこれに用いられた」としており、確実な渡来時期については不明である。トウゴマの遺跡出土例も極めて少ないので、難波宮下層(大阪府大阪市)より検出された埋没谷内の6世紀後葉および7世紀前半とされる層準より確認された事例 [パリノ・サーヴェイ株式会社



第20図 大型植物遺体(1)



第21図 大型植物遺体(2)



第22図 大型植物遺体(3)

2010] がある。今回の出土種子は、調査所見などから中世頃の資料と推定されるが、当該期の植物利用の一端を示す貴重な事例と言える。

一方、栽培種と栽培の可能性を除いた分類群は、前報と同様に草本主体の組成を示す。本木は、常緑針葉樹で高木になるマツ属複維管束亞属や、広葉樹で常緑高木のヤマモモ、常緑小高木または低木のヒサカキ属、常緑または落葉高木のコナラ属、落葉高木のクリ、エノキ属、ウワミズザクラ亜属、ネムノキ、アカガシワ、カラスサンショウ、落葉高木または低木のサンショウ属、ウルシ属、落葉小高木のエゴノキ、落葉低木のノイバラ節、キイチゴ属、イヌサンショウ、サンショウ、キブシ、タラノキ、ム

ラサキシキブ属、クサギ、ニワトコ、(マルバ)ゴマギ、落葉藤本のサンカクヅル-エビヅル、ヤマブドウ近似種、ブドウ属、ノブドウ、ブドウ科が確認され、河畔や林縁等の明るく開けた場所に生育する樹種を主体とする。おそらく、鯖石川流域の森林やその林縁等に生育していたと考えられる。

なお、7区SK4673(5層)より果皮片が多産したクリは果実内部の子葉が食用可能であり、6区SE8189(5層)より果皮片が多産したコナラ属はあく抜きすることで子葉が食用可能となる。これらの堅果類は、上述の栽培種とともに利用された植物質食料の可能性がある。その他、ヤマモモやキイチゴ属、ブドウ属(サンカクヅル-エビヅルやヤマブドウ近似種など)は果実が食用可能であり、7区SE4695(6層)、5区SE6180(最下層)、7区SK4673(5層)より多産したサンショウは果実が香辛料等に利用可能である。また、6区SE7993(15層)、6区SE8115(4層)より出土したウルシ属は、核が小型であることから、藤本のツタウルシか小高木のヌルデの可能性がある(第6表)。ツタウルシは利用の可能性が低いが、ヌルデの果実はロウの原料に利用可能である。これらの有用植物の出土種実については利用の痕跡は認められなかったが、周辺の森林より持ち込まれ利用されていた可能性も考えられる。草本は、人里植物に属する分類群を主体とし、浮葉植物のジンサイ、抽水植物のミクリ属、ハリイ近似種、ミツガシワ、ウキヤガラ、ホタルイ近似種、イヌホタルイ近似種、ホタルイ類、フトイ類、抽水~湿生のサジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ、ハリイ属、湿生植物のアゼグシ類、コシンジュガヤ、ミゾソバ、ヤナギタデ近似種、ポンクトクタデ近似種、ムラサキケマン型、クサネム、ズメウリ、タカサプロウなどの水湿地生植物や、湿生または中生植物のアヤメ属、やや乾いた場所にも生育可能な中生植物のツユクサ、メヒシバ類、イネ科、スゲ属、カヤツリグサ科、カナムグラ、ギシギシ属、イヌタデ近似種、サナエタデ近似種、タデ属、ヤマゴボウ類、スペリヒユ、ミドリハコベ近似種、アザガ属、ヒユ属、キンボウゲ属、オツヅラフジ、キンミズヒキ属、マメ科、カタバミ属、エノキグサ、ヒメカンソウ、スミレ属、キカラスウリ、アリノトウグサ、セリ科、オカトラノオ属、ヤエムグラ属、キランソウ属、メハジキ属、シソ科、オナモミ属、メナモミ属、キク科、海岸の砂地に生育するコウボウムギ近似種が確認された。これらの分類群は、遺跡周辺城の明るく開けた草地環境に生育していたと考えられ、水湿地生植物群落の分布や、コウボウムギ近似種や前報で検出されたハマヒルガオなどの海浜植物の分布も推定される。

<引用文献>

- 森木利之・小澤智生 2007 「筑波列島産植物花粉回叢」アカアコーラ企画、155p.
- 藤下典之 1984 「出土遺物よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法」『古文化財の自然科学的研究』古文化財編集委員会編、同刊会、638-654.
- 堀田 満(代表)編 1989 「世界有用植物事典」平凡社、1499p.
- 林 昭三 1991 「日本産木材 蔵微鏡写真集」京都大学木質科学研究所.
- 井上 淳・吉川周作・千々和一農 2002 「琵琶湖周辺城に分布する黒ボク土中の黒色木片について」『日本第四紀学会講演要旨集』32, 74-75.
- 伊東隆夫 1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載I」『木材研究・資料』31 京都大学木質科学研究所、81-181.
- 伊東隆夫 1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載II」『木材研究・資料』32 京都大学木質科学研究所、66-176.
- 伊東隆夫 1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載III」『木材研究・資料』33 京都大学木質科学研究所、83-201.
- 伊東隆夫 1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載IV」『木材研究・資料』34 京都大学木質科学研究所、30-166.
- 伊東隆夫 1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載V」『木材研究・資料』35 京都大学木質科学研究所、47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久(編) 2012 「木の考古学 出土木製品用材データベース」海青社、449p.
- 金原正明・金原正子 1992 「花粉分析および寄生虫」『藤原京跡の便所遺構 ー右京七条一坊西北坪ー』奈良国立文

- 化財研究所, 12-15.
- 金原正明・金原正子 1993 「史跡松江城二ノ丸番所跡 SK-04 内堆積土の分析」「史跡松江城発掘調査報告書」松江市教育委員会, 51-56.
- 金原正明・金原正子・中村亮仁 1995 「大宮坊跡（彌跡）における自然科学的分析」「史跡石動山環境整備事業報告Ⅱ」石川県鹿島町教育委員会, 51-70.
- 笠原安夫 1982 「島浜貝塚の植物種実の検出とエゴマ・シソ種実タール状況について」「島浜貝塚 1980 年度発掘調査概報・研究の成果 - 總文前期を主とする低湿地道路の調査 2 -」福井県教育委員会, 65-87.
- 三好教夫・藤木利之・木村裕子 2011 「日本産花粉図鑑」北海道大学出版会, 824p.
- 中村 純 1980a 「日本産花粉の標識 I II (国版) 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録」第 12, 13 集, 91p.
- 中村 純 1980b 「花粉による植作史の研究」「自然科学的手法による遺跡・古文化財等の研究 - 総括報告書 - 文部省科研費特定研究「古文化財」総括班, 187-204.
- 中山誠二 2010 「繩文時代のアズキ亜属に関する基礎研究」「東海史学」第 44 号, 83-103.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志 2010 「日本植物種子図鑑 (2010 年改訂版)」東北大出版社, 678p.
- 小畠弘己 2008 「マメ科種子同定法「極東先史古代の雜穀 3」「日本学術振興会平成 16 ~ 19 年度科学研究費補助金 (基盤 B-2)」(課題番号 16320110)「雜穀資料からみた極東地域における農耕受容と拡散過程の実証的研究」研究成果報告書」小畠弘己編, 熊本大学理藏文化財調査室, 225-252.
- 小畠弘己 2011 「東北アジ古民族植物学と種子農耕」同成社, 309p.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2010 「難波宮下層の谷出土木材樹種および種実遺体の同定」「難波宮址の研究」第十六, 財团法人大阪市文化財協会編, 82-107.
- Richter H.G., Grosser D., Heinz L. and Gasson P.E. (編) 2006 「針葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト」伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘 (日本語版監修), 海青社, 70p.
[Richter H.G., Grosser D., Heinz L. and Gasson P.E. 2004. IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 柴田桂太 (編) 1958 「資源植物事典 (増補改訂版)」株式会社北隆館, 904p.
- 鳥地 謙・伊東隆夫 1982 「図説木材組織」地球社, 176p.
- 鳥倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」「大阪市立自然科学博物館収蔵目録」第 5 集, 60p.
- 鈴木庸夫・高橋 冬・安延尚文 2012 「ネイチャーウォッチングガイドブック 草木の種子と果実 - 形態や大きさが一日でわかる植物の種子と果実 632 種 -」誠文堂新光社, 272p.
- 高橋 敦・久田正弘 2014 「中世能登における漆器生産について - 七尾城跡シッケ地区の分析を中心に -」「紀要」9, 石川県輪島漆芸美術館, 1-14.
- 椿坂恭代 1993 「アワ・ヒエ・キビの同定」「吉崎昌一先生還暦記念論集「先史学と関連科学」」261-281.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編) 1998 「広葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト」伊東隆夫・藤井智之・佐野 滔 (日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. 1989. IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].
- 山野井徹 1996 「黒土の成因に関する地質学的検討」「地質学雑誌」102, 526-544.
- 安田喜憲 1987 「文明は緑を食べる」読売新聞社, 227p.
- 吉崎昌一 1992 「古代雜穀の検出」「月刊考古学ジャーナル」355, 2-14.

第VII章 ま と め

丘江遺跡の発掘調査面積は、過去2か年の調査で、23,766 m²に及んだ。検出された遺構と遺物は、その大半が中世に収まり、柏崎市域における当該期の調査としては大規模なものとなった。ここでは、両年度の調査成果をもとに、はじめに土器の特徴と編年案を提示し、遺跡の時期的位置付けを明らかにする。その後、周辺地域との比較により、遺構の特徴や集落構造・変遷などについて検討する。

1 丘江遺跡における土師質土器皿類の編年試案

丘江遺跡からは、一括資料こそ少ないが、陶磁器との共伴関係から、時期的位置付けを推測できる土師質土器皿類が何点か出土している。柏崎市域の土師質土器皿類の編年は、品田高志氏による精力的な研究成果〔品田1996・1997・1999など〕があり、型式学的な検討に基づく試案が示されている。ここでは、品田氏の編年案を参考に、柏崎市域及び周辺地域の資料を用いて共伴関係等を整理し、丘江遺跡における土師質土器皿類の編年試案を提示する。なお、歴年代については、遺跡からまとまって出土している珠洲焼と瀬戸・美濃焼の年代観〔吉岡1994・藤澤2008〕に従った。これは、吉岡康暢氏が珠洲V期に出現する内傾口縁の擂鉢を古瀬戸折縁深皿の影響と見ていることと、珠洲V期と古瀬戸後II・III期が共伴するとしたこと〔吉岡1994〕が、丘江遺跡での両者の出土状況をみても、追認できることによる。

A 土師質土器皿類の型式学的検討

土師質土器皿A類について 品田氏は、田塚山遺跡群の報告書〔品田1996〕の中で、本報告でA類とした京都系第1派とされる手づくね成形の土師質土器皿類のうち、刈羽・三島型とした皿類を型式学的に検討し、ヨコナデ手法の違いと器形の差異により、土師質土器皿類を4類型に分類している。1類は、口縁部を強く2段にヨコナデし体部との境に明瞭な稜線を持つもの、2類は口縁部をゆるく1段ないし2段にヨコナデした厚手のもの、3類は強い2段ヨコナデであるが凹凸が少ないもの、4類はヨコナデが弱く稜線が不明瞭なものとした。本報告の分類案との対比では、1類がAla類、2類がAlb・c類、3類がAla～Alc類・A2a類、4類がA1d・e類、A2b～d類、A3a・b類となる（第13図）。そして、調整手法の粗雑化が器形に表出していると考えて、1類から4類へと型式変化するとした。基本的な型式変化の方向は是認でき、本報告でもAla類からAlc類への変化を想定した。ただし、時期差とした各類型は、本報告案の分類では幾つか重複しており、型式認定に齟齬が生じている。品田氏が3類としたものは、柏崎市下沖北遺跡〔山崎2003a〕や東原町遺跡〔山崎2005〕では一括資料中に1類と共伴しており、3類には同時期のバリエーションとして捉えたほうが良い資料が含まれていると判断し、本報告ではA類を基本形のA1類、丸底・楕形のA2類、箱形のA3類（第13図）に大別した。各類型は、それぞれが系統だって型式変化する予想している。また、器形と合わせて口径値と器高値も、時期判断の指標とした。

土師質土器皿B類について B類は、京都系第2派とされる薄手の手づくね土器皿類である。新潟県内への波及時期については、上杉房定の越後府中下向（1450年）を契機とする意見〔水澤2001-2005〕がある。これに従えば、出現期が15世紀中葉に比定でき、時間軸上の定点となる。また、口縁部のヨコナデが強

いものから弱いものへ、薄手で丁寧な作りから厚手で粗雑なものへと型式変化することもおおむね共有認識できており〔品田1999・水澤2001・2005〕、B1類～B3類へ変化すると考えている。

土師質土器皿 C 類について C 類は、ロクロ成形で糸切底の土師質土器皿類である。品田氏が関東系としたものと、第2派京都系手づくね土器皿の影響を受けたものに大別される。これまで、上越市至徳寺遺跡〔小島1994・水澤・鶴巣2003〕SK27、SX004・19・21と胎内市江上館主郭内南東炭層及び第317号遺構南炭層から出土した一括資料から、15世紀後半以降のC 類（本報告分類のC3～C6類）については編年の位置付けがおおむね確定している〔品田1999・水澤2005〕が、15世紀前半以前については検討が進んでいない。本報告では、浅身・扁平でシャープな作りのものから、口径の縮小による深身化と作りが粗雑化して底部が肥厚するものへと型式変化すると想定し、Cl1・C2a 類から Clc 類・C2c 類へと移行すると考えた。15世紀後半以降は、B 類の影響を受けた C3～C6 類が順次出現し、C1・C2 類との比率を逆転させて B 類と共に伴する。このことから、C3 類～C6 類の出現期も15世紀中葉以降に求められると考えている。

B 土師質土器皿類と陶磁器との共伴関係

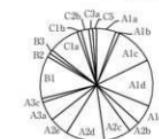
A 類の型式認定について見解の違いがあり、C 類の型式変化と時期的な位置付けについて県内の検討が進んでいないことから、まず、土師質土器皿 A 類及び C 類と陶磁器との共伴関係について検討する。

A 類は、2014年度調査〔今井2017〕でまとまって出土しているが、2015 年度調査では少ない。また、調査年度別の C 類の出土量は、A 類とは逆になっている（第23図）。次に時期ごとの陶磁器の出土量と組成をみると、1400年ころを境に両調査年度で異なる（第23・24図）。特に、輸入陶磁器及び瀬戸・美濃焼の出土量と組成の違いが際立っている（第24図）。のことから、土師質土器皿 A 類と C 類の出土量の違いが陶磁器の出土量及び組成差と相関関係にあり、両地区的最盛期の違いを反映していると判断できる。次に、丘山遺跡及び周辺遺跡の出土資料をもとに、土師質土器皿類と陶磁器との共伴例を確認する。

土師質土器皿類の器種構成比率1
（2014年度調査）



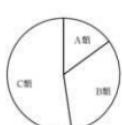
土師質土器皿類の器種構成比率2
（2015年度調査）



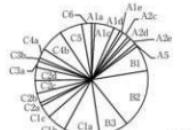
陶磁器の時期別出土量
（2014年度調査）



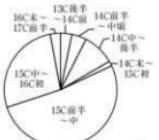
土師質土器皿類の器種構成比率1
（2015年度調査）



土師質土器皿類の器種構成比率2
（2015年度調査）

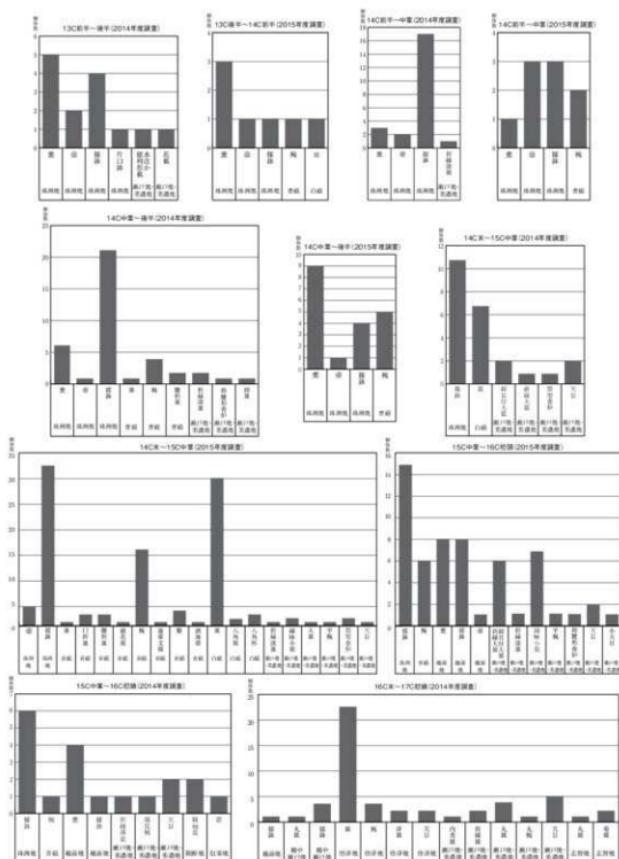


陶磁器の時期別出土量
（2015年度調査）



第23図 土師質土器皿類の組成比率と陶磁器の時期別出土量

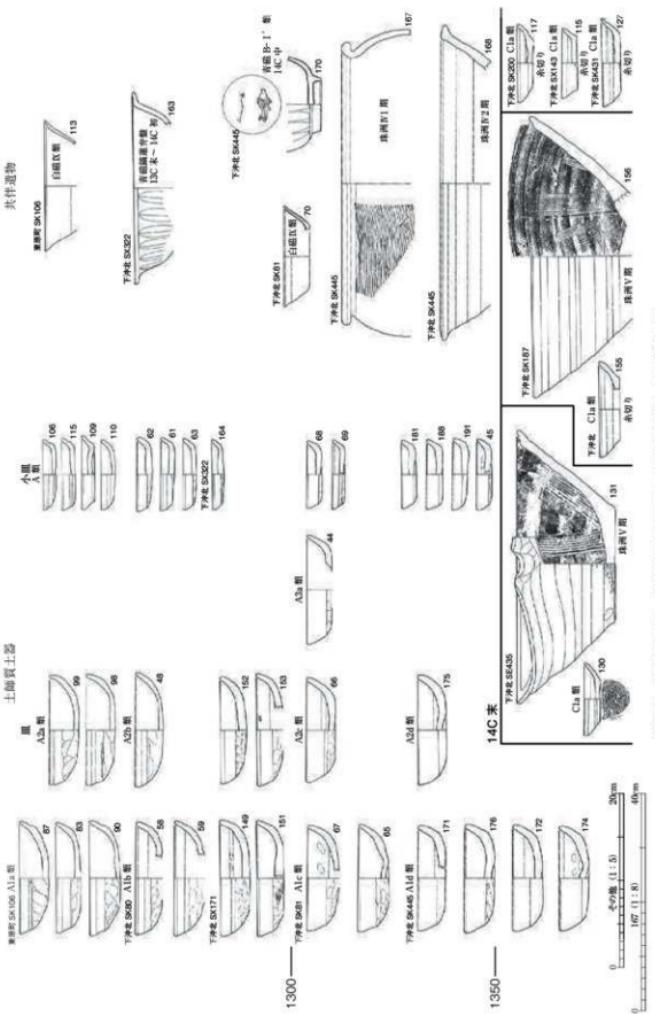
1 丘江遺跡における土師質土器皿類の編年試案



第24図 陶磁器の時期別器種組成

1) 丘江遺跡周辺での共伴事例

柏崎市東原町遺跡と下沖北遺跡における土師質土器皿類と兩磁器との共伴例及び時期的な位置付けについては、山崎忠良氏が検討している〔山崎2003a・2005〕。山崎氏は、品田氏の型式分類の手法を踏襲し、第1派京都系をB1a類、刈羽・三島型をC1類、関東系の糸切底皿をD類とした。C1類については、口縁部と体部境の棱線の強弱と、底部の形状の違いにより、丸底で棱線が明瞭なC1a類(87)と、上げ底で



第25図 桂崎市東原町・下分北遺跡から出土した13世紀後半~14世紀の土器

後線が不明瞭な CIb 類 (65) に区分している。品田氏の型式分類との対比では、CIa 類が1～3類、CIb 類が4類に対応する。本報告では、CIa 類が A1a・b 類、A2a・b 類、CIb 類が A1c・d、A2c・d 類、D 類が Clia 類に比定できよう。各型式と陶磁器との共伴関係をみると（第25図）、図示はしていないが東原町 SK106・83・87・90 と同型式の皿 CIa 類が SK86 で珠洲Ⅲ期の甕と、SK81 で CIb 類 (65・67) と白磁Ⅱ類の皿 (113) [横田・森田1978]、SK445 で CIb (171・176) 類と珠洲Ⅳ期の甕・Ⅳ2期の擂鉢 (137・168)、上田 BI' 類の青磁碗 (170) が共伴して出土している。このことから、CIa 類が CIb 類に先行するとし、CIa 類が13世紀後半、CIb 類が14世紀前半～14世紀中葉ころに位置付けられるとしている〔山崎2003a〕。なお、D 類 (130・155) は、SE435 と SK187 で珠洲V期の擂鉢と共に出土しており、14世紀末に位置付けている〔山崎2003a〕。

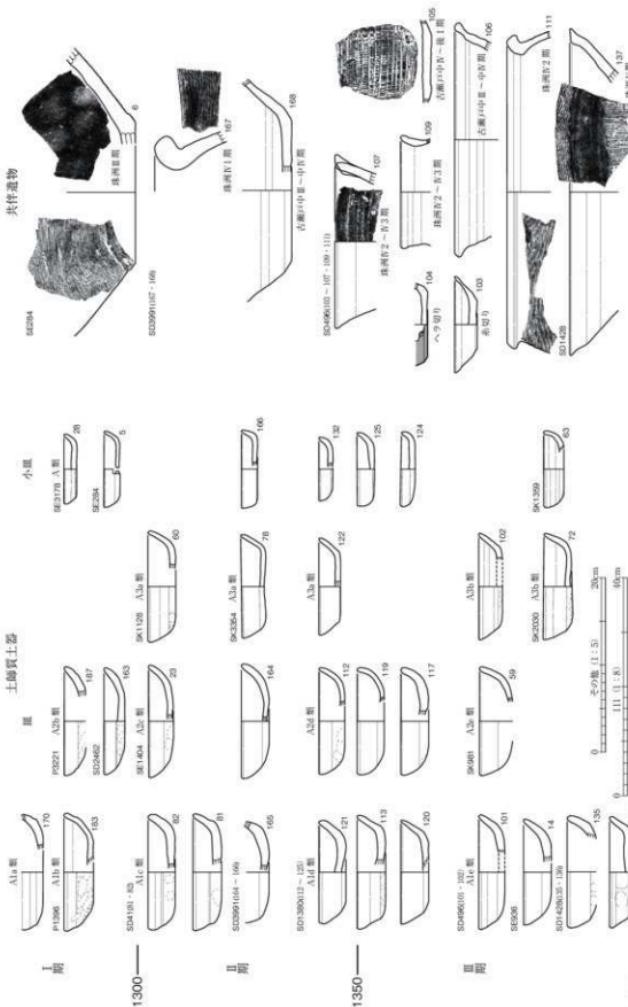
東原町遺跡では、下層から CIa 類が出土している（第25図）。SK106 で白磁Ⅱ類と共伴することから、下沖北遺跡の共伴状況に大きな齟齬はない、CIa 類を13世紀後半に比定することは、問題ないであろう。

以上の検討から、A 類については、本報告の A1a・b、A2a・b 類が13世紀後半に、A1c・d、A2c・d、A3a 類が14世紀前半～中葉に、これより後出すると考えている A1c 類と A3b 類が14世紀後半に位置付けられよう。C 類については、珠洲V期との共伴例から、遅くとも14世紀末には出現し、15世以降出土量が増加するとみている。

2) 丘江遺跡での共伴事例

土師質土器皿 A 類の共伴事例 2014年度調査で、少ないながらも共伴例がある〔今井2017〕（第26図）。SE281 から A 類小皿 (5) と珠洲Ⅲ期の甕 (6)、SD3991 から A1c 類 (165) と珠洲Ⅳ1期の甕 (167)、古瀬戸中Ⅲ～中Ⅳ期の折縁深皿 (168)、SD496 から A1e (101)・A3b (102) 類と珠洲Ⅳ2～3期の擂鉢 (107)・壺 (109)・甕 (111)、古瀬戸中Ⅲ～中Ⅳ期の折縁深皿 (106)、中Ⅳ～後Ⅰ期の鉢目皿 (105)、SD1428 から A1e 類 (135・136) と珠洲V期擂鉢 (137) が共伴して出土している。溝出土の破片資料が多く、取扱いに注意を払う必要があるが、珠洲焼と瀬戸・美濃焼の共伴関係に大きな齟齬はみられず、珠洲Ⅲ期の甕に伴う薄手でシャープな作りの小皿が13世紀後半に、A1c 類が14世紀前半、A1d・e 類が14世紀中葉ころ～後半に位置付けられる。また、珠洲V期の擂鉢との共伴例から、A 類の下限が14世紀末まで下ることもある。なお、SD496 から C 類の皿 (103) と D 類の皿 (104) が出土している。103は、11世紀代の土師器小椀に近似しており、混入の可能性も否定できないが、A 類との接点を示す資料になりうる可能性がある。104は、阿賀北地方の状況〔鶴巻1999〕からすれば、A 類と共伴しても問題はない。

土師質土器皿 C 類の共伴事例 2014・2015年度両調査で、幾つかの共伴例がある（第26・27図）。SD111 から CIb 類 (88) と珠洲Ⅳ2期擂鉢 (89)、珠洲V期擂鉢 (91)、SD281 から CIa 類 (95) と珠洲Ⅳ～V期の甕、SE6577 から CIb 類 (41) と上田 DII 類の青磁碗 (42・43)、SE7993 から Clc 類 (52)・C2c 類 (51) と上田 BI 類の青磁碗、古瀬戸後Ⅲ期の鉢目皿 (60)、珠洲V期の擂鉢 (61)、SD5000b から Clc 類 (140) と見込みを蛇の目状に軸刺ぎする白磁皿 (143)、森田 D 群の白磁皿 (146)、珠洲VI期の擂鉢 (139) が共伴して出土している。Clia・b 類は、珠洲Ⅳ～V期の擂鉢と上田 DII 類の青磁碗、森田 D 群の白磁皿と共に出土しており、下沖北遺跡例と矛盾なく、14世紀末～15世紀前半に位置付けられる。Clc 類は、珠洲VI期の擂鉢との共伴例があり、15世紀前半～中葉ころに位置付けられようか。Clc・C2c 類に古瀬戸後Ⅲ期の鉢目皿が伴う点も、大きな矛盾はない。また、2014年度調査は C 類の組成が Clia・b 類と C2b 類のみであり、2015年度調査で C 類のバリエーションが豊富である点は、両調査年度における A 類の出土量と組



第26回 土質土器回叢の層年試案1

成の違い、並びに時期ごとの陶磁器の出土量と組成が異なることとも整合している。

C 丘江遺跡における土師質土器皿類の編年試案の概要

13世紀後半から15世紀後半までをI～V期に区分して、編年試案を提示した(第26・27図)。I～III期は、2014年度調査の編年試案【今井2017】を用いて説明する。

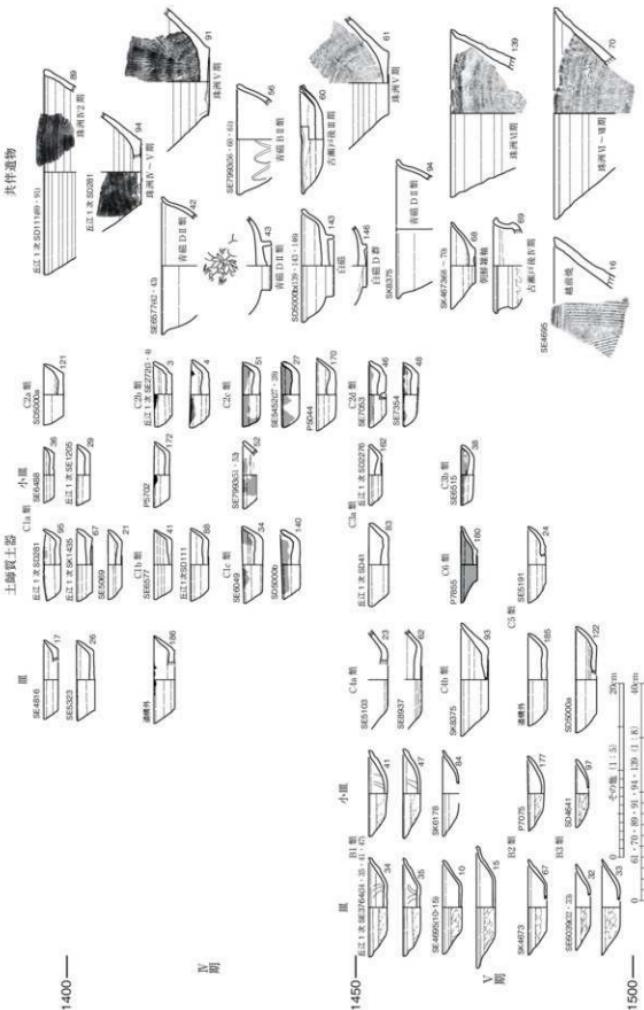
I期 土師質土器皿類は、Ala・b類(170・183)、A2b類(163・187)、小皿A類(5・28)で構成される。皿・小皿とともに、器高指数20前後の浅身で、皿の口径は13cm前後となる。陶磁器の出土は限られるが、III期の珠洲焼が共伴する。丘江遺跡ではこの時期の資料は少なく、13世紀後半に多い白磁皿類皿や上田B1類青磁碗の共伴例もないが、下沖北遺跡と東原町遺跡の資料(第25図)との齟齬は認められない。

II期 土師質土器皿類は、A1c類、A2c類、A3a類、小皿A類で構成される。口径値と器高指数は、皿・小皿とともに1期とさほど変わらない。A1c類は稜線が底部付近に下がり、A1a・b類よりも視覚的にやや深身の印象を与える(81・82)。A2類(23・164)は稜線が消失する。また、平底・箱形のA3類(60・78・122)がこの段階に作る。A3類は、器形の類似性から、板目状圧痕を残す余切底の皿か、阿賀北地方に特有のヘラ切底の皿に影響を受けて成立した可能性が高く、その出現がI期に遡る可能性もある。小皿は、口縁部と底部の境の稜線がなくなる(132・166)。後半段階になると、口縁端部が尖り気味になって内湾するものが増加し、やや口怪が縮小する(124・125)。陶磁器は、IV1・2期の珠洲焼と古瀬戸中皿～IV期の瀬戸・美濃焼が共伴する(167・168)。I期同様、土師質土器皿類と白磁・青磁との共伴関係は不明である。

II期は、土師質土器皿の出土量が増加し、2014年度調査区が盛行期を迎える。

III期 土師質土器皿類は、A1d・e類、A2d・e類、A3b類、小皿A類で構成される。II期で進行した調整手法の省略化により、A1d類(97・113・120)は、稜線が不明瞭になりA1c類よりもさらに深身の印象が強くなる。A1e・A2e類(14・101・135・136)は、とともに稜線が消失し、丸底・楕円形の器形となる。口縁部のヨコナデも雑なものが多い。口径は、13cmを超えるものではなく、II期の後半で増加した12cm前後のものが主体となる。A3類(72・102)は、口縁部が内湾する器形から、外反する器形へと変化する。小皿は、II期までと異なり、A3b類に近い深身の器形となる。陶磁器は、IV2・3期(107・109)及びV期(137)の珠洲焼と、古瀬戸中皿～後I期の瀬戸・美濃焼(105・106)が共伴する。I・II期同様、造構単位での土師質土器皿類と白磁・青磁との共伴例はない。また、下沖北遺跡のようにClα類がV期の珠洲焼と共伴する例があり、14世紀後半～末に土師質土器皿A類とC類が共伴する蓋然性は高いであろう。なお、土師器皿類の一括廃棄が見られるのもこの時期であり、宴席が催されたと推測できる。

IV期 土師質土器皿類は、A類が消滅し、C類のみとなる。先述したように、Cl類は、扁平・浅身で薄作りのClα類(17・21・26・29・36・67・95)からやや深身で厚底のClb(41・88・172)・Clc類(34・52・140)へと型式変化すると想定している。C2類は、シャープで深身のC2a類(121)から、Cl類同様厚底で、粗雑なC2b(3・4)・C2c類(51・27・170)へと変化する。Cl・2類とともに粗雑化に伴い、内湾器形から外輪・外反器形へと変化する。IV期の土師質土器皿類の特質は、口径12cmを超える大形品が多く、遺存度が高いものは例外なくススやタールが付着し、燈明皿として使用されていることである。A類は、皿と小皿のセットでの使用が基本であり、燈明皿に使用された例は少なく、宴席時の使用に問わると推測できる一括廃棄も認められる。ところが、Cl・2類については、そうした痕跡が認められない。このことは、土師質土器皿類が、手づくね成形のA類からロクロ成形系切底のC類へと移行する過程で、使用形態も変化したこと示している。V期では、京都都系第2派の手づくね皿B類が主体となり、再び大・小のセット



第27回 土質土器図類の断年試案2

で使用され、一括廻業も行われる。柏崎市域では、土師質土器皿類のうち、手づくね土器皿類とその影響を受けたC3～C6類のみが饗宴用に使用されたのか、またはIV期には饗宴そのものが催されなかつたのかという、重要な問題をはらむことになるが、現状では証明する手立てがなく、現象面のみの指摘に止めておく。陶磁器は、IV～VI期の珠洲焼(89・91・94)と古瀬戸後Ⅲ期の瀬戸・美濃焼(60)、森田D群の白磁盤・杯(146)、上H DII類(E類)の青磁碗(42・56)が共伴し、陶磁器のバリエーションが増える。また、輸入陶磁器と、瀬戸・美濃焼の出土量がこの時期に一挙に増加する(第24図)。

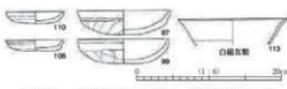
IV期は、土師質土器皿類と陶磁器の組成がIII期から大きく様変わりしており、2014年度調査区が衰退し、2015年度調査区が盛行期を迎えるなど、集落そのものも転換期を迎える。

V期 土師質土器皿類は、B類が出現し、C類との比率を逆転させて皿類の主体となる。また、B類の出現に歩調を合わせるように、土師質土器皿類の大・小セットが再び見られるようになり、一括廻業行為も行われる。B類は、第2派京都系手づくね土器皿類を忠実に模倣したB1類(34・35)から、調整手法の粗雑化により在地化するB2(67)・B3類(32・33)へと型式変化する。B類の型式変化からすれば、3段階に細分可能と考えているが、各型式は重複して出土する場合が多く、変化は漸移的であるため、今回は細かい時期区分をしなかった。C類は、B類の影響を受けて変容し、B類模倣(C3・4・6類)またはB類指向(C5類)へと変化する[水澤2005]。丘江遺跡でのB類の出現に伴う一括廻業行為(饗宴)の再興は、先述した上杉房定の越後への下向と連動している可能性が高く、水澤氏が述べるように[水澤2005]、京都の土器儀礼を取り入れた結果であり、その出現を15世紀中葉に求めるのが妥当と考えている。陶磁器は、VI期以降の珠洲焼(70・139)や、古瀬戸後IV期の瀬戸・美濃焼(69)、越前焼擂鉢(16)、朝鮮雜釉の皿(68)が共伴する。よって、B類とC3～C6類の時期を15世紀後半とすることに矛盾はないと考えている。

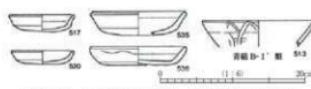
V期は、IV期で生じた土師質土器皿類の組成の組み換えが再び発見している。IV期とV期にみられる土器組成の相次ぐ組み換えは、当地域で14世紀末から15世紀にかけて、めまぐるしい土器様式の変換が起こったことを示している。

2 土師質土器皿類の地域型式について

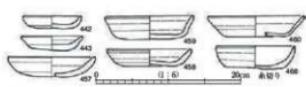
新潟県の中世土師質土器皿類については、品田高志氏が手づくね成形の皿に4つの地域圈(京都系、頸城型、刈羽・三島型、阿賀南型)が存在することを指摘してほしい[品田1997]。これまでの当該期の研究を振り返ると、基本的には、品田氏の提唱した地域圈の枠の中で、個別の検証が進められてきたといえよう[品



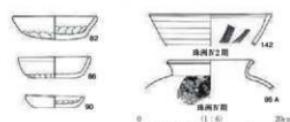
第28図 柏崎市東原町遺跡 SK106出土遺物



第29図 上越市至徳寺遺跡 470号遺構出土遺物



第30図 上越市至徳寺遺跡 419号遺構下層出土遺物



第31図 上越市吉川区寺町遺跡第三次調査

田1996・鶴巻1999・水澤2005]。その過程で、水澤幸一氏により、頭城型及び刈羽・三島型とされた地城型式について、「頭城型と刈羽・三島型は、地域様相として捉えるのではなく、時期差とすべきである」との異論が出されている〔水澤2005〕。

丘江遺跡の土師質土器皿類は、從来刈羽・三島型に分類されてきたものであり、地域様相と解すべきものか時間差とすべきか検証する必要が生じたため、ここで検討する。比較資料として、第28~31図に丘江遺跡周辺と頭城郡の資料を挙げた。

柏崎市東原町遺跡 SK106資料（第28図）は、先述したように13世紀後半に位置付けられ、刈羽・三島型でも古手の資料となる。やや厚手で、口縁部を強くヨコナデして口縁部と体部との境に明瞭な稜線を持ち、底部は丸底となる。口縁端部に面を持たせようとする意識はなく、体部との境を強調させるヨコナデ調整を行う。全体から受ける印象は、古墳時代後期鬼高式土器の土師器杯に類似する特徴を持つ。

上越市至徳寺遺跡は、古代末から中世前半は越後国府城〔佐澤・水澤2001〕、中世後期は守護所〔金子1999・小島1994〕と考えられており、京都系第1・2派の手づくね土器皿類が大量に出土している。

第29・30図に、13世紀中葉~14世紀前半と考えられる資料を掲げた。東原町SK106資料と異なり、全体に薄手で口縁端部に面を持たせることを意識したヨコナデ調整をする。底部は平底に近く、口縁部と体部の境に明瞭な稜線を持たない。後出的な要素を持つ419号道構の土師質土器皿458・459は、本報告のC1c類、457はC2c類、460はA3a類に類似するが、薄手である点で異なる。

第31図には、上越市吉川区寺町遺跡第三次調査から出土した資料を掲げた〔秦1996〕。吉川区は、上越市の北東側、高田平野の外縁地帯に位置し、柏崎平野とは米山山塊を隔てて南西に接する。土師質土器皿82は、品田氏が頭城型とした資料に比定できる。珠洲IV2期ころの擂鉢が伴い、14世紀前半~中葉に位置付けられる。82は本報告のAld類、86はA3a類またはA3b類、90の小皿は稜線が不明瞭で、II期以降の特徴を持つ。これらの資料の比較検討から、以下の結論が導き出せる。

まず、刈羽・三島型は、品田氏が述べるように地城型式として成立するということである。東原町SK106の87と至徳寺遺跡の470号道構535の皿は、口縁部へのヨコナデ調整と器形の点で明らかに異なっており、品田氏が想定するように、そもそも技術系譜の出自が異なる可能性がある〔品田1996〕。むしろ、阿賀北地域に特微的な底部へラ切の土師質土器皿類の分布が、加地・豊田・白河莊の範囲に収まり、莊園領主層との関係が想定されている〔鶴巻1999〕のと同様に、刈羽・三島型の分布が、柏崎平野の領域支配~越後毛利氏や国領等などのように関わるかを考えていく上でも、より詳細に検討していく必要があろう。

一方、頭城型82の皿は、小形・深身の丸底で指頭圧痕が明瞭であること以外は、至徳寺遺跡419号道構の459と器形の点で大きな違いは認められない。時期が下るにつれて、調整が粗雑化し、口径値が縮小することは、丘江遺跡の資料でも認められることから、82に指頭圧痕が目立つ点は、調整の粗雑化によるものと考えられ、口縁端部に面を持つことや薄手である点は、基本的には京都系の型式変化の中で理解可能である。よって品田氏が型式設定に用いた資料では頭城型は成立せず、頭城型を京都系の中での時期差とした水澤氏の意見に賛同する。高田平野の13~14世紀の資料がはっきりせず、具体的な検証が難しい状況にあるが、現状では、頭城郡は京都系土師質土器皿類の分布域とするのが無難であろう。

ただし、品田氏が頭城型とした土師質土器皿がかなり個性的な特徴を持つことも事実であり、それらの資料が高田平野の外縁地帯で、柏崎平野に隣接する上越市吉川区と柿崎区を中心に分布することは、留意する必要があろう。両地域の折衝地帯における地城型式として設定できる可能性も残すべきと考える。

3 掘立柱建物の形式について

丘江遺跡の掘立柱建物は、総柱型掘立柱建物、梁間2間型側柱掘立柱建物、梁間1間型側柱掘立柱建物に大別される（第10図）。ここでは、住居と推定している長方形基調の掘立柱建物から出土した遺物や、遺構の重複関係、建物周辺の遺構の構築状況から、建物形式の時期的位置付けと変遷について検討する。

A 掘立柱建物の時期的位置付けと変遷

総柱型掘立柱建物 本報告分類案のI類が対象となる。建物同士の重複関係では、同じ総柱型掘立柱建物I類のSB9177とSB9178・9198が重複する。SB9177は、ピットの切り合いでSB9178よりも古いことが判明している。また、梁間1間型側柱掘立柱建物I類のSB9173との重複関係においても、SB9177が古い。SB9177は、SB9178の柱穴から森田D群の白磁皿が出土していることと、15世紀代の遺物が出土したSE7354やSK7433とも重複していることから、15世紀以前に位置付けられる。SB9198は、SB9178・SK7433と重複し、15世紀前半のSE7053に切られるSD5348と梁間の軸方向が一致することから、SB9177同様に15世紀以前に建てられた可能性が高い。よって、丘江遺跡での総柱型掘立柱建物I類の出現は、編年試案のⅢ期以前、13世紀後半～14世紀前半まで遡ると考えられる。II類とした倉庫様の掘立柱建物については、機能的な面を重視すれば、各時期に存在したと考えられる。事実、SB9168のピットが梁間1間型I類のSB9165や梁間2間型I類のSB9249のピットを切っており、SD5348と重複するなど、丘江遺跡の掘立柱建物の中でも新しく位置付けられるもののが存在する。

梁間2間型側柱掘立柱建物 本報告分類案のI類が対象となる。2014年度調査区の主要な建物形式であり、2015年度調査での検出例は少ない。2015年度調査では、SB9164やSB9166などがある。総柱型掘立柱建物I類と主軸方向が一致または近似している。主に2014年度調査区で検出されていることから、編年試案のII・III期に建てられたものが多いと考えている。

梁間1間型側柱掘立柱建物 本報告分類案のI・II・II'類が対象となる。2015年度調査で最も多く検出した掘立柱建物形式である。2015年度調査区が編年試案IV期以降に盛行すること、14世紀末以降に掘削したと考えている区画溝SD5000a・b、SD7531・7596と主軸が一致、または近似するものが多いことから、編年試案IV期以降に主体的な建物形式と想定している。また、桁行間の柱間が長いII類及びII'類の周辺には、編年試案V期の井戸や土坑が多く構築されており、SB9118の柱穴から越前焼撞鉢片が出土していることから、II類とII'類は、編年試案のV期ころに出現した可能性がある。

以上の検討から、丘江遺跡での掘立柱建物の変遷は、編年試案のIII期まででは、総柱型掘立柱建物I類と梁間2間型側柱掘立柱建物I類が主体となる。

IV期は梁間1間型側柱掘立柱建物I類が出現して、総柱型掘立柱建物I類及び梁間2間型側柱掘立柱建

第32図 丘江遺跡における掘立柱建物形式の変遷案

物Ⅰ類に代わって主体的な建物形式になり、V期には梁間1間型側柱掘立建物Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類が出現して、Ⅰ類と併存すると想定している（第32図）。

B 梁間1間型側柱掘立柱建物Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類について

梁間1間型側柱掘立柱建物Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類の特徴は、純柱型掘立柱建物Ⅰ類と梁間2間型側柱掘立柱建物Ⅰ類よりも桁行の柱間が長く、柱穴掘形と柱が相対的に大きいことである。柱間と掘形、柱の大きさは相間関係にあり、柱間が間延びしたことに対する梁・屋根などの加重を軽減する目的で柱を太くしたと想定している。Ⅲ類のように、柱穴間に補助柱を組み入れるのも、同様の対策であろう。このような特徴を持つ建物は、これまで県内の中世遺跡では明瞭ではなく、近世の遺跡でいくつかの類例がある。

類例は、新潟市江内遺跡〔春日1996〕でⅠ・Ⅱ類が、上越市子安遺跡〔野村2009〕でⅠ・Ⅱ・Ⅲ類がある。いずれも、17世紀以降に建てられたもので、丘江遺跡の建物とは100年以上の隔たりがあるため、直接の比較は難しい。しかしながら、建物の大きさや、柱穴配置、掘形・柱の大きさは非常に似通っていて、16世紀代の建物形式がより明らかになれば、丘江遺跡の梁間1間型側柱掘立柱建物Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類と、これに類似した近世の建物が系譜的につながる可能性もある。そうした意味でも、井戸状造構が掘立柱建物の柱穴になる可能性を考えながら、注意して調査・検討していく必要がある。

4 井戸について

本報告では、井戸を大きさと平面形状により、2類型に大別した（第12図）。多くを占めるのは、平面形が円形または梢円形で、直径が0.8～15m、深さ1.0～15mほどのA1類とした素掘りの井戸である。大きさと断面形状は相間関係にあり、直径1mを超えないものは、ほぼ直掘りで、断面形状が箱状またはU字状となる。これは、平面形が円形・方形基調どちらであっても変わらない。一方、A21類とした直径が2mを超えるものは、例外なく断面形状が階段状となる。断面形状の違いは、掘削方法を反映していると考えられ、大形の井戸は、ある程度掘り進めた段階で中に入って足場を固めながら掘り進めた結果、階段状となるのであろう。人が井戸の中に入って作業ができるほど小形のものは、柄の長い道具などを利用して掘ったため、垂直に近い断面形状になったと考えられる。平面形状が円形・方形基調2種類あることについては、平面形状に何らかの意味を持たせた結果なのか、掘削方法の違いなのか答えを見いだせない。

埋土の堆積状況についても、大形の井戸と小形の井戸で違いがある。大形の井戸は、すべて自然堆積で、埋め戻した痕跡が認められない。他の井戸とは離れた位置に構築されていること、埋め戻した痕跡がないことから、大形の井戸は、長期間使用することを前提に掘削されたと想定している。一方、小形の井戸は、重複が著しく、埋め戻した痕跡も多い。これは、加藤学氏が指摘するように〔加藤2006〕、井戸の掘削を繰り返して行った結果、近接して掘削された井戸の排土が古い井戸に投棄されたことを示すものであろう。

なお、2014・2015年度とともに、井戸内の植物遺存体の種実同定を実施した。その結果、イネ、オオムギ、ヒエ、アワ、ソバ、アズキ類、トウガル、ヒヨウタン類、メロン類、ナス、エゴマ、シソ属、ゴマなどの栽培種が2014年度で全体の6割、2015年度で4割を占める割合で検出されている（第VI章参照）。栽培種が高比率で複数種類検出されたことは、周辺で畑作が行なわれた可能性を示している。湧水点に届かない場所で、繰り返し多数の井戸が掘られた要因として、畑作などに利用する場合があったこととも考慮する必要があろう。なお、4区SE6001と5区SE5827から、寄生虫卵（回虫卵、便虫卵）が検出されており（第VI

章参照)、井戸の中には、トイレまたは烟作用の肥溜めとして使用された遺構も含まれている可能性がある。

5 墓坑について

副葬品の存在から、確実に墓と認定できる遺構は、SK8000とSK8809である(図版90・119・153)。ともに数珠玉が出土しており、SK8809には骨片混じりの炭塊が充填されていたことから、仏式による埋葬が執り行われたと考えられる。2014年度調査では「南無阿弥陀口」・「口妙蓮口」と墨書きされた土師質土器皿が出土しており、仏教行事がこの時期一般にかなり普及していたことが推測できよう。

ここで問題となるのが、SD5000aの底面直上で検出されたSK8809である。Ⅳ章で述べたように、墓坑掘削時に区画溝を意識して掘り込まれたと考えられる。蓋直に解釈すれば、溝の機能停止後に墓が掘り込まれたと考えたいが、集落の発達は溝が機能していた段階であり、埋め戻した痕跡もない。墓坑の底面とSD5000aの底面の標高がほとんど変わらないことは、墓の掘り込み面が溝の検出面よりもかなり下であることを示している。墓坑には、水堀通宝が供獻されており、出土遺物からも、墓が作られた時期を集落の存続期間内とすることに問題はない。

以上、墓坑の検出状況と共伴遺物から、溝の機能時に墓が作られた可能性を提示した。溝内に墓を作る意図を掴みかねるが、ここでは、区画溝が集落にとって大きな意味を持ち、そのため、儀礼的な意味合いでこのような選定がなされたとしておく。

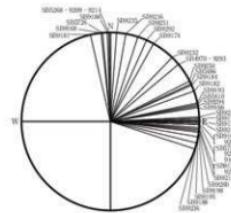
6 丘江遺跡の集落構造と変遷

縦年試案と掘立柱建物の時期区分に基づいて、丘江遺跡における集落構造と変遷について述べる。なお、丘江遺跡の発掘調査は現在も継続中であり、ここでの見解は、今後の調査の進展如何によっては、変更する部分もある。建物の時期比定は、3項での検討に、区画溝と建物方位(第33図)を加味して、所属時期を決定した。

I期 2014年度調査区(1~3区)では、II・III期の土器が出土したSD1540に埋されているSD1211・2462(2区)をI期に位置付けた。この溝は、L字状に調査区外に延びており、方形区画溝と想定している。そして、これらの溝と方位がそろう区画内外の掘立柱建物をI期に位置付けた。よって、I期は、2区周辺に方形区画溝に囲まれた居住地が形成されたと考えている(第34図)。

2015年度調査区(4~8区)は、最も古い籠柱型掘立柱建物SB9177に方位がそろう掘立柱建物と、方形区画にはならないが、区画溝としての機能が考えられるSD5348(5区)をI期に位置付けた。2014年度調査区北東側(1区)と、2015年度調査区の南半(6~7区)は、遺構密度が低く閉散としている。

II期 2014年度調査区が最盛期を迎える、1区の一辺40m四方の溝によって連結された方形区画内に、多数の掘立柱建物が構築される。2014年度調査区は、III期までこの状況が続く(第34図)。2014年度調査区の報告では、建物方向と区画溝や建物周辺の遺構から出土した遺物を用いて、建物群を4グループに分けている[今井2017]。区画溝の連結部分が、III期の遺物が出土したSD496(1区)に埋されているため、

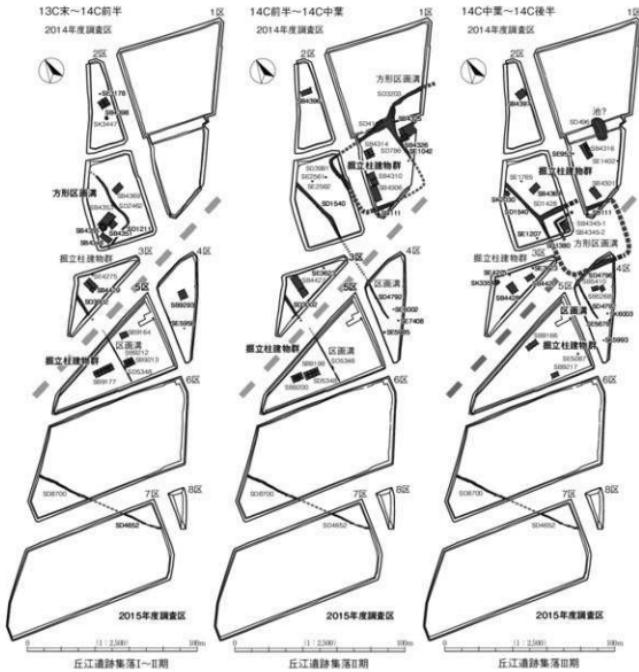


第33図 掘立柱建物主軸方位分布図

連結された区画溝と建物方向がそろう区画内の建物をⅡ期に位置付けた。なお、方形区画と並行する溝SD1540(2区)は、一回掘り直されており、古い溝がⅡ期に、新しい溝がⅢ期に位置付けられる。

2015年度調査区は、Ⅰ期同様2014年度調査区に比べ造構・遺物ともに少なく、建物の詳細な時期比は困難であるが、2014年度調査区のSD1540と接続すると考えたSD4792(4区)と、Ⅰ期から存続すると捉えたSD5348に方位がそろう建物を、造構との重複関係や建物形式を考慮して抽出した。また、仏堂の可能性があるSB9200(5区)をこの時期に位置付けた。Ⅱ期の丘江集落の特徴は、区画を移動させながらもⅠ期同様、集落北半の2014年度調査区のみに方形区画溝で囲まれた居住地が存在し、南半の2015年度調査区には方形区画溝が存在せず、造構もまばらな点にある。この差は、建物数と造構数、及び遺物の出土量と組成(第23・24図)にも明瞭に表れており、両調査区は、極めて対照的な様相を示している。

Ⅲ期 基本的な造構配置は、Ⅱ期を踏襲するが、連結していた方形区画溝の位置を南に移動させて、区画溝が単独となり、区画内にさらにL字状の区画溝が掘削される(第34図)。この段階で、2015年度調査区は、区画溝SD5348がなくなり、大形の掘立柱建物も姿を消す。ただし、柱穴出土遺物からⅣ期と

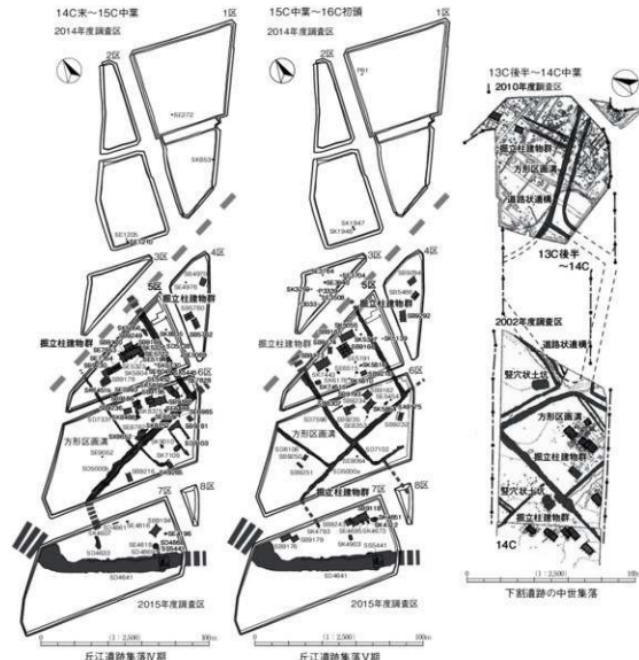


第34図 丘江遺跡集落の変遷1 (I～III期)

したSB9178は、建物形式からこの段階に存在した可能性もある。今井昭俊氏は、二重区画内に建てられたSB4345(2区)を、宗教施設と推測されている宝積寺館跡で検出された「周溝建物」と同様の機能を持った施設とみている〔今井2017〕が、有力者層の主屋の可能性もある。L字状区画溝SD1380(2区)に、儀礼に伴う土師質土器皿類の一括発掘が認められることや、方形区画溝の北東に池泉の可能性があるSD496(1区)があることから、宗教施設・主屋いずれの可能性もある。

Ⅳ期 丘江遺跡の遺構配置が大きく様変わりする時期である(第35図)。方形区画内を居住地とする基本構造は変わらないが、Ⅲ期まで遺構密度が低かった2015年度調査区の南半(5・6区)に方形区画を移設し、2014年度調査区(1~3区)が開放となる。また、方形区画は、長方形基調となり、一辺50mを超える規模に拡大して、再び連続構造となる。区画溝の幅は、最も拡張して堀状となる。このため、面形状も階段状に変化する。溝を拡張して深く掘り下げる傾向はⅡ期以降徐々に強まり、Ⅳ期で幅4m、深さ1.3mを超えるまでになる。

Ⅲ期までは井戸等の建物以外の造構は区画外に構築される例が目立つ(第34図)が、Ⅳ期になると井戸



第35図 丘江遺跡集落の変遷2(IV・V期)及び上越市下割遺跡の13~14世紀の集落

や土坑が区画内に多数掘削され、建物の重複も著しくなる（第35図）。長方形区画の採用も、区画内への集住に対処したものであろう。また、居住地を拡張したためか、調査区南端（7区）の旧流路 SD4641 の右岸に階段状施設（SS5441）を構築して、水利の便を図っている。大形の堅穴状造構（SK7451・7109など）の出現もこの時期にあり、Ⅳ期における方形区画の拡張は、区画内に多くの人員を収容し、日常生活に必要な施設と機能を集約させる必要が生じたためと推測している。なお、大形の堅穴状造構は、建物から離れて区画溝に近接する場所に作られており、ある特定の用途－例えば洗馬など－に供されたと考えている。

輸入陶器が増加するものこの段階以降であるが、反面、土師質土器Ⅲ類は、燈明皿としての小皿以外激減する。一方で、瀬戸・美濃焼の香炉や茶臼が出土していることは、Ⅳ期の段階で茶の湯が武家階層以外にも取り入れられていたことを示しており、集落内に相応の実力者が居住していた状況を示している。

Ⅴ期 集落構造は、Ⅳ期を踏襲する（第35図）。区画溝は、この段階で再掘削したと判断したが、Ⅳ期にくらべて溝幅・深さとも縮小し、断面形も弧状となっている。造構はやや減少傾向にあるが、それまでほとんど居住地としての利用がなかった調査区南端の7区に新たな区画を作り、大形の建物 SB9118 を水利に適した階段状施設（SS5441）の近くに構築している。集落構造の面では、居住地を南へ拡張したこと以外は、Ⅳ期との大きな違いは認められないが、土師質土器Ⅲ類の使用においては、大・小セットでの使用と一括廃棄の再興があり、大きな変化が生じている。また、土器の様式変化の背景になったと考えられる京都の土器儀礼が再導入されているように、越後府中を通じて京の文化や生活様式が流入したと考えられ、今後の検証が必要であるが、建物形式にⅢ類とⅣ・Ⅴ類が出現する契機となった可能性もある。

以上、簡単ではあるが丘江遺跡の集落構造と変遷について検討した。これに、先述した土器様式の変化を照合すれば、Ⅲ期とⅣ期の間に大きな二期を設定できよう。この二期は、集落構造、土器様式双方の変化を伴っており、これまでほとんど注目されてこなかった在地領主層の居所すなわち方形居館以外の中世の集落動向を探るうえで、注視すべき現象といえよう。

7 丘江遺跡と周辺地域の遺跡との比較検討

ここでは、丘江遺跡の集落構造と変遷が、隣接地域で普遍的に認められるかについて検証する。比較対象としたのは、頸城郡の上越市下削遺跡及び寺町遺跡と、柏崎市域の例として挙げた柏崎市馬場・天神腰遺跡の3遺跡である。いずれも、居住地を方形区画溝で囲う。下削遺跡は、出土土器の年代観から、13世紀中葉～14世紀代にかけて存続した集落と判断できる【山崎2003b・石川2012】。寺町遺跡は、12世紀～15世紀の遺構と遺物が検出されており、遺跡の消長が丘江遺跡とはほぼ一致している【山崎1993・1996】。

下削遺跡は、高田平野中央部東に位置し、飯田川左岸に立地する。数次に及ぶ調査が実施されており、居住域の全体像がおおよそ把握できる。集落内外を往来するための道路状造構を基準に、区画溝を連接させた方形区画の居住域が、現在の土地区画整理のように広範囲に設定されている【山崎2003b・並澤2004】。

第35図に2002年度調査区と2010年度調査区を合成した図面を掲載した。これをみると、一辺50m程度の方形区画内に掘立柱建物群や井戸を近接して配置し、周囲には広い空閑地を置いていることが理解できる。この構造は、丘江Ⅲ期までの状況と類似しており（第34図）、13世紀後半～14世紀に連結（連接）方式による方形区画溝からなる居住地の区画が、隣接地域でも採用されていたことが理解できよう。出土遺物の年代観から、丘江遺跡同様に居住地の移動もあったようで、東（2010年度調査区）から西（2002年度調査区）への変遷が想定できる。異なる点は、下削集落の区画が丘江遺跡の区画より一回り大きいこと、

大型竪穴土坑がこの段階に伴うこと、梁間一間型側柱掘立柱建物が主要な建物形式となっていることがある。下削遺跡の梁間一間型側柱掘立柱建物は建物の柱穴が小さく柱間も狭いことや、遺物に土師質土器皿類が少ないと相違点として挙げられる。両者の区画規模や建物形式、及び造構構成と遺物組成の違いは、集落の階層や機能、または地域差を表している可能性があろう。

寺町遺跡は、丘江遺跡や下削遺跡のように区画溝を全周させて方形区画を作らない点で異なるが、L字状の溝などで居住地を一辺40m四方の範囲で囲んでおり、区画規模が丘江遺跡に類似する。建物形式に純柱型掘立柱建物や梁間二間型側柱掘立柱建物が定量みられること、土師質土器皿類が多い点は、丘江遺跡に近い。頸城郡でも柏崎平野に隣接する吉川区に所在していることに関連する現象であろうか。土師質土器皿類の器形が丘江遺跡のA1c類に近い点（第31図-82）も注意されよう。また、15世紀になると、茶の湯に関係した遺物や陶磁器類の増加が認められ、この点も丘江遺跡と共通している。

馬場・天神腰遺跡は、概要が品田高志氏により公表されている〔品田2004〕。遺跡は、毛利氏から分家した北条氏の拠点である佐柳荘内の北条に所在する。遺跡の最盛期は13世紀～14世紀であり、丘江遺跡の前半期に並行する。魚沼方面へと続く交通の要衝に立地し、地頭や莊官、国人領主層が主導して道路状造構を基準に土地区画整理をし、都市的な機能を集約させた遺跡と評価されている。また、15世紀には、堀を構えた居館に変貌することも合わせて指摘されている。馬場・天神腰遺跡の集落構造と変遷は、集落の造営主体と機能が異なるものの、丘江遺跡の状況に酷似している。とくに、丘江Ⅲ期とⅣ期の区画あたりに、遺跡が居館へと変貌しており、丘江遺跡の方形区画の移設・拡張、及び溝の大型化と歩調が合っている。領主階級が関わったと評価される集落の構造や変遷が、下位の集落と期を一にしている状況は、Ⅳ期ころを境に在地領主層の指導の下、支配領域内の集落再編が進められた可能性を示すものであろうか。

以上のように、丘江遺跡と同様の集落構造をもち、変遷する遺跡が複数存在することが明らかとなった。鎌倉時代以降、丘江遺跡のような集落が隣接地域に普遍的に存在していたことが肯定できよう。

8 柏崎市域における丘江遺跡の位置付け

丘江遺跡の集落構造や変遷、土器様式の変化は、柏崎地域における中世領民層の日常生活の諸様相を示すものである。特に、存続期間を通じて方形区画された居住地とそれ以外の居住地・空閑地が明確に分けられていることは、当時の集落景観を考える上でも示唆的である。

2か年の調査で、各調査区の造構から高比率で栽培種の種実と寄生虫卵が出土しており、直接畑作の痕跡を示す造構は明瞭でないものの、水溜用の井戸や肥溜めを設置して空閑地で操作をしていた可能性を示している。稲作と並んで雑穀の栽培が重要な食糧確保の手段となっていたのであろう。これは、鉄鍋や擂鉢の普及により、雑穀などの煮る料理や粉食が一般化し、食生活が変化したこととも無縁ではなく、鉄鍋片と考えられる遺物と多くの擂鉢の出土はその表れであろう。

中世の越後の集落には、散村〔坂井1999〕や領主層の居館だけではなく、家や家族を単位〔坂井1999〕としながらも、丘江遺跡のように区画された広い居住地をもち、空閑地を共同の畠地として利用する、集住集落の存在が想定されるのである。

次に、柏崎市域の当時の社会情勢から、遺跡の変遷をどのように評価できるか考えてみたい。

田村裕氏は、越後国の地頭職に鎌倉幕府につながる家名や源氏一族が多く、それまでの在地領主名が少ないことから、鎌倉時代の越後は幕府の強い管轄下にあり、宝治合戦（1247）以降は北条得宗家の支配下

に置かれたとする〔田村1987〕。この時期の佐橋荘では、大江広元を祖とする越後毛利氏が地頭職を安堵されており、以後毛利氏の一族が佐橋荘及び鶴河荘の統治を進めていく。

毛利氏が佐橋荘の地頭を安堵されたのは、13世紀後半であり、丘江遺跡周辺で次々に集落が成立する時期である。柏崎市域周辺で方形区画溝が出現するのも多くはこの時期以降であり、武士階層による領地支配政策の過程で出現すると考えられる。宇野隆夫氏は、氏が方形居館3型とする濠構えの居館の発信源を鎌倉得宗政権とする〔宇野2001〕。当地で方形区画溝が出現した背景には、領主層が自らの宅地に鎌倉の屋敷構造を取り入れ行く中で、領地内に集住形態を整えるための手段として採用した可能性があろう。

一方、この時期に田坂山遺跡群のような仏堂や宗教施設を丘陵上に構築していることは、思想面での領内統治を図ったためであろうか。田坂山の仏堂は、不退寺以前の在地領主層の氏寺の可能性が指摘されている〔品田1996〕が、領主である毛利氏が宗教上の統制を図るため、領民が仰ぎ見ることができる高台に仏堂などを構築した可能性もある。題目を記した墨書き土器の出土は、鎌倉仏教の思想が庶民へ浸透していたことを示している。

14世紀前半以降は、方形区画に連結構造が採用され、14世紀末には区画が拡大して溝が大型化する。鎌倉幕府滅亡（1333）とそれに続く南北朝の動乱（1336～1391）が契機となった越後国内の動乱〔田村1987・1999〕による政情不安が背景にあり、防衛的な面での対応と考えられないだろうか。この時期に、土師質土器皿類の一括廃棄行為が衰退し、15世紀後半の上杉房定の守護職就任による政局の安定まで、遺跡内で土師質土器皿を使用した儀礼行為がみられない点も不安定な情勢と無関係とは思われない。現状では、中世の柏崎市域を記した文献資料に乏しきため、具体的な当地の情勢を知りうる情報が乏しいが、丘江遺跡の集落構造の変遷とその背景についてこのように評価しておく。

要 約

- 1 「丘江遺跡Ⅱ」は、国道8号柏崎バイパスの建設に伴い、2015年度に実施した丘江遺跡の発掘調査報告書である。2015年度の調査面積は14,016m²である。
- 2 丘江遺跡は柏崎市茨芋3丁目ほかに所在する。遺跡は蜻蛉川左岸の沖積地微高地に所在し、旧状は水田・宅地・工場地であった。
- 3 調査の結果、鎌倉時代から室町時代の集落跡が検出され、土器・陶磁器、石製品、木製品、金属製品、ガラス製品、獸骨が出土した。
- 4 造構は掘立柱建物47、井戸・土坑・竪穴状造構・溝・ピットを多数検出したほか、墓坑2基、石塔類を転用した階段状造構を検出した。
- 5 鎌倉時代～室町時代の土器・陶磁器には土師質土器・青磁・白磁・朝鮮陶器・瀬戸焼・美濃焼・珠洲焼・越前焼がある。土器・陶磁器の多くは14世紀末～15世紀に所属するものである。共作した陶磁器や柏崎市下沖北遺跡・東原町遺跡の調査成果などを基に13～15世紀の土師質土器をI～V期に細分する編年案を示し、IV期（14世紀末～15世紀中葉）に土師器皿の製作技法や使用量に大きな変化があることを指摘した。またII期（14世紀前半～中葉）とIII期（14世紀中葉から後半）の土師質土器の地域性検討し、土師質土器皿・小皿の地域性が在地の政治勢力と関連する可能性を指摘した。
- 6 石製品は砥石・硯末品・神像・五輪塔・宝鏡印塔・石鉢・石臼・茶臼・管玉・アメリカ式石歛・磨製石斧などが確認できる。管玉・アメリカ式石歛は弥生時代のものである。
- 7 木製品は漆器椀・箸・曲物・独楽・簀申・数珠玉・柱根・杭などが出土した。鉄製品は刀子・鎌・自在鉤・釘・鉄鍋などが出土した。鎌は2点出土しており2点とも茎をもつタイプのものである。刀子は階段状造構から出土したものがある。ガラス製品は数珠として使用されたと推測されるガラス玉がある。
- 8 獣骨は形状から考え馬の可能性がある。竪穴状土坑の検出例と合わせ集落内で馬が飼育されていた可能性が高い。
- 9 I～III期（13世紀末～14世紀後半）に主体がある2014年調査区の掘立柱建物と、IV・V期（14世紀末～16世紀初頭）に主体がある2015年の掘立柱建物の形態を比較し、①I～III期には櫛柱建物・梁間2間型建物が主体であったものがIV・V期には梁間1間型建物主体に変化すること、②IV・V期（14世紀末～16世紀初頭）には井戸と認証するほどの大型の柱穴が存在すること、③V期（15世紀後半～16世紀初頭）には桁行の柱間が拡張するタイプ（梁間一間型II型）と大型の柱穴の間に小型の柱穴を配するもの（梁間一間型II型）が出現すること、を明らかにした。
- 10 建物の柱穴や建物を区画する溝から出土した土器・陶磁器の年代、建物・溝の主軸方位を基に、2014年度の調査成果も含め、13世紀から15世紀の集落の変遷を検討した。検討の結果、①I期（13世紀末～14世紀前半）に区画溝を伴う建物跡が出現すること、②II期（14世紀前半～中葉）に一辺40mの方形区画を持つ区域が成立すること、③III期（14世紀中葉～後半）には方形区画が南に移動すること、④III期以降2014年度の調査区内では集落は衰退し、IV期（14世紀末～15世紀中葉）の方形区画は2014年調査区の南に隣接する2015年度調査区に移動すること、⑤V期（15世紀中葉～16世紀初頭）には集落域が拡大すること、⑥II～IV期の区画溝は時期が下るにつれ規模を拡大しており、II期（14世

- 紀前半～中葉）には幅1mであったものが、Ⅲ期（14世紀中葉～後半）には幅3m（以上）となり、Ⅳ期（14世紀末～15世紀中葉）には幅4mとなること、⑦Ⅳ期には方形区画の拡大や竪穴状造構・階段状施設が出現するなど大きな変化がみられること、など明らかにした。
- 11 建物・井戸・竪穴状造構・区画溝以外の遺構で注目できる遺構として階段状施設がある。階段状施設は河川の斜面に五輪塔・宝鏡印塔などの石塔類を転用して構築したものである。石塔は米山に分布する凝灰岩を用いたものが定量存在する。なお、五輪塔の火輪はいずれも空風輪を差し込む孔が無いタイプのものである。
 - 12 遺跡の成立は鎌倉幕府の御家人である越後毛利が柏崎地域に入部することと関連し、集落の方形区画の採用も越後毛利氏と関連する可能性が高い。また、丘江遺跡の土師器皿類と集落の変遷は、ともにⅣ期（14世紀末～15世紀中葉）に大きな変化がみられるという点で一致するが、これは南北朝の争乱を経て15世紀後半の上杉房定越後守護就任までの間の政情が不安定な状況と関連すると考えた。
 - 13 出土遺物には茶臼や、馬の可能性がある獸骨などが存在するが、陶磁器に優品は少なく瓦器の出土も少ない。また土師質器皿類の大量廃棄遺構も確認できない。検出した最も大型の建物の面積は73m²である。これらのことから、丘江遺跡は越後毛利氏中枢ではなくこれより階層的に下位の集団が営んだ集落遺跡と考える。
 - 14 自然科学分析は花粉分析・種実同定・樹種同定を行った。花粉分析は、2014年度と同様に木本花粉に比べ草本花粉が卓越し草本花粉の中ではイネ科の植物の花粉が多く検出されている。種実同定ではイネ・ナス・エゴマ・アサ・クリ（の果皮）などを多く検出したほか、オオムギ・コムギ・ソバ・マメ科（アズキ類・ダイズ類）・カキノキ・ナシ属なども検出した。花粉分析・種実道程の結果から集落周辺には水田や畑地などが広がり、多様な植物が栽培されていたことが推測できる。なおクリは実を食用にするほか幹を建築材として、カキノキは未熟果から搾汁した柿渋が防水効果を高める塗料として使用可能である。樹種同定では柱根はクリ、漆器碗にはブナ属が多く使用されたことを明らかにした。

引用・参考文献

- 飯坂盛泰ほか 2015 「新潟県埋蔵文化財調査報告書第 252 集『宝田遺跡』新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川智紀 2010 「第Ⅵ章まとめ」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 230 集 下割道路Ⅴ』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川智紀ほか 2012 「新潟県埋蔵文化財調査報告書第 241 集 山崎遺跡」新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 伊藤啓雄 1999 「第Ⅱ章 道路の位置と環境」「角田遺跡」柏崎市教育委員会
- 今井昭俊 2017 「第Ⅷ章 まとめ」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 275 集 丘江遺跡Ⅰ』新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No.2 貿易陶磁研究会
- 宇野隆夫 2001 「莊園の考古学」青木書店
- 大野隆一朗・徳間正一ほか 1990 「大地」「柏崎市史」上巻 新潟県柏崎市史編纂委員会
- 萩野正博 1986 「越後国中世莊園の成立」『新潟史学』第 16 号 新潟史学会
- 柏崎市史編さん委員会 1982 「柏崎市史資料集」考古編 2 柏崎市
- 柏崎市史編さん委員会 1984 「柏崎市史資料集近世編Ⅰ」上 柏崎市
- 柏崎市史編さん委員会 1987 「柏崎市史資料集」考古編 1 柏崎市
- 春日真実 1996 「第Ⅸ章 まとめ」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 76 集 江内遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2015 「Ⅱ 道路の位置と環境」「新潟県埋蔵文化財調査報告書第 254 集 箕輪遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学 1999 「第Ⅷ章 1 遺構」「新潟県埋蔵文化財調査報告書第 93 集 和泉 A 遺跡」新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学 2006 「第Ⅳ章 1 遺構 B 中世（Ⅲ～Ⅳ期）の遺構」「新潟県埋蔵文化財調査報告書第 159 集 用言寺遺跡Ⅰ」新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財事業団
- 金子拓男 1990 「第 6 章 第 3 節 三島郡の分立」「柏崎市史」上巻 新潟県柏崎市史編さん室
- 金子拓男 1999 「守護所とその周辺」「新潟県の考古学」新潟県考古学会
- 小島幸雄 1994 「伝至德寺跡の調査」「日本歴史」556 吉川弘文館
- 坂井秀弥 1999 「中世越後の村・家・住まい」「中世の遺後と佐渡」高志書院
- 水澤正史・水澤幸一 2001 「古至德寺跡の遺物様相」「上越市史研究」第 6 号 上越市史専門委員会
- 水澤正史 2004 「古代から中世へと続く道」「中世の道を探る」高志書院
- 品田高志 1990 「2 历史的環境と遺跡群」「吉井遺跡群Ⅱ」柏崎市教育委員会
- 品田高志 1991 「小見石中世墓地における埴輪群とその変遷」「小見石」柏崎市教育委員会
- 品田高志 1996 「Ⅱ 田塚山遺跡群と環境、Ⅳ 考察 2 田塚山の中世仏堂と墳墓」「田塚山遺跡群」柏崎市教育委員会
- 品田高志 1997 「越後国における土師器の変遷と諸相」「中・近世の北陸－考古学が語る社会史－」北陸中世古代土器研究会
- 品田高志 1999 「越後における中世後期の土師器Ⅲ－京都系土師器第 2 波の流入と展開－」「中世土師器の基礎研究」XIV 日本中世土師器研究会
- 品田高志 2001 「Ⅱ 環境 調査の成果と課題」「柏崎市埋蔵文化財調査報告書第 3.8 集 柏崎町」柏崎市教育委員会
- 品田高志 2004 「越後国佐倉莊の中世古道と町並み」「中世の道を探る」高志書院
- 上越市史編さん委員会 2002 「上越市史」資料編 3 中世 上越市

- 田村 裕 1987 「第一章鎌倉武士と莊園 第二章国人と守護」『新潟県史』通史編2 中世編 新潟県
- 田村 裕 1999 「越後における南北朝の動乱」「中世の越後と佐渡」高志書院
- 鈴木信夫 1989 「土地分類基本調査 岑崎・出雲崎」新潟県
- 鶴巻康志 1999 「土師器からみた中世の小地域圖－阿賀北地方を中心に－」『中世土器の基礎研究』 XI Ⅲ 日本中世土器研究会
- 水井久美男 1996 「日本出土銭範観 1996年度版」兵庫埋蔵鉄調查会
- 新潟県 1982 「新潟県史」資料編3 中世一 文書編I
- 新潟県 1983 「新潟県史」資料編4 中世二 文書編II
- 新潟県 1984 「新潟県史」資料編5 中世三 文書編III
- 野村忠司 2009 「第IX章 まとめ 第4節近世」「子安道路」上越市教育委員会
- 秦 繁治 1993 「寺町道路第一次発掘調査報告書」吉川町教育委員会
- 秦 繁治 1996 「寺町道路第三次発掘調査報告書」吉川町教育委員会
- 藤澤良祐 2002 「瀬戸・美濃大窯場年の再検討」「(財)瀬戸市埋蔵文化財センター紀要」第10輯 瀬戸市埋蔵文化財センター
- 藤澤良祐 2008 「中世瀬戸窯の研究」高志書院
- 水澤幸一・鶴巻康志 2003 「第1章中世 第2節道路と遺物 9至徳寺道路」「上越市史叢書8 考古－中・近世資料－」上越市史専門会考古部会
- 水澤幸一 2001 「15世紀中葉～後半における北東本海沿岸地域へのやきものの搬入時期－越後江上館を中心として」『中世土器研究論集』中世土器研究会20周年記念論集
- 水澤幸一 2005 「越後の中世土器」『新潟考古』第16号 新潟考古学会
- 森田 鮎 1982 「14～16世紀の白磁の分類と編年」「貿易陶磁研究」No.2 貿易陶磁研究会
- 宮本長二郎 1998 「獨立柱建物の出現と展開」「先史日本の住居とその周辺」同成社
- 矢田俊文 1999 「戦国期越後の守護と守護代－上杉房定と長尾為景－」「中世の越後と佐渡」高志書院
- 山崎忠良 2003a 「第Ⅷ章 2 土器・陶磁器について」「新潟県埋蔵文化財調査報告書第125集 下沖北道路1」新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山崎忠良 2003b 「第Ⅸ章 まとめ」「新潟県埋蔵文化財調査報告書第120集 下削道路1」新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山崎忠良 2005 「第Ⅲ章 6 まとめ A 土師質土器」「新潟県埋蔵文化財調査報告書第140集 東原町道路・下沖北道路2」新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 横田賀次郎・森田鮎 1978 「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」「九州歴史資料研究論集4」九州歴史資料館
- 吉岡康暢 1994 「中世須恵器の研究」吉川弘文館
- 米沢 康 1980 「大宝二年の越中國四部分割をめぐって」「信濃」第32卷6号 信濃史学会

観察表

掘立柱建物観察表(1)

遺構番号	地区	主軸方向/方位	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	裏間(m)	分類	削除関係
S8695	45C, 42D, 42E 43E	南北棟 N-S' - E-W'	28×28 石角柱・櫛柱建物	127.9	4.10	2.00	Ⅱ類	
柱穴	位置	有邊柱出現 平面圖	長径(m) 宽径(m)	面積(m ²)	柱間の長S(m)		出土遺物	
P4971	42E24	D型	方形 0.19 0.17	U7-F8	0.16	P4971-P5002	2.15	
P4972	42E4	D型	円形 0.31 0.26	平軒柱	0.16	P5012-P5060	2.02	
P4973	42E8	D型	袖門形 0.29 0.21	U7-F8	0.22	P4969-P4979	1.57	
P4974	42E9	C型	円形 0.16 0.15	測量段	0.12	P4979-P4975	1.48	
P4975	42E10-15	A型	圓柱形 0.23 0.26	測量段	0.20	P4955-P4954	1.81	
P4979	42E8	A型	円形 0.32 0.27	U7-F8	0.26	P4954-P4973	2.12	
P4980	42E1	A型	円形 0.30 0.29	U7-F8	0.30	P4953-P4952	2.17	
P5002	42E5	A型	圓柱形 0.29 0.27	U7-F8	0.40	P4972-P4971	1.45	
遺構番号	地区	主軸方向/方位	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	裏間(m)	分類	削除関係
S8520	45F, 42G, 43E,44F	南北棟 N-S' - E-W'	28×14 石角柱・櫛柱建物	7.83	3.00	2.00	Ⅱ類	
柱穴	位置	有邊柱出現 平面圖	長径(m) 宽径(m)	面積(m ²)	柱間の長S(m)		出土遺物	
P5210	43E10-11	C型	円形 0.30 0.27	平軒柱	0.16	P5209-P5210	1.38	
P5210	42E15	C型	円形 0.32 0.26	台軒柱	0.20	P5210-P5211	1.65	
P5271	43E7	D型	円形 0.28 0.28	U7-F8	0.49	P5271-P5205	2.62	
P5263	43E12-17	C型	円形 0.30 0.28	台軒柱	0.12	P5263-P5203	1.78	P5363>P5271-5364
P5265	44E12	C型	円形 0.39 0.36	台軒柱	0.28	P5263-P5274	1.42	
P5274	43E16	D型	円形 0.30 0.22	台軒柱	0.26	P5274-P5269	2.32	
遺構番号	地区	主軸方向/方位	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	裏間(m)	分類	削除関係
S8540	45E, 43D-F 43E,44F	東西棟 E-W' - N-S'	28×14 石角柱・櫛柱建物	8.30	2.60	2.30	Ⅰ類	
柱穴	位置	有邊柱出現 平面圖	長径(m) 宽径(m)	面積(m ²)	柱間の長S(m)		出土遺物	
P5241	43E4	A型	円形 0.34 0.24	U7-F8	0.30	P5241-P5416	1.15	
P5248	43E16	A型	円形 0.35 0.32	U7-F8	0.30	P5246-P5248	1.67	
P5257	43F1	A型	円形 0.35 0.31	U7-F8	0.46	P5248-P5256	1.42	P5227>P5228
P5276	43F2	A型	円形 0.40 0.37	U7-F8	0.46	P5256-P5227	2.25	
P5268	43E22	D型	円形 0.38 0.30	U7-F8	0.25	P5227-P5241	1.90	P5408>P5214
P5211	43E17	D型	円形 0.34 0.36	U7-F8	0.26	P5241-P5248	1.82	
P5216	43E17-22	D型	圓柱形 0.44 0.33	U7-F8	0.24	P5248-P5241	2.24	P5416>P5215
遺構番号	地区	主軸方向/方位	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	裏間(m)	分類	削除関係
S8546	45E, 43-44E 東北棟 N-S' - E-W'	28×14 石角柱・櫛柱建物	12.95	4.20	3.10	Ⅱ類		
柱穴	位置	有邊柱出現 平面圖	長径(m) 宽径(m)	面積(m ²)	柱間の長S(m)		出土遺物	
P4799	43E8	C型	円形 0.29 0.27	U7-F8	0.56	P4799-P5046	2.15	
P5243	43E8	A型	円形 0.32 0.30	U7-F8	0.41	P5246-P5247	2.42	
P5266	43E25	D型	袖門形 0.49 0.36	U7-F8	0.84	P5266-P5264	1.08	P5466>P5477
P5267	43E10-11	A型	円形 0.38 0.28	U7-F8	0.54	P5264-P5263	1.86	P5267>P5269
P5276	43E16, 44E6	A型	円形 0.27 0.28	U7-F8	0.26	P5263-P5262	2.17	
P5260	43E4	A型	円形 0.29 0.28	台軒柱	0.36	P5262-P5251	2.08	P5400>P5489
P5292	43E9	A型	円形 0.29 0.28	U7-F8	0.52	P5251-P5260	2.29	
P5293	43E14-15	A型	円形 0.30 0.28	U7-F8	0.32	P5260-P5279	0.84	
P5294	43E10	A型	円形 0.27 0.28	U7-F8	0.28			
遺構番号	地区	主軸方向/方位	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	裏間(m)	分類	削除関係
S8570	41C, 45A 南北棟 N-S' - E-W'	28×14 石角柱・櫛柱建物	17.74	5.50	3.10	Ⅱ類		
柱穴	位置	有邊柱出現 平面圖	長径(m) 宽径(m)	面積(m ²)	柱間の長S(m)		出土遺物	
P5253	43E36	D型	円形 0.29 0.27	台軒柱	0.18	P5250-P5247	3.19	
P5256	43E21-20	C型	円形 0.35 0.29	風呂	0.10	P5297-P5295	2.44	
P5261	44E17-18	C型	袖門形 0.29 0.31	平軒柱	0.18	P5294-P5296	1.96	
P5269	43E17	A型	円形 0.30 0.26	台軒柱	0.32	P5291-P5296	2.75	
P5294	43E19	D型	円形 0.29 0.28	台軒柱	0.23	P5296-P5276	3.00	
P5295	43E8	D型	円形 0.28 0.27	平軒柱	0.10	P5276-P5275	1.06	
P5297	43E12	A型	円形 0.29 0.24	U7-F8	0.20	P5275-P5261	2.11	
P5296	43E13	D型	円形 0.34 0.23	U7-F8	0.18			
遺構番号	地区	主軸方向/方位	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	裏間(m)	分類	削除関係
S8570	45E, 44E-F,45E 東北棟 N-S' - E-W'	28×14 石角柱・櫛柱建物	18.72	5.20	3.00	Ⅰ類+Ⅱ類	S8570>S8592	
柱穴	位置	有邊柱出現 平面圖	長径(m) 宽径(m)	面積(m ²)	柱間の長S(m)		出土遺物	
P5252	44F5	D型	円形 0.27 0.19	U7-F8	0.10	P5278-P5279	2.39	
P5274	44F4	A型	円形 0.29 0.38	U7-F8	0.48	P5279-P5286	2.63	
P5276	44E22-24	A型	袖門形 0.37 0.20	平軒柱	0.12	P5286-P5288	1.75	P5276>P5277
P5278	44E20-21	A型	円形 0.40 0.33	台軒柱	0.26	P5288-P5284	1.73	
P5279	43E21	A型	円形 0.36 0.34	U7-F8	0.50	P5284-P5277	2.28	
P5284	44E10	A型	袖門形 0.49 0.40	U7-F8	0.44	P5272-P5267	2.72	
P5286	44F1	C型	円形 0.49 0.47	U7-F8	0.51	P5286-P5278	3.62	
P5288	44F19-45F6	A型	円形 0.37 0.35	U7-F8	0.40			

観察表

掘立柱建物観察表(2)

遺物番号	地区	上層部:方柱	建物構造	面積(m ²)	柱径(m)	層間(m)	分類	新旧関係
S8918	7IC-566-1L 57H-1	N-東側 N-北-E	4m×2m 四方柱 墓柱建物	49.72	1.30	4.49	II 期	S2403>S8918
柱穴								
P462	5619	C期	円形	0.55	0.46	U7柱	0.64	SK470-P751-242
P472	56114	B期	円形	0.62	0.55	U7柱	0.76	P752-S8-E01-147
P4745	57H17	A期	圓柱形	0.40	0.38	U7柱	0.58	SK475-G-8996-102
P4751	57H6	B期	円形	0.37	0.53	扁柱4C	0.74	SK466-P754-285
P4754	57H17	D期	円形	0.44	0.48	平柱H	0.21	P754-P750-695
P4762	56125	D期	扇円形	0.34	0.26	台柱H	0.67	P747-P741-266
P485	56125	D期	円形	0.28	0.25	U7柱	0.52	P803-S8-E02-441
P4843	57H23	B期	扇円形	0.61	0.52	U7柱	0.74	SK468-P753-239
SK4696	37H6-11-12 南-東側	(有機)石	扇円形	1.08	0.97	扇形柱	0.86	P803-P752-146
SK4710	56183	C期	扇円形	0.90	0.70	扇柱	0.60	P752-S8-C7-178
SK4713	56G25-56105	D期	円形	0.51	0.41	U7柱	1.02	P757-P752-136
SK4737	56H19-20	C期	扇円形	1.21	0.98	扁柱4C	0.78	P747-P742-183
SK4743	57H6	C期	扇円形	0.73	0.55	U7柱	0.54	P742-S8-E010-161
SK4825	57H-6	C期	扇円形	1.02	0.96	台柱H	0.58	SK482-S8-E03-441
SK4826	57H1	C期	円形	0.76	0.61	U7柱	0.78	SK483>SK482
遺物番号								
遺物番号	地区	上層部:方柱	建物構造	面積(m ²)	柱径(m)	層間(m)	分類	新旧関係
S89164	5IC-401-L 461-1	N-東側 N-北-E	4m×4m 四方柱 墓柱建物	13.44	4.20	3.30	I 期	
柱穴								
P5219	45110	C期	円形	0.42	0.39	台柱H	0.41	P539-P753-231
P5254	45110	B期	円形	0.38	0.34	U7柱	0.73	P536-P750-178
P5292	462-7	D期	扇円形	0.49	0.35	U7柱	0.38	P544-P752-188
P5326	46121-46111	A期	不整形	0.60	0.30	U7柱	0.81	P539-P755-195
P5329	45125-46121	B期	円形	0.72	0.71	扁柱4C	0.58	P534-P751-150
P5377	45124	D期	円形	0.43	0.41	台柱H	0.45	P519-P754-192
P5383	45325	C期	円形	0.37	0.36	U7柱	0.58	P544-P750-135
P5384	4529	D期	不整形	0.23	0.21	U7柱	0.32	P530-P757-158
P5390	4524	-	円形	0.30	0.28	U7柱	0.34	P537-P753-183
P5394	4611	-	円形	0.28	0.27	平柱H	0.82	P538-P753-135
遺物番号								
遺物番号	地区	上層部:方柱	建物構造	面積(m ²)	柱径(m)	層間(m)	分類	新旧関係
S89165	5IC-454-461-1	N-東側 N-北-E	4m×4m 四方柱 墓柱建物	37.72	9.20	4.10	I 期	S89164>S89165
柱穴								
P5246	46111-16	B期	円形	0.72	0.56	椭圆形	0.60	P566-P750-279
P5257	46116-21	D期	扇円形	0.60	0.45	台柱H	0.35	P525-P750-209
P5296	45110-15	B期	扇円形	0.62	0.42	U7柱	0.84	P561-P754-200
P5308	45110-10	A期	扇円形	0.61	0.52	U7柱	0.60	P526-P752-266
P5340	4514	B期	扇円形	0.73	0.52	台柱H	0.55	P532-P752-386
P5348	46112-13	C期	扇円形	0.60	0.50	U7柱	0.52	P527-P752-221
P5352	46118	B期	円形	0.46	0.38	U7柱	0.50	P526-P750-251
P5361	4617	D期	漏斗形	0.40	0.36	U7柱	0.48	P536-P750-202
P5395	46111-2	C期	漏斗形	0.60	0.60	台柱H	0.94	P520-P754-210
P5396	46121	B期	扇円形	0.46	0.37	U7柱	0.87	P540-P750-321
遺物番号								
遺物番号	地区	上層部:方柱	建物構造	面積(m ²)	柱径(m)	層間(m)	分類	新旧関係
S89166	5IC-454-461-1	N-東側 N-北-E	4m×4m 四方柱 墓柱建物	20.46	7.00	2.00	I 期	
柱穴								
P5244	46111	B期	扇円形	0.33	0.27	平柱H	0.10	P536-P753-237
P5250	46117	B期	扇円形	0.34	0.28	U7柱	0.40	P535-P750-224
P5250	46118-23	A期	扇円形	0.51	0.46	椭圆形	0.60	P525-P750-307
P5284	462-4	D期	円形	0.23	0.22	U7柱	0.48	P562-P752-160
P5294	4617	D期	円形	0.27	0.26	U7柱	0.36	P558-P750-202
P5355	4613	B期	扇円形	0.46	0.38	U7柱	0.64	P534-P750-305
P5358	46224	D期	円形	0.38	0.32	U7柱	0.51	P539-P753-220
P5368	46118	B期	扇円形	0.57	0.52	U7柱	0.79	P520-P754-216
P5365	46119	B期	扇円形	0.44	0.38	U7柱	0.45	P524-P750-142
P5392	46225	D期	扇円形	0.28	0.27	U7柱	0.61	P534-P750-198
遺物番号								
遺物番号	地区	上層部:方柱	建物構造	面積(m ²)	柱径(m)	層間(m)	分類	新旧関係
S89167	5IC-47H-96-1 47-501	南-之裸 N-北-W	3m×3m 三方柱 墓柱建物	48.62	7.40	6.53	II 期	S89168>S89249-916>S5388-5579
柱穴								
P5243	46113	D期	扇円形	0.25	0.19	U7柱	0.52	P543-P741-354
P5272	46225	C期	扇円形	0.42	0.32	U7柱	0.42	P601-P750-208
P5282	47H-21	D期	扇円形	0.54	0.47	U7柱	0.54	P562-P757-303
P5300	46119	D期	扇円形	0.55	0.32	U7柱	0.42	P587-P757-255
P5270	47H7	D期	扇円形	0.30	0.24	平柱H	0.14	P587-P750-408
P5297	46113-14	D期	円形	0.29	0.28	U7柱	0.40	P704-P750-282
P5411	4629	B期	円形	0.48	0.41	台柱H	0.43	P520-P750-218

掘立柱建物觀察表(3)

遺跡番号	地区	主軸方向/方位	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	壁厚(m)	分類	新旧関係
S28166 471-501	55E, 47H-66E N~W	3面×1周 方形 塵柱建物	48.62	7.80	0.30	1階	S28168-S28240-S28308	
柱穴								
P46414	46D-10-4716	D型	円形 0.38	0.35	U7#R4	0.32	P2620-P2572	263
P46518	47J11	D型	楕円形 0.48	0.28	U7#R3	0.57	P2572-P2600	231
P46694	46G-10-20	A型	円形 0.50	0.46	台形柱	0.73	P2600-P2707	248
P46741	47J2	D型	楕円形 0.46	0.27	U7#R3	0.86	P2577-P2540	181
P46835	46H15	C型	楕円形 (0.51)	0.47	U7#R4	0.40	P2507-P2602	332
P46841	47J13	D型	円形 0.26	0.20	台形柱	0.20	P2603-P2610	209
P46862	36J12	D型	円形 0.28	0.25	半円柱	0.18	P2614-P2607	254
P46721	47H14-4711	-	円形 (0.29) (0.25)	0.30	台形柱	0.20	-	-

遺跡番号	地区	主軸方向/方位	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	壁厚(m)	分類	新旧関係
S28169 47I	55E, 46J-47L N~W-E	3面×1周 方形 塘柱建物	40.02	11.35	3.46	1階	S28169-S28170	
柱穴								
P46699	46D-20-47116	C型	不整 0.59	0.54	測定柱	0.58	P2649-P2717	216
P47010	47J21	円形	楕円形 (0.57)	0.38	U7#R3	0.50	P2671-P2660	333
P4715	47J12	D型	円形 0.45	0.29	U7#R3	0.63	P2645-P2712	288
P48003	47H17-18-23	B型	円形 0.51	0.49	扁平柱	0.70	P2717-P2600	340
P48006	46H10-15	A型	円形 0.58	0.52	U7#R4	0.50	P2609-P2758	353
P48009	46D20	D型	楕円形 0.69	0.56	U7#R3	0.86	P2708-P2699	361
P48007	46D22-24	C型	円形 0.67	0.56	U7#R3	0.63	P2609-P2640	283
P48013	47J12-47J11	A型	楕円形 0.54	0.34	U7#R3	0.52	P2606-P2600	271
P48045	47H16	D型	楕円形 0.67	0.70	U7#R3	0.70	P2609-P2652	281
P48040	47J12	D型	楕円形 1.16	0.89	測定柱	0.52	P2607-P2649	370
P48071	47J21	-	-	0.31	台形柱	0.30	-	-

遺跡番号	地区	主軸方向/方位	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	壁厚(m)	分類	新旧関係
S28170	55E, 47H-47J11 N~W-E	3面×1周 方形 塘柱建物	73.42	12.78	5.72	1階	S28170-S28169	
柱穴								
P48355	47J24	D型	不整 0.62	0.45	台形柱	0.24	P2639-P2628	244
P48388	46J9	D型	楕円形 0.39	0.50	測定柱	0.70	P2649-P2660	321
P48399	46J3	B型	楕円形 0.67	0.57	U7#R3	0.61	P2649-P2717	263
P48640	47J7	D型	楕円形 0.96	0.77	測定柱	0.80	P2717-S2640	257
P48705	47J18	A型(楕円形)	円形 0.38	0.32	U7#R3	0.60	P2640-P2533	220
P48809	46D25-47J21	B型	楕円形 0.53	0.53	扁平柱	0.66	P2625-P2763	373
P48727	47J12-13	D型	楕円形 0.32	0.28	U7#R3	0.32	P2709-S2603	186
P48720	47J16-2	A型	楕円形 0.59	0.49	台形柱	0.29	P2645-S2533	279
P48866	46J14-15	-	円形 0.59	0.56	台形柱	0.36	P2638-P2656	265
SKS339	46D20-25	C型	円形 0.73	0.67	U7#R3	0.81	P2656-P2630	287
SKS440	47J18	B型	円形 0.68	0.87	U7#R3	0.71	P2648-P2649	244
SKS445	47J21-47J15-47J11	D型	楕円形 0.98	0.98	扁平柱	1.56	P2659-P2639	385
島田山白磁組								

遺跡番号	地区	主軸方向/方位	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	壁厚(m)	分類	新旧関係
S280173	55E, 47-48J 47K	N~W-E	3面×1周 方形 塗柱建物	26.51	8.55	4.80	1階	S280173-S280177
柱穴								
P28097	47J12-13	C型	楕円形 0.58	0.48	U7#R3	0.69	P2753-P2706	276
P28099	47J18	C型	楕円形 0.68	0.74	台形柱	0.64	P2766-P2730	174
P28199	46J21	D型	円形 0.54	0.53	U7#R3	0.68	P2705-P2710	197
P28225	46J2	C型	楕円形 0.58	0.49	扁平柱	0.68	P2709-P2727	220
P28206	46J16	A型	円形 0.32	0.20	U7#R3	0.50	P2725-P2722	480
P28266	47J15	B型	楕円形 0.78	0.52	測定柱	0.64	P2727-P2740	218
P28313	47J20-24	B型	円形 0.59	0.53	U7#R3	0.68	P2729-P2732	199
P28327	47K9-10	B型	円形 1.11	0.99	測定柱	0.96	P2707-P2732	456
P28420	47K4	C型?	楕円形 0.76	0.55	測定柱	0.71	P2713-P2709	179
P28555	47J19-10	B型	円形 0.41	0.36	U7#R3	0.46	P2709-P2706	261

遺跡番号	地区	主軸方向/方位	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	壁厚(m)	分類	新旧関係
S280174	55E, 56-47 N~W-E	3面×1周 方形 塗柱建物	7.65	3.51	2.06	1階	S280174-S280177	
柱穴								
P28225	47J6	D型	楕円形 0.44	0.28	半円柱	0.20	P2743-P2690	147
P28243	46J5-10	C型	楕円形 0.40	0.22	U7#R3	0.42	P2696-P2725	204
P28271	47J11	B型	楕円形 0.43	0.24	U7#R3	0.50	P2725-P2717	217
P28406	46J10	-	楕円形 0.28	0.23	U7#R3	0.56	P2751-P2690	199
P28402	46J14-15	C型?	楕円形 0.41	0.34	台形柱	0.96	P2665-P2692	163
P28505	46J15	-	楕円形 0.39	0.35	扁平柱	0.24	P2602-P2730	206

観察表

掘立柱建物観察表(4)

遺構番号	地区	主軸方向	建物構造	面積(m ²)	延長(m)	面闊(m)	分類	測定関係
S8976	79L 58M 57° N~94° E	28°×1周 矢方形 墓柱建物	7.65	5.94	2.88		Ⅱ類	
柱穴	位置	柱存在状況	平面形状(長径m) 傾斜度	面積(m ²)	柱間の長さ(m)		出土遺物	
P2881	58M6	D類	楕円形 0.24 0.19	U7-FR	0.13	P2805-P2807	3.15	
P2885	58M2	D類	円形 0.31 0.30	U7-FR	0.58	P2807-P2808	2.94	
P2895	58L16	D類	円形 0.24 0.19	U7-FR	0.23	P2845-P2846	2.71	
P2897	58L22	B類(柱存在) 楕円形	0.42 0.27	測定FR	0.64	P2841-P2849	5.94	柱根 P2807~P2808
P2909	57L20	D類	楕円形 0.27 0.23	U7-FR	0.16	P2809-P2809	2.88	
遺構番号	地区	主軸方向	建物構造	面積(m ²)	延長(m)	面闊(m)	分類	測定関係
S8977	58L 47° N~94° E	30°×1周 矢方形 墓柱建物	46.33	11.45	3.93		Ⅰ類	S8977~S8977 S8977~S8978
柱穴	位置	柱存在状況	平面形状(長径m) 傾斜度	面積(m ²)	柱間の長さ(m)		出土遺物	
P2826	47D	D類	円形 0.31 0.29	台形状 0.37	P2866-P2870	2.18		
P2840	47D3	D類	円形 0.30 0.27	扇状 0.30	P2879-P2879	1.41		P2803~P2804
P2870	48D2	C類	円形 0.48 0.48	扇状 0.56	P2879-P2872	2.03		
P2879	48J1	D類	楕円形 0.54 0.54	半円形 0.28	P2879-P2728	1.90		P2870~P2878
P2847	48J1-6	D類	楕円形 0.49 0.37	U7-FR	0.38	P2728-P2743	1.93	
P2899	47J15_48J11	A類	円形 (0.56) 0.56	扇状 0.34	P2726-P2727	2.06		P2899~P2700
P2732	47J19	A類	円形 0.31 0.28	U7-FR	0.50	P2747-P2711	2.23	
P2721	48J22	B類	楕円形 0.33 0.23	扇状 0.43	P2721-P2700	1.71		
P2734	47J20_49J16	A類	円形 0.38 0.36	U7-FR	0.62	P2706-P2706	1.92	
P2736	49J16	A類	円形 0.34 0.36	U7-FR	0.62	P2704-P2705	2.64	
P2747	49J18	B類	楕円形 0.32 0.25	U7-FR	0.46	P2707-P2702	1.74	
P2762	47J15	D類	円形 0.30 0.26	台形状 0.14	P2705-P2742	1.69		P2767~P2766
P2766	48J21	A類	円形 (0.25) 0.25	U7-FR	0.31	P2729-P2750	1.49	
P2728	48J12	B類	楕円形 0.72 0.49	測定FR	0.68	P2707-P2740	1.97	
P2749	47J14	D類	円形 0.32 (0.25)	U7-FR	0.50	P2703-P2712	1.51	
P2740	47J10	D類	楕円形 0.45 0.27	U7-FR	0.32	P2732-P2730	2.45	
P2747	47J4	D類	楕円形 0.54 0.18	台形状 0.15	P2710-P2710	2.31		
P2752	47J5	A類	円形 0.42 0.38	U7-FR	0.40	P2739-P2742	1.26	
P2728	48J7	B類	円形 0.29 0.24	U7-FR	0.30	P2742-P2744	1.37	
P2730	47D24~47J4	D類	楕円形 0.28 0.23	U7-FR	0.36	P2749-P2769	2.21	
P2765	48J7	D類	円形 0.21 (0.14)	U7-FR	0.68	P2699~P2700	2.28	
						P2706-P2711	2.39	
遺構番号	地区	主軸方向	建物構造	面積(m ²)	延長(m)	面闊(m)	分類	測定関係
S8978	50K 47~48° N~94° E	30°×1周 矢方形 墓柱建物	28.38	8.51	3.34		Ⅰ類	S8978~S8978 S8978~SE734
柱穴	位置	柱存在状況	平面形状(長径m) 傾斜度	面積(m ²)	柱間の長さ(m)		出土遺物	
P2843	48J17~22	A類	円形(大土塁) 0.31 0.30	U7-FR	0.29	P2841-P2723	2.09	
P2892	48J6	B類	円形 0.47 0.38	U7-FR	0.42	P2725-P2754	2.32	
P2899	47J15_48J11	A類	円形 (0.56) 0.56	扇状 0.34	P2544-P2792	1.97		P2892~P2891
P2736	47J17	C類	円形 0.53 0.47	U7-FR	0.76	P2702-P2740	2.07	
P2725	47J5	D類	円形 0.27 0.26	U7-FR	0.55	P2702-P2708	3.48	
P2767	47J9	D類	円形 0.29 0.24	U7-FR	0.30	P2746-P2742	1.48	
P2737	49J16	C類	円形 0.21 0.17	U7-FR	0.10	P2603-P2747	1.91	
P2713	47J15	A類	円形 0.28 0.28	U7-FR	0.50	P2707-P2710	2.24	
P2718	47J20	B類	楕円形 0.64 0.46	測定FR	0.61	P2719-P2733	1.71	
P2733	47J10	D類	円形 - 0.49	U7-FR	0.44	P2715-P2760	1.60	
P2707	48J21	A類	円形 0.30 0.27	U7-FR	0.28	P2765~P2726	1.46	
P2741	47J4	C類	楕円形 0.65 0.45	U7-FR	0.58	P2707-P2743	1.50	
P2764	48J6	A類	楕円形 0.49 0.39	海抜4.45	0.54	P2701-P2700	1.63	
P2782	48J12	B類	楕円形 0.44 0.39	U7-FR	0.20	P2700~P2740	1.77	森田D群白磁八角形
P2790	47J4	A類	円形 0.29 0.26	U7-FR	0.68	P2700~P2733	2.80	
P2865	47J9~10~14~15	D類	円形 0.46 0.41	測定FR	0.60	P2753~P2769	1.60	
P2961	47J5	-	円形 0.41 0.38	台形状	0.40	P2709~P2735	1.94	
						P2707~P2743	3.07	
遺構番号	地区	主軸方向	建物構造	面積(m ²)	延長(m)	面闊(m)	分類	測定関係
S8979	75K 58M 57° N~94° E	28°×1周 矢方形 墓柱建物	11.84	4.11	2.98		Ⅱ類	
柱穴	位置	柱存在状況	平面形状(長径m) 傾斜度	面積(m ²)	柱間の長さ(m)		出土遺物	
P2841	58L1	C類	円形 0.28 0.26	U7-FR	0.44	P2741-P2760	1.86	
P2746	57L10	D類	円形 0.23 0.19	U7-FR	0.21	P2603~P2764	2.17	
P2790	58L6	B類	楕円形 0.41 0.33	測定FR	0.72	P2764~P2763	1.49	
P2887	58L11	D類	円形 0.24 0.23	U7-FR	0.22	P2763~P2762	1.29	
P2893	58L12~17	D類	円形 0.31 0.29	U7-FR	0.14	P2605~P2767	2.24	
P2864	58L12~13	D類	円形 0.28 0.25	U7-FR	0.54	P2768~P2766	1.82	
P2895	58L16	D類	楕円形 0.31 0.25	U7-FR	0.52	P2746~P2770	1.14	
P2903	58L7	D類	円形 0.26 0.23	U7-FR	0.21	P2709~P2710	1.76	

掘立柱建物觀察表(5)

遺構番号	地区	上輪引方向	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	梁間(m)	分類	新旧関係
SII0181	6区 30-SIE SIE	東北側 N-13°-W	28×11間 方形 備柱建物	11.07	3.04	2.35	Ⅱ相	
柱穴	位置	自遺存状況 平面図 真仲(△) 柱(○)	断面図 直径(m) 柱の長さ(m)	断面図 直径(△) 柱の長さ(○)	柱間の長さ(m)	出土遺物		
P0065	50E20	D型	円形 0.32	0.25	U7#柱	0.52	P0075-P0065	303
P0066	50E20, SIE36	C型	円形 0.34	0.29	偏4柱	0.44	P0065-P0039	112
P0075	50E24	A型	円形 0.23	0.23	偏4柱	0.26	P0039-P0075	127
P0122	30E5	D型	偏4柱 0.35	0.29	台64R	0.25	P0079-P0122	307
P0139	51E21	D型	円形 0.28	0.23	U7#柱	0.28	P0122-P0137	133
P0273	30E5	D型	偏4柱 0.24	0.18	偏4V	0.18	P0079-P0273	128
P0278	50E21	A型	円形 0.37	0.38	U7#柱	0.41		
遺構番号	地区	上輪引方向	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	梁間(m)	分類	新旧関係
SII0182	6区 49-SIE SIE	東北側 N-79°-E	28×11間 方形 備柱建物	26.25	6.73	3.62	Ⅱ相	SII0182-SII0188
柱穴	位置	自遺存状況 平面図 真仲(△) 柱(○)	断面図 直径(m) 柱の長さ(m)	断面図 直径(△) 柱の長さ(○)	柱間の長さ(m)	出土遺物		
P0223	49G13-18	C型	円形 0.70	0.67	偏4柱	0.76	P0049-P0270	343
P0066	50G16	A型	円形 0.71	0.69	U7#柱	0.78	SII081-SII036	387
P0382	50D7-8	A型	円形 0.84	0.75	偏4柱	0.51	SII0382-P0382	370
SE7046	50H11	C型	円形 1.02	0.95	U7#柱	1.34	P0329-SII046	384
SE7961	50G22	C型	円形 0.70	0.65	U7#柱	0.84	SII0349-P0349	292
SII0103	50D7-4	D型	偏4柱 1.62	1.08	地盤柱	1.62	P0229-P0404	362
遺構番号	地区	上輪引方向	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	梁間(m)	分類	新旧関係
SII0184	7区 32G, 37H 37H	東北側 N-66°-E	28×11間 方形 備柱建物	22.00	5.45	3.63	Ⅱ相少	SII0184-SII0464前
柱穴	位置	自遺存状況 平面図 真仲(△) 柱(○)	断面図 直径(m) 柱の長さ(m)	断面図 直径(△) 柱の長さ(○)	柱間の長さ(m)	出土遺物		
SE4701	57G21-22	C型	円形 1.15	0.98	U7#柱	1.32	SII082-SII005	545
SE4900	57G25, 57H15	C型	円形 1.06	0.98	U7#柱	1.02	SII0605-SII084	408
SE4982	57G18	C型	円形 1.26	1.07	台64R	1.04	SII084-SII070	602
SE4994	57H9	C型	円形 1.08	0.94	U7#柱	1.45	SII070-SII082	363
遺構番号	地区	上輪引方向	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	梁間(m)	分類	新旧関係
SII0186	6区 49-SIE SIE	東北側 N-2°-W	28×28 方形 備柱建物	19.32	5.15	3.97	Ⅱ相	SII0186-SII0234
柱穴	位置	自遺存状況 平面図 真仲(△) 柱(○)	断面図 直径(m) 柱の長さ(m)	断面図 直径(△) 柱の長さ(○)	柱間の長さ(m)	出土遺物		
P2575	50G21	偏4	円形 0.40	0.39	U7#柱	0.67	P0387-P0275	234
P2760	50I17-22	切り取り	円形 0.37	0.27	台64R	0.36	P0275-P0260	264
P0022	50I1	切り取り	円形 0.42	0.40	U7#柱	0.68	P0260-P0260	184
P0040	49E5-10	切り取り	円形 0.36	0.31	U7#柱	0.20	P0266-P0242	213
P0042	49H10-50E6	切り取り	偏4柱 0.49	0.32	U7#柱	0.72	P0247-P0247	515
P0056	50E22	D型	円形 0.44	0.38	台64R	0.22	P0242-P0240	171
P0387	49S	D型	円形 0.29	0.27	台64R	0.26	P0409-P0382	192
P0437	50D-8	切り取り	偏4柱 0.67	0.55	台64R	0.32	P0409-P0382	235
								P0202-P0200
遺構番号	地区	上輪引方向	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	梁間(m)	分類	新旧関係
SII0188	6区 49-SIE SIE	東北側 N-10°-E	28×11間 方形 備柱建物	44.03	10.78	4.15	Ⅰ相	SII0188-SII0182
柱穴	位置	自遺存状況 平面図 真仲(△) 柱(○)	断面図 直径(m) 柱の長さ(m)	断面図 直径(△) 柱の長さ(○)	柱間の長さ(m)	出土遺物		
P0094	50G6	D型	円形 0.70	0.65	偏4柱	0.26	P0068-SII0214	339
P0054	50H7	D型	偏4柱 1.07	0.79	U7#柱	1.46	SII0214-SII026	350
SE4900	49H14	C型	円形 0.77	0.69	偏4柱	1.15	SII026-P0064	300
SE2706	49H14-15	C型	円形 1.34	1.17	偏4柱	1.12	P0265-SII0260	440
SE2796	50H1-2	C型	円形 0.97	0.76	偏4柱	1.15	P0269-P0260	472
SK6224	50G16	C型	円形 1.00	0.87	偏4柱	0.74	SII0265-SII0266	338
SK6356	49C19-24	C型	円形 0.91	0.71	U7#柱	0.96	SII0266-SII0273	329
SK6371	49G13-14	C型	偏4柱 0.72	0.70	偏4柱	0.63	SII0273-P0061	415
遺構番号	地区	上輪引方向	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	梁間(m)	分類	新旧関係
SII0189	6区 49-G, 49I 49I	東北側 N-78°-E	28×11間 方形 備柱建物	16.56	4.25	3.78	Ⅱ相	SII0189-SII0230
柱穴	位置	自遺存状況 平面図 真仲(△) 柱(○)	断面図 直径(m) 柱の長さ(m)	断面図 直径(△) 柱の長さ(○)	柱間の長さ(m)	出土遺物		
P0033	49G18	D型	円形 0.24	0.28	偏4柱	0.12	P0243-P0022	243
P0011	49I5	D型	円形 0.25	0.22	U7#柱	0.50	P0012-P0011	206
P0012	49I8	D型	円形 0.33	0.25	偏4柱	0.38	P0011-P0020	211
P0111	49I2	D型	円形 0.44	0.39	U7#柱	0.45	P0203-P0049	162
P0118	49I3	D型	偏4柱 0.23	0.14	U7#柱	0.23	P0049-P0033	204
P0141	49I24	D型	円形 0.29	0.28	台64R	0.21	P0033-P0110	224
P0166	49I23	D型	偏4柱 0.19	0.16	U7#柱	0.32	P0110-P0108	141
P0193	49I9	D型	円形 0.31	0.27	台64R	0.31	P0108-P0106	170
P0149	49I9-10	D型	円形 0.36	0.31	U7#柱	0.40	P0166-P0149	978

観察表

掘立柱建物観察表(6)

遺構番号	地区	上層区分	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	延闊(m)	分類	測量基準
S09100	GK4-40-5001	東北隅 N-10°-E	2間×2間 方形 塔柱建物	16.90	4.42	3.85	Ⅲ類	
柱穴								
P4958	49H4	A類	円形 0.39 0.36	U74K	0.40	P704-P704	220	
P2504	49H5	A類	円形 0.49 0.39	U74K	0.78	P704-P707	222	P7004-P7019
P2538	49H19	B類	円形 0.32 0.36	U74K	0.28	P707-P701	204	P7538-P7537
P2527	49H10-8	D類	楕円形 0.31 0.24	U74K	0.23	P701-P730	182	
P2517	49H14	-	円形 0.40 0.20	U74K	0.28	P708-P707	210	
P2501	49H15	D類	円形 0.31 0.36	U74K	0.23	P707-P703	214	
P2527	50H11	-	円形 0.22 0.21	台地E	0.18	P705-P706	174	
P2514	50H16	-	円形 0.31 0.27	輪E4	0.40	P705-P709	220	

遺構番号	地区	上層区分	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	延闊(m)	分類	測量基準
S09198	50C-47-48L-48J	N-9°-E	2間×2間 方形 塔柱建物	28.59	4.61	4.48	I類	S09198-S02354-SD5801
柱穴								
P4964	48H-17-21-22	C類	楕円形 0.53 0.32	U74K	0.64	P704-P706	228	
P2508	48J3	D類	円形 0.43 0.29	U74K	0.41	P704-P725	192	
P2575	48J2	D類	楕円形 0.32 0.36	台地B4	0.26	P705-P709	249	
P2528	47D5	D類	円形 0.19 0.19	U74K	0.25	P708-P720	188	P7002-P7003
P2518	48J1	C類	楕円形 0.68 0.49	U74K	0.73	P709-P709	239	P7118-P7354
P2517	48J16	A類	楕円形 0.34 0.29	輪E3	0.32	P708-P712	213	
P2508	48J17	D類	楕円形 0.23 0.23	U74K	0.58	P707-P709	217	
P2520	48J18-19	D類	円形 0.24 0.21	U74K	0.29	P708-P722	227	
P2508	48J11	A類	円形 0.30 0.26	U74K	0.48	P707-P720	222	
P2532	47D4-25	A類	円形 0.30 0.29	U74K	0.56	P702-P705	187	
P2527	47J30	D類	円形 0.23 -	U74K	0.25	P702-P704	255	P7737-S0734
P2504	46J22-48J2	D類	楕円形 0.41 0.29	輪E4K	0.55	P702-P718	203	
P2505	48J12	A類	円形 0.44 0.30	U74K	0.60	P718-P705	212	
P2518	48J6	-	楕円形 0.18 0.17	U74K	0.55	P708-P728	251	
P7045-P7108								

遺構番号	地区	上層区分	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	延闊(m)	分類	測量基準
S09200	50C-48J-48K	N-9°-E	2間×2間 方形 3底柱+側柱建物	24.98	6.34	3.81	Ⅲ類	
柱穴								
P4945	48K12	A類	楕円形 0.38 0.28	U74K	0.40	P705-P705	328	
P4937	48J23	D類	楕円形 0.35 0.23	U74K	0.27	P709-P707	304	P6437-P6438
P7157	48K13	D類	楕円形 0.25 0.22	U74K	0.26	P707-P712	153	
P7106	48K3	A類	楕円形 0.28 0.21	U74K	0.52	P717-P743	227	
P7211	48J22	B類	楕円形 0.33 0.23	輪E4K	0.36	P705-P772	137	
P7271	48K2-3	A類	楕円形 0.38 0.25	U74K	0.54	P727-P723	186	
P7273	48J7	D類	楕円形 0.25 0.23	U74K	0.35	P724-P722	172	
P2525	48K8	C類	楕円形 0.32 0.31	U74K	0.30	P712-P714	146	
P7212	48K1	A類	楕円形 0.26 0.22	V72K	0.38	P714-P721	154	
P7234	48J7	B類	円形 0.40 0.30	U74K	0.48	P711-P706	236	
P7229	48K8	B類	円形 0.35 0.27	輪E4K	0.60	P712-P726	176	P7229-P7238
P7264	48K2	D類	円形 0.22 0.20	半地E4	0.10	P724-P702	192	
P7414	49J21	D類	円形 0.27 0.26	輪E3	0.31	P7037-P700	156	
P7595	49J18	D類	円形 0.31 0.26	U74K	0.41	P706-P728	162	
P7519	48K3-4	D類	円形 0.42 0.35	U74K	0.41	P725-P729	161	
P785	48K9	D類	楕円形 0.49 0.31	U74K	0.75	P729-P727	165	

遺構番号	地区	上層区分	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	延闊(m)	分類	測量基準
S09200	49J-48J-48K	N-1°-E	3間×2間 方形 3底柱+側柱建物	14.55	4.60	2.92	I類	
柱穴								
P5293	46J12	D類	円形 0.21 0.19	U74K	0.22	P7009-P708	236	
P5400	46J1	A類	楕円形 0.46 0.35	U74K	0.38	P7009-P703	144	
P5582	46J8	C類	円形 0.37 0.35	U74K	0.47	P7024-P7048	169	
P5548	46J23	D類	円形 0.26 0.22	輪E3	0.21	P7048-P7054	292	
P5684	46J4	D類	楕円形 (0.44) 0.31	半地E4	0.20	P7064-P7098	162	P6584-P6689-6
P5624	46J23-46J3	D類	円形 0.34 0.29	U74K	0.43	P7098-P7050	120	
P5689	46J2	D類	円形 0.31 0.26	台地E4	0.22	P7050-P7030	217	
P5798	46J2	D類	楕円形 0.30 0.27	U74K	0.20	P7030-P7040	296	

遺構番号	地区	上層区分	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	延闊(m)	分類	測量基準
S09212	50J-47J-47K	N-9°-E	2間×2間 方形 塔柱建物	22.50	5.15	4.23	I類	
柱穴								
P5783	47H13	A類	楕円形 0.25 0.18	半地E4	0.15	P7071-P710	256	
P5791	47H14	-	円形 0.22 0.21	U74K	0.40	P7119-P7779	261	
P5792	47J3	D類	円形 0.23 0.19	U74K	0.40	P7779-P7726	224	
P5720	47H17	D類	円形 0.22 0.19	半地E4	0.18	P7702-P7826	206	
P7119	47H19	D類	楕円形 0.22 0.19	台地E4	0.16	P7020-P7049	294	
P7221	47H18	D類	楕円形 0.20 0.17	輪E3	0.13	P7009-P7070	254	

観察表

掘立柱建物観察表(7)

遺跡番号	地区	上部形状	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	壁面(m)	分類	測定関係
S080212	5区 471-474 N-95°-E	280+280 玄関前-櫛柱建物	225.0	5.15	4.21		Ⅱ相	
柱穴	位置	白蓮寺地区 平岡面 玄門(m) 埋深(m)	断面形(±2(m))	柱間の具5(m)			出土遺物	
P7702	4714	D相	円形 0.22 0.26	U7-FK	0.33	P770-7767	1.98	
P7779	47025	A相	円形 0.27 0.27	U7-FK	0.31	P753-7576	2.31	
P469	47022	-	楕円形 0.19 0.17	U7-FK	0.32			

遺跡番号	地区	上部形状	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	壁面(m)	分類	測定関係
S080213	5区 471-474 N-94°-E	280+280 方形-櫛柱建物	17.47	4.33	3.83		Ⅱ相	
柱穴	位置	白蓮寺地区 平岡面 玄門(m) 埋深(m)	断面形(±2(m))	柱間の具5(m)			出土遺物	
P7582	47142-13	C相	楕円形 0.26 0.21	U7-FK	0.29	P570-5657	2.36	
P7576	47113	C相	円形 0.40 0.36	台形FK	0.20	P567-5711	1.88	
P6537	47119	D相	円形 0.34 0.25	U7-FK	0.23	P7114-7223	2.09	
P7701	47117	D相	円形 0.27 0.24	U7-FK	0.26	P7223-7946	2.17	
P7114	47124	A相	円形 0.28 0.23	測定状	0.23	P7906-7725	2.01	
P7210	47122	D相	楕円形 0.25 0.22	U7-FK	0.15	P7707-7767	2.19	
P7207	47122	A相	楕円形 0.19 0.16	U7-FK	0.44	P7071-7526	1.97	
P7223	47125-24	A相	円形 0.26 0.25	U7-FK	0.38	P752-7576	1.85	
P4606	4712-3	-	楕円形 0.36 0.31	台形FK	0.28	P752-7713	2.04	
						P7120-7723	2.17	

遺跡番号	地区	上部形状	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	壁面(m)	分類	測定関係
S080214	5区 461-464 N-1°-W	280+280 玄角形-櫛柱建物	16.09	3.89	4.08		Ⅱ相	
柱穴	位置	白蓮寺地区 平岡面 玄門(m) 埋深(m)	断面形(±2(m))	柱間の具5(m)			出土遺物	
P5303	4612-13-17-18	D相	円形 0.24 0.21	U7-FK	0.23	P5612-5650	2.47	
P5311	46118	A相	円形 0.34 0.33	U7-FK	0.26	P5409-5815	1.55	
P5342	46118	D相	円形 0.29 0.25	U7-FK	0.28	P5615-5680	1.98	
P5266	46112	D相	円形 0.24 0.21	U7-FK	0.29	P5685-5711	2.10	
P5301	46113-14	B相	円形 0.29 0.23	U7-FK	0.37	P5111-5301	1.73	
P5305	46119	B相	円形 0.44 0.36	U7-FK	0.45	P5303-5596	2.20	
P5349	46114-15	D相	楕円形 0.40 0.30	U7-FK	0.70	P5666-5742	2.03	P5349-P5350
P5312	46119	D相	円形 0.29 0.25	台形FK	0.20	P5642-5612	1.90	
P5315	46115	-	円形 0.22 0.22	台形FK	0.22	P5642-5759	2.21	
						P7501-7565	1.53	

遺跡番号	地区	上部形状	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	壁面(m)	分類	測定関係
S080216	6区 541-544 N-10°-E	280+280 玄角形-櫛柱建物	11.92	4.76	2.46		Ⅱ相	S080216-S080303
柱穴	位置	白蓮寺地区 平岡面 玄門(m) 埋深(m)	断面形(±2(m))	柱間の具5(m)			出土遺物	
P7812	54112	D相	円形 0.34 0.30	U7-FK	0.14	P709-7812	2.29	
P7816	54108	B相	楕円形 0.48 0.37	扁平FK	0.62	P7812-7816	2.56	
P7804	54118-19	D相	円形 0.34 0.33	U7-FK	0.17	P7816-7804	2.53	
P7808	54118	-	楕円形 0.40 0.31	U7-FK	0.21	P7804-7808	2.41	
P7804	54117	D相	楕円形 0.51 0.83	台形FK	0.82	P7804-7809	2.34	
P7806	54111	A相	楕円形 0.53 0.36	U7-FK	0.43	P7804-7806	2.46	

遺跡番号	地区	上部形状	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	壁面(m)	分類	測定関係
S080217	5区 495-498 N-94°-E	280+280 玄角形-櫛柱建物	11.16	4.28	2.67		Ⅱ相	
柱穴	位置	白蓮寺地区 平岡面 玄門(m) 埋深(m)	断面形(±2(m))	柱間の具5(m)			出土遺物	
P5264	498H1	D相	円形 0.24 0.21	U7-FK	0.51	P5651-5650	2.16	
P5285	4981	D相	円形 0.26 0.23	U7-FK	0.20	P5651-5660	2.16	
P5265	49817-8	D相	楕円形 0.37 0.25	V7-FK	0.29	P5650-7780	1.22	
P5265	49816	C相	楕円形 0.41 0.24	U7-FK	0.29	P7809-7910	1.41	
P5268	49819-13	C相	楕円形 0.52 0.29	U7-FK	0.46	P5643-5620	2.04	
P5243	49812	D相	楕円形 0.38 0.31	扁平	0.28	P5655-5725	2.06	
P5237	49812-49812	C相	円形 0.31 0.29	U7-FK	0.29	P5605-5604	1.26	森田B群
P7809	49812	D相	楕円形 0.29 0.19	U7-FK	1.41	P5624-5675	1.41	P7809-P7810

遺跡番号	地区	上部形状	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	壁面(m)	分類	測定関係
S080218	5区 495-498 N-94°-E	280+280 玄角形-櫛柱建物	8.01	3.83	2.31		Ⅱ相	
柱穴	位置	白蓮寺地区 平岡面 玄門(m) 埋深(m)	断面形(±2(m))	柱間の具5(m)			出土遺物	
P7801	49817-12	D相	円形 0.17 0.16	台形FK	0.12	P7808-7739	1.66	
P7804	49816	D相	円形 0.18 0.17	U7-FK	0.28	P7739-7803	1.79	
P7815	498112	D相	円形 0.23 0.22	U7-FK	0.60	P7803-7815	2.41	
P7708	49812	D相	円形 0.32 0.31	扁平FK	0.21	P6115-7603	1.58	
P7739	49818	B相	円形 0.21 0.19	U7-FK	0.36	P6031-7601	1.80	
P7801	498113	A相	円形 0.23 0.21	U7-FK	0.33	P6011-7708	2.29	

遺跡番号	地区	上部形状	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	壁面(m)	分類	測定関係
S080219	5区 47-48-48K N-87°-E	280+280 玄角形-櫛柱建物	16.47	4.63	3.47		Ⅱ相	
柱穴	位置	白蓮寺地区 平岡面 玄門(m) 埋深(m)	断面形(±2(m))	柱間の具5(m)			出土遺物	
P7829	48K3-6	D相	円形 0.41 0.37	U7-FK	0.51	P7816-7733	1.97	
P7830	48K17	D相	楕円形 0.27 0.26	測段状	0.36	P7331-7923	1.64	

観察表

掘立柱建物観察表(8)

遺構番号	地区	主軸方向/方位	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	延闊(m)	分類	新旧関係
SIB220	54F~58K N~E	28°×44° 右方角 傾柱建物	16.47	4.63	3.47		Ⅱ類	
柱穴	位置	柱造存状況 平面図 良好(m) 傾柱(m)	新規柱 第2(m)	柱間の長さ5(m)				
P1281	47J20~25	右傾	柱門形 0.44	0.31	測段柱 0.29	P1223~P1263	1.58	
P2200	48J16	A類	円形 0.23	0.23	U7柱 0.44	P1235~P1242	1.86	
P2286	48J23~48K1	B類	楕円形 0.31	0.26	U7柱 0.39	P1229~P1236	2.39	
P2331	48J17~22	D類	円形 0.25	0.23	V7柱 0.29	P1226~P1241	2.43	
P1865	48J2	-	楕円形 0.21	0.30	U7柱 0.56	P1241~P1249	2.12	
P1821	48J3	-	円形 0.24	0.21	U7柱 0.18	P1230~P1236	1.41	
遺構番号	地区	主軸方向/方位	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	延闊(m)	分類	新旧関係
SIB9232	45K~50F SIF N~E	28°×14° 右方角 傾柱建物	10.85	4.65	2.44		Ⅱ類	
柱穴	位置	柱造存状況 平面図 良好(m) 傾柱(m)	新規柱 第2(m)	柱間の長さ5(m)				
P1621	50F5	D類	柱門形 0.31	0.23	U7柱 0.32	P1245~P1252	2.66	
P1826	50F24	A類	円形 0.29	0.23	U7柱 0.38	P1221~P1260	1.98	
P1827	50F4~9	C類	楕円形 0.41	0.38	U7柱 0.58	P1249~P1252	2.44	
P1829	50F6	A類	円形 0.33	0.28	U7柱 0.34	P1229~P1236	2.41	
P1824	50F10	D類	楕円形 0.30	0.26	U7柱 0.31	P1242~P1272	2.16	
P1860	50F1	D類	円形 0.20	0.18	U7柱 0.12	P1227~P1240	2.28	
遺構番号	地区	主軸方向/方位	柱穴配列	面積(m ²)	軒高(m)	延闊(m)	分類	新旧関係
SIA9475	64K~59~51F N~E	3間	-	42.3	-			
柱穴	位置	柱造存状況 平面図 良好(m) 傾柱(m)	新規柱 第2(m)	柱間の長さ5(m)				
P1620	50F9	D類	楕円形 0.25	0.21	U7柱 0.11	P1220~P1226	2.37	
P1620	50F10	A類	円形 0.24	0.23	U7柱 0.18	P1220~P1267	1.87	
P1679	51F11	A類	円形 0.35	0.31	U7柱 0.20			
遺構番号	地区	主軸方向/方位	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	延闊(m)	分類	新旧関係
SIB234	46K~50L SIF N~E	28°×14° 右方角 傾柱建物	7.18	3.70	1.95		Ⅱ類	SIB9234~SIB9235
柱穴	位置	柱造存状況 平面図 良好(m) 傾柱(m)	新規柱 第2(m)	柱間の長さ5(m)				
P1629	50F7	A類	柱門形 0.42	0.27	U7柱 0.61	P1230~P1239	1.89	
P1830	50F22	-	楕円形 0.42	0.40	測段柱 0.32	P1264~P1242	1.80	
P1790	50E21~22	A類	円形 0.32	0.26	台形柱 0.15	P1242~P1250	1.97	
P1794	50S3	D類	楕円形 0.27	0.25	縮柱 0.24	P1259~P1260	1.58	
P1835	50E2	D類	円形 0.25	0.23	台形柱 0.13	P1255~P1259	2.06	
P1842	50S3	C類	楕円形 0.45	0.38	台形柱 0.38	P1259~P1330	1.95	P1842>SIK875~P1847~9354
遺構番号	地区	主軸方向/方位	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	延闊(m)	分類	新旧関係
SIB235	64K~50L SIF N~E	28°×14° 右方角 傾柱建物	13.26	4.51	3.00		Ⅱ類	SIB9235~SIB9234
柱穴	位置	柱造存状況 平面図 良好(m) 傾柱(m)	新規柱 第2(m)	柱間の長さ5(m)				
P1828	50F7	C類	楕円形 0.34	0.37	U7柱 0.44	P1228~P1254	2.23	
P1840	50L13	A類	楕円形 0.30	0.28	U7柱 0.45	P1254~P1265	2.29	
P1873	50S10	D類	円形 0.22	0.26	台形柱 0.29	P1277~P1272	1.00	
P1820	50D14	D類	円形 0.29	0.24	V7柱 0.57	P1273~P1280	2.39	
P1875	50D~8	D類	円形 0.32	0.25	U7柱 0.20	P1230~P1240	2.26	P1875>SIK466
P1854	50S4	-	円形 0.33	0.28	台形柱 0.22	P1249~P1236	2.80	P1854>P1842
遺構番号	地区	主軸方向/方位	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	延闊(m)	分類	新旧関係
SIB9236	64K~50L SIF N~E	28°×14° 右方角 傾柱建物	13.28	4.47	2.76		Ⅱ類	SIB9236~SIB9237
柱穴	位置	柱造存状況 平面図 良好(m) 傾柱(m)	新規柱 第2(m)	柱間の長さ5(m)				
P1835	50S12	C類	楕円形 0.54	0.47	台形柱 0.43	P1277~P1283	2.27	
P1840	50L17~18	D類	円形 0.21	0.28	U7柱 0.12	P1234~P1240	2.24	P1840>SIK467
P1877	50L13	-	円形 0.41	0.35	U7柱 0.32	P1286~P1297	3.25	
P1826	50S24	B類	楕円形 0.48	0.39	U7柱 0.67	P1274~P1280	2.23	
P1833	50S~13	C類	円形 0.40	0.27	U7柱 0.36	P1240~P1253	2.17	P1833>P1834
P1874	50L22~23	-	円形 0.36	0.25	U7柱 0.20	P1235~P1237	2.76	
遺構番号	地区	主軸方向/方位	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	延闊(m)	分類	新旧関係
SIB9243	75K~57L SIF N~E	28°×14° 右方角 傾柱建物	13.89	4.43	3.30		Ⅱ類	
柱穴	位置	柱造存状況 平面図 良好(m) 傾柱(m)	新規柱 第2(m)	柱間の長さ5(m)				
P1891	57L11	B類	柱門形 0.50	0.35	扁柱 0.60	P1233~P1239	2.27	
P1818	57L2	C類	柱門形 0.61	0.43	台形柱 0.30	P1281~P1282	2.05	
P1820	57L6	A類	柱門形 0.46	0.29	测段柱 0.71	P1223~P1240	3.30	
P1823	57S8	D類	柱門形 0.29	0.21	台形柱 0.15	P1265~P1269	1.92	
P1833	57L12~22	-	柱門形 0.42	0.32	扁柱 0.86	P1282~P1286	1.96	
P1846	56S5	B類	柱門形 0.14	0.27	U7柱 0.50	P1246~P1253	3.43	P1846>P1801

観察表

掘立柱建物観察表(9)

遺構番号	地区	主軸方向/方位			建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	壁厚(m)	分類	測定基準
		南北	東西	上昇						
SII0240	SK-40-0001	東	西	-	2間×2間 方形 備柱建物	19.09	5.17	3.07	Ⅱ類	SII0249>SII0196>SI05229 SII0249>SI0165
柱穴	位置	柱造在状況	平面図	真高(m)	柱の長さ(m)	柱間(m)	柱間(m)	柱の長さ(m)	出土遺物	
P5424	46324	D型	直柱	0.60	0.38	台形柱	0.31	P5410-P5409	2.52	
P5447	46313	D型	楕円形	0.35	0.25	U7柱	0.48	P5036-P5040	2.66	P5447>P5448
P5551	46318	C型	円形	0.43	0.37	測定柱	0.31	P5046-P5075	1.66	P5551>P5532
P6410	4639	D型	円形	0.40	0.18	U7柱	0.36	P5079-P5142	2.19	P6410>P6411
P6412	4638	A型	円柱	0.35	0.38	台形柱	0.27	P5429-P5531	2.47	
P6436	46315	D型	円形	0.50	0.49	U7柱	0.68	P5533-P5540	2.35	P6436>P6435
P6479	46320-25	D型	円形	0.35	0.32	台形柱	0.30	P5457-P5462	1.93	P6479>SI057570
P6484	46320	-	円形	0.23	0.21	U7柱	0.21	P5412-P5410	1.83	
遺構番号	地区	主軸方向/方位	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	壁厚(m)	柱間(m)	柱間(m)	分類	測定基準
SII0250	64K-53K-53L N-18°-E	2間×1間 方形 備柱建物	5.74	3.04	1.86				Ⅱ類	
柱穴	位置	柱造在状況	平面図	真高(m)	柱の長さ(m)	柱間(m)	柱間(m)	柱の長さ(m)	出土遺物	
P6411	53K23	D型	直柱	0.40	0.31	台形柱	0.23	P5009-P5073	1.80	
P6408	53K17	D型	円形	0.39	0.32	U7柱	0.29	P5757-P5800	1.26	
P6403	53K18	-	円形	0.26	0.27	U7柱	0.18	P5669-P5611	1.86	
P6400	53K23	-	円形	0.35	0.29	U7柱	0.54	P5811-P5828	1.04	
P6418	53K16-21-22	-	円形	0.28	0.27	U7柱	0.45	P5240-P5009	1.93	
遺構番号	地区	主軸方向/方位	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	壁厚(m)	柱間(m)	柱間(m)	分類	測定基準
SII0251	64K-53K-53L N-18°-E	3間×1間 方形 備柱建物	4.86	3.82	1.28				Ⅰ類	
柱穴	位置	柱造在状況	平面図	真高(m)	柱の長さ(m)	柱間(m)	柱間(m)	柱の長さ(m)	出土遺物	
P6412	53K4-5	D型	直柱	0.23	0.18	台形柱	0.15	P5757-P5802	1.15	
P6414	53L9-10	-	円形	0.26	0.22	U7柱	0.14	P5057-P5142	1.38	
P6415	53L5	C型	直柱	0.21	0.28	U7柱	0.22	P5412-P5900	1.24	
P6420	53L5	D型	直柱	0.32	0.27	台形柱	0.29	P5650-P5820	1.28	
P6456	53L9	C型	円形	0.27	0.25	台形柱	0.22	P5420-P5413	1.38	
P6471	53L9	C型	直柱	0.36	0.24	U7柱	0.30	P5115-P5144	1.33	
P6497	53L4	D型	直柱	0.22	0.28	U7柱	0.18	P5144-P5171	1.27	
P6460	53K25	D型	円形	0.22	0.28	U7柱	0.20	P5871-P5876	1.22	
遺構番号	地区	主軸方向/方位	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	壁厚(m)	柱間(m)	柱間(m)	分類	測定基準
SII0252	45K-45L-45M N-30°-E	3間×1間 方形 備柱建物	20.43	5.98	3.15				Ⅰ類	SII0252>SI03780
柱穴	位置	柱造在状況	平面図	真高(m)	柱の長さ(m)	柱間(m)	柱間(m)	柱の長さ(m)	出土遺物	
P5733	45L22	-	円形	0.20	0.19	U7柱	0.12	P5776-P5777	2.84	
P5725	45L25	-	楕円形	0.37	0.21	U7柱	0.34	P5775-P5732	2.32	
P5726	45L17-22-24	D型	楕円形	0.28	0.30	U7柱	0.25	P5739-P5909	1.59	P5726>P5876
P5860	45P1	C型	円形	0.49	0.47	U7柱	0.51	P5939-P5877	3.15	
P5874	44P5	D型	円形	0.38	0.39	U7柱	0.28	P5667-P5696	1.55	
P5877	45P2	D型	円形	0.34	0.23	U7柱	0.20	P5666-P5761	2.16	P5877>P5878
P5809	45E22	D型	直柱	0.49	0.36	U7柱	0.01	P5874-P5865	2.31	
P5882	45P1-9	D型	円形	0.30	0.28	U7柱	0.27	P5865-P5736	3.32	
遺構番号	地区	主軸方向/方位	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	壁厚(m)	柱間(m)	柱間(m)	分類	測定基準
SII0290	41K-41L-41M N-30°-E	2間×1間 方形 備柱建物	22.21	5.32	4.18				Ⅱ類	
柱穴	位置	柱造在状況	平面図	真高(m)	柱の長さ(m)	柱間(m)	柱間(m)	柱の長さ(m)	出土遺物	
P5361	43E17	A型	円形	0.20	0.17	U7柱	0.16	P5124-P5030	2.91	
P5412	43E11-12	D型	直柱	0.24	0.28	U7柱	0.28	P5630-P5735	2.40	
P5419	43E23-24	A型	円形	0.21	0.19	楕柱	0.14	P5032-P5065	2.10	
P5422	43E22-23	C型	円形	0.22	0.29	台形柱	0.10	P5070-P5080	2.37	
P5601	43E20	A型	直柱	0.35	0.33	台形柱	0.18	P5061-P5140	2.59	
P5607	43E14	A型	直柱	0.30	0.28	U7柱	0.34	P5119-P5122	2.38	
P5620	43E13	C型	円形	0.26	0.25	U7柱	0.26	P5422-P5380	2.21	
P5682	43E9	-	円形	0.18	0.11	U7柱	0.22	P5061-P5142	1.95	
遺構番号	地区	主軸方向/方位	建物構造	面積(m ²)	軒高(m)	壁厚(m)	柱間(m)	柱間(m)	分類	測定基準
SII0294	41L-42-43E N-30°-E	2間×1間 方形 備柱建物	14.68	4.41	2.94				Ⅱ類	
柱穴	位置	柱造在状況	平面図	真高(m)	柱の長さ(m)	柱間(m)	柱間(m)	柱の長さ(m)	出土遺物	
P5304	42E9-9	A型	円形	0.29	0.22	U7柱	0.46	P5036-P5230	1.60	
P5306	42E10	D型	円形	0.20	0.19	U7柱	0.40	P5239-P5260	2.85	
P5314	42E14-19	D型	円形	0.32	0.21	台形柱	0.26	P5203-P5210	2.94	
P5321	42E20	D型	円形	0.31	0.29	U7柱	0.25	P5231-P5114	2.77	
P5329	42E10	D型	直柱	0.29	0.24	U7柱	0.42	P5114-P5190	2.38	
P5381	43E11	A型	円形	0.35	0.30	U7柱	0.48	P5031-P5030	3.22	P5381>P5382

観察表

遺構観察表(1)

番号	種類	種別	地区	グリッド	平面形	断面形	長径幅 (m)	短径 (m)	深さ (m)	埋土	層	前面関係	出土遺物	時期	分類	所見・備考	
4617	SE	N	7区	STF24, STG2-4	方形	箱状	0.99	0.84	1.28	水平	3			BII期	埋め戻したか		
4618	SE	N	7区	SGG22- 23,24, 25,26, 27-34	円形	箱状	3.46	3.19	2.22	レンズ状	12	>SD4568 >SD4669 <SD4940	土加賀土器皿A類、 瓦筒瓦類、甕	15C前半	A2I期	自然埋没	
4622	SE	N	7区	SGH12- 13	方形	U字状	0.54	0.52	0.96	上部レンズ状 ？段水平	5			BIII期	下部を埋め戻したか		
4695	SE	N	7区	STH17	円形	輪郭状	0.98	0.79	1.44	レンズ状	7	>P4753 >P4776	土加賀土器皿B類、 瓦筒瓦類、木製品	15C後半	A1I期	自然埋没	
4701	SE	N	7区	STG21- 22	扇円形	U字状	1.15	0.92	1.13	水平	4			15C前半	A1I期	柱穴になる 可能性あり	
4896	SE	N	7区	STH16	扇円形	U字状	1.47	1.00	1.26	レンズ状	6			土加賀土器皿C類	14C末～ 15C前半	A1I期	自然埋没
4905	SE	N	7区	STG25- 27E5	円形	U字状	1.06	0.96	1.13	レンズ状	5			廻り焼御印皿	14C末～ 15C前半	A1I期	柱穴になる 可能性あり
4996	SE	N	7区	STY14- 15	扇円形	箱状	1.84	1.19	1.43	レンズ状	6			瓦筒瓦類、木製品	15C前半	A2II期	自然埋没
4934	SE	N	7区	STH14-5	円形	台形状	0.75	0.74	0.82	レンズ状	4			廻り焼平皿	15C前半	A1II期	自然埋没
4998	SE	N	7区	STY14- 21	方形	U字状	0.78	0.76	0.92	水平	2				BII期	埋め戻したか	
4956	SE	N	4区	GHY5- 10	円形	U字状	0.83	0.76	1.06	水平	4			廻り焼軸轳小皿	15C前半	A1I期	自然埋没
4962	SE	N	7区	STG18	円形	台形状	1.26	1.07	1.14	レンズ状	5	<SD4646	瓦筒瓦類、木製品	15C	A1I期	柱穴になる 可能性あり	
5009	SE	N	5区	GTY12	円形	輪郭	0.76	0.72	0.80	レンズ状	5			土加賀土器皿C類、 瓦筒瓦類	14C末～ 15C前半	A1II期	自然埋没
5087	SE	N	5区	GHY25- 27E12	方彌	輪郭	1.10	0.83	1.16	上部レンズ ？段水平	4			土加賀土器皿C類、 瓦筒瓦類	14C後半 ～	B1期	下部を埋め戻したか
5099	SE	N	5区	GHY24- 25	円形	台形状	0.90	0.86	1.42	水平	3					A1I期	廻戻したか
5103	SE	N	4区	GHY9	圓方	U字状	1.06	0.46	1.70	水平	5	<P5014	土加賀土器皿C類、 瓦筒瓦類	15Cか ～	B1期	廻戻したか	
5191	SE	N	5区	GHY19- 24	円形	輪郭	0.92	0.91	1.04	水平・縫合	3			土加賀土器皿C類	15C後半	A1I期	埋め戻したか
5194	SE	N	5区	GHY23- 24	円形	輪郭	0.56	0.48	1.00	水平	3			青磁碗	15C前半	A1II期	埋め戻したか
5323	SE	N	5区	GHY16- 22	扇円形	台形状	2.18	1.96	1.37					土加賀土器皿C類、 瓦筒瓦類	14C末～ 15C前半	A1I期	落着のため、 縫合不明
5452	SE	N	6区	GHY16	円形	輪郭	0.85	0.78	0.80	レンズ状	5	<P5453	土加賀土器皿C類、 瓦筒瓦類	14C末～ 15C前半	A1I期	自然埋没	
5454	SE	N	6区	GHY20	扇円形	U字状	0.91	0.75	1.00	レンズ状	4			廻り焼 縫合小皿	15C後半	A1I期	自然埋没
5678	SE	N	4区	GHY15- 16	扇円形	U字状	0.88	0.68	1.30	水平	2			土加賀土器皿A類、 瓦筒瓦類	14C後半 ～	A1I期	埋め戻したか
5722	SE	N	5区	GHY16- 22	扇円形	輪郭	1.73	0.85	1.59	ブロック状	4			瓦筒瓦類	14C後半 ～	A2II期	別置構造で重複している可能性 ～15Cか
5733	SE	N	5区	GHY23- 24	円形	U字状	0.76	0.56	1.10	レンズ状	3	<SK5349	木製品		BII期	自然埋没	
5866	SE	N	5区	GHY7-8	円形	輪郭	1.19	0.89	1.35	レンズ状	2	>SD5348			A1I期	自然埋没	
5822	SE	N	5区	GHY16- 22	扇円形	輪郭	0.82	0.65	1.21	レンズ状	5	>SK5623			A1I期	自然埋没 縫合か	
5831	SE	N	5区	GHY21- 24	扇円形	台形状	0.76	0.57	1.00	レンズ状	4				A2II期	自然埋没 縫合か	
5834	SE	N	5区	GHY16	円形	輪郭	0.79	0.63	1.26	水平	4				A1II期	埋め戻したか	
5952	SE	N	6区	SGG1-6	円形	輪郭	1.00	0.89	1.20	水平	4				A1I期	埋め戻したか	
5958	SE	N	4区	GHY13- 18	扇円形	台形状	0.76	0.63	1.26	レンズ状	2			土加賀土器皿A類、 瓦筒瓦類	14世紀 以前	A1II期	自然埋没 縫合か
5990	SE	N	4区	GHY6	扇円形	台形状	1.00	0.84	1.60						A1I期	落着のため、 縫合不明	
5995	SE	N	4区	GHY24- 24	円形	輪郭	1.12	0.95	1.58	レンズ状	3			瓦筒瓦類、木製品	14C後半 ～15C	A2II期	自然埋没 縫合か
6002	SE	N	4区	GHY12- 13	扇円形	U字状	0.68	0.63	1.00	水平・斜行	5			瓦筒瓦類	14C後半 ～15C	A1II期	埋め戻したか

観察表

遺構観察表(2)

番号	種類	種類	地区	グリッド	平面形	断面形	長径 幅(幅) (m)	短径 (幅) (m)	深さ	埋土	層	前面関係	出土遺物	時期	分類	所見・備考
6009	SE	N	4区	44E17-22	円形	U字状	0.66	0.80	1.04	水平	4		砾石		A1Ⅱ層	人頭大的羅森を発見した後に削除したか
6035	SE	N	5区	47E25-48E21-47E5	方形	階段状	1.51	1.38	1.52	レンズ状	5		石臼,木製品	1SC小	B1層	自然埋没
6039	SE	N	5区	48H17-22	扇円形	階段状	1.54	1.05	1.80	レンズ状	4	>SK6348	土師質土器底B類	1SC後半	A2Ⅲ層	自然埋没か
6048	SE	N	5区	48I2-4	円形	U字状	1.00	0.97	1.48	レンズ状	4	>SK6047		1SC	A1Ⅲ層	自然埋没
6049	SE	N	5区	48I2-3	円形	範状	0.77	0.60	0.92	斜行	3		土師質土器底C類 漆器底,木製品	1SC最下	A1Ⅲ層	自然埋没か
6145	SE	N	5区	48I23	円形	偏平状	0.78	0.73	1.40	レンズ状	4		土師質土器底B類	1SC後半	A1Ⅲ層	自然埋没
6201	SE	N	6区	50G11-12-16	円形	範状	0.75	0.69	1.32	レンズ状	3	>SK6554			A1Ⅲ層	自然埋没
6413	SE	N	5区	46I10	円形	U字状	0.66	0.77	1.40	レンズ状	4		刀子,小柄,木製品	1SC小	A1Ⅲ層	自然埋没
6415	SE	N	5区	46I5-47J1	圓丸 方舟	偏平状	0.87	0.85	1.56	レンズ状	5	>SP641	土師質土器底A類	1SC後半 ~1SC少	B2層	自然埋没
6488	SE	N	6区	50G13	円形	U字状	0.85	0.67	1.45	水平	3	<SD6308	土師質土器底C類, 漆器底	1SC中 ~1SC少	A1Ⅰ層	削め回したか
6515	SE	N	5区	46I4-5	方舟	範状	0.87	0.87	1.20	レンズ状	5		土師質土器底C類, 圓丸,方舟,漆器底, 白磁碗,木製品	1SC後半	B2層	自然埋没
6577	SE	N	6区	50G8-13	円形	U字状	1.02	0.88	1.23	レンズ状	4	>SD6308	土師質土器底C類, 青磁碗,木製品	1SC末 ~1SC前半	A1Ⅰ層	削め回したか
6632	SE	N	5区	46H12-13	扇円形	範状	0.91	0.74	0.85	レンズ状	4	>SK6531			A1Ⅰ層	自然埋没
6646	SE	N	6区	51E16-17	円形	範状	0.72	0.69	1.00	レンズ状	4				A1Ⅱ層	自然埋没
6708	SE	N	5区	48J7-8	円形	偏平状	1.70	1.58	1.63	レンズ状	5	>SK6771	木製品		A1Ⅰ層	自然埋没
6790	SE	N	6区	51E11-16	円形	階段状	1.51	1.17	1.34	水平	1		漆器碗,曲物,水差 通文	1SC少	A1Ⅱ層	自然埋没か
6985	SE	N	6区	50H14-15-19-20	円形	U字状	0.74	0.66	1.00	レンズ状	4	>SD6984	白磁盤	1SC前半	A1Ⅱ層	自然埋没
7053	SE	N	5区	47J7-8-12-13	扇円形	台形状	1.27	0.96	1.04	水平-斜行	4	<SD5308	土師質土器底C類	1SC前半	A1Ⅰ層	丁部を削め回したか
7287	SE	N	5区	48K1	円形	範状	1.11	0.90	1.74	レンズ状	6		瓦塊 埴跡		A1Ⅰ層	自然埋没
7354	SE	N	5区	47J10-15	圓丸 方舟	偏平状	1.00	0.89	1.28	レンズ状	2	>P7253	土師質土器底C類, 瓦塊,青磁碗,漆器底, 木製品	1SC前半	B1層	自然埋没
7384	SE	N	5区	47J9-14	圓丸 方舟	範状	1.35	1.22	1.44	レンズ状	5		木製品		B1層	
7498	SE	N	4区	43E1-6	方舟	台形状	0.98	0.78	1.66	水平-レン ズ	3		土師質土器底A類, 砾石	1SC後半	B1層	削め回したか
7828	SE	N	6区	49F13-14	圓丸 方舟	U字状	0.87	0.79	1.62	レンズ状	4		土師質土器底A類, 瓦塊,漆器底,木製品 瓦塊	1SC前半	B1層	部分的に 削め回したか
7963	SE	N	6区	49E25- 50E21- 49E5- 50E1	扇円形	範状	2.44	1.79	1.92		17		土師質土器底A-C 類,瓦塊,漆器底, 瓦塊,小底,圓柱,日皿 瓦塊,漆器底,漆器 底,瓦塊,木製品,ゾウ リガラス石,石	1SC末 ~1SC少	A2Ⅰ層	自然埋没
8105	SE	N	6区	50H3-4	圓丸 方舟	U字状	1.62	1.08	1.62	レンズ状	7		漆器碗,灰陶木製品 砾石	1SC少	B1層	>SD692の柱穴を埋すか下 部を削め回したか
8115	SE	N	6区	50I-15- 19-20	円形	台形状	1.54	1.25	1.70	レンズ状	4		木製品,漆器底板		A1Ⅰ層	自然埋没
8154	SE	N	6区	50I9-14	円形	範状	0.91	0.78	1.50	レンズ状	6				A1Ⅰ層	上部を削め回したか
8353	SE	N	6区	50I5	円形	U字状	1.06	1.04	1.17	水平-斜行	3				A1Ⅰ層	2層まで削め回したか
8684	SE	N	6区	50L18- 19-23- 24- 53M2-4	圓丸 方舟	階段状	3.75	2.85	1.64	レンズ状	8		漆器底,漆器碗, 木製品	1SC少	A2Ⅰ層	自然埋没

観察表

遺構観察表(3)

番号	種類	種類	地区	グリッド	平面形	断面形	長径 幅(幅) (m)	短径 (幅)(m)	埋さ	層位	前面関係	出土遺物	時期	分類	所見備考
8722	SE	N	6区	5SH14	圓丸 長方形	縦状	0.68	0.55	0.96	レンズ状	3			BII期	自然埋没
8782	SE	N	6区	5IH19	圓丸 長方形	縦状	1.17	0.91	2.00	レンズ状	4	>PS662	白磁皿,木器柄	1SC前半	BII期 上部を埋め戻したか
8937	SE	N	5区	4SK13	円形	縦状	0.81	0.68	1.54	レンズ状	3		土加賀土器底C瓶 珠洲焼灰,器物	1SC	AII期 下部を埋め戻したか
9046	SE	N	6区	5HH- 2-6-7	圓丸 長方形	縦状	1.18	0.71	1.54	レンズ状	2		桃尻木製品	1SC	AII期 上部を埋め戻したか
9052	SE	N	6区	5SK1-2	円形	U字状	0.89	0.74	1.07	レンズ状	3	<SD8506	珠洲焼 瓶底	1SC末~ 1SC前半	AII期 自然埋没
9064	SE	N	6区	5HH7	円形	台形状	1.03	0.90	0.80	レンズ状	3		越前焼 瓶底	1SC後半	AII期 自然埋没
9651	SK	N	7区	5G15- 20-25, 5G11- 21-22	円形	弧状	4.61	2.83	0.58	レンズ状	7	>SD1602 >SK642 >SK654 >SK665 >SK675	土加賀土器底D瓶 珠洲焼灰,指輪	1SC後半	
4672	SK	N	7区	5V11- 12	角円形	路溝段	1.00	0.88	0.72	レンズ状	5	>SD1602	珠洲焼 瓶底	1SC末~ 1SC前半	
4673	SK	N	7区	5TH1-2	円形	路溝段	1.17	1.14	0.84	水平・斜行	6		土加賀土器底D瓶 珠洲焼灰,指輪	1SC後半	人頭大の罐を発見後、埋め戻したか
4712	SK	N	7区	5TH1	扁円形	U字状	1.51	0.81	0.64	ブロック状	7		土加賀土器底D瓶 木製品	1SC後半	埋め戻したか
4793	SK	N	7区	5TJ22- 23, 5TK2-3	長丸 円形	弧状	(32)	1.44	0.42	レンズ状	5		珠洲焼 瓶底排体灰石	1SC末~ 1SC前半	
4866	SK	N	7区	5TJ13- 14 -18-19	圓丸 長方形	縦状	1.66	0.95	0.36	单層	1				墓坑心
4903	SK	N	7区	5T15-10, 5H11-2, 6	圓丸 長方形	台形状	3.10	1.85	0.82	レンズ状	10	<SD4646	栗戸焼合 凹沿盤	1SC後半	
4935	SK	N	7区	5H16- 11	方形容	台形状	1.14	1.01	0.56	レンズ状	4	>P4938			
5055	SK	N	5区	4SH19- 20-24	円形	弧状	0.83	0.82	0.20	レンズ状	2	>SK5666		1SC後半	
5056	SK	N	5区	4SH14- 15-19 20-24 4SH11	長楕 円形	弧状	4.42	1.75	0.34	レンズ状	7	<SK5655 <SK5307	珠洲焼 瓶底	1SC末~ 1SC前半	
5079	SK	N	5区	4G012	圓丸 方形容	縦状	0.80	0.76	0.60	レンズ状	4				埋め戻したか
5139	SK	N	5区	4GQ2-7	円形容	牛斗状	0.55	0.53	0.42	レンズ状	2	<SD5138	栗戸焼 平盤	1SC後半	
5189	SK	N	5区	4T18- 19-23, 4T13-4	扁円形	弧状	3.67	(2.00)	0.26	レンズ状	3	>SD1605 >SK5307 <SK5230 <SK5078	土加賀土器底D瓶 珠洲焼灰,灰製品	1SC後半	
5190	SK	N	5区	4T18- 19-23, 4T13-4	圓丸 方形容	弧状	3.25	(2.02)	0.20	单層	1	<SK5794			
5328	SK	N	5区	4TH16	圓丸 方形容	縦状	0.92	0.83	0.84	レンズ状	3		青磁碗,珠洲焼排体	1SC末~ 1SC前半	
5347	SK	N	6区	4H11	圓丸 方形容	台形状	1.02	0.91	0.15	1	>SK5056		1SC後半		
5564	SK	N	5区	4H12-8	円形容	台形状	0.92	0.92	0.66	レンズ状	3	>P565			
5730	SK	N	5区	4T24- 47H4	円形容	縦状	0.74	0.69	0.75	本平・レシ 灰柱	4	<SK5189	土加賀土器底C瓶	1SC末~ 1SC後半	
5794	SK	N	5区	4T12- 3-7-8, 12-13	不整形	弧状	(2.36)	(1.20)	0.10	1	>SK5190				

観察表

遺構観察表(4)

番号	種類	種類	地区	グリッド	平面形	断面形	長径 幅 (m)	短径 (m)	深さ (m)	埋土	層	前面関係	出土遺物	時期	分類	所見・備考	
5804	SK	N	5区	47H10-15, 48H11	不整形	弧状	23.3	1.27	0.21	レンズ状	2	<SK5814 >SK6105		近世 江戸期			
5807	SK	N	3区	48H12-17	長角 円形	弧状	17.0	0.92	0.12	レンズ状	2						
5810	SK	N	5区	48H12-17	圓丸 方角	台形状	0.59	0.58	0.38	レンズ状	5						
5816	SK	N	5区	47H15	長角 円形	弧状	1.84	0.85	0.15	單層	1	>P5804	珠洲織葉	近世江戸 期			
5819	SK	N	6区	49F21L, 49G1	圓丸 方角	台形状	0.65	0.64	0.80	レンズ状	2	<SK5445		1KC～ 1KC後半			
5824	SK	N	6区	50F21- 22, 50G1-2	不整形	弧状	2.65	1.10	0.28	レンズ状	2			土師質土器皿B類	1KC後半	廻め戻したか	
5903	SK	N	5区	48E2- 11-12	円形	半円形	0.67	0.61	0.32	レンズ状	2			土師質土器皿A類	1KC中葉		
6178	SK	N	5区	49I4-9	扇円形	U字形	0.92	0.55	0.90	水平	3			土師質土器皿B類	1KC後半	廻め戻したか	
6471	SK	N	3区	48I17- 22	不整形	弧状	1.85	1.27	0.44	レンズ状	2	>P6472	砾石	1KCか			
6554	SK	N	6区	50G11	扇円形	階段状	0.96	0.78	0.81	レンズ状	3	<SK6303		1KCか		廻め戻したか	
6555	SK	N	5区	50G16- 17	円形	椭状	0.79	0.73	0.92	水平	3			1KC		廻め戻したか	
6631	SK	N	5区	48I17- 8-9-12- 13-14	圓丸 方角	弧状	3.69	2.73	0.26	レンズ状	4	>SK6630 <SK6632				1KCか	
6771	SK	N	5区	48J18-9	圓丸 方角	弧状	1.27	0.91	0.19	レンズ状	2	<SK6798		1KCか			
6901	SK	N	5区	46I12S, 47I12I	円形	椭状	0.75	0.65	0.55	レンズ状	5						
7368	SK	N	5区	47J16- 17	圓丸 方角	弧状	1.47	0.98	0.18	レンズ状	2						
7423	SK	N	5区	48J11- 12	圓丸 方角	台形状	1.63	1.14	0.29	レンズ状	6			瀬戸焼瓦罐大皿	1KC末～ 1KC後半	基坑か	
8050	SK	N	6区	50I12-4- 8-9	不整形	階段状	1.59	1.17	0.32	レンズ状	5	<SK8007 <SK8054			1KCか		
8152	SK	N	6区	50I15- 51H1-6	方角	弧状	2.26	1.74	0.19	レンズ状	2	<SK8033	珠洲織葉	1KC末～ 1KC後半		基坑の可能性あり	
8256	SK	N	6区	51H16-7	扇円形	弧状	1.88	1.37	0.30	レンズ状	2	>SK8472					
8375	SK	N	6区	50I12-3- 50J3-4	円形	弧状	1.84	1.65	0.20	レンズ状	3			土師質土器皿C類、 青磁碗、珠洲織葉	1KC末～ 1KC後半		
8468	SK	N	6区	50I12I- 50I4-5	圓丸 方角	弧状	2.86	1.64	0.16	レンズ状	4	<SK8327 <SK8476	珠洲織葉	1KC後半 ～1KC			
8653	SK	N	6区	51I12L- 51I14	扇円形	弧状	1.35	1.02	0.20	單層	1	<SK8652					
8654	SK	N	6区	50I20- 51H1-16- 51H2-17- 21	長角 円形	弧状	3.50	1.65	0.18	レンズ状	2						
8705	SK	N	6区	51H5- 54L1-6	扇円形	弧状	2.06	1.49	0.14	單層	1						
8756	SK	N	6区	52L- 19-20- 21-25	圓丸 方角	弧状	2.48	1.16	0.10	單層	1			近世 江戸期		底面凹凸著しい 黒釉プロセラック多く含み。水 屋用器物か	
8905	SK	N	5区	45G9- 14	円形	U字形	0.83	0.77	0.75	レンズ状	5			珠洲織葉、砾石	1KC後半 ～1KC後半	人頭大の罐を発掘後、廻め 戻したか	

観察表

遺構観察表(5)

番号	種類	種類	地区	グリッド	平面形	断面形	長径幅 (m)	短径 (m)	深さ (m)	埋土	層	前面関係	出土遺物	時期	分類	所見・備考
9010	SK	N	6区	S2G 13-14- 18-19	扇円形	弧状	2.20	1.56	0.16	単層	1	<P9009	白磁盤	15C前半		
9083	SK	田中道	6区	S1AK28 S2K16	円形	台形状	1.26	1.16	0.33	レンズ状	4	>田中道		15C		田中道を掘り込む
9084	SK	田中道 横山曲	6区	S1K 19- S2K6- 11	円形	台形状	0.95	0.90	0.34	レンズ状	3	>田中道		15C		田中道を掘り込む
9091	SK	N	6区	54K1- 2-6-7	圓丸 長方形	弧状	2.18	0.91	0.10	単層	1				15C	墓坑の可能性あり
8000	SK	N	6区	S1H-2- 6-7	圓丸 方形容	弧状	(1.44)	(0.18)	レņズ状	7	<SD6008	ガラス製数珠玉	15C		遺構の大きさでSD6008により範囲がされている	
8809	SK	SD6008 北端	6区	S2H10- 15, S3H-11	圓丸 方形容	弧状	1.14	0.66	0.12	単層	1		古鏡、 木製数珠玉、 骨片	15C		遺構は、SD6008範囲内に 範囲は、南側端と墓坑の 範囲は15号別レべであ る。墓坑底面直上に骨片 があり、その上に古鏡があ つた。該遺品と思われる古鏡 と数珠玉と思われる木製 数珠玉が出土している。
4007	SK	N	7区	S7K7- 8-12- 13-18	圓丸 方形容	断面状	(4.71)	(1.33)	0.38	レンズ状	2				15Cか	SD6008と同一遺構の可 能性あり
4706	SK	N	7区	36H1- 2-6-7- 9-10- 12-13	圓丸長 方形容	弧状	(2.64)	(2.63)	0.58	レンズ状	4		瓦器	15Cか		
5353	SK	N	5区	G1H25, G1T21, G1A-5- 9-10- 12-13 S0H1-6- 11	圓丸 長方形	弧状	4.48	3.45	0.13	単層	1	<P9336 >P9334 >P9332 >SD501 <SD5315		15Cか		壁穴建物の可能性あり
7109	SK	N	6区	S2F13- 14-16- 19-20- 21-25	圓丸 長方形	台形状	4.09	2.82	1.00	レンズ状	7	>SK8853	青磁碗、 唐三彩大口系瓶、 板状木製品	15C後半		
7451b	SK	N	5区	48K1- 2-5- 4-5-10- 8H9-1	圓丸 長方形	白形状	3.29	2.23	1.12	レンズ状	7	>SK761b	土器質土器類C瓶、 青磁盤	15C前半		SK7451bに西側に、再度、 土器質に掘り込んだ松林あり
7451c	SK	N	5区	48K18- 19-20- 21-24- 25- 48K3- 19-10- 8H9-1	圓丸 長方形	弧状	5.80	4.42	0.66	レンズ状	7	<SK7451a		14C末～ 15C前半		既設後、SK7451bに西側 を擴張している。
9154	SK	N	6区	50H22- 23-24- 50J2-3- 4-7-8	圓丸 長方形	弧状	3.71	3.12	0.52	レンズ状	7	>SD8307 >SK8307		15C ?		底面街にある土坑状の掘り 込みは、別遺構になる可能 性あり
4601	SD	N	7区	60G18- 23		弧状	2.24	0.17～ 0.42	0.04	単層	1					
4602	SD	N	7区	60G12- 13		弧状	1.99	0.22～ 0.33	0.12	単層	1					

観察表

遺構観察表(6)

番号	種類	施設名	地区	グリッド	平面形	断面形	長径幅 (m)	短径 (m)	深さ (m)	埋土	層	前面関係	出土遺物	時期	分類	所見・備考
4623	SD	N	7区	60K-60L	弧状	(15.30)	1.09~ 2.37	0.30	レンズ状	2	<SD4612 2<SD4612 3				SD4612との前面関係は不明	
4628	SD	N	7区	58-59J	弧状	(8.14)	0.46	0.28	レンズ状	2	<SD4629					
4629	SD	N	7区	58-59J	弧状	(3.10)	1.48	0.08	単層	1	>SD4620 >SD4625					
4630	SD	N	7区	58- 59L-58K	円形状	(10.00)	0.22~ 0.71	0.30	レンズ状	3	>SD4629					
4631	SD	N	7区	58- 59L-59H	弧状	(11.06)	0.26~ 0.79	0.20	単層	1	<SD4632					
4632	SD	N	7区	58-59K	円形状	(14.30)	0.43~ 1.31	0.42	レンズ状	3	>SD4631 >SD4633					
4633	SD	N	7区	S7-58K	弧状	(8.13)	1.59~ 2.86	0.66	レンズ状	2	<SD4632 <SD4646	青磁碗	1KC後半 ~1KC前半			
4634	SD	N	7区	58L14- 19	弧状	(3.56)	0.23~ 0.82	0.08	レンズ状	2						
4635	SD	N	7区	59H-66	円形状	(2.50)	0.22~ 0.33	0.08	単層	1	<SD4636					
4636	SD	N	7区	58K- 6-7-11	弧状	(2.51)	0.21~ 0.35	0.14	単層	1	>SD4635 >SD4632					
4639	SD	N	7区	58K20- 30K16	弧状	0.80	0.24	0.08	単層	1	>SD4640					
4640	SD	N	7区	58K15- 58K13	弧状	(8.54)	0.46~ 0.91	0.13	単層	1	<SD4639					
4652	SD	N	7区	S7G- 56L- 56L	円形状	(23.37)	0.30~ 0.98	0.42	レンズ状	3	<SK4672 <SK4651 <G4772		1KC中葉 ~後半		SD4670と同一遺構	
4694	SD	N	7区	58I- 8-9-10- 13-14	弧状	3.89	0.61	0.08	単層	1	>SD4687 >SD4690					
4792	SD	N	4区	G- 44F-A4E	円形状	(23.32)	0.25~ 1.01	0.32	レンズ状	4	>P510					
4796	SD	N	4区	41E- 41F- 42E- 42F	階段状	(29.13)	3.11	0.68	レンズ状	4	>SE4797	土加賀十器組A類、 土加賀十器組B類、 石臼、磨津鏡、 石臼、磨津鏡	1KC中葉 ~後半		1期に瓦井陶器組切入 する跡となっていたか。 SD111-4628と接続する可 能性あり	
4807	SD	N	7区	58I- 14-15	弧状	3.17	0.34~ 0.40	0.04	単層	1						
4861	SD	N	7区	57J6- 11-12	弧状	(3.40)	0.29~ 0.44	0.04	単層	1	珠洲焼	1KC末~ 1KC前半				
4865	SD	N	7区	58K25- 30K11- 42-46-23	弧状	(4.11)	0.21~ 0.28	0.06	単層	1	<SD4646					
4868	SD	N	7区	58G- 19-20- 24-25	弧状	(3.97)	0.19~ 0.49	0.06	単層	1	<SE4638 <SD4641		1KC~ 1KC前半			
4869	SD	N	7区	58G24- 25	弧状	(2.31)	0.16~ 0.24	0.04	単層	1	<SE4638 <SD4641		1KC~ 1KC前半			
4880	SD	N	7区	58F-58G	弧状	(8.87)	0.20~ 0.55	0.36	レンズ状	3						
5000a- b	SD	N	5区	61C- 61D-	a = 開 放状 行状 行状 形狀	(1.01)	a. 1.64 b. 2.87 b. 1.40	a=0.80 b=1.34	レンズ状	g=9 h=9 i=9 j=9 k=9 l=9 m=9 n=9 o=9 p=9 q=9 r=9 s=9 t=9 u=9 v=9 w=9 x=9 y=9 z=9	SK4809 SK4806 SD7531	埴輪土器組B-C類 瓦井火鉢 白磁盤、青磁盤、磁 器、青磁盤 磁器、青磁盤、石製品、 青磁盤 馬の下駄骨	1KC末~ 1KC前半	SD5000a~SD5000bの間に 繋り直している SD4646とSD4646及び SD710Eと、SD30000の12 SD7531と一緒にして前方区 を回転し、反対面を形成して いる		

観察表

遺構観察表(7)

番号	種類	種類	地区	グリッド	平面形	断面形	長径幅 (m)	短径 (m)	厚さ (m)	埋土	層	前面関係	出土遺物	時期	分類	所見・備考	
5021	SD	N	5K	46G10-15, 47G6-11-16	平円状	5.36	0.80	0.26	单層	1	>SD3006a		近鉄12跡				
5023	SD	N	5K	47G-11-12-17	平円状	(27.0)	0.57	0.22	单層	1	>SD3006a		近鉄12跡				
5011	SD	N	5K	45H4-5,6,8H1	弧状	3.64	0.42	0.14	レンズ状	2	>SD3001 >SK3353						
5041	SD	N	5K	45H1,45I1	平円状	(7.40)	0.69	0.34	レンズ状	3	>P9010 >SK3353 <SD3001						
5042	SD	N	5K	45H14-19	弧状	(15.2)	0.36	0.12	单層	1							
5138	SD	N	5K	46G2-3-6-7-11-12	縦状	4.20	0.47~ 0.74	0.20	单層	1	<SK5339		14C 15C後半				
5348	SD	N	5K	46H1,46L 47L4G	台形状	(29.44)	0.27~ 0.61	0.39	レンズ状	5	>P9335		15C				
5451	SD	N	6K	49F16	弧状	(0.99)	0.30	0.06	单層	1							
5570	SD	N	5K	46L4G	U字状	5.64	0.33	0.10	单層	1	>P5572						
5801	SD	N	5K	47L4T- 48L4S	U字状	(14.00)	0.38	0.26	レンズ状	2	>SD5348 >SD5399 >P6581		近鉄12跡				
5858	SD	N	6K	50- 31F,51G	弧状	13.87	0.19~ 1.16	0.14	单層	1	>SE6995			SD9038-9253同一遺構 近鉄12跡か			
6105	SD	N	5K	46L4H- 48-49J- 49K	偏円状	(13.0)	0.27~ 0.27	0.48	レンズ状	4	>SD1538		土加賀十器皿A類 床溝後部	近鉄12跡			
6123	SD	N	6K	49E14- 19	弧状	(26.0)	0.55	0.12	レンズ状	2	>SD3006a		近鉄12跡				
6138	SD	N	6K	50F4	U字状	(0.26)	0.28	0.24	レンズ状	2						試掘坑で北壁消失	
6302	SD	N	6K	50F22- 30G2	U字状	1.18	0.32	0.18	单層	1	>SD6308		近鉄12跡				
6308	SD	N	6K	50E- 50-51H, 51I	台形状	(0.60)	1.08~ 1.59	0.30	レンズ状	2	>SK3600 >SD7591 >SD7596 >P9072			SID6302以外、確認できた範 囲での重複関係は一參新し い。			
6630	SD	N	5K	46H- 7-8-9- 12-13	弧状	4.09	0.94	0.09	单層	1	>SK6631		近鉄12跡				
7102	SD	N	6K	52P,53P- 33G,33H	弧状	(36.27)	1.39~ 1.88	0.14~ 0.58	单層	1	SD5000a SD7596		15C後半	SD5000a,SD7596と結合し て区画溝を形成。			
7103	SD	N	6K	51-52- 53P- 54G	弧状	35.30	0.35~ 0.72	0.05~ 0.12	单層	1			15C	区画溝を底面凹凸有			
7222	SD	N	5K	49J- 13-14- 18- 22-23	弧状	(5.40)	0.84	0.10	单層	1			15C	SD756と重複 底面凹凸有			
7479	SD	N	5K	49L5	弧状	(0.53)	0.35		单層	1			15C	15C			
7531	SD	N	5K	52L50- 53J,49K	台形状	(48.77)	1.01~ 1.36	0.80	レンズ状	3	SD5000b		15C	SD5000bと結合して区画溝 を形成			
7532	SD	N	5K	49K17	弧状	1.54	0.26	0.12	单層	1			15C	近鉄12跡			
7586	SD	N	5K	49E,49L- 49K,30L- 51J,51- 52L	台形状	(99.65)	1.25~ 2.87	0.35~ 0.85	レンズ状	9	>SD15000 b >SD7521 >SD7596		15C後半	SD5000a,SD7102と結合し て区画溝を形成。			
7597	SD	N	5K	49L,48- 49-50B	弧状	(25.76)	0.98	0.42	单層	1	>SD7596 >SD7531		15C	近鉄12跡			

観察表

遺構観察表(8)

番号	種類	施設名	地区	グリッド	平面形	断面形	長径幅 (m)	短径 (m)	標高 (m)	埋土	層	前面関係	出土遺物	時期	分類	所見・備考
7945	SD	N	6区	69PL49-50L	弧状	(187)	0.66	0.15	单層	1	>P7977					近世以前に下る可能性あり
8106	SD	N	6区	50H-52-53K	階段状	(215)	1.16~ 2.24	0.90	レンズ状	7	= SD5000a →SD2902	珠洲焼灰	15C後半		SD5000aと結合して区画溝を形成。	
8197	SD	N	6区	50H- 19-20- 21-25	弧状	163	0.44	0.03	单層	1	>P998				近世 以前	SD8326, SD8327と一連の溝
8307	SD	N	6区	50H- 12-17- 22-23	弧状	7.10	0.58	0.16	单層	1	<SK9154	麻ノ葉各5枚	15C後半			
8539	SD	N	6区	55- 36M- 55-56N	弧状	(136)	0.49~ 1.20	0.28	单層	1	>SD8632				近世	SD4646と同一遺構
8632	SD	N	6区	55-56S- 36M	U字状	(126)	0.45	0.40	斜行状	3	<SD18539 →SD8634		15Cか			
8634	SD	N	6区	55N- 14	弧状	(1.42)	0.20	0.09	单層	1	>SD8632				近世以前	
8700	SD	N	6区	55K- 54-55L- 55M	偏平状	(318)	1.32	0.78	レンズ状	3	<SD18500	珠洲焼 灰層	14C中葉 ~後半		SD4652と同一遺構	
9037	SD	N	6区	51-52G	弧状	(396)	0.49	0.03	单層	1						
9038	SD	N	6区	51-52G- 52H	弧状	(698)	0.40	0.06	单層	1					SD5056-SD5055と一連の 溝	
9120	SD	N	8区	55E18- 19-24	弧状	(266)	0.41	0.08	单層	1						
9151a	SD	N	6区	55L	弧状	(614)	0.25~ 1.12	0.14	单層	1	<SD9151b	珠洲焼灰層				
9151b	SD	N	6区	55L	弧状	(5.62)	0.27~ 0.81	0.06	单層	1	>SD9151a					
4661	SD	N	7区	54-59H- 59-60L- 59-60M- 59-60K- 59-60L- 58-59- 60-61- 58-59N	階段状	(86.88)	0.69~ 1.68	2.96	レンズ状	18	<旧河道 →SD河岸 2	土質質土器底板、 白磁八角杯、 珠洲焼灰層・灰 層	14C後半 ~15C後 半		中葉以前から現れあり 7号窯跡に陶質灰層 層厚(約35cm)が右岸 に堆積される	
5009	SD	N	6区 6区 7区	54H- 6区- 7区	偏平状	(7.58)	(1.20)	レンズ状	9				中葉以前	1層上面に中葉の遺物が埋 り込まれている		
5441	SS	N	7区	59G- 12-13- 14-15- 18-19	直方形 向て斜 段状	274	1.49	0.44				宝貴田植 五輪塔 青磁盤・碗、珠洲燒 灰層・灰層 曲物灰板、 木板	15C		地上構造物で、SD4641右 岸の下層階層上に構築さ れており、柱跡、柱頭部 や瓦輪塔の転落と廻転、及 び自然壊壊面上に沿わせて 階段状に多くの窓、通路跡 のほか、柱跡、柱頭部、柱 などの痕跡によって固 定されている。壁表面には 14C測定結果(約3500年) 骨頭灰と吉野櫻生瓦(左の珠 洲焼蓋瓦が出土している)。	
5009	SS	N	5区	45H- 17-21- 22-23- 1-2	不整形 台形状	279	1.76	0.42	レンズ状	5					一部カランで破壊されて いる	

観察表

遺構観察表(9)

番号	種類	種別	地区	グリッド	平面形	断面形	長径 員幅 (m)	短径 (m)	深さ (m)	埋土	層	前面関係	出土遺物	時期	分類	所見・備考
5445	SX	N	6区	69F- 13-14- 17-24- 49G- 1-3-6- 7-11	不整形	弧状	10.29	4.28	0.57	レンズ状	6	>SK3600 <PS450	土加賀土器皿D瓶、 青磁焼花瓶、 珠頭焼鉢-美	15C前半		前面中央に、長幅5.65m、幅 2.37mの土堤状の掘り込み あり。
8472	SX	N	6区	51B6-7	円形	弧状	0.37	0.40	レングス状	3	<SK3276					3層は植物遺か
8652	SX	N	6区	51H- 32L- 51-32H	不整形	弧状	9.14	3.60	0.29	レンズ状	3	<SK3032 <SK3651		15C		自然地形か
利岬1	II		6区	50-51J- 31K		弧状	(2070)	0.44	0.08	レンズ状	1					縄岬成形時の露溝か、 縄岬2と直交
利岬9	II		6区	51-52H		台形状	(6669)	0.60	0.06							縄岬8-12と丁字状に交差
利岬21	II		6区	32I		台形状	(1680)	0.56	0.33		6					板状木製品を縄岬の構造材 として使用。
利岬28	II		6区	32L		台形状	(319)	0.56	0.05							縄岬29-30と並行
利岬29	II		6区	32-53L		台形状	(7.13)	1.02	0.06							縄岬28-30と並行
利岬30	II		6区	53L		台形状	(7.30)	1.35	0.15							縄岬28-29と並行
利岬31	II		6区	53 L		台形状	(11.19)	0.50	0.07							画面側でし土中に扒出
利岬32	II		6区	53-54L		台形状	(409)	1.55	0.06							近傍12周
利岬35	II		6区	54L-54M		弧状	(426)	0.32	0.09							近傍12周
利岬37	II		6区	54-55L- 54-55M	方形	円形状	3.99	3.46	0.04							水田耕作地の廃棄し部分か
利岬38	N		7区	3714,375		台形状	(627)	0.56~ 1.49	0.06							近傍12周 以北
																Ⅱ層が縄岬を複う

観察表

土器・陶器類觀察表(1)

器名 番号	種類 器形	器種 アリット	出土位置 地番	大きさ(cm) 幅×高	色調 外面 内面	成形方法 焼成 泥流	胎土 焼成 分類		備考	
							横幅	高さ		
1 白磁 土・…具・具石 美・石器、角・四石・…、チチヤード、陶・海・海舟形、流紋器・…、安山岩・…、砂粒・…、白色粒子・…、黑色粒子・…、褐色・…	4711	S26617 S26615	2 (10.8)	(2.1)	白	ロクロナド ヘラクス	精良	良好	角田 群	15C後半
2 白磁 八角环 4812	S26927 P2762	3 (14.0)	(2.2)	白	ロクロナド ヘラクス	精良	良好	角田 群	15C前半 高台・…部使用痕明瞭	
3 土御質・… 小瓶 37G18	S26958 S14982	6.0 (0.6)	16白	ロクロナド ロクロナド	ロクロナド 輪軸系切り	精良・良 好	良好	C1m	15C前半	
4 胸口瓶・… 肩口瓶 37G25	S26954 S14980	2 (11.8) (1.6)	改善後 目録	ロクロナド ロクロナド	ロクロナド ヘラクス	良好	良好	良好	古川八幡堀 14C末・15C前半 内側凹	
5 陶瓶 土 37G21	S26954	4 (9.8)	(5.1)	白	ロクロナド ロクロナド	精良・良 好	良好	R横 B横	14C末・15C前半 内側凹	
6 香瓶 梱 50H17- 22	S26956 P2766	1 (14.0)	(2.2)	明治一ノツブ (产地)白	ロクロナド ロクロナド	良好	良好	B横	15C前半	
7 陶瓶・… 月日瓶 49G19	S26958 S26956	2 (30.6)	(4.2)	白	ロクロナド 目録	白・良 好	良好	V型・14C末・15C前半 13C前半	13C前半として使用	
8 白磁 土 4812	S26927 P2752	(11.0) (2.2)	(产地)白	ロクロナド ロクロナド	ロクロナド ヘラクス	良好	良好	角田 群	15C前半	
9 陶瓶 土 58G	S26948	5 (18.1)	(4.6)	白	ロクロナド ロクロナド	良好	良好	W横 T横	14C中・後半 SK46042と接合	
10 土御質・… 小瓶 37H27	S26955	2.4- -5 (10.6)	5.0 (2.2)	白	スピナサル ヨコカズレ	スピナサル ヨコカズレ	精良・良 好	良好	B2横	15C前半
11 土御質・… 土 37H7	S26955	6 (11.8)	3.4 (2.1)	浅黄褐	スピナサル ヨコカズレ	スピナサル ヨコカズレ	精良・良 好	良好	D1横	15C中・後半 内側凹
12 土御質・… 土 37H7	S26955	6 (11.8)	5.4 (1.8)	浅黄褐	スピナサル ヨコカズレ	スピナサル ヨコカズレ	精良	良好	D1横	15C中・後半 内側凹白色斜材付合
13 土御質・… 土 37H7	S26955	4 (14.7)	8.0 (2.1)	白	スピナサル ヨコカズレ	スピナサル ヨコカズレ	精良・良 好	良好	B2横	15C前半
14 土御質・… 土 37H7	S26955	6 (11.8)	(2.4)	浅黄褐	スピナサル ヨコカズレ	スピナサル ヨコカズレ	精良・良 好	良好	B1横	15C中・後半 S字付・…
15 土御質・… 土 37H7	S26955	5 (13.9)	6.0 (2.1)	にい(青) 白	スピナサル ヨコカズレ	スピナサル ヨコカズレ	精良・良 好	良好	B1横	15C中・後半 14C後段付・…
16 陶瓶 土 37H7	S26955	5 (7.0)	浅赤	ロクロナド 目録	ロクロナド ヘラクス	精良	良好	15C後半 内側凹	15C後半	
17 土御質・… 小瓶 37H16	S26936	5 (9.0)	6.8 (1.6)	白	ロクロナド ロクロナド	ロクロナド ロクロナド	精良・良 好	良好	C1m	14C末・15C前半
18 陶瓶 月日瓶 37G9-10 万力印	S26916	2-3 (4.2)	(12.5)	オーピー印	ロクロナド ロクロナド	精良	良好	15C後半	V型・14C末・15C前半	
19 陶瓶・… 土 37H4-5	S26934	1 (17.0)	(5.7)	淡黄	ロクロナド ロクロナド	削り出し 高台	精良	良好	15C中・後半 内側凹	
20 陶瓶・… 緑釉小瓶 42F5	S26955	2 (11.5)	5.9 (2.6)	白	ロクロナド ロクロナド	削り出し 切口	精良・良 好	良好	15C後半 内側凹	
21 土御質・… 小瓶 47F	S26909	1 (8.0)	5.2 (1.6)	浅黄褐	ロクロナド ロクロナド	削り出し 切口	精良・良 好	良好	C1m	内外側凹接明瞭
22 土御質・… 小瓶 47F	S26987	3 (6.8)	4.0 (1.7)	浅黄褐	スピナサル ヨコカズレ	スピナサル ヨコカズレ	精良	良好	A瓶	14C中・後半
23 土御質・… 土 43F9	S26933	4 (5.7)	(2.2)	白	ロクロナド ロクロナド	削り出し 持手	精良・良 好	良好	C4m	15C中・後半 京都系接合
24 土御質・… 小瓶 47H19- 28	S26959	2 (8.8)	4.0 (2.5)	にい(青) 白	ロクロナド ロクロナド	手切?	精良・良 好	C2横	15C後半 京都系接合	
25 香瓶 楠 47H12- 24	S26934	2 (15.5)	(4.5)	白	ロクロナド ロクロナド	精良	良好	上B横 E横	15C前半	
26 土御質・… 小瓶 47H	S26932	9.1 (6.8)	2.1	にい(青) 白	ロクロナド ロクロナド	削り出し 切口	精良・良 好	C1a横	15C後半 内側凹・…	
27 土御質・… 小瓶 49F16	S26943	5 (7.2)	5.0 (2.0)	にい(青) 白	ロクロナド ロクロナド	手切?	精良・良 好	C2c横	15C前半 内側凹	
28 陶瓶・… 月日瓶 49F16	S26942	3 (12.4)	(19.2)	白	ロクロナド ロクロナド	静止切り	精良・良 好	良質 (尤質)	V型・14C末・15C前半 内側凹接明瞭	
29 陶瓶 緑釉小瓶 49G10	S26945	2 (8.2)	(1.8)	白	ロクロナド ロクロナド	ロクロナド	精良	良好	15C後半 内側凹	
30 瓦器 洗碗 47H16- 22	S26722	4 (20.9)	(5.7)	暗灰	ナラシガラ ナラシガラ	精良・良 好	良好	上B横 E横	15C前半	
31 土御質・… 小瓶 45E13- 18	S26986	2 (8.8)	6.0 (1.9)	明褐色	スピナサル ヨコカズレ	手切?	精良	良好	A横	14C後段付・… 13C前半
32 土御質・… 小瓶 49H17-12	S26939	9.8 (4.0)	1.7	浅黄褐	スピナサル ヨコカズレ	手切?	精良	良好	C1m	15C中・後半 内側凹
33 土御質・… 小瓶 49H17-12	S26939	11.0 (4.6)	2.1	白	スピナサル ヨコカズレ	ロクロナド ヘラクス	精良・良 好	良好	C3横	15C後半
34 土御質・… 小瓶 49H22-3	S26969	2 (8.8)	6.0 (2.3)	にい(青) 白	ロクロナド ロクロナド	削り出し 切口	精良・良 好	良好	C1c横	15C後半 内側凹
35 土御質・… 土 49H22-3	S26945	1 (11.0)	4.4 (2.2)	にい(青) 白	スピナサル ヨコカズレ	ロクロナド ヘラクス	精良	良好	B2m	15C後半

観察表

土器・陶器観察表(2)

番号	種類	器形	出土地點				大きさ(cm)		色調		成型技法		胎土	焼成	分類	備考	
			アーリード	後期	尾輪	口縁	底径	高さ	外面	内面	用途	手					
36	土器	小瓶	30G13	SE16498	1	64	50	12	白	ロクロナド	ロクロナド	手切り	白・灰・ 青・角	良好	C1b	14C末～15C前半	
37	土器	皿	46.14- SG	SE16345	5	99	(1.6)	16白	ロクロナド・ スピナード	ロクロナド	回転手切り (板付型)	白・灰・ 青・角	良好	C4類似	15C後半、 内面丸く、 外縁に輪形		
38	土器	小瓶	46.14- SG	SE16345	67	41	15	にふい槽	ロクロナド	ロクロナド	回転手切り	白・灰・ 青・角	良好	C2b類似	15C前半～中葉 灯籠底		
39	陶器	平盤	46.14- SG	SE16345	5	48	(1.6)	16白	ロクロナド	ロクロナド	削り出し 高台	白	良好		古墳口縁を模倣、15C後半 内面凹凸の直線底あり		
40	陶器	盤・片持	46.14-5	SE16345	5	20.8	(6.7)	灰	ロクロナド	ロクロナド		砂質土 中火不良 灰質	中火不良 灰質		VI類似、 15C末～後半 内面使用板付器		
41	土器	小瓶	30G28-13	SE16577	3	79	56	21	浅紫青	ロクロナド	ロクロナド	回転手切り	白・灰・ 青・角	良好	C1ab	15C前半	
42	青磁	碗	30G28-13	SE16577	3	154	(4.1)	明暦灰	ロクロナド	ロクロナド		白	良好	上田D 灰質	14C後半 内面使用板付		
43	青磁	碗	30G28-13	SE16577	3	56	(2.6)	明ヨリープ灰	ロクロナド	ロクロナド		白	良好	上田D 灰質	14C後半 内面使用板付		
44	白磁	皿	50F14- 15	SE16985	3	11.2	22	16白	ロクロナド	ロクロナド		白	良好	森田D	15C前半		
45	土器	皿	45H1-6	SE17408	3	11.7	7.8	3.1	にふい槽	スピオサンド スピオサンド ヨコナド	ヘラナド		白・灰・ 青・角	良好	A1a類似	14C後半 内面凹凸ナード 二次焼成	
46	土器	小瓶	471	SA17053	1	7.4	4.3	2.6	にふい・黄褐	ロクロナド	ロクロナド	回転手切り	白・灰・ 青・角	良好	C2d類似	15C後半 内面凹凸・凹状	
47	土器	小瓶	4710-15	SE17354	4	41	37	13	にふい・黄褐	ロクロナド	ロクロナド	回転手切り	白・灰・ 青・角	良好		15C後半 内面底	
48	土器	小瓶	4710-15	SE17354	2	70	44	1.8	にふい・黄褐	ロクロナド	ロクロナド	回転手切り	白・灰・ 青・角	良好	C2d類似	15C後半 内面底	
49	土器	碗	48913	SE17828	1	(98)	(2.4)	にふい・黄褐	ロクロナド	ロクロナド		白	良好		口縁玉緑状		
50	白磁	皿	48913	SE17828	1	43	(1.6)	16白	ロクロナド	ロクロナド	削り出し 高台	白	良好	森田D	15C前半		
51	土器	小瓶	51J1	SI17990	14	7.3	5.3	2.1	にふい・黄褐	ロクロナド	ロクロナド	回転手切り	白・灰・ 青・角	良好		15C後半 内面底	
52	土器	小瓶	51J1	SI17990	4	7.6	1.7	にふい・黄褐	ロクロナド	ロクロナド		白	良好		15C後半 内面底		
53	土器	小瓶	51J1	SI17990	5	56	(1.4)	16白	ロクロナド	ロクロナド	回転手切り	白・灰・ 青・角	良好		15C後半 内面底		
54	土器	小瓶	51J1	SI17990	11	36	(0.6)	黒褐	ロクロナド	ロクロナド	回転手切り	白・灰・ 青・角	良好	C1b類似	15C前半 内面全斜スス、灯籠底		
55	土器	小瓶	51J1	SI17990	3	7.8	6.0	1.5	纏	ヨコナド	ヨコナド	削り出し 高台	白	良好	A類似	14C中～後半	
56	青磁	碗	51J1	SI17990	4	12.4	(4.0)	オーリープ灰	ロクロナド	ロクロナド		白	良好	J.田中 B類似	14C末～15C前半 内面底に付着		
57	青磁	碗	51J1	SI17990	3	(15.9)	(2.6)	オーリープ灰	ロクロナド	ロクロナド		白	良好	J.田中 B類似	15C前半		
58	陶器	小瓶	51J1	SI17990	5	50	16白	ロクロナド	ロクロナド	回転手切り	白・灰・ 青・角	良好		古墳口縁を模倣、15C後半 内面底			
59	陶器	大瓶	51J1	SI17990	4	(2.3)	浅黄	ロクロナド	ロクロナド	ロクロナド		白・灰・ 青・角	良好		15C後半 内面底		
60	陶器	瓶・片持	51J1	SI17990	11-14	12.1	6.1	2.7	黒	ロクロナド	ロクロナド	回転手切り	白・灰・ 青・角	良好		古墳口縁を模倣、15C後半 内面底	
61	陶器	瓶・片持	51J1	SI17990	4	11.6	(8.0)	灰	ロクロナド	ロクロナド	静止手切り	白・灰・ 青・角	中火不良 灰質	V類似、 15C前半 内面使用板付			
62	土器	皿	45G13	SI18007	2-3	7.0	(1.0)	灰青	ロクロナド	ロクロナド	削り出し 脚付持ち込み ケツリ	白・灰・ 青・角	良好	C4類似	15C中～後半 内面全斜スス		
63	陶器	瓶・片持	51K1-2	SI18002	2	40.8	(7.3)	灰	ロクロナド	ロクロナド		白・灰・ 青・角	良好	V類似、 14C末～15C前半 内面底			
64	陶器	瓶・片持	51H17	SI18004	3	42.3	16.6	15.2	灰	ロクロナド	ロクロナド		良多量 灰質	良好		15C前半、 内面使用板付器	
65	陶器	瓶・片持	51G11	SI18027	3	12.1	(4.3)	黄灰	ロクロナド	ロクロナド	底部ナド	白・灰・ 青・角	中火不良 灰質	V類似、 15C中～後半			
66	陶器	瓶・片持	51G11	SI18027	2	16.2	(8.0)	オーリープ灰	ロクロナド	ロクロナド	静止手切り	白・灰・ 青・角	良好	V類似、 14C末～15C前半			
67	土器	小瓶	51H2	SK14673	5	10.8	5.4	2.15	16白	スピオサンド スピオサンド スピオサンド	スピオサンド スピオサンド スピオサンド		白・灰・ 青・角	良好	B1類似	15C中～後半	
68	鉄軸箱	皿	51H2	SK14673	5	9.8	4.0	2.8	灰オーリープ	ロクロナド	ロクロナド	削り出し 高台	白	良好		15C前半 表面漆付	

観察表

土器・陶器類觀察表(3)

番号	種類	器形	出土地点		大きさ(cm)	色調	成型技法		胎土	焼成	分類	備考		
			アーリード	後期			層位	口径	底径	厚さ	外面	内面	用途	
⑩	縄口壺・ 壺形	新原寺古 跡	37112	SK4673	4 10.2	(3.3)	褐灰	ロクロナダ	ロクロナダ	精良・ 良	良好	古風口付新窓、15C後半 鉢形	二次焼成	
70	馬頭壺	瓶跡・ 口付	57112	SK4673	2.5 26.8	(11.2)	青灰	ロクロナダ・ 削目	ロクロナダ	精良・ 良	中古良質	古風口付新窓、15C後半 鉢形	二次焼成	
71	瓦器	盆	56116	SK4796	1 4.8	(4.0)	青白	ロクロナダ	ロクロナダ・ 引削文	精良・ 良	良好	遺存状況非常に悪い		
72	土師質	盆	37111	SK4712	1 (12.6)	(1.7)	浅黄褐	スピナサル・ ヨコナダ	スピナサル・ ヨコナダ	精良・ 良	良好	F3III	15C後半	
73	馬頭壺	瓶跡・ 口付	57K2-3	SK4790	1 (31.1)	(5.7)	灰	ロクロナダ・ 削目	ロクロナダ	精良・ 良	中古良質 (瓦質)	古風口付新窓、15C後半 鉢形	二次焼成	
74	縄口壺・ 壺形	瓶跡	57115-10	SK4903	4 9.0	(1.3)	青白	ロクロナダ	ロクロナダ	精良・ 良	良好	B期	古風口付新窓、15C後半 鉢形	
75	縄口壺	新原寺古 跡	57115-10	SK4903	4 (27.2)	(2.6)	青白	ロクロナダ	ロクロナダ	精良・ 良	良好	古風口付新窓、15C後半 鉢形		
76	馬頭壺	瓶跡・ 口付	45H	SK5066	5 12.4	7.3	オリーブ灰	ロクロナダ・ 削目	ロクロナダ	精良・ 良	良好	L1BD II期	15C後半・15C後半 新窓付新窓、15C後半 内面剥離あり	
77	縄口壺	平碗	46G2-7	SK5109	2 (15.9)	(5.0)	浅黄	ロクロナダ	ロクロナダ	精良・ 良	良好	古風口付新窓、15C後半 鉢形		
78	土師質	小盤	47G	SK5189	2 8.6	(2.2)	にい黄	スピナサル・ ヨコナダ・ スリガラフ	スピナサル・ ヨコナダ・ スリガラフ	精良・ 良	良好	B期	15C中・後半	
79	有柄	杓	47H	SK5328	7.4 (1.7)	6.0	青白	ロクロナダ・ 内面剥離	ロクロナダ・ 内面剥離	精良・ 良	良好	古風口付新窓、15C後半 鉢形		
80	土師質	皿	56H	SK5610	1 12.7	6.0	2.0	褐灰	ロクロナダ	未確認	精良・ 良	良好	C1aIII	14C末・15C前半 二次焼成受け取る
81	土師質	皿	56G1	SK5654	1 12.1	5.6	2.2	浅黄褐	スピナサル・ ヨコナダ・ スリガラフ	スピナサル・ ヨコナダ・ スリガラフ	精良・ 良	良好	B1期	15C中・後半 新窓設置
82	土師質	小盤	46G-11	SK5393	2 6.9	4.8	1.4	褐	スピナサル・ ヨコナダ	スピナサル・ ヨコナダ	精良・ 良	良好	A期	14C後半
83	土師質	小盤	44E9	SK5603	1 (12.6) (8.6)	3.0	にい青	スピナサル・ ヨコナダ	スピナサル・ ヨコナダ	精良・ 良	良好	A1c	14C後半・ 15C後半設置	
84	土師質	小盤	45H-9	SK5178	1 9.7	1.9	浅黄褐	スピナサル・ ヨコナダ	スピナサル・ ヨコナダ	精良・ 良	良好	B1期	15C中・後半	
85	縄口壺・ 壺形	天日茶碗	52F	SK7109	4 4.0	(1.4)	青白	ロクロナダ	ロクロナダ	削り出し 高台	精良・ 良	良好	古風口付新窓、15C後半 内面剥離	
86	縄口壺	直線大腹	48J11-12	SK7433	3 (23.4)	(3.2)	浅黄	ロクロナダ	ロクロナダ	精良・ 良	良好	古風口付新窓、15C後半 内面剥離		
87	土師質	小盤	48J	SK7451	5 9.8	(2.0)	青白	ロクロナダ	ロクロナダ	精良・ 良	良好	C1aIII	14C末・15C前半	
88	土師質	小盤	48J	SK7451	7.6 (1.2)	6.0	褐	ロクロナダ	ロクロナダ	精良・ 良	良好	C1aIII	14C末・15C前半	
89	土師質	皿	48J	SK7451	7.6 (1.2)	6.0	にい青	ロクロナダ	ロクロナダ	精良・ 良	良好	C1aIII	14C末・15C前半	
90	青磁	盤	48J	SK7451	5 (21.0)	(3.4)	明オーバーペ	ロクロナダ・ 蘆葦文	ロクロナダ	精良・ 良	良好	15C前半		
91	縄口壺・ 壺形	平碗	48J	SK7451	7.6 (1.2)	6.0	灰白	ロクロナダ	ロクロナダ	削り出し 高台	精良・ 良	良好	古風口付新窓、15C後半 内面剥離	
92	馬頭壺	瓶跡・ 口付	58J	SK7451	7.6 (1.2)	6.0	青白	ロクロナダ・ 削目	ロクロナダ	精良・ 良	良好	V期	14CR-15C前半	
93	土師質	皿	50H	SK8375	3 12.9	6.4	3.2	にい青	ロクロナダ	ロクロナダ	精良・ 良	良好	上田B	14CR-15C前半
94	青磁	碗	50H	SK8375	1 (15.8)	(4.1)	青白	ロクロナダ	ロクロナダ	精良・ 良	良好	上田B	14CR-15C前半	
95	馬頭壺	東	50H	SK8375	1 (4.8)	6.0	褐	ロクロナダ	ロクロナダ	精良・ 良	良好	V期	14CR-15C前半	
96	馬頭壺	瓶跡・ 口付	45G9-14	SK8395	2 (31.8)	(8.4)	灰	ロクロナダ・ 削目	ロクロナダ	精良・ 良	良好	五輪B	14CR-15C前半	
97	土師質	皿	51K	SD4641	6 7.9	2.8	1.5	にい青	スピナサル・ ヨコナダ・ スリガラフ	スピナサル・ ヨコナダ・ スリガラフ	精良・ 良	良好	H3期	15C前半 内面剥離
98	土師質	皿	56G	SD4641	7 10.0	5.6	1.2	褐	スピナサル・ ヨコナダ	スピナサル・ ヨコナダ	精良・ 良	良好	H2期	15C後半
99	白磁	八角环	57K	SD4641	14 8.0	(2.6)	青白	ロクロナダ・ 削目	ロクロナダ・ 削目	精良・ 良	良好	有田D	15C前半	
100	馬頭壺	瓶跡・ 口付	58G	SD4641	14 (4.3)	6.0	青白	ロクロナダ・ 削目	ロクロナダ	精良・ 良	良好	V期	14CR-15C前半 内面剥離あり	
101	馬頭壺	東	58G	SD4641	14 (9.0)	6.0	青白	素面	ロクロナダ・ 平行タキ	精良・ 良	良好	V期	14CR-15C前半 内面剥離有り	

観察表

土器・陶器観察表(4)

番号	種類	器形	出土位置		大きさ(cm)		色調		成型技法		胎土	焼成	分類	備考	
			ゾリード	遺構	層位	口径	底径	厚さ	外面	内面					
102	網状織物	皿	S7M20	S20B6		49	(2.0)	16白	ロクロナガ、 縫合切妻	ロクロナガ	割り出し 高台	精良・ 良	良好	14C前半 全体で、表面厚くかかる 高台付、表面磨き	
103	網状織物	網状	S7T9	S20B6		10.9	4.5	2.6	16黄	ロクロナガ	ロクロナガ	赤切妻	精良・ 良	良好	古墳時代後期、15C後半 内面使用例のみ
104	網状織物	皿	41E	S20T6	3	12.6	7.5	2.8	16白	スピナーソーク、 ヨコナガ	スピナーソーク、 ヨコナガ		精良・ 良・ 角	良好	A1E前半 14C前半
105	網状織物	皿	41E5	S20T6	4	12.8	7.6	2.5	16白	スピナーソーク、 ヨコナガ	スピナーソーク、 ヨコナガ		精良・ 良・ 角	良好	A1E後半 14C後半段
106	網状織物	天豆	41E3	S20T6	3	34	(1.6)	16黄	ロクロナガ	ロクロナガ	割り出し 高台	精良・ 良	良好	C類	
107	唐津焼	皿	41E	S20T6	1	9.2	(6.4)	16赤	ロクロナガ	ロクロナガ	赤切妻	良・ 砂	良好	近世	
108	呉須焼	皿	41E4	S20T6	1	8.6	(4.7)	16	ロクロナガ	ロクロナガ、 チラチラ		精良・ 良・ 角	良好	E類	
109	呉須焼	鉢	41E3	S20T6	2	7.0	(3.9)	16灰	ロクロナガ	ロクロナガ	縫合切妻	精良・ 良・ 角	良好	V・引脚、15C前半 内面スリス	
110	呉須焼	鉢	41E3	S20T6	3	(9.2)	16	16灰	ロクロナガ	ロクロナガ	平手ナタキ	精良・ 良	良好	引脚、15C前半	
111	呉須焼	鉢	41E	S20T6	3	(6.2)	16	16灰	ロクロナガ	ロクロナガ	平手ナタキ	精良・ 良・ 角	良好	V・引脚、15C前半 内面スリス	
112	呉須焼	鉢	41J	S20B6	2	(3.9)	16	16	ロクロナガ	ロクロナガ		精良・ 良・ 角	良好	V・引脚、15C前半 内面スリス	
113	網状織物	小瓶	64C	S20B6a	1	8.2	2.6	1.3	16灰	スピナーソーク、 ヨコナガ、 スピナーソーク	スピナーソーク、 ヨコナガ、 スピナーソーク		精良・ 良・ 角	良好	B2輪
114	網状織物	小瓶	64X	S20B6a	1	10.3	(1.6)	16灰	スピナーソーク、 ヨコナガ、 スピナーソーク	スピナーソーク、 ヨコナガ、 スピナーソーク		精良・ 良・ 角	良好	B1輪	
115	網状織物	小瓶	64X	S20B6a	1	8.9	(1.9)	16白	スピナーソーク、 ヨコナガ、 スピナーソーク	スピナーソーク、 ヨコナガ、 スピナーソーク		精良・ 良・ 角	良好	B2輪	
116	網状織物	皿	64X	S20B6a	1	13.2	(2.0)	16浅糞便	スピナーソーク、 ヨコナガ、 スピナーソーク	スピナーソーク、 ヨコナガ、 スピナーソーク		精良・ 良・ 角	良好	B2輪	
117	網状織物	皿	50G5	S20B6a	5	13.9	(2.5)	16白	スピナーソーク、 ヨコナガ、 スピナーソーク	スピナーソーク、 ヨコナガ、 スピナーソーク		精良・ 良・ 角	良好	B2輪	
118	網状織物	皿	47I	S20B6a	3	16.1	8.2	2.6	16浅糞便	スピナーソーク、 ヨコナガ、 スピナーソーク	スピナーソーク、 ヨコナガ、 スピナーソーク		精良・ 良・ 角	良好	B2輪
119	網状織物	皿	51G	S20B6a	2	13.8	(2.1)	16灰	ロクロナガ	ロクロナガ	割り出し 持手	精良・ 良・ 角	良好	C4輪	
120	網状織物	皿	51G	S20B6a	2	10.0	(2.0)	16白	ロクロナガ	ロクロナガ	回転系切妻	精良・ 良・ 角	良好	C4輪	
121	網状織物	小瓶	50F17	S20B6a	5	7.0	4.8	2.3	16灰	ロクロナガ	ロクロナガ	回転系切妻	精良・ 良・ 角	良好	C4輪
122	網状織物	皿	50G4	S20B6a	5	12.1	7.8	2.4	16浅糞便	ロクロナガ	ロクロナガ	回転系切妻	精良・ 良・ 角	良好	C5輪
123	網状織物	小瓶	47G	S20B6a	6.7	5.0	2.1	16灰	スピナーソーク、 ヨコナガ	スピナーソーク、 ヨコナガ		精良・ 良・ 角	良好	A類	
124	瓦器	浅鉢	69P10	S20B6a	1	18.6	15.3	4.9	16黑	チヂ	16引抜の チヂ	精良・ 良・ 角	良好	SD7596と集合	
125	瓦器	黒丸	47G	S20B6a	2	(2.2)	16白	ロクロナガ	ロクロナガ	ロクロナガ	精良・ 良・ 角	良好	遺存状況非常に悪い		
126	網状織物	鉢	50G10	S20B6a	5	(35.2)	(6.2)	16浅糞便	ロクロナガ	ロクロナガ	高台内輪 輪裏	精良・ 良・ 角	良好	器面風化著しい	
127	青磁	碗	64X	S20B6a		6.2	(4.4)	オーブ9A	ロクロナガ、 削削丸	ロクロナガ	高台内輪 輪裏	精良	良好	上田D 15C前半、内面陰刻文 削削丸あり	
128	青磁	碗	64X	S20B6a	1	3.2	(1.5)	16灰	スピナーソーク、 ヨコナガ	ロクロナガ	高台内タリ	精良	良好	15C前半、内面使用例あり 内面スリス	
129	白磁	八角杯	50G10	S20B6a	5	7.7	3.5	3.4	16白	ロクロナガ、 ハラナガ	ロクロナガ、 ハラナガ	14C後半 15C前半	精良・ 良・ 角	良好	白田D 15C前半
130	白磁	皿	51H18	S20B6a	2	12.5	5.3	2.8	16明鏡灰	ロクロナガ、 足らん丸、口 溝	ロクロナガ、 足らん丸、口 溝	精良・ 良・ 角	良好	15C前半、内面使用例あり 内面スリス	
131	白磁	皿	64X	S20B6a	5	3.4	(1.2)	16白	ロクロナガ	ロクロナガ	14C後半 15C前半	精良	良好	白田D 15C前半。二次焼成受 け	

観察表

土器・陶器観察表(5)

番号	種類	器形	出土位置	大きさ(cm)	色調	成形技法		胎土	焼成	分類	備考			
						アリード	透徹	口縁	底縁	唇部	内面	外面	底面	
132	縦口盤 直腹地	縦細小皿	SDF17	S2600s	5 10.0	(2.2)	浅素盞	ロクロナヂ	ロクロナヂ			古墳時代後期、ISG 後半-後半		
133	縦口盤 直腹地	縦細小皿	6区	S2600s	1 5.2	(0.9)	IC白	ロクロナヂ	ロクロナヂ	回転未切込 直腹地	良好	古墳時代後期、ISG中 -後半 一次焼成受ける		
134	縦口盤 直腹地	縦細小皿	SIIH16	S2600s	2 13.8	(2.5)	IC白	ロクロナヂ 刮目	ロクロナヂ			古墳時代後期、ISG後半		
135	縦口盤 直腹地	縦深腹かく区	S2600s	1-5 32	(0.7)	IC白	ロクロナヂ 輪胎	ロクロナヂ	回転未切込	良好- 直腹	良好- 直腹	古墳時代後期 全腹丸い		
136	縦口盤 直腹地	大皿	SIIH17	S2600s	1 12.0	(2.0)	IC白	ロクロナヂ	ロクロナヂ 下手ケツリ	足見	良好	古墳時代後期 直腹地 内側焼成範囲 古墳時代後期 一次焼成受ける		
137	縦口盤 直腹地	瓶子	47G	S2600s		(7.0)	IC白	ロクロナヂ	ロクロナヂ		良好- 直腹	良好	直腹	
138	直腹地 直腹地	縦縫 片口縫	6区	S2600s	2 30.7	(10.0)	IC白	ロクロナヂ 刮目	ロクロナヂ 下手ケツリ	足見 砂質	良好- 直腹	V型、ISG中-後半 直腹地 内側焼成範囲 直腹地 内側焼成範囲 直腹地 内側焼成範囲		
139	直腹地 直腹地	縦縫 片口縫	5064	S2600s	5 30.6	(11.0)	IC白	ロクロナヂ 刮目	ロクロナヂ 下手ケツリ 内側直腹	足見 砂質	良好	足見 直腹 内側焼成範囲 直腹地 内側焼成範囲		
140	直口盤 小皿	49F	S2600s	10 7.7	5.3	2.3	にい-直	ロクロナヂ	ロクロナヂ	回転未切込	良好- 直角	良好	C2型 直口盤 全体に厚くタール付着	
141	直口盤	楕	6区	S2600s	6 6.2	(2.7)	オーピー直	ロクロナヂ	ロクロナヂ	直白内ケツリ 直角	精良	直口盤 直角	上田B 直口盤	
142	直口盤	楕	6区	S2600s	11 5.9	(2.4)	オーピー直	ロクロナヂ 直角化芯	ロクロナヂ	直白内ケツリ 直角	精良	直口盤 直角化芯	上田B 直口盤 直角化芯	
143	直口盤	楕	46II	S2600s	9 12.6	6.6	3.8	ICオーピー 足込み輪胎 茎	ロクロナヂ 足込み輪胎 茎	ロクロナヂ 足込み輪胎 茎	精良	直口盤 直角化芯	ISG後半 内側焼成範囲 足込み輪胎 茎	
144	直口盤	楕	SIIH16	S2600s	1上層 13.8	(2.0)	ICオーピー	ロクロナヂ	ロクロナヂ	直口盤 直角化芯	精良	直口盤 直角化芯	上田B 直口盤 直角化芯や広い 直角化芯	
145	直口盤	楕	48G	S2600s	10 15.0	(4.0)	オーピー直	ロクロナヂ	ロクロナヂ 直角化芯	直口盤 直角化芯	精良	直口盤 直角化芯	BII型 直口盤 直角化芯や広い 直角化芯	
146	直口盤	楕	47G	S2600s	7下層 4.9	(1.6)	IC白	ロクロナヂ	ロクロナヂ	直口盤 直角化芯	精良	直口盤 直角化芯	直口盤 直角化芯 二度焼成される	
147	直口盤	蓋	51H	S2600s	8 10.3	9.6	1.0	IC白	ロクロナヂ	ロクロナヂ 外縁のみ施釉		精良	直口盤 直角化芯	ISG代々
148	直口盤 直口盤	蓋	48J	SD6055	1 12.8 7.0	(2.2)	にい-直	スピサ-サル ココナ-チ スピサ-サル	スピサ-サル ココナ-チ スピサ-サル	スピサ-サル ココナ-チ スピサ-サル	精良- 直角	直口盤 直角化芯	直口盤 直角化芯 足見	
149	直口盤 直口盤	蓋	48J	SD6055	1 15.9 6.4	2.0	浅素盞	スピサ-サル ココナ-チ	スピサ-サル ココナ-チ	スピサ-サル ココナ-チ	精良- 直角	直口盤 直角化芯	D2型 薄手-大型	
150	直腹地	蓋	49K	SD6055	1 8.8	(7.1)	灰						直口盤 直角化芯 ISG中-後半 ISG後半	
151	直口盤 直口盤	蓋	50G23	SD7596	下層 13.8	6.8	2.1	IC白	スピサ-サル ココナ-チ	スピサ-サル ココナ-チ	スピサ-サル ココナ-チ	精良- 直角	直口盤 直角化芯	No.167-10と同一個体
152	直口盤 直口盤	蓋	48K	SD7596	7 8.0	6.0	1.7	黑	ロクロナヂ	ロクロナヂ	回転未切込	精良- 直角	直口盤 直角化芯	二段焼成範囲
153	直口盤	楕	51J	SD7596	7 5.8	(4.2)	オーピー直	ロクロナヂ 直角化芯	ロクロナヂ 直角化芯 茎	直口盤 直角化芯 茎	精良	直口盤 直角化芯 茎	上田B 直口盤 直角化芯 内側焼成範囲	
154	直口盤	楕	48K	SD7596	下層 13.8	6.6	(7.0)	オーピー直	ロクロナヂ	ロクロナヂ 直口盤剥落	精良	直口盤 直角化芯	上田B 直口盤 直角化芯 内側焼成範囲	
155	縦口盤 直腹地	縦縫小皿	50K	SD7596	7 6.0	0.90	IC白	ロクロナヂ	ロクロナヂ	回転未切込	精良- 直角	直口盤 直角化芯	ISG後半 足見	
156	縦口盤 直腹地	簡形香呑	50J	SD7596	7- 下層 15.8	13.0	8.1	IC白	ロクロナヂ 春華文	ロクロナヂ 春華文	回転未切込 外縁のみ施釉	精良- 直角	直口盤 直角化芯	古墳時代後期 ISG中-後半
157	縦口盤 直腹地	新縫深皿	50J	SD7596	下層 13.0	8.6	16.0	IC白	ロクロナヂ	ロクロナヂ 縫合下 ヨウリ	回転未切込 外縁のみ施釉	精良- 直角	直口盤 直角化芯	古墳時代後期 ISG後半
158	直腹地	蓋	50J	SD7596	下層	(5.1)	灰	本文当呉 腹	ロクロナヂ 平行タクナ	ロクロナヂ 平行タクナ	回転未切込 平行タクナ	精良- 直角	直口盤 直角化芯 後半 内側焼成範囲	V型 ISG中-後半 内側焼成範囲
159	直腹地	蓋	50K24	SD7596	下層	(7.1)	灰	本文当呉 腹	ロクロナヂ 平行タクナ	ロクロナヂ 平行タクナ	回転未切込 平行タクナ	精良	直口盤 直角化芯 後半 内側焼成範囲	直口盤 直角化芯 後半 内側焼成範囲
160	縦口盤 直腹地	縦縫小皿	48K	SD8307	1 3.8	(1.0)	IC白	ロクロナヂ 刮目	ロクロナヂ	静止未切込	精良- 直角	直口盤 直角化芯	V-切縫 ISG前半 内側焼成範囲	
161	直腹地	縦縫 片口縫	48K	SD8700	3 13.0	(5.5)	IC白	ロクロナヂ 刮目	ロクロナヂ	静止未切込	精良	直口盤 直角化芯	ISG後半 内側焼成範囲	
162	直口盤	楕	11折翼	SS5441	4 13.0	(2.0)	明オーピー直	ロクロナヂ 直角	ロクロナヂ 直角	精良	直口盤 直角化芯	直口盤 直角化芯		
163	直口盤	楕	39G	SS5441	4 15.6	(3.0)	明縫底	ロクロナヂ	ロクロナヂ 直角化芯	精良	直口盤 直角化芯	上田B 直口盤 直角化芯		
164	直腹地	蓋	39G	SS5441	4 54.4	(19.9)	灰	本文当呉 腹	ロクロナヂ 平行タクナ	ロクロナヂ 平行タクナ	精良	直口盤 直角化芯 後半	V型 ISG中-後半	

観察表

土器・陶磁器観察表(6)

器名 番号	種類	器形	出土位置			大きさ(cm)		色調		成型技法		胎土	焼成	分類	備考	
			グリッド	遺構	層位	口径	底径	厚さ	外面	内面	底面					
165 白磁 八角环	49F24	SX5445	I	80	30	3.2	灰白	ロクロナド	ロクロナド ソリューション セラミック	精良	良好・ 破損	森田D 断	15C前半			
166 地面陶器 茶碗	52E12	水田	植生	59	35	4.3	灰白	ロクロナド	ロクロナド	高台輪酒器	精良	良好・ 破損	近世			
167 京磁 碗	65K	水田	I	48	(1.3)	灰白	ロクロナド	ロクロナド	高台内ツリ	精良・ 良好	良好	近世	内面使用痕跡有			
168 地面陶器 水鉢?	52G22	水田	植生	14.6	(4.0)	にじい縁	ロクロナド	ロクロナド	ロクロナド 紅茶ヘウナ ド	長・赤・ 海・砂 青	良好	良好	近世	口内側から内面にかけて黄化物有		
169 陶瓶	壺	7K	P49H8	5	13.2	(5.7)	灰	ロクロナド	ロクロナド	ロクロナド	精良・ 良好	良好	二次焼成			
170 地面陶器 小瓶	44E8	P5044	I	83	47	2.2	浅青緑	ロクロナド	ロクロナド	斜板条切り	精良・ 良好	良好	C1e類	15C前半		
171 蓋付壺 平柄	45G10	P5187	I	4.5	(1.7)	灰白	ロクロナド	ロクロナド セラミック	削り出し 斜板条切り	精良・ 良好	良好・ 破損	古墳(?)削り出しがある 近世のものかから 古いものかの比較				
172 地面陶器 小瓶	46H14-19	P5792	3	7.5	5.2	1.8	褐灰	ロクロナド	ロクロナド	斜板条切り	精良・ 良好	良好	C1b類	15C前半 灯明器、二次焼成		
173 地面陶器 瓶	45E12	P5765	I	13.0	7.1	3.1	灰白	スピナセラ・ ホウ	スピナセラ・ ホウ	斜板条切り	精良・ 良好	良好	A2c類	14C後半		
174 青磁 碗	56L13	P5968	2	14.3	5.0	7.7	灰オリーブ	ロクロナド・ 墨文	ロクロナド・ 墨文	高台内輪酒器	精良	良好	上田D 断	15C後半 足部へ走査		
175 蓋付壺 平蓋	緑釉小瓶	45H16	P5003	I	(1.3)	(2.0)	灰白	ロクロナド	ロクロナド	斜板条切り	精良・ 良好	良好	古墳(?)削り出しがある 15C後半 斜板条切り			
176 瓦器	錘	51F1	P4954	I	13.8	(3.2)	灰白	ロクロナド	ロクロナド	斜板条切り	精良・ 良好	良好				
177 地面陶器 小瓶	48H18	P5705	2	8.6	3.0	1.9	浅青緑	スピナセラ・ ホウ	スピナセラ・ ホウ	斜板条切り	精良・ 良好	良好	B2類	15C後半		
178 蓋付壺 直蓋	小天日	47J4	P7430	2	6.7	3.2	2.1	灰白	ロクロナド	ロクロナド	斜板条切り	精良・ 良好	良好		古墳(?)後古期、15C 後半 直蓋	
179 地面陶器 瓶	50H19	P5764	2	7.9	(1.4)	にじい縁	ロクロナド	ロクロナド	斜板条切り 手作り ヘラツリ	精良・ 良好	良好	C4b類	15C中・後 京都市京阪			
180 地面陶器 小瓶	49G24	P7855	I	8.8	3.3	1.9	黑褐	ロクロナド	ロクロナド	斜板条切り	精良・ 良好	良好	C6類	15C後半 直蓋、京都京阪		
181 陶酒器 瓶詰 片口鋸	45G7-8	P5803	I		(8.6)	灰	ロクロナド・ 鋸口	ロクロナド・ 鋸口	斜板条切り	精良・ 良好	良好	V1類 15C(?)→後半 内面使用痕跡あり				
182 地面陶器 瓶	46L31	I	12.4	7.9	2.4	緑	スピナセラ・ ホウ	スピナセラ・ ホウ	斜板条切り	精良・ 良好	良好	A1c類	14C前半 15C後半 斜板条切り			
183 地面陶器 瓶	48I	暗緑	13.6	6.0	2.5	にじい黒緑	スピナセラ・ ホウ	スピナセラ・ ホウ	斜板条切り	精良・ 良好	良好	A2c類	14C(?)・ 標準 内面全面スラス			
184 地面陶器 小瓶	65K	I	6.8	4.0	1.2	にじい縁	スピナセラ・ ホウ	スピナセラ・ ホウ	斜板条切り	精良・ 良好	良好	A類	14C前半 15C後半 標準テナ			
185 地面陶器 瓶	47J8	I	10.5	6.8	2.2	浅青緑	ロクロナド	ロクロナド	斜板条切り	精良・ 良好	良好	C5類	15C(?)・ 後半 京都市京阪			
186 地面陶器 瓶	46I11	I	10.0	6.6	2.4	にじい青緑	ロクロナド	ロクロナド	手作り	精良・ 良好	良好	C2b類	15C後半 青緑、15C塔ケル 付着			
187 五唇 鉢またたき	46I19	I	8.4	(0.9)	褐灰	ロクロナド	ロクロナド	ロクロナド	精良・ 良好	良好				15C後半		
188 青磁	碗	45L16	I	13.9	(4.0)	明オリーブ	ロクロナド・ 墨文	ロクロナド・ 墨文	精良	良好	上田D 断	15C後半 墨文				
189 青磁	碗	45J3	I	13.9	(3.0)	灰オリーブ	ロクロナド	ロクロナド	精良	良好	上田D 断	15C後半 墨文				
190 青磁	碗	47J	I	14.4	(3.1)	灰黄	ロクロナド	ロクロナド	ロクロナド	精良	良好	J1D 断	15C後半 B類			
191 青磁	碗	47J	I	14.6	(2.2)	灰オリーブ	ロクロナド	ロクロナド	ロクロナド	精良	良好	J1D 断	15C後半 B類			
192 青磁	碗	47J	I	13.7	(2.7)	灰	ロクロナド	ロクロナド	ロクロナド	精良	良好	J1D 断	15C後半 B類			
193 青磁	碗	48J	I	11.7	(2.4)	灰白	ロクロナド	ロクロナド	ロクロナド	精良	良好	15C後半				
194 青磁	碗	53G	日向道 土上	I	5.8	(2.4)	オリーブ灰	ロクロナド・ 墨文	ロクロナド・ 墨文	墨・高台内 ケツリ	精良	良好	J1BD 土上	15C後半、 二次焼成		
195 青磁	碗	48I		I	7.3	(2.8)	灰白	ロクロナド・ 墨文	ロクロナド・ 墨文	見込み 墨台輪酒器	精良	良好	J1BD 土上類	内面及び外側使用痕跡 墨斑斑		

観察表

土器・陶器器観察表(7)

所古 番号	種類	器形	出土地点		大きさ(cm)		色調		成型技法		粘土	焼成	分類	備考	
			グリッド	遺構	層位	口径	底径	高さ	外面	内面	外側	内側			
196	青磁	碗	4K5			5.5	(3.6)	オーライフ灰 ロクロナガ	青白内輪 輪底少	精良	良好	上層	15C後半-16C初 頭部齊全		
197	青磁	罐	4H1		II		(2.5)	明オリーフ灰 ロクロナガ	ロクロナガ	精良	良好		15C前半 海膽少		
198	白磁	皿	4HK22	西河	灰	7.0	(1.6)	白	ロクロナガ 輪底少	削り出し ロクロナガ	精良	良好		15C前半 足込少	
199	青磁地	皿	4H1	暗窓		15.0	(3.4)	灰	ロクロナガ	ロクロナガ	精良	良好	V期	15C中-前半	
200	黒口地・ 黒邊地	片口	3HK		II	8.8	3.5	黑	ロクロナガ ロクロナガ	良-美 砂質	良好		古風口地有黒斑、15C後半 二段焼成		
201	縹文土器	深鉢	3HK	SD4646	37.6	18.7	に高い周	ナラ	1.8mm文-ハ ナラ底	良-石	良好		加賀利式		

石器・石製品観察表

No.	岩相	出土地点		大きさ				石材	遺存状況	梵字	備考
		グリッド	遺構	層位	長径 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)				
202	砾石	44H37	S16009	I	17.9	6.4	3	476.11	砂岩		
203	砾石		S15000a	I	12.3	4.7	4.1	350.66	砂岩		スズ付着
204	砾石	47G	S15000b	上層	6.6	3.7	3.6	159.88	砂岩	上下層少	
205	砾石	4H23	P5449	I	11.7	2.6	2.7	138.06	凝灰岩		
206	砾石		P6428	I	8.8	5.7	2.8	251.10	凝灰岩	上層少	
207	砾石		P1814	I	3.7	3.5	1.1	17.08	凝灰岩	上層少	
208	砾石	4H8			(6.6)	2.1	1.6	35.53	凝灰岩	下部少	
209	砾石	47J5		II	10.1	4.8	2.6	259.85	凝灰岩		
210	砾石	47J5		II	7.8	2.6	2.4	69.42	凝灰岩	下部少	
211	砾石	52K		II	8.9	3.0	2.6	74.44	凝灰岩		面部無面に布孔
212	砾石	52K		II	8.6	3.3	1.9	100.86	凝灰岩		
213	砾石	雨原			11.0	4.7	2.6	161.26	凝灰岩	下部少	
214	砾石	50H5	S15000a	3	16.5	8.9	3.7	79.75	凝灰岩		
215	碧製石斧	50H	S8K219	2	13.8	3.0	3.0	350.97	砂岩		
216	碧製石斧	50G11	P6336	I	3.3	2.8	1.0	6.60	角閃石 安山岩		天神心・底面有孔
217	メリキ式石鎚	50J-51J1	S29903	II	32	1.0	0.4	1.08	枝葉百貫		衛生時代中期
218	甕玉(未製品)	47J6		II	3.0	0.9	0.85	3.62	綠色 凝灰岩		半円形代小頭から 角柱頭へ斜面有孔、 未具頭、右側は直頭
219	石棒			II	13	30.4	3.4	1.03kg	砂岩	3/4欠損	片口
220	石臼(子口)	47F22	P5437		(17.1)	(27.0)	9.7	56.66	安山岩		
221	石臼(子口)	47H25 -47E-48H21	S16035	2	(19.2)	(31.1)	12.1	7.2kg	安山岩		
222	石臼(子口)	4H19	SK4796		(16.1)	(28.2)	11.5	7.2kg	安山岩		
223	系玉	50H19	S8K355	2	(36.0)	(20.0)	8.1	6.0kg	安山岩		
224	五輪塔(空-尾輪)	4H5	S15000a	I	19.4	14.2	14	342kg	凝灰岩		中央凹
225	五輪塔(空-風輪)			耕土	20.4	15.0	15.0	5.2kg	凝灰岩		東輪凹右肩打痕、空輪一端少(?)
226a	五輪塔(本輪)	7IK	SD4641	I	18.8	27	19	16.6kg	安山岩		四方梵字
226b	五輪塔(本輪)	7IK	SD4640	I	18.8	27	19	16.6kg	安山岩		バー
226c	五輪塔(本輪)	7IK	SD4641	I	18.8	27	19	16.6kg	安山岩		バー
226d	五輪塔(本輪)	7IK	SD4641	I	18.8	27	19	16.6kg	安山岩		バー
227	五輪塔(本輪)	50G	S85441		20.4	24.5	24.5	17.4kg	凝灰岩		
228	五輪塔(本輪)	50G	S85441		30.4	37.6	33.3	35.6kg	凝灰岩		ヲ
228b	五輪塔(本輪)	50G	S85441		30.9	37.6	33.3	35.6kg	凝灰岩		ヲ
228c	五輪塔(本輪)	50G	S85441		30.9	37.6	33.3	35.6kg	凝灰岩		ヲ
228d	五輪塔(本輪)	50G	S85441		30.9	37.6	33.3	35.6kg	凝灰岩		ヲ
229	五輪塔(本輪)	50G	S85441		21.7	29	29	35.2kg	安山岩		ア-
229b	五輪塔(本輪)	50G	S85441		21.7	29	29	35.2kg	安山岩		ア
229c	五輪塔(本輪)	50G	S85441		21.7	29	29	35.2kg	安山岩		ア
229d	五輪塔(本輪)	50G	S85441		21.7	29	29	35.2kg	安山岩		ア
230	宝鏡山塔(基礎)	50G	S85441		25	28	28.2	23.2kg	安山岩		
231	宝鏡山塔(基礎)	50G	S85441		26.8	46.2	47.5	77.0kg	安山岩		
232	宝鏡山塔(台石)	50G	S85441		31.2	36.3	25.6	59.6kg	凝灰岩		

観察表

木製品観察表

No.	岩種	出土地点		測量 (cm)				本取り	個数	備考
		ゲリヤ	遺構	幅さ 118	幅 既往	厚さ 5				
233	柱根	57117	P4748 (SB615)	-	21.8	18.3	15.8	心持丸木	ネムノキ	
234	柱根	57116-7 11-12	SX4096 (SB615)	4	(16.5)	28.4	28.4	心持丸木		
235	柱根	58122	E5607 (SB6176)	-	12.5	7.0	4.6	心持丸木		
236	柱根	4711	P0926 (SB6170)	1	(16.0)	(19.0)	(10.0)	心持丸木		
237	柱根	47118	SX6401 (SB6170)	-	25.9	12.0	7.7	心持丸木		
238	柱頭か	47113	SE5733	2	54.5	122	48	平轍状	タリ	
239	杭		P5123	1	45.5	7.3	49	ミカシ樹	マツ属飛櫛管束菌属	
240	柱根	4629	P6346	-	65.0	145	13.3	心持丸木	タリ	
241	柱根	48114-15- 19-20	P6447	-	35.4	22.5	22.2	心持丸木	タリ	
242	柱根	48610-11	P7210	2	56.5	22.3	18.3	心持丸木	タヤキ	
243	柱根	48610	P7049	2	88.2	135	11.6	心持丸木	タリ	
244	杭	48619	S53000a	5	114.5	7.0	6.9	心持丸木		
245	杭	48615	S53000a	-	70.2	4.2	4.2	心持丸木	タリ	壁面に打ち込まれている
246	杭	48615	S53000a	-	64.4	4.0	3.9	心持丸木	タリ	壁面に打ち込まれている
247	杭	596	SS5441	-	54.5	11	3.4	心持丸木	タリ	
248	杭	596	SS5441	-	49.0	4.3	4.2	心持丸木	タリ	
249	杭	596	SS5441	-	51.5	5.5	5.4	心持丸木	タヌマ	
250	板状木製品	49913	SE7828	3	54.4	11.8	1.5	柾目	スギ	
251	輪・漆器	57518	SE4982	-	-	7.0	2.2	楢木地 板状取	ブナ属	内外赤色, 外黒色
252	輪・漆器	47112	SE5069	3	15.6	7.6	5.0	楢木地 板状取	ブナ属	内外赤色, 黑褐色
253	楓	47112	SE5722	-	-	10.0	4.3	楓木地 板状取		
254	輪・漆器	51116	SE6790	1	-	-	3.3	楓木地 板状取		
255	輪・漆器	47110-15	SE7354	2	-	7.0	2.7	楓木地 板状取		
256	輪・漆器	49913	SE7828	2	-	8.1	3.6	楢木地 板状取	ブナ属	内外黒色
257	輪・漆器	49925, 50121, 4951, 5011	SE7993	11	8.4	5.0	1.9	楢木地 板状取		
258	輪・漆器	50113-4	SE6105	5	13.4	-	(4.3)	楢木地 板状取	ブナ属	内外赤色, 外黒色, 椿様赤色
259	楓	51119	SE6782	4	-	16.0	2.8	楢木地 板状取		
260	輪・漆器	58220	SD4646	-	-	5.6	4.9	楢木地 板状取	ブナ属	内外赤色
261	箸	44E5	SE5678	-	14.1	0.6	0.4	柾目	スギ	
262	箸	44E5	SE5678	-	9.5	0.8	0.5	柾目	スギ	
263	箸	46E6	SE5990	下層	20.5	0.8	0.7	柾目		
264	箸	46E6	SE5990	下層	25.2	0.7	0.4	柾目		
265	箸		SE2793	II	11.4	0.7	0.6	分割状 脚付	アスナロ	
266	曲物	51E16	SE6790	1	11.1	27.5	0.2	脚付・柾目	スギ	
267	丸板	57111	SE4701	-	12.7	12.0	0.7	柾目	ウワラ	
268	丸板	4319	SE5100	5	8.9	8.6	0.6	柾目		
269	曲物丸板	4319	SE5100	5	21.8	21.3	1.9	柾目	スギ	
270	曲物丸板	596	SS5441	4	19.8	18.8	0.8	柾目	スギ	
271	曲物丸板	596	SD4641	16	5.1	8.8	0.8	柾目		
272	森	50114-15- 19-20	SE8015	4	8.6	8.7	1.5	柾目		
273	板状木製品	50813-4	SE8105	6	27.0	11.5	1.8	柾目	スギ	
274	板状木製品	61区	SE5000	5	17.3	10.6	0.9	柾目	アスナロ	
275	板状木製品	596	SS5441	5	12.9	6.9	0.7	柾目	スギ	
276	鉢巻	41E	SD4796	3	4.5	4.2	3.4	柾目		
277	柾中		SE5087	3	29.3	1.5	0.5	柾目	スギ	

観察表

金属製品観察表

No.	器種	出土地点				大きさ	遺存状況	備考	
		グリッド	遺構	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
276	鉄製品	刀子	75R	SE0441	(29.6)	4.3	0.4	0.4	錆斑欠
277	鉄製品	刀子	50X	SE0413	4	(6.4)	1.2	0.2	
280	鉄製品	刀子	49G	SK0672	3	14.1	2.7	0.2	錆斑欠
281	鉄製品	刀子	75E	SD0641	7	29.8	2.8	0.3	
282	鉄製品	鍔	37H7	SD0646	12.5 (7.9) 長 10.8 幅	10.3 (3.9) 幅 4.0	0.2	月部厚0.2	
283	鉄製品	鍔	32J3		II	8.0 (4.9) 長 5.6 幅	0.2 月部厚0.2	3.3	失端欠
284	鉄製品	自在鉤	55X	SE0515	5	17.0	0.6	0.8	
285	鉄製品	鉗鉢	52E	SD0590		(6.1)	(7.0)	(0.45)	脚付直部
286	鉄製品	鉗	45E13	SE0568	2	(4.0)	(0.9)	(0.6)	
287	鉄製品	鉗	50F18	SD0500a	1' B)	(3.7)	(0.4)	(0.3)	
288	鉄製品	小鉗	43F13	P5262	1	(9.7)	(2.3)	0.9	
289	鉄製品	蓋か	47I	SK05189	E	(5.8)	(2.9)	0.2	
290	鉄製品	刀子手	50G25	SD0500a		19.2	1.5	0.5	
291	鉄製品	小柄	55X	SE0413	4	(8.0)	(1.1)	(0.6)	
292	鉄製品	鍔か	60E		N	(3.6)	(2.5)	0.7	

錢貨観察表

No.	錢種	出土地点				大きさ	玉網	銘記年(西暦)	備考
		グリッド	遺構	層位	外径 (mm)	穿孔 (mm)	輪厚 (mm)	重量(g)	
293	永樂通寶	7IK	SE0982		24.98	5.50	1.25	1.82	明 1406
294	永樂通寶	51E17	SE0790	I	24.39	5.49	1.18	2.92	明 1406 銅錢
295	永樂通寶	60K	SK0809	I	24.92	5.72	1.12	2.40	明 1406 作下横文
296	永樂通寶	60K	SK0809	I	24.95	5.78	1.15	2.75	明 1406
297	永樂通寶	60K	SK0809	I	24.67	6.07	1.09	2.35	北宋 1009
298	元貞通寶	61K	SE0809	I	22.41	6.22	1.09	2.18	北宋 1078 葉吉
299	元貞通寶	61K	SSX345	6	23.84	6.10	1.14	2.94	北宋 1078 葉吉、背路臣
300	聖宋元宝	61K	SSX345	6	23.6	6.24	1.25	2.92	北宋 1091 葉吉
301	元貞通寶	61K	SSX345	6	24.76	6.95	1.09	2.31	北宋 1078 新葉吉
302	寛永通寶	43E10	P5009	1	24.48	6.27	1.68	2.84	新寛永
303	寛永通寶	43E10	P5009	I	22.63	6.41	0.91	1.99	新寛永、背十
304	寛永通寶	43E10	P5009	I	21.39	6.17	0.72	1.15	新寛永、背元小
305	開元通寶	51K	P5721		23.93	6.265	1.23	2.90	唐 621
306	熙寧重寶	48G	P5620	I	23.59	7.21	1.16	1.25	北宋 1068 真吉
307	元祐通寶	60M			23.62	6.67	1.17	2.08	北宋 1066 行吉
308	寛永通寶	52H4	水田	E	24.11	6.07	1.10	2.58	新寛永

数珠玉観察表(1)

No.	器種	出土地点				大きさ	本取扱	削	備考	
		グリッド	遺構	層位	長径 (mm)	短径 (mm)	厚さ (mm)	重量(g)		
309	木製数珠玉	52H10-15, 53H0-11	SK0809	I	0.95	0.8	0.45	0.07	削出	サクラ属 切た全面ラッパクリ断面、口 ツブ開け出し
310	木製数珠玉	52H10-15, 53H0-11	SK0809	I	0.9	0.8	0.5	0.05	削出	サクラ属 化粧一帯ハクリ、ロクロ削り 出し
311	木製数珠玉	52H10-15, 53H0-11	SK0809	I	0.95	0.7	0.45	0.06	削出	サクラ属 化粧、ロクロ削り出し
312	木製数珠玉	52H10-15, 53H0-11	SK0809	I	0.95	0.8	0.4	0.10	削出	サクラ属 化粧、ロクロ削り出し
313	木製数珠玉	52H10-15, 53H0-11	SK0809	I	0.9	0.8	0.45	0.09	削出	サクラ属 化粧、上丁面ハクリ、ロクロ削 り出し
314	木製数珠玉	52H10-15, 53H0-11	SK0809	I	0.9	0.8	0.45	0.06	削出	サクラ属 化粧、ロクロ削り出し
315	木製数珠玉	52H10-15, 53H0-11	SK0809	I	0.9	0.8	0.45	0.07	削出	サクラ属 化粧、裏面キズ有、ロクロ削り 出し
316	木製数珠玉	52H10-15, 53H0-11	SK0809	I	0.9	0.75	0.5	0.08	削出	サクラ属 化粧、部分的にスレ、ロクロ削 り出し
317	木製数珠玉	52H10-15, 53H0-11	SK0809	I	0.9	0.75	0.45	0.05	削出	サクラ属 化粧、全面的に使用痕有、ロク ロ削り出し
318	木製数珠玉	52H10-15, 53H0-11	SK0809	I	0.85	0.8	0.5	0.08	削出	サクラ属 表面スレ立つ、ロクロ削り出し
319	木製数珠玉	52H10-15, 53H0-11	SK0809	I	0.8	0.75	0.4	0.05	削出	サクラ属 化粧、表面削れ立つ、ロクロ削 り出し
320	木製数珠玉	52H10-15, 53H0-11	SK0809	I	0.9	0.8	0.5	0.09	削出	サクラ属 化粧、表面削れ立つ、ロクロ削 り出し
321	木製数珠玉	52H10-15, 53H0-11	SK0809	I	0.85	0.8	0.5	0.09	削出	サクラ属 化粧、上半面削れ立つ、ロク ロ削り出し

観察表

数珠玉観察表(2)

No.	岩相	出土地点				大きさ			本取り	削れ	備考
		アリット	遺構	層位	器長(cm)	器幅(cm)	器厚(cm)	重量(g)			
322	木製珠玉	5210-15. 53B-11.	SK8809	1	0.85	0.8	0.45	0.05	削出	サクラ属 削り出し	変化。上下面スレ。ロクロ削り出し。
323	木製珠玉	5210-15. 53B-11.	SK8809	1	0.9	0.8	0.5	0.08	削出	サクラ属 削り出し	変化。上面若干のスレ。ロクロ削り出し。
324	木製珠玉	5210-15. 53B-11.	SK8809	1	0.8	0.65	0.45	0.04	削出	サクラ属 削り出し	変化。上面部分的にスレ。ロクロ削り出し。
325	木製珠玉	5210-15. 53B-11.	SK8809	1	0.85	0.7	0.5	0.08	削出	サクラ属 削り出し	変化。上下面スレ。ロクロ削り出し。
326	木製珠玉	5210-15. 53B-11.	SK8809	1	0.8	0.7	0.45	0.05	削出	サクラ属 削り出し	変化。上下面スレ有。ロクロ削り出し。
327	木製珠玉	5210-15. 53B-11.	SK8809	1	0.75	0.6	0.4	0.03	削出	サクラ属 削り出し	変化。上面一部欠け。下面スレ。ロクロ削り出し。
328	木製珠玉	5210-15. 53B-11.	SK8809	1	0.7	0.6	0.35	0.04	削出	サクラ属 削り出し	変化。上下面スレ。ロクロ削り出し。
329	木製珠玉	5210-15. 53B-11.	SK8809	1	0.6	0.55	0.35	0.02	削出	サクラ属 削り出し	変化。上下面スレ。ロクロ削り出し。
330	木製珠玉	5210-15. 53B-11.	SK8809	1	(1.0)	(0.55)	0.3	0.05	削出	サクラ属 削り出し	変化。ロクロ削り出し。数珠玉を模した品と思われるが特異な形。
331	木製珠玉	5210-15. 53B-11.	SK8809	1	0.35	0.3	0.25	0.005 (計重半量)	削出	サクラ属 削り出し	変化。上下面スレ。ロクロ削り出し。破損または再加工品。
332	木製珠玉	5210-15. 53B-11.	SK8809	1	0.9	0.75	0.6	0.07	削出	サクラ属 削り出し	変化。
333	木製珠玉	5210-15. 53B-11.	SK8809	1	0.9	0.8	0.5	0.07	削出	サクラ属 削り出し	変化。
334	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.25	0.10	緑色ガラス玉、磁状の磁有		
335	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.3	0.07	緑色ガラス玉、磁状の磁有		
336	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.25	0.07	緑色ガラス玉、上下面スレ、磁状の磁有		
337	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.3	0.10	緑色ガラス玉、磁状の磁有		
338	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.3	0.09	緑色ガラス玉、上面スレ、磁状の磁有		
339	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.3	0.12	緑色ガラス玉、上面スレ、磁状の磁有		
340	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.3	0.10	緑色ガラス玉、上面スレ、磁状の磁有		
341	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.45	0.4	0.3	0.09	緑色ガラス玉、磁状の磁有、スレ目立たない		
342	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.3	0.11	緑色ガラス玉、磁状の磁有、スレ目立たない		
343	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.45	0.4	0.25	0.11	緑色ガラス玉、上面スレ、網状編有		
344	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.3	0.11	緑色ガラス玉、上面スレ、磁状磁有		
345	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.25	0.09	緑色ガラス玉、上面一部欠け、磁状磁有		
346	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.25	0.07	緑色ガラス玉、上面一部欠け、磁状磁有		
347	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.25	0.10	緑色ガラス玉、下面若干スレ、磁状磁有		
348	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.27	0.09	緑色ガラス玉、上面スレ、網状編有		
349	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.3	0.10	緑色ガラス玉、上面スレ、網状編有		
350	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.3	0.10	緑色ガラス玉、上面スレ、欠け、磁状磁有		
351	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.25	0.09	黄褐色ガラス玉、上下面スレ、磁状磁有		
352	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.28	0.09	黄褐色ガラス玉、上面欠け、一面スレ、磁状磁有		
353	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.28	0.08	黄褐色ガラス玉、上下面スレ、磁状磁有		
354	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.38	0.08	黄褐色ガラス玉、上面一部欠け、磁状磁有		
355	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.3	0.09	黄褐色ガラス玉、上面スレ、一面スレ、磁状磁有		
356	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.29	0.38	0.24	0.06	黄褐色ガラス玉、上面若干スレ、磁状磁有		
357	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.32	0.11	乳白色ガラス玉、上下面部分的に欠け、磁状磁有		
358	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.35	0.10	乳白色ガラス玉、上下面スレ、上面一部欠け、磁状磁有		
359	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.3	0.10	乳白色ガラス玉、上下面スレ、下面一部欠け、磁状磁有		
360	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.33	0.28	0.35	0.07	乳白色ガラス玉、上下面一部欠け、磁状磁有、墨状		
361	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.35	0.11	乳白色ガラス玉、上下面一部欠け、スレ、磁状磁有		
362	ガラス製數珠玉	51B-2-6-7	SK8800	1	0.4	0.4	0.35	0.11	乳白色ガラス玉、上下面一部欠け、スレ、磁状磁有		

骨観察表

No.	岩相	出土地点				大きさ			備考
		アリット	遺構	層位	器長(cm)	器幅(cm)	器厚(cm)	重量(g)	
363	灰骨	52102	SK55000	放土層	21.3	287	-	-	馬の下顎骨か

図 版



柏崎市街図 其10(平成8年10月柏崎市作成)を改変

図版2

4・5・6区全体図

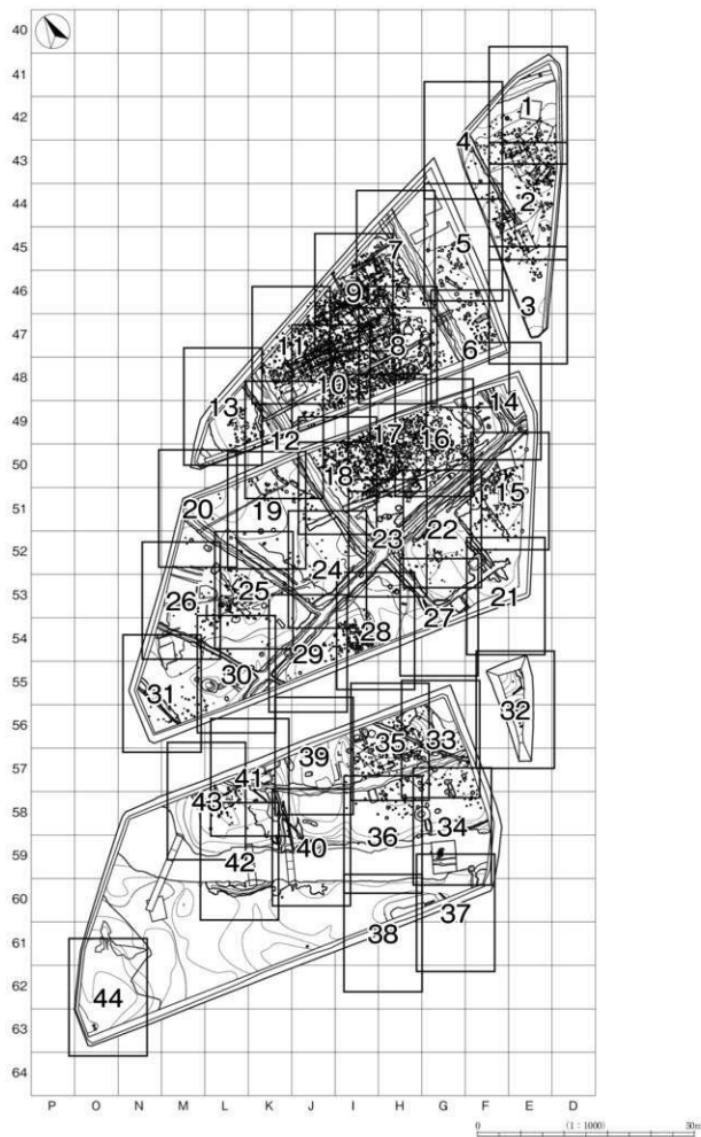




図版4

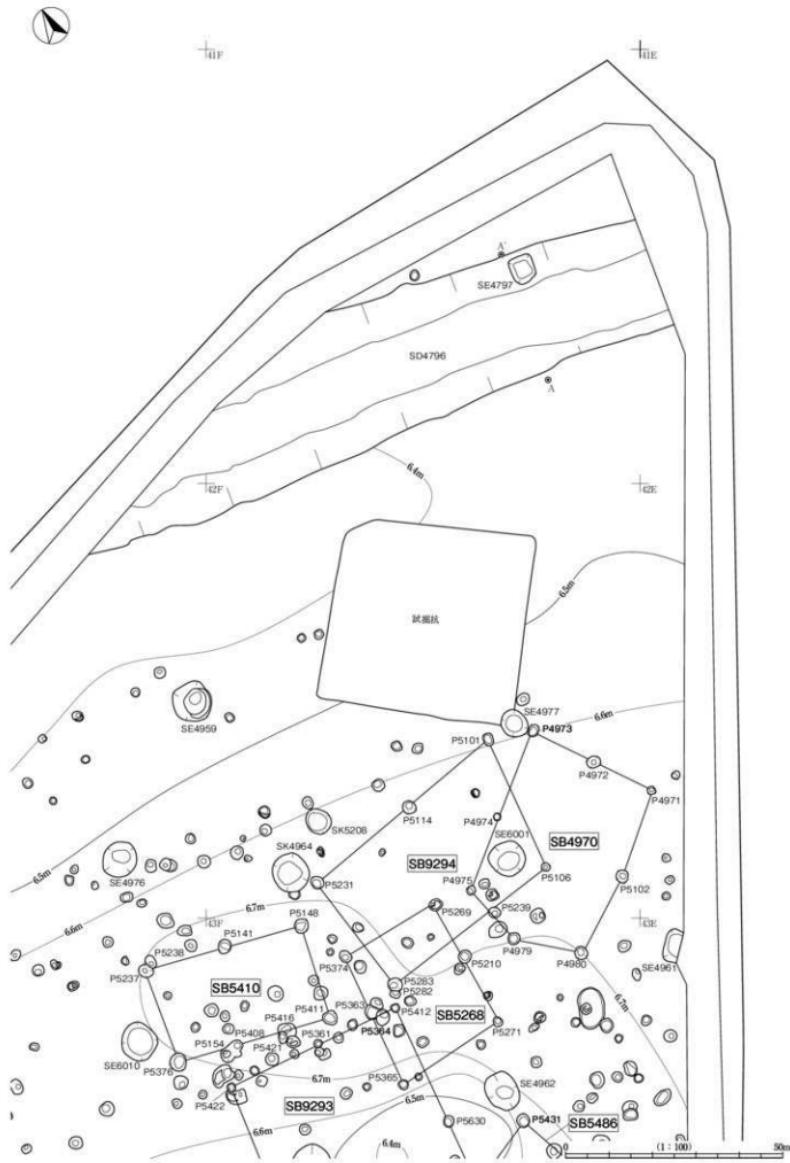
6・7区全体図



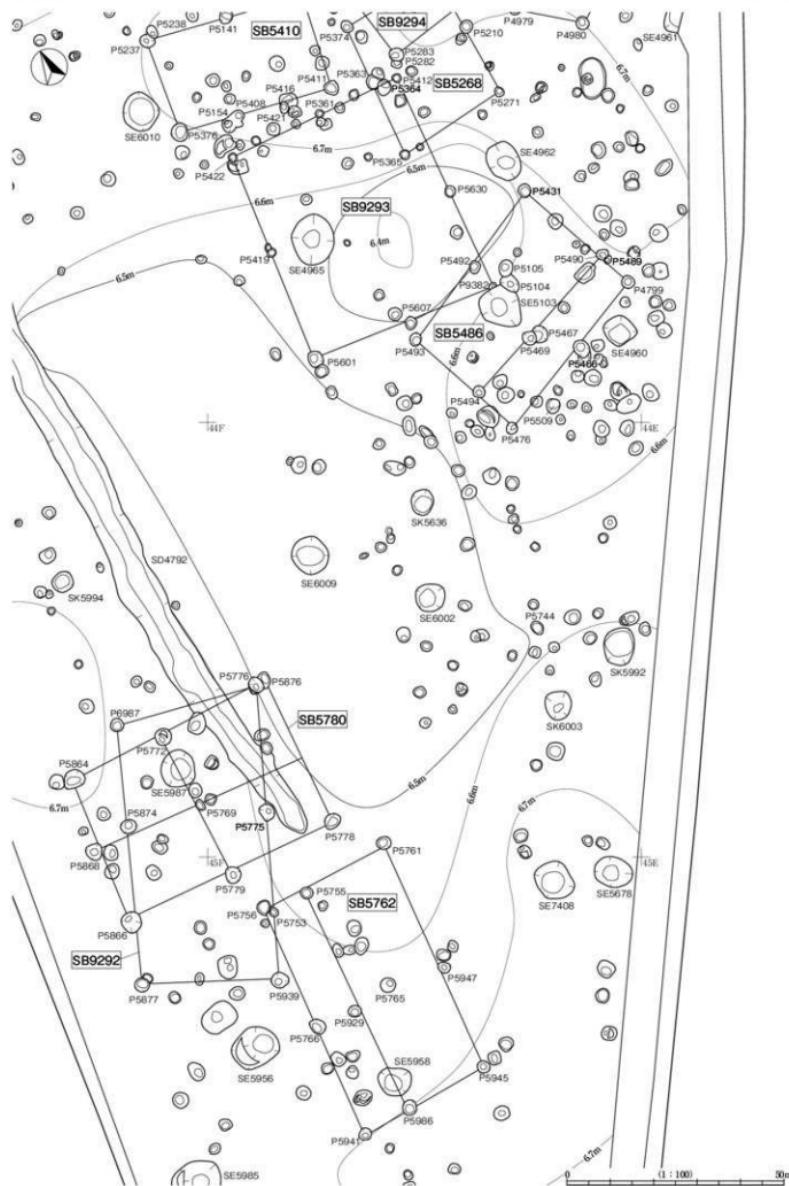


図版 6

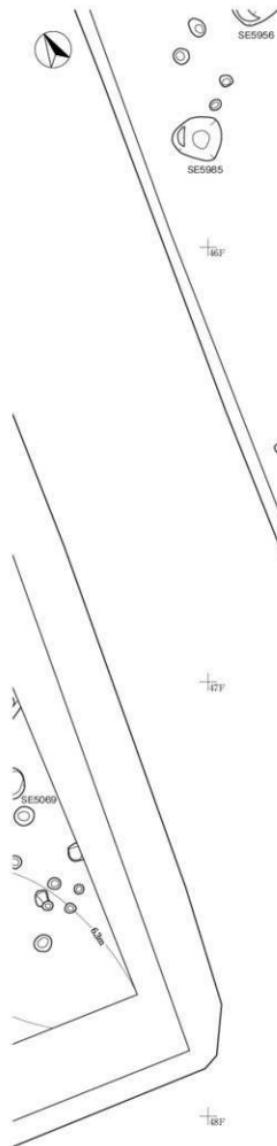
分割図 1



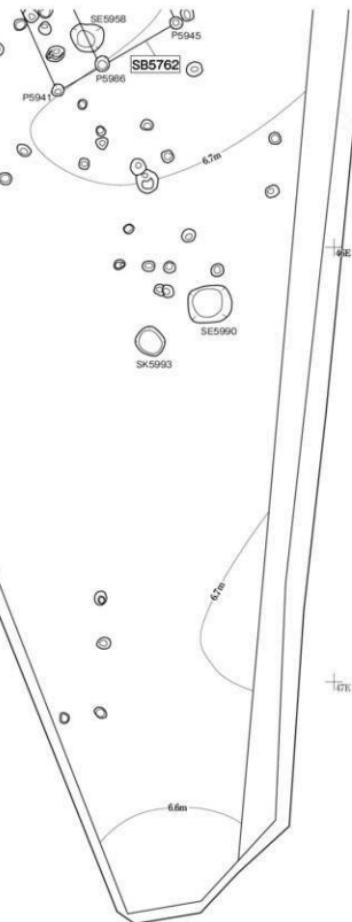
分割圖 2



図版 8



分割図 3



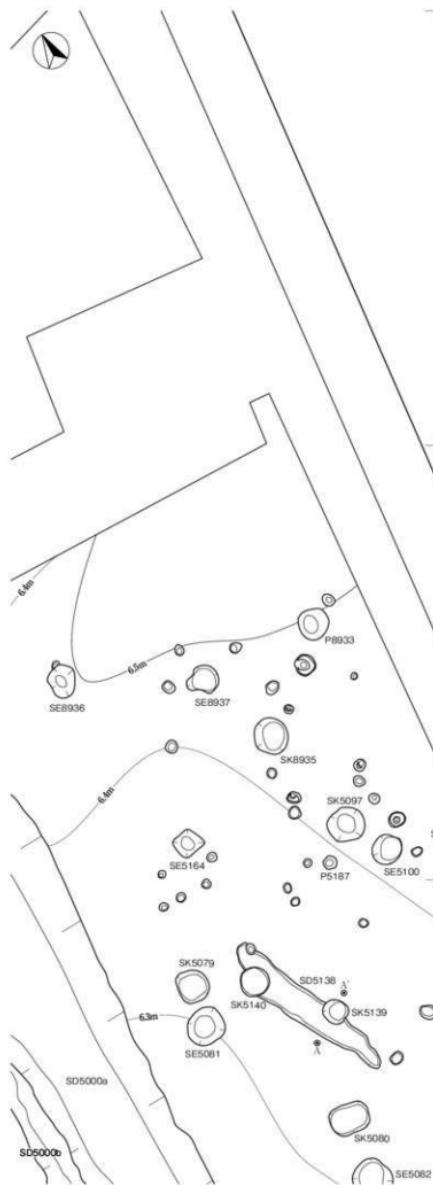
0 (1 : 100) 50m

分割図 4

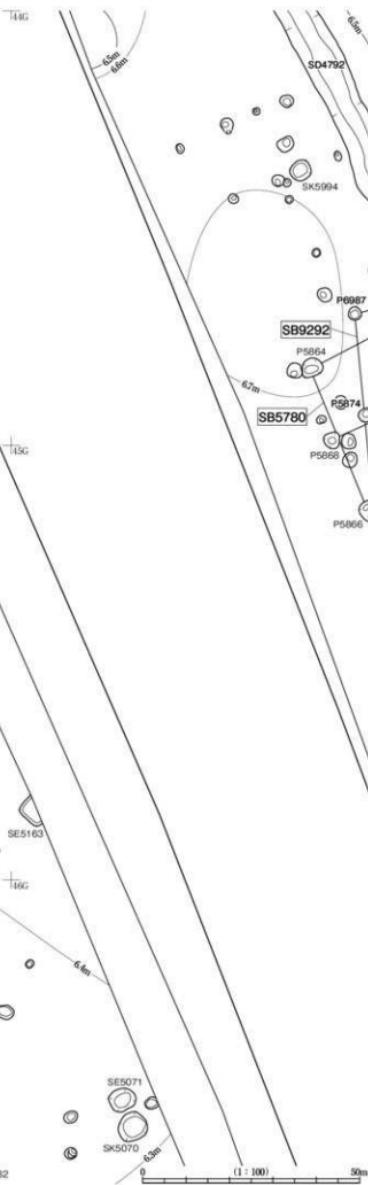
図版 9



図版 10

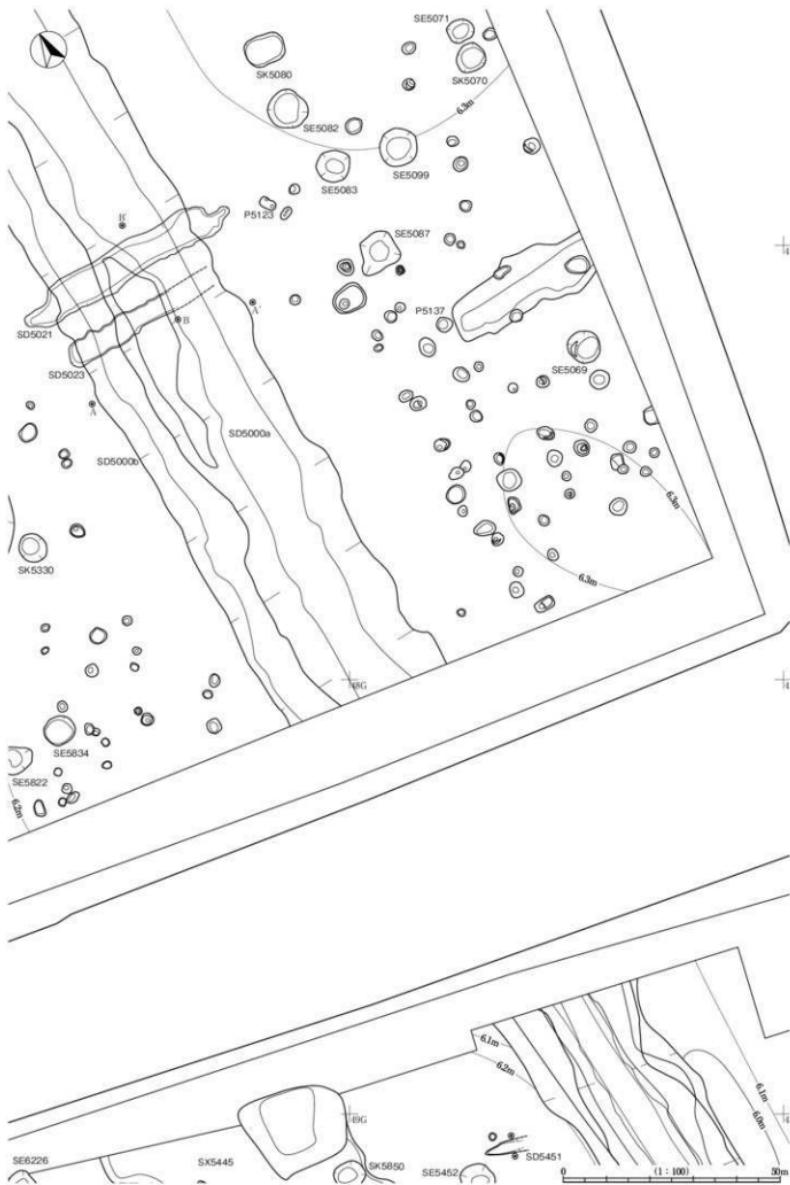


分割図 5



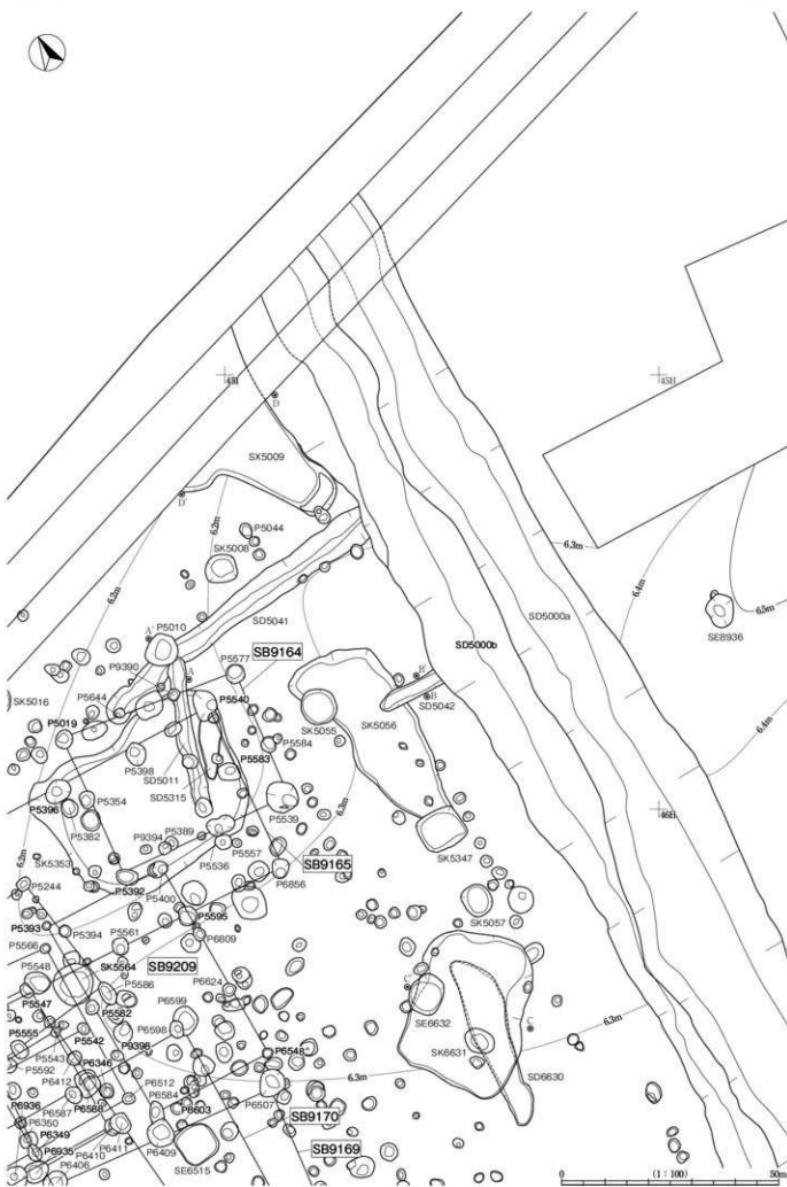
分割図 6

図版 11



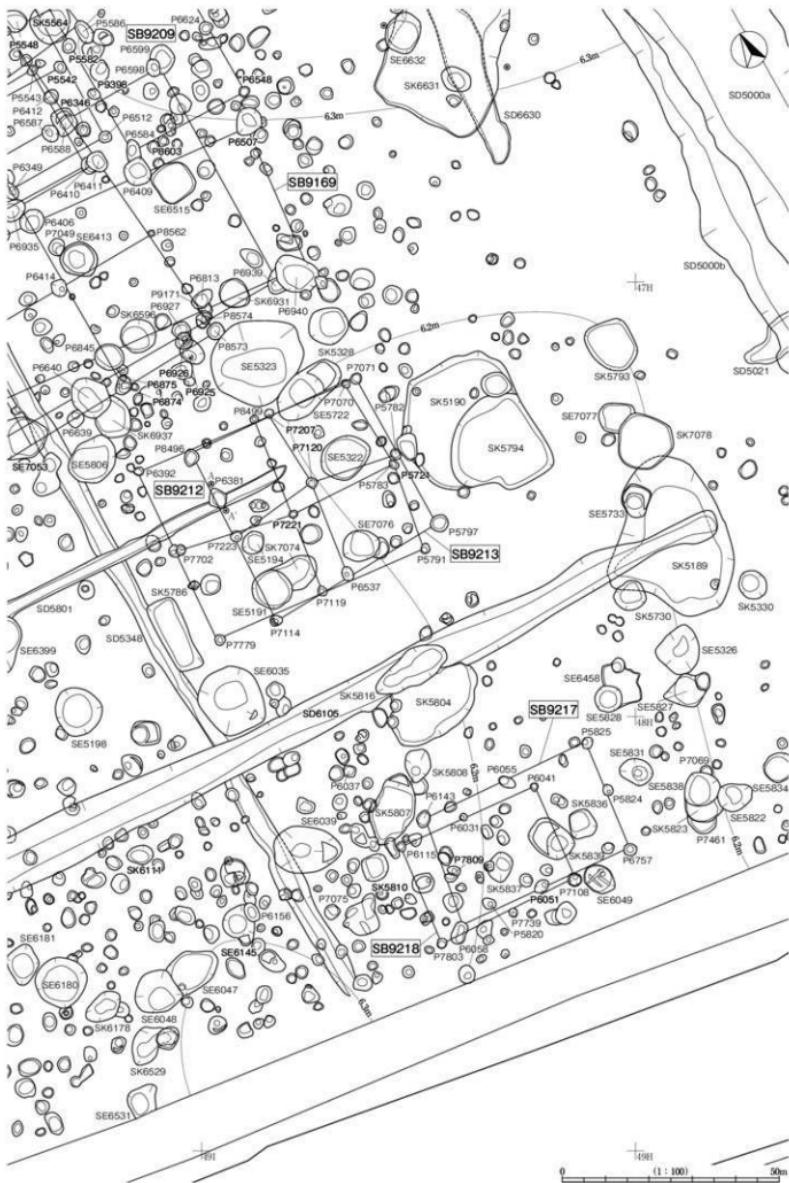
図版 12

分割図 7



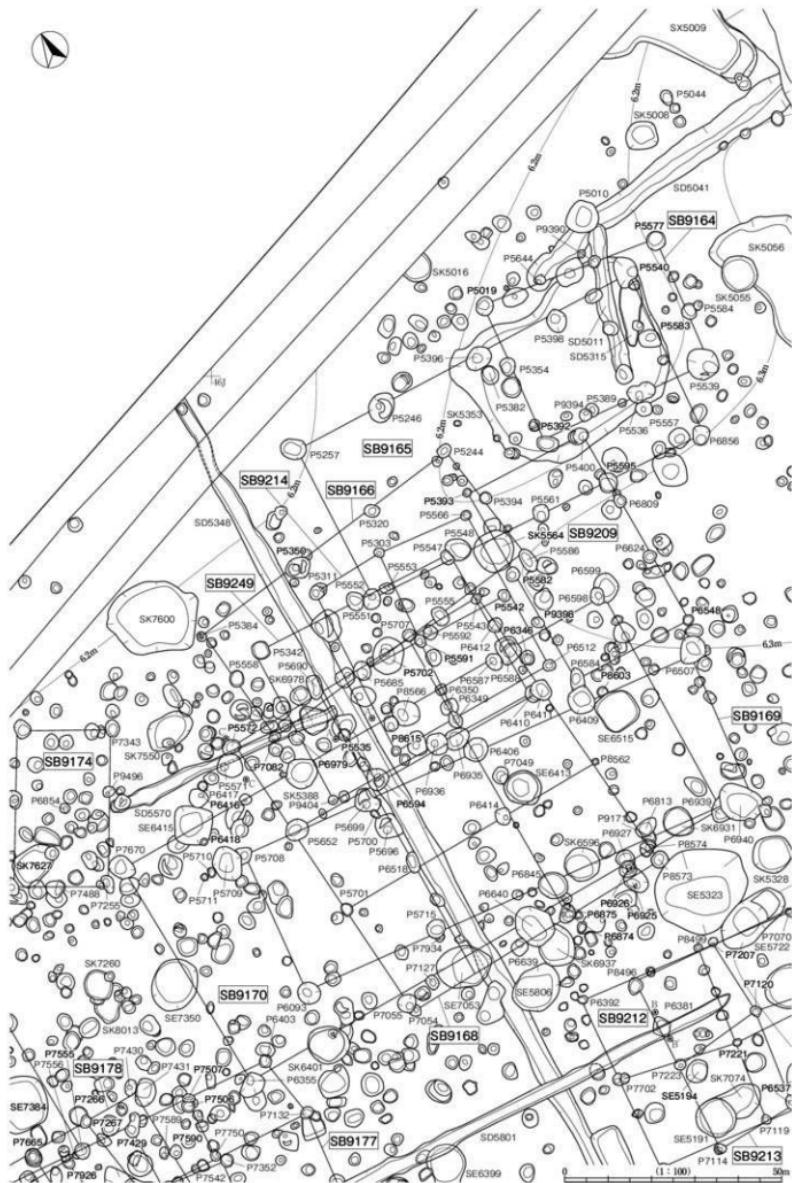
分剖图8

图 版 13



図版 14

分割図 9



(1 : 100) 50m

剖面图10

图版 15

